

履修コード	101151
科目名	ITプロフェッショナルクラスI
担当者名	中済 光昭

講義の到達目標(ねらい) 当科目は基本的なITの知識を持ち、海外のプログラマやリーダーと英語や中国語で打ち合わせを行え、業務知識やプロジェクト管理能力、コミュニケーション力にたけたITプロフェッショナルを養成することを目的としている。具体的にはTOEICにおいて短期海外出張が可能なレベル、ITパスポートやSAP認定コンサルタントなどの資格取得が出来るレベルに到達することが目標となる。

講義の内容／授業スケジュール

- (1) ガイダンス
- (2) ~ (5) 基礎的な英語文献を調査しまとめる練習とレポーティング、プレゼンの練習、コンサルタントとして必要な心構えやマナー、会話技法、ユニークな発想を発案するための演習 (KJ法、ブレインストーミング法など)
- (6) ~ (30) ドイツSAP社のERP認定資格取得のための研修

準備学習 ITパスポートや簿記の資格を取ることが望ましい。

履修上の留意点

- ・当科目は演習と同等の科目であるので、演習Iを同時に履修することはできない。
- ・このクラスでは教員と相談の上、専門学校に半年間通学し資格試験を受けることを推奨している。
- ・このクラスではインターンシップに参加することが必須であり、交通費等インターンシップにかかる費用は自己負担となる。
- ・合宿、課外イベントなどには原則として出席すること。
- ・メールの読み書きやワープロを打つといったことが必須である。無線でインターネットに接続できるノートパソコンを持っていることが望ましい。

成績評価の方法 課題提出 (50%)、学年末に行う発表 (15%) とレポート提出 (15%)、イベントへの参加 (20%) を総合評価する。

教科書／テキスト 適宜指示する。

参考書 適宜指示する。

その他

- ・編入学および転部・科の学生を主な対象とする追加募集を行うので、履修許可を受けていないが、履修したい者は4月初回の授業に必ず出席すること。
- ・当科目に併設されるIT研究I~VIは専門学校での資格取得と学習状況および当クラスを指導する副担当が課すレポートに基づき成績評価する。
- ・当科目に併設されるITインターンシップI、IIでは、担当者と派遣先のIT企業が職務内容を決め、それに従ってインターンシップを行い、最終発表および派遣先からの勤務状況報告に基づいて成績評価する。
- ・ITプロフェッショナルクラスIIIでは卒業制作を併設する。

関連リンク <http://www.komazawa-u.ac.jp/~nakasumi/itpc/>

履修コード	101171
科目名	ITプロフェッショナルクラスII
担当者名	中済 光昭

講義の到達目標(ねらい) 当科目は基本的なITの知識を持ち、海外のプログラマやリーダーと英語や中国語で打ち合わせを行え、業務知識やプロジェクト管理能力、コミュニケーション力にたけたITプロフェッショナルを養成することを目的としている。具体的には短期海外出張に必要なTOEICのスコアを取ること、ITや簿記の資格を取得することが目標となる。

講義の内容／授業スケジュール

- (1) ガイダンス
- (2) - (30) 事例を設定して、ヒアリングを行い提案を作成するシステム提案・開発演習

履修上の留意点

- ・当科目は演習と同等の科目であるので、演習IIを同時に履修することはできない。
- ・このクラスでは教員と相談の上専門学校に半年間通学し資格試験を受けることなどが推奨される。
- ・このクラスではインターンシップに参加することが必須であり、交通費等インターンシップにかかる費用は自己負担となる。
- ・合宿、課外イベントなどには原則として出席すること。
- ・メールの読み書きやワープロを打つといったことが必須である。インターネットに接続できるノートパソコンを持参することがある。

成績評価の方法 課題提出 (50%)、学年末に行う発表 (15%) とレポート提出 (15%)、イベントへの参加 (20%) を総合評価する。

教科書／テキスト 適宜指示する。

参考書 適宜指示する。

その他

- ・編入学および転部・科の学生を主な対象とする追加募集を行うので、履修許可を受けていないが履修したい者は4月初回の授業に必ず出席すること。
- ・当科目に併設されるIT研究I-Vは専門学校での資格取得と学習状況および当クラスを指導する副担当が課すレポートに基づき成績評価する。
- ・当科目に併設されるITインターンシップI、IIでは、担当者と派遣先のIT企業が職務内容を決め、それに従ってインターンシップを行い、最終発表および派遣先からの勤務状況報告に基づいて成績評価する。
- ・ITプロフェッショナルクラスIIIでは、卒業研究 (システム開発) を併設する。
- ・ITプロフェッショナルクラスIIIはITプロフェッショナルクラスIIの単位を修得していることが受講条件である。新規募集は行わない。

履修コード	101191 101192
科目名	ITプロフェッショナルクラスIII 卒業研究
担当者名	寺尾 創

講義の到達目標(ねらい) 当科目は基本的なITの知識を持ち、海外のプログラマーやリーダーと英語や中国語で打ち合わせを行え、業務知識やプロジェクト管理能力、コミュニケーション力にたけたITプロフェッショナルを養成することを目的としている。そのため、専門学校における情報系資格取得や国内・海外IT企業でのインターンシップ等も単位として認める特別演習として開講する。特に将来の進路としてITコンサルタントを考えている学生の参加を期待する。

講義の内容／授業スケジュール (1) ガイダンス
(2) - (30) 事例を設定して、ヒアリングを行い提案を作成するシステム提案演習

履修上の留意点 ・当科目は演習と同等の科目であるので、演習IIを同時に履修することはできない。
・このクラスでは教員と相談の上専門学校に半年間通学し資格試験を受けることなどが推奨される。
・このクラスではインターンシップに参加することが必須であり、交通費等インターンシップにかかる費用は自己負担となる。
・合宿、課外イベントなどには原則として出席すること。
・メールの読み書きやワープロを打つといったことが必須である。インターネットに接続できるノートパソコンを持参することがある。

成績評価の方法 出席と課題提出、学年末に行う発表とレポート提出、イベントへの参加を総合評価する

教科書／テキスト 適宜指示する。

参考書 適宜指示する。

その他 ・ITプロフェッショナルクラスIIの単位を修得していることが受講条件である。
新規募集は行わない。
・当科目に併設されるIT研究I-VIは専門学校での資格取得と学習状況および当クラスを指導する副担当が課すレポートに基づき成績評価する。
・当科目に併設されるITインターンシップI、IIでは、担当者と派遣先のIT企業が職務内容を決め、それに従ってインターンシップを行い、最終発表および派遣先からの勤務状況報告に基づいて成績評価する。
・卒業研究(システム開発)を併設する。

履修コード	094601
科目名	アジア経済論
担当者名	鄭 章淵

講義の到達目標(ねらい) この講義では、受講生のみなさんに東アジア経済に対する理解を深めてもらうために、歴史・理論・現状分析の三つの側面から、下記の講義内容に記載された個別のテーマについてそれぞれ解説する。基本的な視座としては、1960年代以降本格化する東アジアの経済発展を20世紀後半期(冷戦期)に新たに勃興した資本主義発展の事例と捉え、その特徴ならびに発展と矛盾の弁証法的メカニズムの解明に焦点を当てる。その際、従来のアジア経済論(典型的には新古典派開発経済学)のように工業化の本格化した1960年代以降の時期のみを注目するのではなく、その前史(植民地期や1950年代までの時期)を射程に入れて通史的に経済発展過程を捉える。また、1960年代以降の工業化過程において経済発展をリードしてきた東アジア諸国の政府の役割について言及する。そして、あくまで東アジアに軸足を置きつつも、これまで東アジア経済にさまざまな影響を及ぼしてきた世界経済の動向についても関心を向ける。

講義の内容／授業スケジュール 東アジア経済の全体像(アジアの多様性、東アジアの範疇)(第1~2回)、東アジア経済と経済理論(新古典派開発経済学、その他の理論)(第3~5回)、東アジアの経済発展(工業化の前史、東アジアの経済発展過程、経済発展の特徴)(第6~10回)、アジアNIEsの経済発展(用語説明、経済発展の特徴、各アジアNIEs経済の状況)(第11~15回)、東南アジア諸国の経済(主要各国の経済発展過程、ASEANの歴史)(第16~21回)、アジア社会主義国の経済(中国の改革・開放政策、その他社会主義国の現状)(第22~23回)、アジア通貨危機(危機の背景・原因・特徴、危機への対応策)(第24~25回)、東アジアの地域経済協力(地域経済協力の歴史と現状、東アジア経済圏の展望)(第26~28回)、東アジア経済の展望(東アジア経済と日本、環境問題)(第29~30回)

準備学習 参考書の該当箇所と新聞・WEBサイトのアジア経済に関する記事をよく読むこと。

履修上の留意点 試験およびレポートの際に自筆のノートを参照するので、授業を欠席せずにノートをよくとってもらいたい。

成績評価の方法 前期のレポートと定期試験(学年末)で総合的に評価する。なお、定期試験とレポートの成績比重は、前者80%、後者20%とする。

教科書／テキスト 特に定めない。

参考書 大野健一・桜井宏二郎著『東アジアの開発経済学』(有斐閣アルマ)2,000円(税別)、ISBN 4-641-12044-7

履修コード	310001
科目名	アジア経済論
担当者名	鄭 章淵

講義の到達目標(ねらい) この講義では、受講生のみなさんに東アジア経済に対する理解を深めてもらうために、歴史・理論・現状分析の三つの側面から、下記の講義内容に記載された個別のテーマについてそれぞれ解説する。基本的な視座としては、1960年代以降本格化する東アジアの経済発展を20世紀後半期（冷戦期）に新たに勃興した資本主義発展の事例と捉え、その特徴ならびに発展と矛盾の弁証法的メカニズムの解明に焦点を当てる。その際、従来のアジア経済論（典型的には新古典派開発経済学）のように工業化の本格化した1960年代以降の時期のみを注目するのではなく、その前史（植民地期や1950年代までの時期）を射程に入れて通史的に経済発展過程を捉える。また、1960年代以降の工業化過程において経済発展をリードしてきた東アジア諸国の政府の役割について言及する。そして、あくまで東アジアに軸足を置きつつも、これまで東アジア経済にさまざまな影響を及ぼしてきた世界経済の動向についても関心を向ける。

講義の内容／授業スケジュール 東アジア経済の全体像（アジアの多様性、東アジアの範疇）（第1～2回）、東アジア経済と経済理論（新古典派開発経済学、その他の理論）（第3～5回）、東アジアの経済発展（工業化の前史、東アジアの経済発展過程、経済発展の特徴）（第6～10回）、アジアNIEsの経済発展（用語説明、経済発展の特徴、各アジアNIEs経済の状況）（第11～15回）、東南アジア諸国の経済（主要各国の経済発展過程、ASEANの歴史）（第16～21回）、アジア社会主義国の経済（中国の改革・開放政策、その他社会主義国の現状）（第22～23回）、アジア通貨危機（危機の背景・原因・特徴、危機への対応策）（第24～25回）、東アジアの地域経済協力（地域経済協力の歴史と現状、東アジア経済圏の展望）（第26～28回）、東アジア経済の展望（東アジア経済と日本、環境問題）（第29～30回）

準備学習 参考書の該当箇所と新聞・WEBサイトのアジア経済に関する記事をよく読むこと。

履修上の留意点 試験およびレポートの際に自筆のノートを参照するので、授業を欠席せずにノートをよくとってもらいたい。

成績評価の方法 前期のレポートと定期試験（学年末）で総合的に評価する。なお、定期試験とレポートの成績比重は、前者80%、後者20%とする。

教科書／テキスト 特に定めなし。

参考書 大野健一・桜井宏二郎著『東アジアの開発経済学』（有斐閣アルマ）2,000円（税別）、ISBN 4-641-12044-7

履修コード	094801
科目名	アメリカ経済論
担当者名	瀬戸岡 紘

講義の到達目標(ねらい) 知っているようで知らない現代のアメリカ経済事情を幅ひろくわかりやすく解説します。特別な経済学の予備知識がなくても理解できる授業です。アメリカ経済を自力で理解していく力をつけることが目標です。

講義の内容／授業スケジュール 1回の講義でひとつのテーマをとりあげます。あたらしい情報やトピックスを、解説つきで、つねに受講者に紹介します。アメリカの諸大学の授業にみられる長所を可能なかぎりとり入れた授業です。以下の項目をさしあたり準備しています。受講者の要望の強いものから講義していきます。◇大統領の今年の経済政策、◇建国の理念と現実、◇アメリカの農業、◇アメリカの工業、◇ベンチャービジネス、◇雇用と労働者、◇商業とサービス、◇金融、◇教育と経済、◇科学技術、◇先端産業、◇経済と環境問題、◇アメリカ社会とヴォランティア、◇女性・マイノリティー、◇ドルの地位、◇アメリカの貿易、◇軍の世界的ネットワークと経済的意義、◇海外援助、◇多国籍企業とアメリカ経済、◇アメリカとヨーロッパ連合、◇アメリカと日本、◇アメリカとアジア・太平洋、◇アメリカとカナダ・中南米、◇アメリカの経済学、など

準備学習 瀬戸岡著『アメリカ 理念と現実』（時潮社、2005年刊）の各章を予習しておくこと、そして日々のニュースに注目しておくこととお勧めします。この科目が4単位であるという意味は、週あたり4時間の学習が求められるという意味です。毎週の講義1時間半のほかに、毎週2時間半の独習が必要となります。講義には、そのような予習をしたうえで臨んでください。

履修上の留意点 この講義は、アメリカ経済の個々の現象を羅列的に述べるようなことはしません。むしろ、日々報道されているアメリカ経済の事象を、みなさんが自力で読み解く力をつけるための話に徹します。アメリカものの本には書かれていない事柄をたくさんお話することによって、みなさんが講義に出席してよかったと実感してもらえたらありがたい、と考えています。アメリカ経済を理解することは、この国が好きであれ嫌いであれ、現代世界経済全体を理解するためのカナメです。現代の国際事情を幅広く解明したい諸君は、この科目を早めに履修して、いっそう広範かつ深い国際理解へとすすむことをお勧めします。

成績評価の方法 随時、受講者には小論を書いてもらい、それで成績評価をします。平常点重視のためまえから、一発勝負の年度末試験は、受講者の強い要望がないかぎり実施しません。平常点を重視するとは、この授業が知的関心の強い者だけを対象としておこないたいという考え方にもとづいています。したがって、随時書いてもらう小論は、知的関心の高まった学生だけが書けるように工夫されています。こうして、ただ単位がほしいだけという学生にとっては、はなはだ単位がとりにくい科目になっているのです。それゆえ、単位にガツガツしている諸君は、この科目は履修しないようお勧めします。

教科書／テキスト 最新の情報をもとに講義をすすめます。だから講義のなかでは特定の教科書は使用しません。毎回の講義では、随時よい文献などを紹介していきます。日々のニュースと諸君の周囲にあるさまざまなアメリカものの本の全体がこの講義の教科書です。ただし、瀬戸岡著『アメリカ理念と現実』（時潮社、2005年）のほかに、グリーンバーグ著・瀬戸岡訳『資本主義とアメリカの政治理念』（青木書店、1994年）瀬戸岡ほか編著『グローバル時代の貿易と投資』（桜井書店、2003年）をテキストに準ずる図書として活用するようお勧めします。

履修コード	310201
科目名	アメリカ経済論
担当者名	瀬戸岡 紘

講義の到達目標(ねらい)	現代のアメリカ経済事情を幅ひろくわかりやすく解説します。特別な経済学の予備知識がなくても理解できる授業です。アメリカ経済を自力で理解していく力をつけることが目標です。
講義の内容/ 授業スケジュール	1回の講義でひとつのテーマをとりあげます。あたらしい情報やトピックスを、解説つきで、つねに受講者に紹介します。アメリカの諸大学の授業にみられる長所を可能なかぎりとり入れた授業です。 以下の項目をさしあたり準備しています。受講者の要望の強いものから講義していきます。◇大統領の今年の経済政策、◇建国の理念と現実、◇アメリカの農業、◇アメリカの工業、◇ベンチャービジネス、◇雇用と労働者、◇商業とサービス、◇金融、◇教育と経済、◇科学技術、◇先端産業、◇経済と環境問題、◇アメリカ社会とヴォランティア、◇女性・マイノリティー、◇ドルの地位、◇アメリカの貿易、◇軍の世界的ネットワークと経済的意義、◇海外援助、◇多国籍企業とアメリカ経済、◇アメリカとヨーロッパ連合、◇アメリカと日本、◇アメリカとアジア・太平洋、◇アメリカとカナダ・中南米、◇アメリカの経済学、など
履修上の留意点	アメリカ経済を理解することは、この国が好きであれ嫌いであれ、現代世界経済全体を理解するためのカナメです。この講義は、アメリカ経済の個々の現象を羅列的に述べるようなことはしません。むしろ、日々報道されているアメリカ経済の事象を、みなさんが自力で読み解く力をつけるための話に徹します。アメリカのもの本には書かれていない事柄をたくさんお話しすることによって、みなさんが講義に出席してよかったと実感してもらえたらありがたい、と考えています。
成績評価の方法	随時、受講者には小論を書いてもらい、それで成績評価をします。平常点重視のためまえから、一発勝負の年度末試験は、受講者の強い要望がないかぎり実施しません。
教科書/テキスト	最新の情報をもとに講義をすすめます。だから特定の教科書は使用しません。講義では、随時よい文献などを紹介していきます。日々のニュースと諸君の周囲にあるさまざまなアメリカものの本の全体がこの講義の教科書です。どうしてもといわれれば、瀬戸岡著『アメリカ理念と現実』（時潮社、2005年） グリーンバーグ著・瀬戸岡訳『資本主義とアメリカの政治理念』（青木書店、1994年） 瀬戸岡ほか編著『グローバル時代の貿易と投資』（桜井書店、2003年） をおすすめします。

履修コード	095001
科目名	EU統合論
担当者名	清水 卓

講義の到達目標(ねらい)	第二次大戦後の欧州統合の歩みを追ひ、現在、27の加盟国、約5億の人口、アメリカを凌駕するGDP、高度の福祉社会、各国・各地域の多様な歴史と風土、経済・社会構造を有するEUの、歴史、制度、政策、現状について解説し、EUとは何か、EUはどのようにして発展してきたか、EUのような地域的共同体を東アジアで構築できるか、といった課題について、自ら調べ、客観的、体系的に理解し、それを表現できる力を身につけることを目標とする。
講義の内容/ 授業スケジュール	第1回～第3回 EUの目的と機構 第4回～第6回 共同市場・共通政策 第7回～第9回 EU拡大 第10回～第12回 通貨統合 第13回～第15回 EUと社会的領域
準備学習	授業で紹介する資料を読むことが重要であることはいまでもありませんが、過去一週間の新聞からEU関連の記事を整理することも効果的事前学習となります。さらに前向きな準備は、予定されている授業のテーマに関連した質問を用意して出席することです。そうすれば、授業内容をより深く理解できるようになります。
履修上の留意点	1年次、2年時の専門科目の学習で経済学の基礎知識および国際経済・国際金融に関する基礎的知識を有していることが望まれます。講義内容を理解するためにも、新聞・雑誌、インターネット、TV特集番組などの欧州諸国のニュース報道に関心を持ちましょう。
成績評価の方法	学期末試験(8割)と授業内で提出を求める課題(2割)を基本に評価します。総合評価の際、出席状況も勘案します。
教科書/テキスト	教科書は指定しません。
参考書	(1) 庄治克宏 「欧州連合—統合の論理とゆくえ」岩波新書 (2) 藤井良広 「EUの知識」日経文庫 (3) 田中素香 「ユーロ」岩波新書
その他	なし
関連リンク	http://europa.eu/

履修コード	310111
科目名	EU統合論
担当者名	清水 卓

講義の到達目標(ねらい) 第二次大戦後の欧州統合の歩みを追ひ、現在、27の加盟国、約5億の人口、アメリカを凌駕するGDP、高度の福祉社会、各国・各地域の多様な歴史と風土、経済・社会構造を有するEUの、歴史、制度、政策、現状について解説し、EUとは何か、EUはどのようにして発展してきたか、EUのような地域共同体を東アジアで構築できるか、といった課題について、自ら調べ、客観的、体系的に理解し、それを表現できる力を身につけることを目標とする。

講義の内容／授業スケジュール

第1回～第3回	EUの目的と機構
第4回～第6回	共同市場・共通政策
第7回～第9回	EU拡大
第10回～第12回	通貨統合
第13回～第15回	EUと社会的領域

準備学習 授業で紹介する資料を読むことが重要であることはいうまでもありませんが、過去一週間の新聞からEU関連の記事を整理することも効果的事前学習となります。さらに前向きの準備は、予定されている授業のテーマに関連した質問を用意して出席することです。そうすれば、授業内容をより深く理解できるようになります。

履修上の留意点 1年次、2年時の専門科目の学習で経済学の基礎知識および国際経済・国際金融に関する基礎的知識を有していることが望まれます。講義内容を理解するためにも、新聞・雑誌、インターネット、TV特集番組などの欧州諸国のニュース報道に関心を持ちましょう。

成績評価の方法 学期末試験(8割)と授業内で提出を求める課題(2割)を基本に評価します。総合評価の際、出席状況も勘案します。

教科書／テキスト 教科書は指定しません。

参考書

- (1) 庄治克宏 「欧州連合—統合の論理とゆくえ」 岩波新書
- (2) 藤井良広 「EUの知識」 日経文庫
- (3) 田中素香 「ユーロ」 岩波新書

その他 なし

関連リンク <http://europa.eu/>

履修コード	093841
科目名	医療経済論
担当者名	河野 敏鑑

講義の到達目標(ねらい) 医療制度に関連する問題をミクロ経済理論によって分析する。医療経済学の理論的成果を紹介するとともに、日本を中心に医療制度とその問題点について解説する。

講義の内容／授業スケジュール

- 1 イントロダクション、健康と経済 2-7 医療・健康とミクロ経済学 8-9 日本の医療保険制度 10 日本の医療提供体制 11 医療費の決定要因(所得増加・高齢化・医師誘発需要・技術進歩・健康増進)と医療サービスの経済的評価 12 医療システムの国際比較 13 健康と格差 14 「健康経営」の実現に向けて 15 期末試験

成績評価の方法 中間レポート(30%程度)と定期試験(70%程度)により評価します。出席状況は問いません。

教科書／テキスト 田中滋・川淵孝一・河野敏鑑編『会社と社会を幸せにする健康経営』勁草書房

参考書

第一回目の講義で紹介しますが、初心者向けの書籍としては、
鈴木亘 『だまされないための年金・医療・介護入門』 東洋経済新報社 1900円+税 4-492-70123-2
より深く学びたい人向けの書籍としては、
漆博雄 『医療経済学』 東京大学出版会 4000円+税 4-13-042105-0
を推薦します。

関連リンク <http://home.e01.itscom.net/tkouno>

履修コード	103501
科目名	演習I
担当者名	荒木 勝啓

講義の到達目標(ねらい) 経済変動や数理ファイナンスなどのモデルをコンピュータ上でシミュレートするというテーマに向けて様々なコンピュータ技法をマスターしていく。

講義の内容／授業スケジュール

モデルをマルチメディア・プレゼンテーション可能にするため、全員に最低DTP(デスクトップパブリケーション)の方法を習得させる。すなわち(1)編集方法(Page Maker、Quark Express)(2)グラフィックス(Illustrator)(3)レタッチ・修正(Photoshop)を習得させる。ゼミ生は課題として、DTP検定2種試験にチャレンジする。

成績評価の方法 検定試験への挑戦50と平常点50。ただし検定試験に不合格だからといってゼミが不合格ということにはならない。

教科書／テキスト 指定なし。ただし必要な場合指示する。

履修コード	102401
科目名	演習I
担当者名	有井 行夫

講義の到達目標(ねらい) 現代社会は、企業中心社会です。受験競争や消費競争、夫or妻の争奪競争からマイホーム獲得競争にいたるまで、競争社会の中心に実は企業への就職競争が位置しています。企業の内部もサラリーマンの出世競争・生き残り競争です。そして、最後に生き残って経営者に成り上がったサラリーマンにしても、企業自身の業績責任に不断に脅迫されて過労死寸前です。企業自身が、好況のときも不況のときも生き残り競争のただ中にあるのです。企業は、利潤のための利潤、生産のための生産をどこまでも続けていかなければなりません。日本型企業社会に構造変革を迫っている今日のグローバリゼーションも、この傾向をさらに強めるものにほかなりません。サラリーマンからも、経営者からも、株主からも独立して、自己拡大の衝動に駆りたてられて走り続ける企業。国民の豊かさに無縁の「利潤のための利潤」。地球環境や資源の制約にも無関心の「生産のための生産」。—これが現代社会の最大の謎であり、21世紀前半に解決しなければならない現代社会最大の課題のありかです。

講義の内容／授業スケジュール 前期 有井のプリント、新聞の読み方、佐和隆光『市場主義の終焉』
夏合宿 競争主義対平等主義
後期 有井のプリント、新聞の読み方（ファイルの作成）、ドーア『誰のための会社にするか』

履修上の留意点 最大のテキストは現代社会そのものです。新聞を読みこなす力を養います。併せて日本語を読む力、書く力、話す力を鍛えます。

成績評価の方法 ゼミへの積極的参加50%、各種レポートの評価50%

教科書／テキスト 佐和隆光『市場主義の終焉』（岩波新書）。ロナルド・ドーア『誰のための会社にするか』（岩波新書）。

履修コード	104401
科目名	演習I
担当者名	飯田 泰之

講義の到達目標(ねらい) 演習のテーマは「日本経済への実証的アプローチ」である。近年、経済問題にとどまらずビジネス・社会・政治分野においても経済学的な思考は必須の教養になっている。そして、自身の意見を発表し、説得する（つまりは「自分がわかっている」ことを人に伝え、他の人を「納得させる」）際には十分な実証的根拠を示し、聞き手を考慮した発表を行うことが必要とされる。本演習は「経済理論の理解」「統計を用いた証拠づけ」「プレゼンテーション能力」の3つを柱に、「使える経済学」を身につけることを目標とした。

講義の内容／授業スケジュール 前期
・経済学以外の本を使ってのレジュメ作成・発表演習
・Word、Excelの基本操作に関する講義
・経済の基本書を使ってそれまでのゼミの内容を生かした発表
夏期合宿
・ディベート大会
後期
・ネットを利用した情報収集の講習と統計の基礎知識
・金融政策・産業政策・産業組織・金融工学のいずれかの本を輪読
・卒論報告会

履修上の留意点 「ミクロ経済学」「マクロ経済学」「経済政策」「統計原論」「企業経済学のa、b」等関連科目をあわせて履修することが望ましい。また、連絡のため駒澤大学総合情報センターのアカウントを取得しておくこと。

成績評価の方法 出席を中心に、発表内容・発言・ゼミへの貢献から判断する。

教科書／テキスト 教科書は開講時に協議する。

参考書 テキストのみにこだわらずゼミ生の興味に沿った論文を取り上げていく。

その他 経済学やパソコンの利用など基本知識のレベルには受講生ごとにばらつきがあると思うが、皆の希望を聞いた上で補充したいと思う。

履修コード	104601
科目名	演習I
担当者名	石川 純治

講義の到達目標(ねらい) ゼミのモットーは「常識や通念、風潮にとらわれない」です。その力はどのようにすれば養えるか、そのための学習をします。また社会経済における「生きた会計」を学習するために「時事会計」を重視します。会計の基礎にある社会経済問題への関心が大切で、それとの関連で会計を学習します。会計をとおして世の中の問題に発言できる洞察力が得られればと思っています。

講義の内容／授業スケジュール 会計を本当に理解するには、まずもってその基礎にある社会経済に関する学習が大切です。したがって、会計学の学習に先立ち、社会経済に関する学習を行ないます。その後、会計学の基礎を学習します。

履修上の留意点 単に本のなかの会計を学ぶのではなく、それを通して世の中の社会経済問題を読み解く力をつちかう。

成績評価の方法 出席・合宿・レポートなどゼミ活動の総合評価。

教科書／テキスト 『日本の論点2011』（文藝春秋）、会計学の初級レベル。

参考書 『常識「日本の論点」』（文藝春秋）など、必要に応じて指示します。

その他 世の中の社会経済問題に関心をもっている真摯な学生、国家試験にも挑戦する意欲ある学生を歓迎します。私のプロフィールについては、駒澤大学のHPのトップページ「教員の紹介」から見るができますので参考にしてください。

関連リンク <http://www.komazawa-u.ac.jp/~ishikawa/profile.htm>

履修コード	101801
科目名	演習I
担当者名	石川 祐二

講義の到達目標(ねらい) 企業においては、会計情報が様々な目的を持って利用されている。その情報を生み出すための仕組みは、どのような構造をもっているのであろうか。その構造を探り、それが社会の多様な関係の中で果たす役割を研究する。そのことによって、社会現象を分析する視点の獲得を目指す。
特に、演習Iでは、そのような分析視点を確立するために、基本的なスキルと知識を身につけることが目標となる。

講義の内容／授業スケジュール 演習Iでは、会計に関する基礎知識を身につけることを目的としている。特に、会計に関わる現象を捉える上で不可欠な、基礎的な用語・概念を中心に取り扱う。基本的には、プリントを中心にディスカッションを行いたい。

履修上の留意点 積極的に参加すること。また、ゼミ生が相互に協力しあい、楽しいゼミ運営を行ってほしい。また、4年次には「卒業研究」を開設する予定である。

成績評価の方法 特に出席を重視するが、報告内容等も含め、総合的に評価する。

教科書／テキスト 特になし。

参考書 必要に応じて紹介する。

その他 合宿その他のイベント等については、話し合いで決定する。

履修コード	102101
科目名	演習I
担当者名	岩波 文孝

講義の到達目標(ねらい) 企業をめぐるビジネス環境は複雑・多様化するとともに、企業不祥事の続出、経営不振、敵対的買収、機関投資家・投資ファンドの不祥事など経営システムの改革が企業経営に求められています。演習では、現代企業におけるトップ・マネジメントの構造と機能の理解を中核として、企業経営の仕組みやコーポレート・ガバナンスとコーポレート・パワーとの連関を理解していくとともに、企業経営に関する興味・関心を深め、企業と社会との関係、企業の社会的責任（CSR）を踏まえた経営システムの構築にむけた課題について考えていきます。

講義の内容／授業スケジュール 企業経営に関わる基礎的な文献を用いて輪読形式によりグループによるレジュメ報告を中心に討論を行います。夏期・春期に行うゼミ合宿では、現代の企業経営が直面する諸問題について、討論していきます。

1. ゼミナールの概要とガイダンス（1）
2. 株式会社の仕組み（2～5）
3. 株式所有と会社支配（6～7）
4. トップ・マネジメントの組織と機能（8～12）
5. 企業の社会的責任（CSR）の現状（13～18）
6. 企業とステークホルダー（19～25）
7. 企業と社会のあり方（26～30）

準備学習 企業経営の動向について、日常的に新聞・ニュース等を通じて情報収集をしてください。

履修上の留意点 ゼミナールは受講生の主体的な学びの姿勢にもとづいて運営されます。専門の学習に向けて自らの課題を発見することや積極的な学習スタイルが求められます。受講の際には企業経営に関する興味・関心を持ちゼミナールに参加してほしい。

成績評価の方法 ゼミへの出席、発表内容、積極的な討論への参加などの平常点による総合評価を行います。

教科書／テキスト 開講時に指定します。

参考書 開講時に指定します。

その他 演習III履修時には「卒業研究」（4単位）を併設します。

履修コード	102201
科目名	演習I
担当者名	大石 雄爾

講義の到達目標(ねらい) 現在、日本の経済構造は大きく変化しつつあります。この変化は、1970年代の国際通貨制度の崩壊、石油危機などとともに始まり、バブル経済とその崩壊および近年の金融恐慌を経て今日に至っています。この演習では、資本主義の経済理論を学びながら、現代資本主義の諸問題について考えます。とくに、バブル経済がなぜ起こり崩壊したか、その原因を考えながら今日の日本経済の特質について学んでいきます。
演習Iでは、現代資本主義の経済構造を理解する上で必要な基礎知識の習得に努めます。

講義の内容／授業スケジュール 今年度は、そのために、森岡孝二他著『入門・政治経済学』をテキストとして用い、資本主義経済の理論と現実の理解に努めます。主な内容は次のようになっています。

- 序 政治経済学とは何か？
- 1 人間と社会と自然
 - 2 市場経済の生成と商品
 - 3 貨幣と市場経済の発展
 - 4 市場の機能と欠陥
 - 5 剰余価値の生産
 - 6 再生産と蓄積
 - 7 生産システムとその変化
 - 8 国家の経済への介入とその変化
 - 9 資本主義の多様性と制度補完性
 - 10 労働の規制緩和と雇用システムの変容
 - 11 新しいコーポレート・ガバナンス
 - 12 グローバル化の挑戦と福祉国家の再編
 - 13 地球環境問題と経済成長の限界

履修上の留意点 欠席・遅刻をしないこと。演習Iの履修者は、原則として演習II・演習IIIを履修し、4年次に「卒業論文」を作成しなければなりません。

成績評価の方法 平常点により評価します。

教科書／テキスト 森岡孝二他著『入門・政治経済学』（ミネルヴァ書房）2,400円＋税

参考書 大石雄爾著『商品の価値と価格』（創風社）3,600円＋税

その他 ①「卒業研究」を併設します。

②演習IIでは、選択科目「ビジネス・インターンシップ」を履修することができます。

③コース制との関連：コースの履修は自由です。

履修コード	101601
科目名	演習Ⅰ
担当者名	大吹 勝男

講義の到達目標(ねらい)	現代の格差社会と貧困、及び社会保障について学習します。ゼミの仲間と一緒に勉強し、考えていきましょう。そして卒業時には、単なる知識の習得だけでなく、それを生かすことのできる科学的な思考能力を身につけた人間になっていることを期待します。
講義の内容／授業スケジュール	社会保障及び社会福祉等々に関する論争は、我々人間が生きてゆく上での重い課題を背負っている。故にテキストに拠る学習だけではなく、上記に関連する毎日のニュースを知らなければならない。本ゼミでは毎回、新聞・雑誌記事によってそれを補う。
履修上の留意点	ゼミでは、当然のことながら欠席や遅刻はゆるされません。
成績評価の方法	平常点によるが、年に2回～3回のテキスト以外の読者感想文の提出を求めます。あとは諸君の勉強次第です。
教科書／テキスト	未定
その他	〈卒業研究の有無〉ゼミ論は4年次に必ず提出しなければなりません。「卒業研究」は、義務ではないが、4年次の演習で開講します。自分自身の力をつけるために、提出することを要望します。

履修コード	103801
科目名	演習Ⅰ
担当者名	小栗 崇資

講義の到達目標(ねらい)	日本の企業会計制度は、現在、大きな転換期にさしかかっており、会計ビッグバンを経て国際会計基準への統合へと突き進んでいます。計算構造の面でもディスクロージャーの面でもこれまでの財務会計の枠組みや原理・方法は大きく変容しつつあるといえます。会計の学習者にとっては、従来のような勉強だけでは変化についていくことができないので大変ですが、発想を変えれば、現代社会のなかでの会計の役割や仕組みを研究するチャンスと考えられます。演習では、「グローバル化する日本の企業会計制度」をテーマに学習を進めたいと思います。
講義の内容／授業スケジュール	演習Ⅰでは、まず企業会計の基礎原理を理解することに重点を置き、企業会計の従来の考え方と新しい考え方を比較しながら、現代の財務会計の理論や方法を学習する予定です。そうした中で、国際会計基準のいくつかを取り上げ、その内容を深く検討してみたいと思います。演習は皆さんに報告をしてもらい、ディスカッションする方式で行います。資格勉強のように暗記するのではなく、「なぜそうなのか」「どうしてこうなるのか」という問題意識をぶつけあって研究することをこの演習ではめざします。
履修上の留意点	ゼミでは皆さんに積極的に発言したり質問したりすることを求めます。毎回、司会者や報告者、質問者などの役割を分担して進める予定ですので、必ず出席してください。ゼミの運営や行事にも意欲的に取り組む学生を希望します。なお「卒業研究」も開講する予定です。
成績評価の方法	総合的に判断します。①出席状況、②報告内容、③レポート、④ゼミ運営への貢献度。
教科書／テキスト	演習の中で指示します。
参考書	演習の中で指示します。

履修コード	104301
科目名	演習Ⅰ
担当者名	北口 りえ

講義の到達目標(ねらい)	税務会計は、法人税法における課税所得計算に関する学問です。法人の所得に対して課される法人税は、企業にとって避けられないものであり、企業行動を左右する重要な要素のひとつとなっています。本演習は、法人税における課税所得が企業利益をベースとしてどのように算出されるのか、その課税所得の計算構造に関する理解を深めることを目的とします。
講義の内容／授業スケジュール	演習Ⅰ・Ⅱでは、企業会計を基礎として課税所得および税額を計算し、申告・納税するという企業会計と税務の一連の手続きについて、なぜそのような処理を行うのかという理論的部分を重視しながら学んでいきます。課税所得は企業利益に調整を加えて算出されるものであるため、演習Ⅰでは、税務会計についての理解を深める前段階として、まず企業会計についての基礎知識—企業会計の基本原則や会計制度の構造について習得します。基本的には、テキストの1つのテーマに対してレジュメを作成し報告してもらい、ディスカッションするという方法で進めていきます。レジュメは単にテキストをまとめるだけでなく、疑問を持った点や深く掘り下げてみたい点などを追求したものを作成するよう心がけてください。また、報告者はプレゼンテーションにおいても棒読みではなく、的確に相手に理解してもらえるよう工夫をしてもらいたいと思います。
履修上の留意点	ゼミ内で意欲的に発言し、ゼミの運営や行事（宿舎、ゼミナール連合会での研究発表会、証券取引所見学や裁判所見学など）にも積極的に参加してください。
成績評価の方法	出席率、報告内容、ゼミやゼミの運営への参加度、レポート等の総合評価により行います。理由のない遅刻や無断欠席は大きな減点としますので、注意してください。
教科書／テキスト	未定（最初の演習の際に指示します）。 その他、適宜プリントを配布します。
参考書	伊藤邦雄『ゼミナール現代会計入門』（日本経済新聞出版社） 柳裕治『税務会計論』（創成社）

履修コード	104001
科目名	演習I
担当者名	小杉 修二

講義の到達目標(ねらい) 大学の授業には演習と講義があります。講義はいわば先生が中心にしゃべり、結論を出していきます。これに対して、ゼミ(演習)は学生が自分たちで問題を確かめ、事実と論理を確認し、結論へとたどり着くようにします。その意味では、皆さんが中心になって進めていきます。

変化の激しい近頃の社会では学んだことが古くなるスピードも速くなりつつあります。覚えたことは古くなったら使えなくなるものもあるでしょう。でも、大丈夫です。新しい状況について、また勉強すればよいのです。でも勉強をしたことがない人は勉強ができません。大学では特定の事柄について勉強しますが、同時にそれを通じて勉強の仕方を勉強しましょう。その勉強の仕方の中で、自分で調べたり、討論したり、人の意見を聞いたりしながら、知識を深め、根拠を確かめ、結論を出すといったトレーニングをし、また、相手に理解してもらって発表に熟達するトレーニングをするのがゼミです。

講義の内容／授業スケジュール

このゼミでは地球環境問題の中の「地球温暖化問題」を考えます。近年の猛暑が騒がれていますが、これも年間平均にすると、平年に対して1度程度の昇温に過ぎません。国連の機関であるIPCCによれば、今世紀末には地球全体が1.8-4.0度の気温上昇を見るだろうとされています。文明(農業)が生まれたのが1万年前とされていますが、この1万年というのは、地球の平均気温は15度近辺で安定していました。時々起きる変動の幅もプラスマイナス1度程度でした。つまり、今予想されている気候の変動は「文明の未体験ゾーン」なのです。

温暖化の害悪はさまざまありますが、海面上昇や雨の降り方の変化、農地の乾燥化、熱帯の病気・害虫の北上などが言われています。映画にも取り上げられた「温暖化が地球の寒冷化をもたらす」という逆転現象も決して「冗談」ではない現実性をもったものです。

原因の主たるものは石炭・石油・天然ガスの燃焼に伴う炭酸ガスが太陽からの熱を閉じ込めて宇宙空間に逃げにくくするからです。しかも厄介なことに、暑くなるとますます暑くなるというメカニズムが地球にはあります。例えばシベリヤの永久凍土層にはメタンが閉じ込められていますが、暑くなればこれらが溶け出していきます。メタンガスは炭酸ガスの20倍の温暖化効果があります。こうした加速要因は23ほど見つかっていますが、そのほとんどがプラスの加速要因です。「サプライズ」とも言われる急激で過激な気候変動の可能性も排除はできません。

温暖化問題は近代文明・経済活動を支える化石燃料が主たる原因となって起こるため、その対策は経済活動にも大きな影響をもたらす、経済活動のあり方や文明のあり方にも変更を迫ることになる可能性もあります。その対策をする時に必ず「利害」が絡みます。この利害関係を合理的に制御するのが経済学の課題です。

こういった問題を勉強するのがこのゼミです。通常の授業とならんで年2回の「ゼミ合宿」では集中的に1冊の本を勉強します。ゼミ生同士の親睦を図るため、いくつかのイベントも用意しています。また、ゼミでは新聞記事の読み方も練習しますので、普段から新聞その他に目を通すようにしましょう。

第1-5週： テキスト第1章第1-3節
 第6-10週： テキスト第1章第4-5節
 第11-15週： テキスト第2章第1-6節
 第16-20週： テキスト第2章第7-9節、第3章第1-3節
 第25-30週： テキスト第3章第4-12節

ゼミでは新聞の切抜きを配布して、皆さんの自主的な情報収集の一助としています。

履修上の留意点	出席の悪い人は単位を認定できません。
成績評価の方法	出席状況とゼミへの参加の積極性・発言を総合して判定する。
教科書／テキスト	『よくわかる地球温暖化問題』(中央法規社)
参考書	小宮山宏『地球温暖化問題に答える』(東大出版会)、『IPCC地球温暖化第4次レポート』(中央法規社)
その他	〈卒業研究の有無〉あり。4年次に履修(別に4単位が与えられる)。

履修コード	101411
科目名	演習I
担当者名	小西 宏美

講義の到達目標(ねらい) 「多国籍企業、多国籍金融機関とカジノ資本主義」をテーマとしています。「カジノ資本主義」とは何か、多国籍企業、多国籍金融機関の活動がいかに経済を「カジノ化」してきたのか、「カジノ資本主義」は我々の生活をどのように変えてきたのか、について研究します。

講義の内容／授業スケジュール 国際経済、国際金融関係のテキストを使ってレジュメの作成や報告、討論を行います。また学内/学外のゼミ連に参加します。

履修上の留意点	演習は、皆さんが主体的に参加してはじめて成立する学習の場です。責任感と自覚をもって臨みましょう。
成績評価の方法	出席、報告、討論の3点で評価します。
教科書／テキスト	最初の授業時に指定します。

履修コード	102701
科目名	演習I
担当者名	小林 正人

講義の到達目標(ねらい)	<p>テーマは「景気循環と雇用・貧困」。</p> <p>2008年リーマン・ショックは世界経済を深い不況にまきこみ、世界中に非自発的失業者や低賃金労働者を増やしました。日本経済は、米国流の金融投機へのかかわりは浅かったにもかかわらず、その後の円高によって低迷し、それまでの非正規労働者の増加や財政赤字による内需不振、中国経済の成長などの影響もあり、産業空洞化と雇用劣化に向かいつつあります。それはまた米国や日本の格差や貧困の問題を浮かび上がらせました。</p> <p>そこで、このゼミでは、景気循環の理論や歴史、リーマン・ショックの背景、失業者が大量に生み出される理由、派遣労働やワーキング・プアの実情、「景気対策」の限界などについて考えていくことにします。</p>
講義の内容／授業スケジュール	<p>雇用、失業や、貧困、格差について考えることと平行して、景気循環の理論や歴史について学んでいきます。</p> <p>前期は入門的な文献(複数冊)や新聞記事などについて議論をしながら、同時に文献資料の読み方、議論の進め方、論点の出し方、発表資料(レジュメ)の構成、発表の仕方などを学びます。後期はより専門的な文献(複数冊)を選んで議論しながら、グループに分かれて共同研究やプレゼンテーションに取り組み、自主的な調査や討論の方法について学びます。</p>
準備学習	ゼミで議論する文献については全員があらかじめ熟読し、必要な事項を調査し、論点や疑問点、自分の感想や意見をまとめておくこと。
履修上の留意点	<p>ゼミの中心は、ゼミ生が作成する発表資料と、ゼミ生どうしの討論や学び合いです。ゼミ生は、発表資料を作成するために、パソコンのワープロソフトを使用することが必要です。</p> <p>ゼミで議論する文献はゼミ生と相談して決めますが、決まったら各自が購入する必要があります。</p>
成績評価の方法	作成した発表資料、ふだんの調査や発表、出席状況を総合して評価。無断欠席は厳禁。
教科書／テキスト	前期用の入門書、後期用の専門書などをゼミ生と相談して決めます。
参考書	<p>下記の本は入門書の候補です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・堤 未果『ルポ貧困大国アメリカII』岩波書店、2010年。 ・NHKスペシャル『ワーキングプア』取材班編『ワーキングプアー日本を蝕む病』ポプラ社、2007年。 ・浜 矩子『グローバル恐慌—金融暴走時代の果てに—』岩波書店、2009年。 ・NHK取材班『マネー資本主義—暴走から崩壊への真相』NHK出版、2009年。
その他	4年次の演習IIIに「卒業研究」(4単位、卒業論文のみ)を併設します。
関連リンク	http://www.komazawa-u.ac.jp/~kobamasa/

履修コード	102601
科目名	演習I
担当者名	清水 卓

講義の到達目標(ねらい)	<p>このゼミは、現在のヨーロッパ経済や社会の研究を中心としたゼミです。とはいっても、ヨーロッパは多数の国や地域からなる大きくて懐の深い社会ですから、ゼミ参加者の問題関心も毎年実に様々で、中東欧諸国の加盟、欧州連合(EU)の統一通貨ユーロ、北欧諸国の福祉社会、その他、教育、環境、食料、文化など各国国民の日常生活に及んでいます。3年間をかけて、現代の経済社会を見る目を、基礎から徐々にレベルアップしていけるように運営しています。卒業時点で自分の得意分野でしっかり自分の考えを表現できるようになることを目指します。</p> <p>担当教員は、様々な最新情報や、資料の所在、文献の紹介などを行います。ゼミの中心は参加者学生の自由な議論です。参加者の色々な個性が触れ合って、学びの楽しさを実感できる場としたいと思います。演習Iでは、専門分野の本をしっかりと読みこなすことができるよう重点的に指導します。</p>
講義の内容／授業スケジュール	演習Iでは、ディベートとEUに関する基礎知識修得を課題とします。見学(裁判所、TBS、製鉄所、東京の街散歩)などの行事、春と夏には、合宿をやりませう
準備学習	EUに関する新聞等の記事のスクラップ・ブックの作成を課します。
履修上の留意点	<p>色々なことに挑戦しようというのがゼミの基本姿勢です。このように書く遊びの方を期待するかもしれませんが、けじめをつけて、何事につけ前向き真剣に取り組もうとする姿勢が大切です。</p> <p>さらに、基礎的学力を充実させるため、ゼミ生には漢字検定の資格、英検、TOEFL、TOEICに挑戦するように勧められています。</p>
成績評価の方法	平常授業や合宿への参加や、研究発表への取組を評価して成績を決めます。
教科書／テキスト	参加者の意向を聞き取った上で決定します。
参考書	授業で紹介します。
その他	「卒業研究」は3年次に併設されています。

履修コード	101701
科目名	演習I
担当者名	代田 純

講義の到達目標(ねらい)	金融や証券市場に関する基礎を習得すること。
講義の内容／授業スケジュール	2年生の前半は、金融に関する基本を理解することを目指す。後半には、証券市場の現状理解へと進む。また毎年、2年生の後半には、日経ストックリーグへ参加している。
履修上の留意点	欠席しないこと。
成績評価の方法	発表など平常点で評価する。レポートやテストはない。
教科書／テキスト	<p>代田 純、『新版 図説 やさしい金融財政』、丸善、定価1800円＋税、ISBN978-4-621-08214-0</p> <p>代田 純、『日本の株式市場と外国人投資家』、東洋経済、定価2800円＋税 ISBN 4-492-71155-4</p>
その他	日本経済新聞、朝日新聞、その他を使用する。

履修コード	101501
科目名	演習I
担当者名	鈴木 伸枝

講義の到達目標(ねらい)	公共経済学のゼミです。講義よりも専門的なことを学ぶとともに、自ら問題を発見する能力を身につけることを目標とします。年金・医療・介護保険・環境・失業の諸トピックについて、「どういう問題があって、何を為すべきか」を自分なりの意見をもてるようにしましょう。
講義の内容／授業スケジュール	二年生のうちは、公共経済学の理論の基礎となるミクロ経済学・ゲーム理論のテキストを輪読します。毎回、輪読の報告担当者にはレジュメを用意してもらいます。必要に応じてコンピュータを使った文書作成やインターネットでの情報検索についても指導します。
履修上の留意点	ゼミは勉強の場だけでなく、人前で自分の意見を言えるよう訓練したり、同じゼミの仲間と協力して何かを達成することを通じて人間的に成長する場でもあります。引っ込み思案にならず、常に積極的な態度で参加してください。
成績評価の方法	出席状況・予習状況・討論への参加度により評価します。
教科書／テキスト	梶井厚志・松井彰彦(2000年)『ミクロ経済学戦略的アプローチ』日本評論社

履修コード	102801
科目名	演習I
担当者名	瀬戸岡 紘

講義の到達目標(ねらい)	「グローバル化」と「デジタル化」の時代に即応した社会、経済、経営などにかんする学習と研究の基礎的機能をやしなうこと。
講義の内容／授業スケジュール	アメリカの大学(なかでも名門シカゴ大学)の演習の方式を採用して、「基礎はしっかり、研究は自由に」のローガンのもと、活気あるゼミ活動をしています。何を研究・学習の対象とするかは、受講生の希望によりかなり幅広くみとめているのが当ゼミの特徴。 最初の2ヶ月は、スピーチ、プレゼンテーション、ディスカッション、ディベートのしかた、レジュメ、小論、論文の書きかた、本のさがしかた、読みかた、資料のあつかいかたの習得が主になります。その後は、グローバル時代の世界経済の特質と諸問題、および日本経済の特質とその歴史的背景など、自主的研究としてどんなテーマをとりあげるべきかについても最小限知っておくべきことについて、共同で学習し、討論します。しばしば英語の文献も使用します。 その他、上級生によるパソコン教室、英語圏から当ゼミにきた留学生による英会話教室、上級生と少人数グループで一緒に学習・研究をするサブゼミの活動、他大学の学生と交流できる日本学生経済ゼミナールへの参加、アメリカの学生とのインターネットによる交流とテレビ会議システムをつかった遠隔討論会、工場見学・企業訪問など多彩なイベントが用意されています。
成績評価の方法	ゼミ活動にたいする各自のあらゆる態度を総合して評価します。最大の眼目は、当人のやる気です。
教科書／テキスト	随時、有益な文献を紹介します。
参考書	随時、有益な文献を紹介します。
その他	当ゼミは、2008年には『代ゼミジャーナル』で、2003年には『世界週報』で、それぞれ全国に、1994年にはCNNテレビで世界120カ国で紹介されました。 当ゼミにかんする一層くわしい情報は、ゼミに直接きて見学したり問い合わせたりするほか、下記のホームページ(ゼミ生制作)にアクセスしてください。 http://setookazemi.xxxxxxxx.jp/

履修コード	103601
科目名	演習I
担当者名	曾我 信孝

講義の到達目標(ねらい)	2年生のゼミでは、マーケティングの基礎理論を理解しながら学習姿勢と発表力を身に付けることを目標にする。
講義の内容／授業スケジュール	1～2回 学習方法、調査方法、発表方法などを指導。 3～7回 製品政策に関する問題を課題としてプレゼンテーションをする。 8～12回 価格政策に関する問題を課題としてプレゼンテーションをする。 13～15回 製品、価格政策に関するディベートをする。 夏合宿 マーケティングに関する時事問題を取り上げ、ディベートをする。 16～20回 チャネル政策に関する問題を課題としてプレゼンテーションをする。 21～25回 販売促進政策に関する問題を課題としてプレゼンテーションをする。 26～29回 ディベート大会に向けての学習指導。 ゼミ合同ディベート大会 30回 ディベート大会反省会
準備学習	研究課題が出されたときは、決められたグループで十分下調べをし、全員が発表できる準備をしておくこと。
履修上の留意点	・出席を重視するが、特に夏合宿、12月のディベート大会は必ず出席をしてもらいたい。
成績評価の方法	平常点(・日常の学習態度60%、・合宿の出席と学習態度20%、・ディベート大会の出席と学習態度20%)で評価する。
教科書／テキスト	特に指定しない。
参考書	必要に応じて紹介する。
関連リンク	http://geocities.yahoo.co.jp/gl/nobusoga

履修コード	101421
科目名	演習I
担当者名	館 健太郎

講義の到達目標(ねらい) 人々のかけひきを分析するための道具である「ゲーム理論」について学習し、これを使ってさまざまな社会現象を自分の言葉で説明できるようになることをめざす。ゲーム理論は、スポーツやカードゲームの必勝法の研究というよりも、私たちの日常生活や社会のなかで起きるさまざまなかけひきをゲームとみなし、それらをいくつかのパターンに整理して結果を予想するための学問で、その応用分野はとても広い。情報通信や交通手段の発達などによってネットワーク化されている今日の経済では、人々のつながりに関する理解を深めることの重要性はますます高まっている。

本演習では主に産業組織論、すなわち企業の投資、生産、販売などを通じた競争戦略や他の企業との戦略的提携など、それぞれの産業における企業間の競争と協力について扱う。また、補助金や規制などを通じて市場への介入を行う政府の産業政策・競争政策についても考える。例えば、家電産業や情報通信産業ではしばしば製品間の互換性が重要になるが、そのときに企業はどんな戦略をとるべきだろうか。政府は何か政策を打ち出すべきだろうか。ゲーム理論という共通の土台の上で議論できるようになることを目指す。

講義の内容／授業スケジュール 最初のうちは講義形式の説明と輪読形式の発表の両方を使ってゲーム理論そのものの学習を中心に勧める。その後、ゲーム理論の学習と並行してグループや個人で実際の産業や行政について調べ、そこからゲームを作って分析するなどより実践的な研究へと展開する。

履修上の留意点 自分自身で社会の中にあるかけひきを表現するためにオリジナル・ゲーム（といってもプログラムではない）を創作し、発表してもらうなど、発想やアイデア、表現力を養うことを重視する。

成績評価の方法 出席回数・発表などの平常点と授業内試験で評価する。

教科書／テキスト 渡辺隆裕『図解雑学 ゲーム理論』、ナツメ社、1470円、ISBN4-8163-3745-8

参考書 とくになし。

履修コード	104801
科目名	演習I
担当者名	鄭 章淵

講義の到達目標(ねらい) この授業の目的は、ゼミ生のみなさんに第二次世界大戦後の東アジア経済の発展過程について理解を深めてもらうことである。

ここでいう東アジアとは、東北アジアと東南アジアを合わせた地域を想定している。同地域の著しい経済発展は「東アジアの奇跡」として世界の衆目を集め、日本を先頭に、アジアNIEs（新興工業経済地域：韓国、台湾、香港、シンガポール）、ASEAN3（タイ、マレーシア、インドネシア）、中国、その他と続く発展の様は「雁行型発展」と称されてきた。ところが、1997年のアジア通貨危機を機に東アジア経済は混迷に陥り、雁行型発展に乱れが見られるようになった。今日の事態は、東アジア経済を発展の側面からのみ捉えるのではなく、発展と危機の両面を視野に入れたアプローチが必須であることを示している。日本の経済的パートナーとして東アジア諸国の重要性が増している現状を鑑みると、日本の将来を担う皆さんにとって東アジアを理解することは大切な課題として提起されていると言える。

講義の内容／授業スケジュール 東アジア経済に関する基礎知識を身につけるため、下記の文献（教科書）を輪読する。具体的には、予め報告分担当を決め、報告者には各自が作成したレジュメに基づいて報告してもらう。また、適宜、アジア経済に関する新聞記事について学習する機会も設ける。夏季休暇中にはゼミ合宿を実施する。そこでは別の文献を取り上げて講読し、ビデオ鑑賞なども予定している。また、演習（ゼミ）の特別企画として課外活動も行うつもりである。

準備学習 アジア経済に関する新聞記事（WEB含む）を常日頃から読むようにすること。

履修上の留意点 演習は何よりも学生の皆さんが主人公となるべき科目である。授業には休まず出席し、積極的に発言することを心掛けてもらいたい。

成績評価の方法 レポート回数、授業での積極性、合宿への参加状況などを加味して総合的に判定する。

教科書／テキスト 大野健一・桜井宏二郎著『東アジアの開発経済学』（有斐閣アルマ）2,000円＋税、ISBN4-641-12044-7

参考書 参考書については、授業の中でそのつど紹介する。

その他 4年次に「卒業研究」を併設する。

履修コード	103101
科目名	演習I
担当者名	徳永 俊明

講義の到達目標(ねらい) 発展途上諸国＝アジア・アフリカ・ラテンアメリカ諸国の国際関係とその中での人びとの生活の問題を研究します。国際政治・経済のなかでの人間と人間との関係、とくに発展途上諸国民が直面している“貧困”と彼らのたまたかについて学びながら、日本・日本人・そして私たち一人ひとりの“豊かさ”と“貧困”を考えます。

講義の内容／授業スケジュール 上の趣旨にそって学生諸君と相談しながらすすめます。

履修上の留意点 何よりも＜考える＞努力を求めます。

成績評価の方法 ＜考える＞努力をしたかどうかをもって評価します。

参考書 考え、討論するための資料を使ってすすめます。

その他 演習IIIに卒業研究を併設します。（希望者のみ。）

履修コード	104701
科目名	演習I
担当者名	友松 憲彦

講義の到達目標(ねらい) 経済史の基礎を学びます。現在、日本や世界にはさまざまな「経済問題」がありますが、これらはすべて過去の遺産を背負っており、歴史をもっています。経済史は「経済問題」の歴史を研究する学問ですが、それは必ずしも過去だけに限るものではなく、今後の社会や経済のあり方を考えることにつながります。経済学の基礎知識を習得しながら、経済史という学問の課題と方法を理解します。

講義の内容／授業スケジュール 2年次から3年間の継続履修を原則とします。
2年次は、経済学や経済史の初歩的な概念や理論を説明しながら、近代社会の経済システムがどのように誕生し発展してきたのか、経済史の基礎を学びます。
3年次は、特定のテーマを決めて全員で本を講読し報告と討論を行います。
4年次は、自分でテーマを決めて卒業研究をまとめます。
また、ゼミでは大学や社会で必ず必要とされる資料や文献の探し方、本や資料の読み方、レジュメやレポートの書き方、発表や討論の仕方などを習得します。

履修上の留意点 「経済史」「西洋経済史」「日本経済史」「商業史」等をあわせて履修することが望ましい。
成績評価の方法 平常点(ゼミに取り組む姿勢、報告、発表、討論)と年度末レポートを総合して評価します。
教科書／テキスト 最初の授業で指示します。
参考書 演習を通じて紹介します。
その他 卒業研究を併設します。合宿や博物館訪問、展覧会見学を予定しています。

履修コード	102501
科目名	演習I
担当者名	中濟 光昭

講義の到達目標(ねらい) 人に理解してもらえらるレポーティングやプレゼンテーションが出来ること、自分でテーマをみつけ、それに関する文献やデータを探せることが目標です。

講義の内容／授業スケジュール 毎回各自がレジュメ作成、レポーティング、プレゼンテーションなどの実習を行います。サブゼミでの輪講、各自で研究テーマを決めて研究した経過をゼミで発表するなどにより、研究の仕方を習得します。
インターネット上での電子商取引、ネットワークを駆使した流通システム、サプライチェーンマネジメント、電子決済システム、デジタル情報の著作権問題など経営・経済に関するテーマに加え、コンピュータシステムに興味のある学生は、システム設計実習やホームページデザイン実習といった情報系のテーマを扱います。合宿、学外の研究発表、展示会見学、インターンシップ参加など様々な活動を通じて、社会人として必要なことを学びます。この演習の成果は情報産業を始めとする様々な業種への就職に結びつきます。

準備学習 履修許可後に指示するプレゼミ課題を全て提出すること。
履修上の留意点 ・合宿、課外イベント、サブゼミは原則として出席していただきます。
・メールの読み書きやワープロを打つといったことがゼミ活動上必須です。インターネットに接続できるノートパソコンが必要です。
成績評価の方法 課題提出(50%)、夏季合宿(10%;後期履修継続の前提)、学年末に行う発表(10%)とレポート提出(10%)、ゼミ運営上の雑務(10%)、イベントへの参加や資格取得(10%)を総合評価します。

教科書／テキスト 別途指示
参考書 別途指示
その他 ・積極性のある学生の参加を希望します。
・ゼミではパソコン教場を使用しますので、本ゼミを受講したい人は総合情報センターで利用登録を行う必要があります。
・演習IIIでは、卒業研究(論文及び作品)を併設します。
・編入学および転部・転科の学生を主な対象として4月に追加募集を行います。希望者は初回の演習に必ず出席すること。

関連リンク <http://www.komazawa-u.ac.jp/~nakasumi/>

履修コード	101431
科目名	演習I
担当者名	長山 宗広

講義の到達目標(ねらい) 演習Iでは、講義「地域経済論a、b」の予習・復習をかかえて、地域経済・地域産業に関する基礎的な理論と分析手法を学ぶ。また、レポート・論文作成にとって必要なスキルを高めてもらう。
地域という窓から、現実の経済・産業を見ていくと、様々な問題意識や疑問が生まれてくる。研究対象についても、地域の農業や漁業、産地・地場産業など工業集積、商店街・中心市街地やまちづくり、温泉郷など地域観光、地域の金融や財政・政策、など多岐にわたる。地域という総合的存在を学ぶことを通じて、経済・産業の全体像を理解していくことを目指す。

講義の内容／授業スケジュール 地域経済論の基礎的な文献や統計データ等を使って、輪読や担当を決めての要旨報告を中心に討論を行なう。具体的には、地域の人口・世帯、就業・労働、事業所・企業、産業(農業・工業・商業・サービス業)、各種インフラ、財政等、に関する地域経済の統計データについて、その分析方法を学ぶ。
仮想(実在しないが地方都市の典型例)のA地域の活性化プランをグループ単位で取りまとめもらう。既に用意してあるA地域の統計データや、A地域の主要企業やキーマンのヒアリング情報等を分析し、A地域の課題抽出とその解決に向けた活性化策を提示してもらう。
ゼミ生各人(またはグループ)が愛着のある実在の地域を選定し、そこをケーススタディにして地域活性化プランを取りまとめもらい、発表まで行う。

準備学習 課外学習、サブゼミを主体的に実施し、ゼミの授業時間を充実したものとする。
履修上の留意点 「地域経済論a・b」の講義、「ベンチャー論・起業論」の講義を履修することが望ましい。
ゼミには主体的に参加してもらいたい。最終的には、ゼミ生各人が自ら問題を設定し、その問題を解決するために自分自身で調べ、新たな発見を見出し、その成果をプレゼンテーションできるようにしてもらいたい。
成績評価の方法 出席状況、授業中のレジュメ・報告内容、討論への参加などを総合的に評価する。
教科書／テキスト 日経新聞および日経グローバルを活用する。
参考書 都度、紹介する。
とりあえずは、講義の「地域経済論a・b」「ベンチャー論・起業論」を参照のこと。
その他 演習IIIでは、「卒業研究」を併設する。
メーリング・リストを活用する。

履修コード	101481
科目名	演習I
担当者名	番場 博之

講義の到達目標(ねらい) 社会には、普段の生活で我々が気づかない様々な不思議があります。その不思議をマーケティング的発想で発見するセンスを磨くことが番場ゼミ（演習I）の目的です。3年次および4年次での学習の基礎となる問題発見型学習を行います。

講義の内容／授業スケジュール (1～5) ビジネス教育としてのグループエンカウンター
(6～10) ディベート
(11～15) グループ研究、工場や文化施設の見学、巡検など
(16～30) グループ研究：ビジネスモデルづくり、課題研究、プレゼンテーションなど

ディベートのテーマは「日経MJ」や「週刊ダイヤモンド」「商業界」などのなかから自分たちで選定します。準備教育として各種見学や巡検を行います。巡検等の場所は「江戸東京博物館」や「塩とたばこの博物館」などの文化施設のほか、卸売市場や定期市などを予定しています。なお、ビジネスモデル策定、課題研究、プレゼンテーションなどの研究は引き続き3年次前期まで続きます。

履修上の留意点 詳細なシラバスは開講時に配布します。様々な活動を自主的かつ積極的に経験してみたい人のみ履修してください。

成績評価の方法 日常の活動やゼミへの貢献度等を総合的に評価します。レポートや試験は行いません。

教科書／テキスト 教科書は使用しません。

参考書 共通で使えるように、基本的な文献あるいは重要かつ最新の資料などは研究室に揃えておきます。

その他 ゼミの運営モデルは2年生から卒業までの3年間でつくられています。3年間のプログラムの内容やゼミの運営・活動の内容を十分に理解したうえで履修してください。番場が担当する演習II、演習IIIの詳細な内容を知りたい方は、問い合わせてください。

また、ディベートのテーマやグループ研究のテーマは「日経MJ」「週刊ダイヤモンド」「商業界」などを参考に、できるだけ最新のテーマを探してもらいますので、自分自身でもできるだけ社会の様々な出来事に関心を持つように努めて下さい。

履修コード	103701
科目名	演習I
担当者名	百田 義治

講義の到達目標(ねらい) 現代の日本企業の経営管理に関わる主要なテーマを中心に、グローバル化・情報化（IT革命）の進展など経営環境が激変するなかで大きく変貌する日本企業とその経営の実態をリアルに学び、将来を展望します。同時に、「社会から信頼される企業」に求められるものは何か、という視点から企業倫理や企業の社会的責任（CSR）について学びます。

講義の内容／授業スケジュール (1) 第1～2回 イントロダクション：ゼミとは何か、ゼミで何を、どのように学ぶのか？
(2) 第3～7回 経済危機のなかで、日本企業の経営行動はどのように変化しているのか？
(3) 第8～13回 企業不祥事がなぜ多発するのか？ その防止（コーポレート・ガバナンス）には何が必要なのか？株主至上主義経営の破綻は何を意味するのか？企業の社会的責任（CSR）とは何か？
(4) 第14～15回 前期まとめ：学生によるプレゼンテーション
(5) 第16～20回 いま、なぜ、能力主義・成果主義なのか？ 終身雇用・年功制はなぜ修正されなければならないのか？日本的経営の何を残し、何を変革すべきか？
(6) 第21～25回 企業は環境問題にどのように取り組んでいるのか？
(7) 第26～30回 個別企業に関するCSR調査と成果のプレゼンテーション

履修上の留意点 経済雑誌や新聞やネット情報などを日常的に熟読・検索し、現代企業とその経営に関心を払い、各自の問題意識をもってゼミに参加してください。

成績評価の方法 出席、ゼミにおけるリーダーシップ、発表内容、レポートなどを総合して平常点評価を行います。

参考書 鈴木幸毅・百田義治編著『企業社会責任の研究』中央経済社、2008年。
稲村毅・百田義治編著『経営組織の論理と変革』ミネルヴァ書房、2005年。

その他 「卒業研究」（4単位）を併設します。

履修コード	105101
科目名	演習I
担当者名	堀 龍二

講義の到達目標(ねらい) 雇用、賃金、労働時間、能力開発、人事制度、労使関係といった人的資源管理論に関する基本的知識を獲得するとともに、現代的な問題意識をもってもらうことをねらいとしています。現代日本企業の人的資源管理はこれまで大きく変化を遂げつつあるところ。従来の人的資源管理がどのような特徴と構造をもっていたのか、それがなぜいま、どのような方向へ変化しているのか。このような問題を考えるのに有用な知識を修得してもらいます。

講義の内容／授業スケジュール (1～5) 新聞記事を題材にして、現代の労働問題の有り様を概観する。(6～10) 雇用、賃金、労働時間、能力開発、労使関係に関する具体的なテーマを設定して、各自の下調べを報告する。(11～15) 上記に関連するより具体的に適切なテーマを設定してディベートを行う。こうしたなかで、基本的な統計資料の利用といった学習スキルの向上も図っていく。

準備学習 ゼミで扱うテーマについて、事前の下調べと事後のまとめをしっかりとやってもらいたい。日常的に新聞を読む習慣をつけること。

履修上の留意点 人的資源管理に関する基本的知識の修得が主眼とはいえ、ゼミでの私の説明、他のメンバーの報告、それに基づく議論において、理解しにくいと感じたことをうやむやにしないで、率直に質問する姿勢を大切にしたい。つまり、とにかく積極的に参加・協力姿勢を重んじます。

成績評価の方法 毎週のゼミへの参加、丹念な下調べ、レジュメ・レポートの提出、積極的な発言を中心に評価します。

教科書／テキスト 使用する場合は、初回ゼミで相談して決めます。

参考書 ゼミのなかで適宜指示します。

その他 <卒業研究の有無>
演習II・IIIまで引き続き履修した場合には、演習III履修時に卒業研究を併設します。

履修コード	104201
科目名	演習I
担当者名	松井 柳平

講義の到達目標(ねらい)	統計学の知識が経済、経営の分野でも必要不可欠なものとなっている。世界を舞台に経済は毎日めまぐるしく変動し、激動している。こうした不確実な変動を分析するための統計的手法を、パソコンを用いることで実践的に習得する。
講義の内容／授業スケジュール	ガイダンス データの要約と視覚化 基本統計量 確率分布 相関分析 推定 仮説・検定 集計表と適合度検定 回帰分析 等分散の検定 時系列分析。 数学モデル、確率モデルを視覚的に理解できるように重点を置く。
履修上の留意点	このゼミの履修にあたっては、数学の知識は事前にはまったく必要としない。
成績評価の方法	成績は授業中のゼミへの貢献によって評価する。具体的には、報告内容、質疑応答、討論への参加、課題達成度、ゼミ行事への積極的参加等を総合して評価する。出席は必須条件である。
教科書／テキスト	開講時に、ゼミ生と相談の上、決定する。
参考書	鳥居『はじめての統計学』（日本経済新聞社）ISBN4-532-13074-3 縄田『Excelによる統計入門』（朝倉書店）ISBN4-254-12142-3 得津『はじめての統計』（有斐閣）ISBN4-641-08667-2
その他	パソコン教場でおこなう。レポーターによる報告に基づいて進める。

履修コード	101441
科目名	演習I
担当者名	松田 健

講義の到達目標(ねらい)	今日の企業は単に経済的な機関として位置づけられるのみならず、私たちの生活に大きな影響力を及ぼす社会的存在に成長しました。企業とは一体どのような存在なのでしょう？ 私たちはどの程度企業について知っているのでしょうか？ 本演習はこうした基底的問題意識を踏まえつつ、現代における企業の基本的活動について体系的に理解することを目的としています。
講義の内容／授業スケジュール	利潤の追求を基本的原理としながら、製品・サービスの生産・流通・販売という経済活動を担う企業の行動を主たる対象として、私たちの生活に密接不可分な存在になってきている企業を、再度「企業とは何か」という視点から見つめ直します。一年を通じて、企業の意義、役割およびその特質について企業理論研究を中心として進めます。 第1回 前期オリエンテーション 第2回～第10回 研究課題に関する資料輪読とレジュメに基づいた各自からの研究報告 第11回 小括：資料輪読による知見のまとめ（1） 第12回～第14回 夏合宿で扱う研究課題に関する資料輪読と討論 第15回 小括：夏合宿で扱う資料輪読と討論による知見のまとめ（2） 第16回 後期オリエンテーション 第17回～第26回 研究課題に関する資料輪読とレジュメに基づいた各自からの研究報告 第27回 小括：他大学ゼミとの研究交流会に向けた研究報告練習会 第28回 他大学ゼミとの研究交流会 第29回 次年度サブゼミ資料作成会 第30回 まとめ
履修上の留意点	専門演習とは、一つの学問領域に絞りながら、この領域における課題事項を集中的に考察、検討するものです。したがって、参加する学生は、自らの課題を自らが設定し、その課題に自らがチャレンジするという気概を持って演習に参加してください。
成績評価の方法	ゼミへの出席は最低要件です。各自の発表を主たる評価の対象としながら総合的に評価します。
教科書／テキスト	教科書は適宜指示します。その他に日本経済新聞を教材としても利用します。
参考書	経営学辞典あるいは経営学用語集 ⇒これではなければならないという指定はありませんが、用語がわからないと聴講しても理解不足に陥りますので、自分で使い易いものを選んで使用して下さい。 その他の指定図書については、適時指示します。
その他	卒業研究有り

履修コード	101451
科目名	演習I
担当者名	松本 典子

講義の到達目標(ねらい)	非営利組織をベースに、企業と非営利組織を比較することによって両者の特徴を学び、社会的企業のような営利／非営利を超えたハイブリッドな組織も対象として、経営学的・経済学的な研究を行います。また、実際に非営利組織や社会的企業に訪問ヒアリング調査を実施したり、ゼミ内でプレゼンを行ったり、サブゼミや懇親会等を通じてゼミ生同士の交流を深めることで、卒業研究や就職にむけた様々な能力を培います。
講義の内容／授業スケジュール	講義では、非営利組織や社会的企業に関する文献を読み、基礎知識を身につけます。また、第一線で活躍している人に話を聞いたり現場を見学することで、文献では学べないことを積極的に学びます。同時に、非営利組織の学習を通して、パワーポイントによるプレゼンテーション能力、訪問ヒアリング調査やゼミ生同士の交流によるコミュニケーション能力を獲得することを目指します。 1年間の詳細なスケジュールは、話し合いによって決定します。
準備学習	教科書を読み進めましょう。新聞を読みましょう。
履修上の留意点	①積極的な姿勢で授業にのぞんでください。無断欠席・無断遅刻厳禁！ ②物事を積極的に調べてください。 ③NPO・企業・行政訪問、プレゼン大会、合宿等を積極的に企画し、参加しましょう。
成績評価の方法	出席およびゼミの活動にもとづいて総合的に評価します。
教科書／テキスト	田尾雅夫・吉田忠彦『非営利組織論』有斐閣、2009年、を予定しています。
参考書	参考文献や報告書、新聞・雑誌記事、関連HPなどを随時紹介します。 非営利組織の用語に関する基本文献として以下を薦めます。 ・雨森孝悦『テキストブックNPO』東洋経済新報社、2007年。 ・パブリックリソースセンター編『NPO実践マネジメント入門』東信堂、2009年。 ・山岡義典編著『NPO基礎講座・新版』ぎょうせい、2005年。
その他	4年次（演習III）に卒業研究を併設します。 非営利組織論a・bを履修することがのがぞましいです。

履修コード	101301
科目名	演習I
担当者名	溝手 芳計

講義の到達目標(ねらい)	食品の安全、南北問題、環境問題、過疎地域問題といったさまざまな問題が、近年、注目を集めています。これらは、農業のあり方、特に多国籍アグリビジネス（農業・食料関連産業）の影響力の増大、WTO体制への移行などと大きく関わっています。ゼミでは、上に掲げたような諸問題の理解と対策の手がかりを求めて、一緒に考えていきたいと思えます。
講義の内容／授業スケジュール	テキストの輪読とディスカッションを中心に進めます。レジュメの作成、発表のやり方、議論の進め方など、集団学習のスキル取得も重視します。ふだんは2年次生だけで学習しますが、このほか上級生と合同の合宿で学習と交流を進めます。
履修上の留意点	ゼミは集団学習、相互修練の場です。世の中、答えが一つとは決っていません。異なる意見を出し合って一緒に考えていくうちに理解が深まり、当初は考えられなかった結論に達することもあります。学生の皆さんが相互に疑問を出し合い、教えあい、意見交換していくことを大切にしてください。 ひとりひとりを大切にすることは当然ですが、同時に集団としての規律を守ることも求めます。
成績評価の方法	レポートと発表の内容・態度、議論への参加状況などを総合的に評価します。
教科書／テキスト	1冊目：別途指示します。 2冊目以降は、ゼミ生と相談の上、決定しますが、2年次は食料問題を中心にします。
参考書	食料、農業、農村、環境、そして経済が今直面している具体的な課題に取り組んでいる本や新聞・雑誌記事を読むことを勧めます。必要に応じて紹介します。
その他	演習IIIで「卒業研究」を併設します。

履修コード	103001
科目名	演習I
担当者名	光岡 博美

講義の到達目標(ねらい)	日本の福祉・社会保障、またそれを支える日本経済や労働問題について入門的な学習を行う。
講義の内容／授業スケジュール	テキストにしたがって各自の分担を決め、レポーターの報告に従って討議を行う。また、夏と春は2泊3日の合宿を行う予定。但し、合宿への参加は強制しない。
履修上の留意点	自分からテキストに関連する、また興味あるテーマを決めて勉強して欲しいが、毎回の論読の箇所は事前に精読しておくこと。
成績評価の方法	出席状況やレポートの内容などで総合的に判断する。
教科書／テキスト	参加者の意見や希望も考慮して決める。テキストは岩波新書程度のものを使用する。
参考書	テキストに従って、または必要に応じて紹介する。

履修コード	101461
科目名	演習I
担当者名	村松 幹二

講義の到達目標(ねらい)	現代の経済社会、特に経済活動と法・制度の関係を学ぶことで経済社会の仕組みについての理解を深めることを目的とする。そのために2年次には、ビジネス・エコノミクスの基礎を学び、それらを用いて、企業組織における経済活動と法・制度が日常生活や企業の経済活動に与える影響を考察する。 経済学を用いて経済社会の仕組みを分析する方法を身につけ、論理的に議論できるようになることを重視する。参加者は日常生活における経済活動や政策に関する議論に関心を持ち、その意味を経済学の視点から分析し、意見を形成できるよう心がけてほしい。
講義の内容／授業スケジュール	前期には、ビジネス・エコノミクスのテキストを輪読し、現代の日本経済や日本企業の諸問題について経済学の視点から議論する。夏休みに合宿討論会を行い、そこでの議論を踏まえて、後期には企業組織論や「法と経済学」のテキストの輪読とワーキング・グループによる研究発表を行う。 3年次前期には、企業組織論や「法と経済学」のテキストを輪読し、各自の研究テーマを決定する。3年次後期には、各自の研究発表をもとに討論を行う。4年次は卒論指導を行う。
履修上の留意点	ゼミへの出席、発表・報告を担当することを前提とし、毎回の討論に積極的に参加すること。ゼミの自主的な運営に積極的に参加すること。
成績評価の方法	ゼミへの出席、報告内容、討論への積極的な参加などにより総合的な評価を行う。
教科書／テキスト	開講時にゼミ生と相談の上、決定する。
その他	演習III履修時には、「卒業研究」（卒業論文）を併設する。

履修コード	101401
科目名	演習I
担当者名	森田 佳宏

講義の到達目標(ねらい)	会計とは、企業の経営活動の状況を数字によって表現しようとするもので、その具体的な技術が簿記であり、その背後にある理論が会計学といわれるものである。会計学の領域は大きく財務会計と管理会計とに分けられる。財務会計とは、投資者、債権者、税務当局、消費者など、企業外部の利害関係者に対し、会計情報という形で企業の実態を明らかにする外部報告会計である。さらに、このような外部報告会計に信頼性を付与するため、資本金5億円以上または負債総額200億円以上の会社、および有価証券の募集・売出しをしようとする会社または有価証券を上場している会社などに対して、公認会計士または監査法人による会計監査が義務づけられている。 本演習では、財務会計および監査の基礎理論を学ぶことを目的とする。
講義の内容／授業スケジュール	テキストをベースとして、財務会計および監査の領域に属する基礎的な諸問題を取り上げ、解説および学生諸君による報告・討論を行う。必要に応じて簿記の学習を取り入れることもある。演習Iの終了時にはレポートの提出を課すので必ず提出すること。
履修上の留意点	演習であるから、すでにどれだけの知識を持っているかということよりも、みんなと一緒に会計を勉強したいという気持ちを重視したい。したがって、特別な事情がない限り、毎回必ず出席すること。
成績評価の方法	出席を重視するが、そのほかに報告内容（レジュメを含む）、レポートなどを考慮に入れて総合的に評価する。
教科書／テキスト	新井清光著、川村義則補訂『現代会計学（第11版）』中央経済社、2,730円（なお、改訂版が出る可能性があるため、初回の演習時まで購入しないこと。）
参考書	演習時に適宜紹介する。
その他	演習IIIに「卒業研究」を併設する。

履修コード	102301
科目名	演習I
担当者名	谷敷 正光

講義の到達目標(ねらい) テーマ「日本の工業化と経済産業発展史」
日本の経済、産業、企業の驚異的な成長はいかにして可能だったかを考察します。2年生の演習は、途上国日本の経済や産業の形成・発展過程と戦前における経済システムの形成を中心に学びます。3年生の演習では、戦後の疲弊した経済や産業から「経済大国」への道を学びます。

講義の内容／授業スケジュール 第1回～第4回→演習オリエンテーション（プレゼンテーションの仕方、参考文献・資料の検索方法、レジュメの作成方法など）。
第5回～第10回→近代産業の形成期に外貨を獲得するのに最も貢献した製糸業（繭を原料に絹糸をつくる工業）の理解の手がかりとして和田英『富岡日記』、島岡幸一『野麦峠に立つ経済学』、山本茂実『あゝ野麦峠—ある製糸工女哀史』などの「経済小説」。
第11回～第15回→綿織物の工程を手織りから機械織機に変え、織物業を飛躍的に発展させた「豊田佐吉」の国産「力織機」の発明、豊田織機製作所から分離し、国産初の乗用車「トヨベツクラウン」を製作した「豊田喜一郎」の理解の手がかりとして邦光史郎『トヨタ王国』などの「経済小説」。
第16回～第20回→両替商から証券業・銀行業の基礎を築いた「野村徳七」の理解の手がかりとして邦光史郎『野村證券王国』などの「経済小説」を、読み進めます。また、第20回まで参考資料として「あゝ野麦峠」「若き日の豊田佐吉」「生きている昭和史」などの映画、「乗用車ゼロからの出発」「ビジュアル近代産業の形成」「日本の企業家群像」などのDVDやVTRを副教材として使用します。第20回まではこれらの教材を使用してプレゼンテーションの練習を行います。
第21回～第30回→これまでに学んだ日本の製糸業、紡績業、織物業や日本の自動車産業について論じた「学術論文」（学会雑誌）や基礎的文献を教材に途上国日本の経済発展の準備期、形成期、確立期を中心に、経済や産業の発展過程や経済システムの形成についてプレゼンテーションを行い追求します。 豊田喜一郎」な

準備学習 日頃からテレビや新聞・雑誌などを通じて、過去の日本の経済や今日の日本経済の現状について注意すること。

履修上の留意点 4年ゼミまで継続して研究できる人を望んでいます。

成績評価の方法 授業中の態度、プレゼンテーションへの取り組み、提出レポートを基本に評価します。

教科書／テキスト 教材は演習の時間に適宜紹介します。学術論文や参考資料はプリントして配布します。

参考書 島岡幸一『野麦峠に立つ経済学』春風社。玉川寛治『製糸工女と富国強兵の時代・生糸がささえた日本資本主義』新日本出版。その他演習の時間に適宜紹介します。

その他 2年ゼミ(演習I)は、できれば「教育経済論」の講義(4単位)も履修して下さい。
3年ゼミ(演習II)では、「インターンシップb」(2単位)を併設しており、演習IIと併せて履修することができます。「インターンシップa」(2単位)の履修が必要です。「a」と「b」で合計4単位を修得できます。
4年ゼミ(演習III)では、「卒業研究」(4単位)を併設しており、併せて履修することができます。演習IIIと「卒業研究」の合計8単位を修得できます。

履修コード	103201
科目名	演習I
担当者名	矢野 浩一

講義の到達目標(ねらい) 演習のテーマは「ビジネス・経済・社会についての実証的アプローチ」である。ビジネス・経済・社会などの様々な問題について自分の力で考え行動できるように実証分析のやり方を学ぶ。それには統計学や経済学・データ分析などの知識が必要である。さらに自分の意見をしっかりと人に伝える文章表現やプレゼンテーション能力、自分の意見を裏付ける統計手法を身につけることを目指す。

講義の内容／授業スケジュール 前期
・統計学・経済学・マーケティング等の本を使つてのレジュメ作成・発表演習
・Word、Excel、Powerpointの基本操作に関する講義等
・統計学・経済学・マーケティング等の基本書を使ってそれまでのゼミの内容を生かした発表
・ディベート大会
後期
・ネットを利用した情報収集の講習と統計の基礎知識
・統計学・経済学・マーケティング等の本を輪読
・ゼミ成果報告会等
(ただし、学生ごとに理解度にばらつきがあると思われるために、演習内容はそれに応じて柔軟に対応する)

準備学習 教科書・参考書・資料等を予習しておくこと。

履修上の留意点 「統計原論」「ミクロ経済学」「マクロ経済学」「応用マクロ経済学」等の関連科目をあわせて履修することが望ましい。また、連絡のために駒澤大学総合情報センターのアカウントを取得しておくこと。

成績評価の方法 出席を中心に、発表内容・発言・ゼミへの貢献から判断する。

教科書／テキスト 教科書は開講時に協議する。

参考書 教科書だけにこだわらず、統計学・経済学・マーケティング等関連分野の書籍・雑誌・論文等から適宜選択する。

その他 演習III履修時には卒業研究(卒業論文)を併設する。

履修コード	102901
科目名	演習I
担当者名	山縣 弘志

講義の到達目標(ねらい)	比較経済論研究の入門
講義の内容/ 授業スケジュール	専門的学習、研究に向けての入門的トレーニングを行う。国際的な視野から物事を見、卒業年次に各自のテーマで論文作成することを目標とする。2年次においては、 1 社会科学の文献に慣れる。 2 論理的思考を育てる。 3 プレゼンテーションを経験する。 4 問題意識を明確に持つ。 5 世界経済の全体像をイメージできるようにする。 6 国際的な比較の観点を常に持つ。 を主な柱として授業を組み立てる。前期は教科書、参考書を読み、後期は各自の発表に移行する。
成績評価の方法	出席、発表、討論への参加を総合評価する。
教科書/テキスト	西川潤「世界経済入門」、石弘之「地球環境報告」 ー 岩波新書
その他	「卒業研究」あり。

履修コード	105001
科目名	演習I
担当者名	吉田 真広

講義の到達目標(ねらい)	日本経済との関連から金融、国際金融、国際経済の基礎と現実、とりわけ今日の国際金融不安について理解していくことを演習テーマとします。そのためには、国際金融現象の基礎にある基本的原理や制度を学ぶと共に、日本経済に与える今日の国際金融の実体について理解を深めていきます。
講義の内容/ 授業スケジュール	国内及び国際的信用制度、日本と海外の証券市場、円ドル相場などに関する基礎的な理解を深めていきます。同時に、日本経済を巡る金融及び国際金融環境の変化、ヨーロッパ共通通貨ユーロ、人民元や円の国際化、銀行業及び金融業の国内及び対外的展開、日本とアジアの金融システム、通貨危機、金融危機などを含む様々な金融・国際金融現象を学んでいきます。最近の国際的金融不安についても、アメリカの金融システム、国際通貨論の視点から、その原因と構造を検討していきます。 前期はテキストを利用しつつ、毎回報告者によるレポートと討論を行います。後期はゼミ論文の報告を前提に各人がテーマをもって報告を行っていく予定です。
準備学習	演習では基本的なことから勉強していきますので、特段、事前の国際経済や金融に関する専門的知識は必要ありません。
成績評価の方法	授業での報告内容と発言の積極性・内容、提出物など、総合的に判断します。
教科書/テキスト	現在、山田博文『これならわかるグローバル時代の日本経済入門 金融経済 第2版』大月書店、2005年12月、を予定していますが、良いテキストが出版されたならば、変更もあり得ます。また、第1回目のゼミで、ゼミ生の希望を聞いてから、テキストを変更することもあります。
参考書	必要に応じて、その都度示していきます。
その他	ゼミ合宿を予定しています。また、東京証券取引所や日本銀行の見学・セミナーを予定しています。

履修コード	105201
科目名	演習I
担当者名	渡邊 恵一

講義の到達目標(ねらい)	本演習では、近現代日本の経済史・経営史に関する研究を行う。演習Iでは、その入門編として比較的初学者にも取り組みやすい通史や概説書を読み、基本的な事実関係や先行研究について理解することから始める。文献輪読と並行して、ゼミの共同研究にも着手する。テーマは受講生の話し合いで決め、学生主体で調査、発表、論文化する力を養っていきたい。
講義の内容/ 授業スケジュール	(1)前期ガイダンス、(2)～(14)文献輪読およびゼミ研究の基礎的作業、(15)ゼミ研究中間報告、(16)後期ガイダンス、(17)～(29)文献輪読およびゼミ研究の応用的作業、(30)ゼミ研究最終報告 *詳細については、前期および後期のガイダンス時に知らせる。
準備学習	前期・後期とも、所定のスケジュールにしたがって各自で進めておくこと。
履修上の留意点	授業時間だけでなく、合宿、コンパ、他大学とのインターゼミなどを含めたゼミ活動全般への積極的な参加が求められる。アルバイトやサークル活動との調整がつけられない人は受講を遠慮されたい。ゼミ活動の詳細については、1年次の秋に説明会を開催するので、受講希望者は必ず出席すること。
成績評価の方法	演習へ取り組む姿勢を総合的に評価した平常点。
教科書/テキスト	開講時に受講生と相談のうえ指定する。
参考書	授業の中で、その都度紹介する。
その他	演習IIでは、「インターンシップb」を併設する。 演習IIIでは、「卒業研究」を併設する。

履修コード	103901
科目名	演習Ⅰ
担当者名	渡辺 雅男

講義の到達目標(ねらい) 紙面を賑わせるさまざまな社会・経済問題は、わたしたちの生活に多大な影響を与えるものでありながら、難解な言葉で語られることが多いので、実際には、それがどのように生活と関わっているのかが見えにくいものでもあります。そこで、演習Ⅰでは、生活実感を通して社会・経済の問題を考えていくことを体験してもらおうと同時に、「真理の探究」のために必要不可欠な「問題意識」を持てるような課題に取り組む作業を行いたいと考えています。皆で一緒に考えていくこと、意見を交わしていくことで、複雑な問題でも理解しやすくなるという実感は、ゼミならではの最も大切な体験になることでしょう。具体的には、「グローバル経済下の日本の社会生活」という大きなテーマの下、報告ならびに討論を行うつもりです。

講義の内容／授業スケジュール ①通常のゼミ活動
ゼミの活動に必要なさまざまなスキルを身につける作業を行います。タイムリーな問題を扱った新書やブックレットといった安価で簡潔にまとめられた題材を利用して、レジュメの作り方から報告・討論の手法を身につけます。

②合宿について
これまでは春と夏に合宿を行ってきました。春合宿は2泊程度で、長時間にわたる集中的なゼミ勉強を通じて、レジュメ作成能力、討論能力を徹底して習得し、夏合宿は、5泊～6泊にわたる農村での合宿でした。合宿の詳細は、みなさんと相談して決めたいと思います。

③インナー大会、ゼミ討論会等への参加
学内・学外のゼミ討論会には積極的に参加します。特に11月に行われる学外ゼミとの討論会に合わせて論文作成、討論スキルの向上などに力をいれていくこととなります。そのほかに、ふれあい広場への参加などを通して、プランニング能力および実行力の向上をめざします。

準備学習 経済学の基礎理論を1年の時にしっかり学んでおいてください。とはいえ、ゼミでも基礎理論を復習しながら、現実問題を読み解く基礎を作っていくので「基礎知識が充分ではないからゼミについていけないのではないか？」などとは考えなくて大丈夫です。

とにかく、やる気と継続性、ゼミを最優先する覚悟があればゼミに入る資格としては十分です。また、ゼミ登録後、春合宿に備えて、春休み中にレジュメの書き方指導が入ります。

履修上の留意点 遅刻・欠席は厳禁です。

ゼミは、意見交換の場であり、一人ひとりの自主的なかわりと同時に、お互いに助け合い、課題の解決に達するための努力が不可欠となります。

また、ゼミ活動に関する作業をはじめとする集団的な行動への参加も必須です。時には、土日もゼミ活動に割かれます。アルバイトよりゼミが優先となります。

ただ、その場に座っているだけでは、ゼミへの参加とはみなしえません。必ず毎回発言することが求められます。

また本ゼミでは、受動喫煙から徹底して非喫煙者の健康を守ります。したがって、ゼミ開始10分前以降の喫煙、ゼミ合宿中の喫煙は禁止いたします。

成績評価の方法 報告・討論への参加を含め、平常点で評価します。

教科書／テキスト 最初の時間に何冊かを提示し、相談の上で決定します。さしあたり、春合宿のテキストとして、内田義彦『読書と社会科学』（岩波新書）をお奨めします。ゼミの長期的な目標としては、経済学の古典を読めるような思考回路を各人が自分の脳中に立ち上げることです。

参考書 随時紹介します。

履修コード	106001
科目名	演習Ⅱ
担当者名	浅野 克巳

講義の到達目標(ねらい) 基礎的な経済学をしっかり勉強した上で現代経済社会の抱えるさまざまな問題に実際に応用し、経済学の理解を確かなものとしよう。

講義の内容／授業スケジュール

1. 現代日本経済システムの特徴
2. 日本の企業と産業組織
3. 日本の企業システム
4. 日本企業とコーポレートガバナンス

履修上の留意点 演習は講義と違い学生諸君の参加によってはじめて成り立つ。授業には必ず出席することはもとより、授業はディスカッション形式で行うので、必ず予習をしておくことが大事。また、エクセルを使った経済分析やシミュレーションにも挑戦。

成績評価の方法 出席率、授業態度、レポートの内容等を総合して評価する。

教科書／テキスト 内閣府『経済財政白書』その他

参考書 その他の資料については授業の中で指示する。

履修コード	106101
科目名	演習Ⅱ
担当者名	阿部 弘

講義の到達目標(ねらい) テーマ：日本経済論-2

講義の内容／授業スケジュール 日本経済の構造分析
年間2回の合宿と11月末から12月初めにゼミ論発表会を予定しています。「卒業研究」（4年次）を併設します。ゼミナールの成果を「ゼミ論集」に掲載します。

履修上の留意点 「演習」ですから出席することは基本です。4年次に「卒業研究」を履修することが前提になります。合宿およびゼミ論発表会の欠席は不可です。

成績評価の方法 総合的に評価します。「定期試験」はありません。

履修コード	107801
科目名	演習II
担当者名	荒木 勝啓

講義の到達目標(ねらい)	経済変動や数理ファイナンスなどのモデルをコンピュータ上でシミュレートするというテーマに向けて様々なコンピュータ技法をマスターしていく。
講義の内容／ 授業スケジュール	演習IIからはエクセル上でVBAプログラミングを行う。同時にExtendによりC言語の基礎を習得する。
成績評価の方法	平常点100。
教科書／テキスト	指定なし。ただし必要な場合指示する。

履修コード	106401
科目名	演習II
担当者名	有井 行夫

講義の到達目標(ねらい)	現代社会は、企業中心社会です。受験競争や消費競争、夫or妻の争奪競争からマイホーム獲得競争にいたるまで、競争社会の中心に実は企業への就職競争が位置しています。企業の内部もサラリーマンの出世競争・生き残り競争です。そして、最後に生き残って経営者に成り上がったサラリーマンにしても、企業自身の業績責任に不断に脅迫されて過労死寸前です。企業自身が、好況のときも不況のときも生き残り競争のただ中にあるのです。企業は、利潤のための利潤、生産のための生産をどこまでも続けていかなければなりません。日本型企業社会に構造変革を迫っている今日のグローバリゼーションも、この傾向をさらに強めるものにほかなりません。サラリーマンからも、経営者からも、株主からも独立して、自己拡大の衝動に駆りたてられて走り続ける企業。国民の豊かさに無縁の「利潤のための利潤」。地球環境や資源の制約にも無関心の「生産のための生産」。これが現代社会の最大の謎であり、21世紀前半に解決しなければならない現代社会の最大の課題のありかです。
講義の内容／ 授業スケジュール	前期 有井のプリント、新聞の読み方、川人博『過労死社会と日本』 夏合宿 競争主義対平等主義 後期 有井のプリント、新聞の読み方（ファイルの作成）、奥村宏『法人資本主義』
履修上の留意点	最大のテキストは現代社会そのものです。新聞を読みこなす力を養います。併せて日本語を読む力、書く力、話す力を鍛えます。
成績評価の方法	ゼミへの積極的参加50%、各種レポートの評価50%。
教科書／テキスト	川人博『過労死社会と日本』（岩波新書）、野村正実『雇用不安』（岩波新書）

履修コード	108301
科目名	演習II
担当者名	飯田 泰之

講義の到達目標(ねらい)	演習のテーマは「日本経済への実証的アプローチ」である。近年、経済問題にとどまらずビジネス・社会・政治分野においても経済学的な思考は必須の教養になっている。そして、自身の意見を発表し、説得する（つまりは「自分がわかっている」ことを人に伝え、他の人を「納得させる」）際には十分な実証的根拠を示し、聞き手を考慮した発表を行うことが必要とされる。本演習は「経済理論の理解」「統計を用いた証拠づけ」「プレゼンテーション能力」の3つを柱に、「使える経済学」を身につけることを目標とした。
講義の内容／ 授業スケジュール	演習Iでの学習内容をふまえ、学生の興味に応じてより発展的な内容に取り組んでいく。
履修上の留意点	「ミクロ経済学」「マクロ経済学」「経済政策」「統計原論」「企業経済学a、b」等関連科目をあわせて履修することが望ましい。また、連絡のため駒澤大学総合情報センターのアカウントを取得しておくこと。
成績評価の方法	出席を中心に、発表内容・発言・ゼミへの貢献から判断する。
教科書／テキスト	教科書は開講時に協議する。
参考書	テキストのみにこだわらずゼミ生の興味に沿った論文を取り上げていく。
その他	経済学やパソコンの利用など基本知識のレベルには受講生ごとにばらつきがあると思うが、皆の希望を聞いた上で補充したいと思う。

履修コード	109211
科目名	演習II
担当者名	石川 純治

講義の到達目標(ねらい)	企業会計の制度と理論を学習します。「制度」の基礎にある土台としての「理論」、この両者の関係において学習することが基礎にある視点です。 また、社会経済における「生きた会計」を学習するために、「時事会計」を重視します。会計の基礎にある社会経済問題への関心が大切で、それとの関連で会計を学習します。会計をとおして世の中の問題に発言できる洞察力が得られればと思っています。
講義の内容／ 授業スケジュール	財務会計の基本テキストを学習し、その後、中級・上級のテキストへとレベルアップします。中級・上級では米国会計基準・国際会計基準も取り上げます。さらに、それらをより高い次元から見通す力を養うため、新聞・雑誌・小論文を素材にした学習も行います。
履修上の留意点	会計学だけでなく、会計を通して世の中の社会経済問題を学習するというより広い視点にたてる学生を歓迎します。
成績評価の方法	出席・合宿・レポートなどゼミ活動の総合評価。
教科書／テキスト	財務会計の標準的テキスト（その都度指示します）。
参考書	その都度、指示します。
その他	私のプロフィールについては、駒澤大学のHPのトップページ「教員の紹介」から見る事ができますので参考にしてください。
関連リンク	http://www.komazawa-u.ac.jp/~ishikawa/profile.htm

履修コード	105901
科目名	演習II
担当者名	石川 祐二

講義の到達目標(ねらい)	企業においては、会計情報が様々な目的をもって利用されている。その情報を生み出すための仕組みは、どのような構造をもっているのだろうか。その構造を探り、それが社会の多様な関係の中で果たす役割を研究する。そのことによって、社会現象を分析する視点の獲得を目指す。 また、様々な書籍・データを用いてレジュメを作成し、発表するスキルを養うことも目標である。
講義の内容／授業スケジュール	演習IIでは、特に管理会計に関わる種々の技法を取り上げることとする。とりわけ、近年の管理会計研究上の議論の中心となっている技法に焦点を当てて、その意味を考えたい。さらに、その学習をつうじて、ゼミ生が各自のテーマを見つけだし、深く掘り下げていくための基礎固めをしたい。それにより、卒業研究に向けた足がかりを築くことを目指すものである。
履修上の留意点	積極的に参加すること。また、ゼミ生が相互に協力しあい、楽しいゼミ運営を行ってほしい。また、4年次には「卒業研究」を開設する予定である。
成績評価の方法	特に出席を重視するが、報告内容等も含め、総合的に評価する。
教科書／テキスト	特になし。
参考書	必要に応じて紹介する。
その他	合宿その他のイベント等については、話し合いで決定する。

履修コード	105801
科目名	演習II
担当者名	岩波 文孝

講義の到達目標(ねらい)	21世紀を迎えて以降も経営破綻や機関投資家・投資ファンドの不祥事など企業経営をめぐる問題が続出しています。本演習では、トップ・マネジメントの構造と機能の理解を中核として、コーポレート・ガバナンスとコーポレート・パワーとの関連の検討を通じて、現代の企業経営の課題を多面的に考察していきます。現代の企業経営に関する問題意識を深めていき、企業と社会との関わり、CSRを踏まえた企業経営システムの構築に向けた課題を追究していきます。
講義の内容／授業スケジュール	現代企業におけるコーポレート・パワーに関する文献の輪読形式により報告者・グループによる報告を中心に討論を行います。夏期・春期合宿では、現代の企業経営が抱える諸問題について、討議していきます。 1. ゼミナールの概要とガイダンス (1) 2. 企業と社会をめぐる論点 (2~7) 3. 企業と市場 (8~12) 4. 企業と社会 (13~17) 5. 企業の社会的責任 (CSR) の現状 (18~23) 6. 企業の社会的責任 (CSR) の課題 (24~30)
履修上の留意点	ゼミナールは受講生の主体的な学びの姿勢に基づいて運営されます。ここでは専門の学習とともに、自らの課題を発見し、問題意識を深めていくという積極的な学習が求められます。受講の際には企業経営をめぐる諸問題について問題意識を持ちゼミナールに参加してほしい。
成績評価の方法	ゼミへの出席、発表内容、討議への積極的な参加などの平常点による総合評価を行います。
教科書／テキスト	開講時に指定します。
参考書	開講時に指定します。
その他	演習III履修時には「卒業研究」(4単位)を併設します。

履修コード	106201
科目名	演習II
担当者名	大石 雄爾

講義の到達目標(ねらい)	現在、日本の経済構造は大きく変化しつつあります。この変化は、1970年代の国際通貨制度の崩壊、石油危機などとともに始まり、バブル経済とその崩壊および近年の金融恐慌を経て今日に至っています。演習Iでは、主として現代資本主義の諸問題について学びました。とくに、バブル経済がなぜ起こり崩壊したか、その原因を考えながら今日の日本経済の特質について学習してきました。 今年度の演習IIでは、こうした資本主義の現実的発展に関する理解を踏まえ、その体系的な理解を深める上で必要な経済学の基礎理論について学習していきます。 また、グローバル化の過程で生じている国際的な経済問題を見る目を養えるような、そんな学習にも取り組みます。
講義の内容／授業スケジュール	この演習IIでは、マルクスが『資本論』で明らかにした資本主義の経済法則を学び、前年に学んだ日本経済・地球環境問題への理解を深めつつ、現代資本主義の本質に迫ります。テキストには松石勝彦著『現代の経済学入門』を用います。主な内容は以下のとおりです。 1 商品と貨幣 2 資本主義的商品生産 3 現代の労働賃金 4 資本蓄積と失業・貧困 5 世界経済問題
履修上の留意点	少人数形式の演習では、欠席をしないこと、遅刻をしないことが各人に求められます。参加者には、その点を自覚した上で、積極的にゼミの活動に取り組むことを期待します。
成績評価の方法	平常点により評価します。
教科書／テキスト	松石勝彦著『現代の経済学入門』(同成社)2,700円+税
参考書	大石雄爾著『商品の価値と価格』(創風社)3,600円+税 西川潤著『世界経済入門(第3版)』(岩波新書)780円+税
その他	①4年次の演習IIIに「卒業研究」を併設します。 ②選択科目「ビジネス・インターンシップ」を履修することができます。 ③コース制との関連：コースの履修は自由です。

履修コード	107701
科目名	演習II
担当者名	太田 志乃

講義の到達目標(ねらい)	この演習は日本経済の構造転換問題をグローバル化との関わりで共同研究し、併せて企業システムの変容の実態を理解することを目的としています。また共同研究を通じて、4年次の卒業研究にチャレンジするテーマをつかむことも3年次の重要な課題となります。
講義の内容／授業スケジュール	講義とは異なり、演習は学生諸君の自主性・主体性が不可欠です。そこで演習生をグループ化し、班単位でレジュメを作成し、報告・議論を進めていきます。また共同研究を通して、演習生各自が自分自身の世界観・社会観（もの見方・考え方）を確立することを目標として、また各自が個性的なプレゼンテーション能力とリーダーシップを高めることを目指して、演習を運営していきます。
履修上の留意点	受身でゼミに参加するのではなく、積極的に発言し、楽しく有意義なゼミを共に創り上げるという姿勢でチャレンジしてください。
成績評価の方法	成績評価は、出席状況、平常点（レジュメ、報告内容、討論への参加度など）およびレポートなどを中心にして総合的に評価します。
教科書／テキスト	共同研究のテキストは、最初のゼミの時間に指定します。
参考書	適宜、指示します。

履修コード	106501
科目名	演習II
担当者名	大吹 勝男

講義の到達目標(ねらい)	現代の格差社会と貧困及び、社会保障について学習します。
講義の内容／授業スケジュール	社会保障及び社会福祉等々に関する論争は、我々人間が生きてゆく上での重い課題を背負っている。故にテキストに拠る学習だけではなく、上記に関連する毎日のニュースを知らなければならない。本ゼミでは毎回、新聞・雑誌記事によってそれを補う。また、三年生は就活の情報収集の為に利用する。
成績評価の方法	平常点によりますが、昨年同様に読書感想文の提出を求めます。あとは諸君の勉強次第です。
その他	〈卒業研究の有無〉 義務ではありませんが、4年次には併せて開講します。

履修コード	109001
科目名	演習II
担当者名	小栗 崇資

講義の到達目標(ねらい)	日本の企業会計制度は、現在、大きな転換期にさしかかっており、会計ビッグバンを経て国際会計基準への統合へと突き進んでいます。計算構造の面でもディスクロージャーの面でもこれまでの財務会計の枠組みや原理・方法は大きく変容しつつあるといえます。会計の学習者にとっては、従来のような勉強だけでは変化についていくことができないので大変ですが、発想を変えれば、現代社会のなかでの会計の役割や仕組みを研究するチャンスと考えられます。演習では、「グローバル化する日本の企業会計制度」をテーマに学習を進めたいと思います。
講義の内容／授業スケジュール	演習IIでは、演習Iと同じく、企業会計の従来の考え方と新しい考え方を比較しながら、現代の財務会計の理論や方法を学習する予定です。そうした中で、国際会計基準のいくつかを取り上げ、その内容を深く検討してみたいと思います。演習は皆さんに報告をしてもらい、ディスカッションする方式で行います。資格勉強のように暗記するのではなく、「なぜそうなのか」「どうしてこうなるのか」という問題意識をぶつけあって研究することをこの演習ではめざします。後期には自分の研究テーマをもってゼミ生自身で研究を進め、論文を書いてもらうつもりです。
履修上の留意点	ゼミでは皆さんに積極的に発言したり質問したりすることを求めます。毎回、司会者や報告者、質問者などの役割を分担して進める予定ですので、必ず出席してください。ゼミの運営や行事にも意欲的に取り組む学生を希望します。なお「卒業研究」も開講する予定です。
成績評価の方法	総合的に判断します。①出席状況、②報告内容、③レポート、④ゼミ運営への貢献度。
教科書／テキスト	演習の中で指示します。
参考書	演習の中で指示します。

履修コード	106701
科目名	演習II
担当者名	北口 りえ

講義の到達目標(ねらい) 税務会計は、法人税法における課税所得計算に関する学問です。法人の所得に対して課される法人税は、企業にとって避けられないものであり、企業行動を左右する重要な要素のひとつとなっています。本演習は、法人税における課税所得が企業利益をベースとしてどのように算出されるのか、その課税所得の計算構造に関する理解を深めることを目的とします。

講義の内容／授業スケジュール 演習Ⅰ・Ⅱでは、企業会計を基礎として課税所得および税額を計算し、申告・納税するという企業会計と税務の一連の手続きについて、なぜそのような処理を行うのかという理論的部分を重視しながら学んでいきます。演習Ⅱでは、演習Ⅰで得た企業会計についての基礎的知識を前提として、法人税の特質、課税所得の計算構造などについて学び、税務会計への理解を深めていきます。法人税法における課税所得は、公平な課税を実現させるために、企業利益に「別段の定め」による調整を加えて算出されます。したがって、企業利益と課税所得を比較しながら、益金の額・損金の額についての学習を進めます。基本的には、テキストの1つのテーマに対してレジュメを作成し報告してもらい、ディスカッションするという方法で進めていきます。レジュメは単にテキストをまとめるだけでなく、疑問を持った点や深く掘り下げてみたい点などを追求したものを作成するよう心がけてください。また、報告者はプレゼンテーションにおいても棒読みではなく、的確に相手に理解してもらえるよう工夫をしてもらいたいと思います。

履修上の留意点 ゼミ内で意欲的に発言し、ゼミの運営や行事（合宿、ゼミナール連合会での研究発表会、証券取引所見学や裁判所見学など）にも積極的に参加してください。

成績評価の方法 出席率、報告内容、ゼミやゼミの運営への参加度、レポート等の総合評価により行います。理由のない遅刻や無断欠席は大きな減点としますので、注意してください。

教科書／テキスト 柳裕治『税務会計論』（創成社）その他、適宜プリントを配布します。

参考書 井上久彌・平野嘉秋『法人税の計算と理論』伊藤邦雄『ゼミナール現代会計入門』（日本経済新聞出版社）

履修コード	108201
科目名	演習II
担当者名	小杉 修二

講義の到達目標(ねらい) 演習IIと同じですので、そちらを見てください。

講義の内容／授業スケジュール 基本的には演習IIと同じです。演習Iでは温暖化のメカニズム、その害悪について学びますが、演習IIではそれらの知識を踏まえて、その対策についてどんなものがあるか（①地球に日傘 ②炭酸ガスの大気からの除去 ③炭酸ガスの発生削減）について考えます。温暖化対策は所詮は人類の意思決定の問題ですが、地球はひとつでも人類はひとつではありません。それぞれに個別利害を持つ存在である国、集団、個人に分かれています。ここから利害の合理的制御の学としての経済学の知見・方法が役に立つこととなります。3年次以降は温暖化対策の技術的側面と並んでその社会的側面を学習することとなります。授業のやり方としては学生と相談しながら、「デベート」形式で問題を表と裏から考えます。デベートは為にする議論、という印象もありますが、ある問題に徹底的に賛成あるいは反対の立場に立って見た時、それが簡単に崩れるようなら、それは役に立たない議論ということとなります。こうした議論を通じて、確実な根拠ある結論を探しましょう。やってみると意外に楽しいものようです。

なお、3年次も新聞資料の活用を行います。

- 第1-5週：温暖化対策として省エネルギーの可能性
- 第6-10週：代替エネルギーの可能性
- 第11-15週：炭酸ガスの吸収源の可能性
- 第16-20週：巨大技術の可能性
- 第21-25週：身近な方法の可能性
- 第26-30週：炭酸ガス削減の国際的取り決めの方法

履修上の留意点 演習Iと同じ。

成績評価の方法 出席状況とゼミへの参加の積極性、発言を総合して判定。

教科書／テキスト 演習Iの継続+新しいテキストをゼミの進み具合に応じて考える。

参考書 演習Iと同じ。

その他 〈卒業研究〉あり。通常のゼミの4単位とは別に卒業研究の4単位が当てられる。

履修コード	108501
科目名	演習II
担当者名	小西 宏美

講義の到達目標(ねらい) 「多国籍企業、多国籍金融機関とカジノ資本主義」をテーマとしています。「カジノ資本主義」とは何か、多国籍企業・多国籍金融機関の活動がいかに経済を「カジノ化」してきたのか、「カジノ資本主義」は我々の生活をどのように変えてきたのか、について研究します。

講義の内容／授業スケジュール 国際経済、国際金融関係のテキストを使ってレジュメの作成、報告、討論を行います。後期は他大学のゼミと合同ゼミ連を開催します。

履修上の留意点 演習は、皆さんが主体的に参加してはじめて成立する学習の場です。責任感と自覚をもって臨みましょう。

成績評価の方法 出席、報告、討論の3点で評価します。

教科書／テキスト 最初の授業時に指定します。

履修コード	106801
科目名	演習II
担当者名	小林 正人

講義の到達目標(ねらい)	<p>テーマは「景気循環と雇用・貧困」。</p> <p>2008年リーマン・ショックは世界経済を深い不況にまきこみ、世界中に非自発的失業者や低賃金労働者を増やしました。日本経済は、米国流の金融投機へのかかわりは浅かったにもかかわらず、その後の円高によって低迷し、それまでの非正規労働者の増加や財政赤字による内需不振、中国経済の成長などの影響もあり、産業空洞化と雇用劣化に向かいつつあります。それはまた米国や日本の格差や貧困の問題を浮かび上がらせました。</p> <p>そこで、このゼミでは、景気循環の理論や歴史、リーマン・ショックの背景、失業者が大量に生み出される理由、派遣労働やワーキング・プアの実情、「景気対策」の限界などについて考えていくことにします。</p>
講義の内容／授業スケジュール	<p>雇用、失業や、貧困、格差について考えることと平行して、景気循環の理論や歴史について学んでいきます。前期は入門的な文献(複数冊)や新聞記事などについて議論をしながら、同時に文献資料の読み方、議論の進め方、論点の出し方、発表資料(レジュメ)の構成、発表の仕方などを学びます。後期はより専門的な文献(複数冊)を選んで議論しながら、グループに分かれて共同研究やプレゼンテーションに取り組み、自主的な調査や討論の方法について学びます。</p> <p>以上、今年度は演習Iと同じです。</p> <p>また、以上の発表や調査をふまえて、次年度の演習IIIで卒業論文を完成させます。</p>
準備学習	ゼミで議論する文献については全員があらかじめ熟読し、必要な事項を調査し、論点や疑問点、自分の感想や意見をまとめておくこと。
履修上の留意点	ゼミの中心は、ゼミ生が作成する発表資料と、ゼミ生どうしの討論や学び合いです。ゼミ生は、発表資料を作成するために、パソコンのワープロソフトを使えることが必要です。ゼミで議論する文献はゼミ生と相談して決めますが、決まったら各自が購入する必要があります。
成績評価の方法	作成した発表資料、ふだんの調査や発表、出席状況を総合して評価。無断欠席は厳禁。
教科書／テキスト	前期用の入門書、後期用の専門書などをゼミ生と相談して決めます。
参考書	<p>下記の本は入門書の候補です。</p> <ul style="list-style-type: none"> 堤 未果『ルポ貧困大国アメリカII』岩波書店、2010年。 NHKスペシャル『ワーキングプア』取材班編 『ワーキングプアー日本を蝕む病』ポプラ社、2007年。 浜 矩子『グローバル恐慌—金融暴走時代の果てに』岩波書店、2009年。 NHK取材班『マネー資本主義—暴走から崩壊への真相』NHK出版、2009年。
その他	4年次の演習IIIに「卒業研究」(4単位、卒業論文のみ)を併設します。
関連リンク	http://www.komazawa-u.ac.jp/~kobamasa/

履修コード	106601
科目名	演習II
担当者名	清水 卓

講義の到達目標(ねらい)	<p>現代ヨーロッパが直面する諸問題を、より体系的にとらえるため、EU諸国の第二次大戦後の経済発展とEU統合の歴史と現状の二つの課題を柱に、グローバル化という名のアメリカナイゼーションに対抗し、アメリカや日本とは異なる、欧州社会の固有の伝統を基礎に「ヨーロッパ・モデル」を追求しているEUの動向と、我が国の「改革」路線との比較を念頭におきながら検討をします。</p> <p>また3年次後半からは就職活動が日程に上ってきますが、教員やゼミの先輩、ゼミ仲間間で有益な情報交換やアドバイスを得られるように運営します。</p>
講義の内容／授業スケジュール	専門文献を精読と、各自のテーマ設定準備を行います。
履修上の留意点	演習Iを参照のこと。
成績評価の方法	演習Iを参照のこと。
教科書／テキスト	演習Iを参照のこと。
その他	演習Iを参照のこと。

履修コード	105701
科目名	演習II
担当者名	代田 純

講義の到達目標(ねらい)	<p>代田ゼミでは金融について学習し、研究します。日本の金融が中心ですが、海外の金融の動向や日本との比較についても学習します。証券アナリスト、証券外務員の受験指導も実施します。</p>
講義の内容／授業スケジュール	<p>4～7月においては、日本の株式市場について、テキストを使用し、学習する。夏合宿を経て、9～12月には証券外務員資格の学習指導も行う。3回生12月には卒業論文のテーマ設定をしてもらう。</p>
履修上の留意点	金融の基礎知識がない人も歓迎します。ただし毎回出席することが前提です。
成績評価の方法	ゼミでの発表、質問など発言によって日常点で評価します。
教科書／テキスト	<p>代田 純『日本の株式市場と外国人投資家』(東洋経済) 定価2800円+税 ISBN4-492-71155-4</p> <p>代田 純編、『金融危機と証券市場の再生』(同文館) 定価2300円+税 ISBN978-4-495-46411-0</p>
参考書	適宜紹介します。
その他	夏にインターンシップを予定する。希望者はインターン関係の科目を履修すること。また日本経済新聞、朝日新聞その他を使用する。

履修コード	105501
科目名	演習II
担当者名	鈴木 伸枝

講義の到達目標(ねらい)	公共経済学のゼミです。講義よりも専門的なことを学ぶとともに、自ら問題を発見する能力を身につけることを目標とします。年金・医療・介護保険・環境・失業の諸トピックスについて「どういう問題があって、何を為すべきか」を自分なりの意見をもてるようにしましょう。
講義の内容／ 授業スケジュール	三年生のゼミでは、公共経済学のテキストを輪読します。毎回、報告担当者にはレジュメを用意してもらいます。また、後期には1回キャリアコンサルタントを講師として招き、ゼミで学んだことを最大限に就職活動に役立てるためのアドバイスをしてもらいます。
履修上の留意点	ゼミは勉強の場だけでなく、人前で自分の意見を言えるよう訓練したり、同じゼミの仲間と協力して何かを達成することを通じて人間的に成長する場でもあります。引っ込み思案にならず、常に積極的な態度で参加してください。
成績評価の方法	出席状況・予習状況・討論への参加度により評価します。
教科書／テキスト	受講者と相談して決定します。

履修コード	107001
科目名	演習II
担当者名	瀬戸岡 紘

講義の到達目標(ねらい)	「グローバル化」と「デジタル化」の時代に即応して経済、社会、経営、文化などを分析し、自分の意見をもてる人間を養成すること。また、そういう時代を生きぬくうえでもとめられる社会的正義感をもった人間を養成すること。
講義の内容／ 授業スケジュール	アメリカの大学の演習方式を大胆に採用しながらも、独自の方式で演習をすすめています。思考に強くなるための方法（弁証法の学習）、デジタル時代の学習と研究の方法（以外にも古典的文献の読破と一体化した学習方法）、学ぶ者の社会的責任の体得などがそれです。 とくに最近数年間は、金融グローバル化について非常に緻密に学習しています。そのことをとおして、アメリカをはじめ、世界中でおこっている経済事象を読み解く実力がやしなわれるからです。それまでは単語として聞いたことがあった程度だった経済用語をふんだんに駆使しながら日々の出来ことを語れるようなゼミ生が確実にぞだっています。 あわせて、後輩のゼミ生の世話をすること、日本学生経済ゼミナールの東京大会・全国大会への参加、インターネットや遠隔授業をつうじたアメリカの学生との交流、工場見学や企業訪問など多彩な企画を実行しています。
履修上の留意点	4年次生で卒業論文を作成します。
成績評価の方法	ゼミ活動にたいする各自のあらゆる態度を総合して評価します。最大の眼目は、当人のやる気です。
教科書／テキスト	随時、有益な文献を紹介します。 アメリカには、成功例も失敗例も世界一豊富にあります。企業活動から文化運動にいたるまで、アメリカの事例を知っておくことが、ゼミ生がどんなテーマを選んで研究するうえでも役に立ちます。だから、アメリカの事例研究になる文献を多くとりあげます。
その他	ゼミでは、社会の第一線で活躍している人を招いて「出前ゼミ」をときどき実施しています。当ゼミのOB・OGも、しばしば3年生や4年生のゼミに顔をだし、社会や会社の現場の話をしてくれます。 このほか、ゼミにかんする一層くわしい情報は、ゼミに直接きて見学したり問い合わせたりすることのほか、下記のホームページ（ゼミ生制作）にアクセスしてください。 http://setookazemi.xxxxxxx.jp/

履修コード	107901
科目名	演習II
担当者名	曾我 信孝

講義の到達目標(ねらい)	マーケティングの問題点を把握し、それを解決する方法を身に付けさせることをねらいにしている。
講義の内容／ 授業スケジュール	1～5回 問題発見の方法と論文の書き方についての指導 6～15回 ゼミ生各自の研究テーマ発表とそれに対する指導 夏合宿 ゼミ生各自の研究に関する弁別構成の指導 16～25回 論文執筆に対する指導 26～28回 ディベート大会に関する指導 ディベート大会 12月の第2日曜に開催 29～30回 論文集の校正に関する指導
準備学習	個人の研究を中心にした指導をしていくので、自ら資料収集の工夫をしておいて欲しい。また、論文の弁別の検討の際に支持した資料は、必ず収集しておくようにして下さい。
履修上の留意点	・平常の出席はもちろんであるが、論文の執筆と夏合宿及びディベート大会への参加は必ず必要です。
成績評価の方法	平常点（・日常の授業態度20%、・夏合宿への取り組み姿勢20%、・ディベート大会出席30%・論文30%）
教科書／テキスト	指定しない
参考書	必要に応じて紹介する。
関連リンク	http://geocities.yahoo.co.jp/gl/nobusoga

履修コード	105311
科目名	演習II
担当者名	館 健太郎

講義の到達目標(ねらい) 人々のかけひきを分析するための道具である「ゲーム理論」について学習し、これを使ってさまざまな社会現象を自分の言葉で説明できるようになることをめざす。ゲーム理論は、スポーツやカードゲームの必勝法の研究というよりも、私たちの日常生活や社会のなかで起きるさまざまなかけひきをゲームとみなし、それらをいくつかのパターンに整理して結果を予想するための学問で、その応用分野はとて広い。情報通信や交通手段の発達などによってネットワーク化されている今日の経済では、人々のつながりに関する理解を深めることの重要性はますます高まっている。

本演習では主に産業組織論、すなわち企業の投資、生産、販売などを通じた競争戦略や他の企業との戦略的提携など、それぞれの産業における企業間の競争と協力について扱う。また、補助金や規制などを通じて市場への介入を行う政府の産業政策・競争政策についても考える。例えば、家電産業や情報通信産業ではしばしば製品間の互換性が重要になるが、そのときに企業はどんな戦略をとるべきだろうか。政府は何か政策を打ち出すべきだろうか。ゲーム理論という共通の土台の上に立って議論できるようになることを目指す。

講義の内容／授業スケジュール 最初のうちは講義形式の説明と輪読形式の発表の両方を使ってゲーム理論そのものの学習を中心にすすめる。その後、ゲーム理論の学習と並行してグループや個人で実際の産業や行政について調べ、そこからゲームを作って分析するなどより実践的な研究へと展開する。

履修上の留意点 自分自身で社会の中にあるかけひきを表現するためにオリジナル・ゲーム（といってもプログラムではない）を創作し、発表してもらうなど、発想やアイデア、表現力を養うことを重視する。

成績評価の方法 出席回数・発表などの平常点と授業内試験で評価する。

教科書／テキスト 渡辺隆裕『図解雑学 ゲーム理論』、ナツメ社、1470円、ISBN4-8163-3745-8

参考書 とくになし。

その他 卒業研究として仕上げることを目指す。

履修コード	108801
科目名	演習II
担当者名	鄭 章淵

講義の到達目標(ねらい) この授業の目的は、ゼミ生のみなさんに第二次世界大戦後の東アジア経済の発展過程について理解を深めてもらうことである。

ここでいう東アジアとは、東北アジアと東南アジアを合わせた地域を想定している。同地域の著しい経済発展は「東アジアの奇跡」として世界の衆目を集め、日本を先頭に、アジアNIEs（新興工業経済地域：韓国、台湾、香港、シンガポール）、ASEAN3（タイ、マレーシア、インドネシア）、中国、その他と続く発展の様は「雁行型発展」と称されてきた。ところが、1997年のアジア通貨危機を機に東アジア経済は混迷に陥り、雁行型発展に乱れが見られるようになった。今日の事態は、東アジア経済を発展の側面からのみ捉えるのではなく、発展と危機の両面を視野に入れたアプローチが必須であることを示している。日本の経済的パートナーとして東アジア諸国の重要性が増している現状を鑑みると、日本の将来を担う皆さんにとって東アジアを理解することは大切な課題として提起されていると言える。

講義の内容／授業スケジュール 演習Iで身につけた基礎知識を土台に、さらに東アジア経済に関する知識を深めるため、下記（教科書）の文献を輪読してもらう。また、適宜、アジア経済に関する新聞記事について学習する機会も設ける。夏季休暇中にゼミ合宿を実施する。そこでは別の文献を取り上げて講読し、ビデオ鑑賞なども予定している。また、演習（ゼミ）の特別企画として課外活動を行うつもりである。

準備学習 アジア経済に関する新聞記事（WEB含む）を常日頃から読むようにすること。

履修上の留意点 演習は何よりも学生の皆さんが主人公となるべき科目である。授業には休まず出席し、積極的に発言することを心掛けてもらいたい。

成績評価の方法 レポート回数、授業での積極性、合宿への参加状況などを加味して総合的に判定する。

教科書／テキスト 北原淳・西澤信善編著『アジア経済論』現代世界経済叢書4、ミネルヴァ書房、2004年、3,200円＋税、ISBN 4-623-04158-1

参考書 参考書については、授業の中でそのつど紹介する。

その他 4年次に「卒業研究」を併設する。

履修コード	107401
科目名	演習II
担当者名	徳永 俊明

講義の到達目標(ねらい) 発展途上諸国＝アジア・アフリカ・ラテンアメリカ諸国の国際関係とそこでの人びとの生活の問題を研究します。国際政治・経済のなかでの人間と人間との関係、とくに発展途上諸国民が直面している“貧困”と彼らのたにかいについて学びながら、日本・日本人・そして私たち一人ひとりの“豊かさ”と“貧困”を考えます。

講義の内容／授業スケジュール 上の趣旨にそって学生諸君と相談しながらすすめます。

履修上の留意点 何よりも＜考える＞努力を求めます。

成績評価の方法 ＜考える＞努力をしたかどうかをもって評価します。

参考書 考え、討論するための資料を使ってすすめます。

その他 演習IIIに卒業研究を併設します。（希望者のみ。）

履修コード	108701
科目名	演習II
担当者名	友松 憲彦

講義の到達目標(ねらい)	西洋社会経済史の研究を課題にしています。ヨーロッパやアメリカ経済史の基本文献を講読し、経済史の基礎理論や概念について学びます。
講義の内容／ 授業スケジュール	西洋経済史の文献講読をおこなうと同時に、各自が設定したテーマについて研究をすすめ、卒業研究のための基礎づくりをします。
履修上の留意点	「経済史」「西洋経済史」「日本経済史」「商業史」等をあわせて履修することが望ましい。
成績評価の方法	平常点(ゼミに取り組む姿勢、報告、発表、討論)と年度末レポートを総合して評価します。
教科書／テキスト	最初の授業で指示します。
参考書	演習を通じて紹介します。
その他	卒業研究を併設します。合宿や博物館訪問、展覧会見学を予定しています。

履修コード	105601
科目名	演習II
担当者名	中濟 光昭

講義の到達目標(ねらい)	演習Iの内容を前提に、具体的なテーマを設定して研究します。自分でテーマを決め、その研究の意義が説明できること、必要なデータや文献を探せること、論理的なレポートが書けること、説得力のある発表が出来ることが目標です。インターネット上での電子商取引、ネットワークを駆使した流通システム、サプライチェーンマネジメント、電子決済システム、デジタル情報の著作権問題など経営・経済に関するテーマに加え、コンピュータシステムに興味のある学生は、システム設計実習やホームページデザイン実習といった情報系のテーマを扱います。合宿、学外の研究発表、展示会見学、インターンシップ参加など様々な活動を通じて、社会人として必要なことを学びます。この演習の成果は情報産業を始めとする様々な業種への就職に結びつきます。
講義の内容／ 授業スケジュール	毎回各自がレジュメ作成、レポーティング、プレゼンテーションなどの実習を行います。サブゼミでの輪講、各自で研究テーマを決めて研究した経過をゼミで発表するなどにより、研究の仕方を習得します。
履修上の留意点	・演習IIでは、就職のための準備など、様々な活動が要求されます。もちろん、合宿、課外イベント、サブゼミは原則として出席していただきます。 ・メールの読み書きやワープロを打つといったことがゼミ活動上必須です。インターネットに接続できるノートパソコンが必要です。
成績評価の方法	課題提出(50%)、夏季合宿(10%;後期履修の前提)、学年末に行う発表(10%)とレポート提出(10%)、ゼミ運営上の雑務(10%)、イベントへの参加や資格取得(10%)を総合評価します。
教科書／テキスト	別途指示
参考書	別途指示
その他	・積極性のある学生の参加を希望します。 ・ゼミではパソコン教場を使用しますので、本ゼミを受講したい人は総合情報センターで利用登録を行う必要があります。 ・編入学および転部・転科の学生を主な対象として4月に追加募集を行います。希望者は初回の演習に必ず出席すること。 ・演習IIIでは、卒業研究(論文及び作品)を併設します。
関連リンク	http://www.komazawa-u.ac.jp/~nakasumi/

履修コード	109201
科目名	演習II
担当者名	長山 宗広

講義の到達目標(ねらい)	演習IIでは、地域経済・地域産業の理論を踏まえて、地域の実態を把握する実践的手法を学んでいく。地域という窓から、現実の経済・産業を見ていくと、様々な問題意識や疑問が生まれてくる。研究対象についても、地域の農業や漁業、産地・地場産業など工業集積、商店街・中心市街地やまちづくり、温泉郷など地域観光、地域の金融や財政・政策、など多岐にわたる。地域という総合的存在を学ぶことを通じて、経済・産業の全体像を理解していくことを目指す。
講義の内容／ 授業スケジュール	世田谷区や夕張市など実在の地域を選定し、当該地域の実態把握と活性化プランを取りまとめていく。まずは、ゼミ生全員で、選定地域における既存資料や統計データを入手・分析する。その後は、グループ単位で、選定地域において興味のある研究テーマ(例:地場産業・中小企業の再生、新産業・ベンチャービジネスの創出、商店街・中心市街地の活性化、観光振興による交流人口アップなど)を設定し、各種調査を実施・取りまとめていく。それぞれの研究テーマにおける調査結果をもとに、当該地域の関係者(中小企業経営者や政策担当者など)と議論を行ない、最終的に当該地域の活性化プランとして取りまとめていく。この活性化プランは、当該地域の関係者に対して発表会が行なえる水準を目指す。 夏休み等を利用して、合宿やフィールドワークも行なう予定。
準備学習	課外学習、サブゼミを主体的に実施し、ゼミの授業時間を充実したものとする。
履修上の留意点	「地域経済論a・b」の講義、「ベンチャー論」「起業論」の講義を既に履修済みであることが望ましい。 ゼミには主体的に参加してもらいたい。最終的には、ゼミ生各人が自ら問題を設定し、その問題を解決するために自分自身で調べ、新たな発見を見出し、その成果をプレゼンテーションできるようになってもらいたい。
成績評価の方法	出席状況、授業中のレジュメ・報告内容、討論への参加などを総合的に評価する。
教科書／テキスト	テキストは、開講時にゼミ生と相談して決定する。 日経新聞および日経グローバルを活用する。
参考書	都度、紹介する。 とりあえずは、講義の「地域経済論a・b」「ベンチャー論・起業論」を参照のこと。
その他	演習IIIでは、「卒業研究」を併設する。

履修コード	105361
科目名	演習II
担当者名	番場 博之

講義の到達目標(ねらい)	番場ゼミ(演習II)の目的は、専門分野の研究を通して問題の発見からその解決へと向かう問題解決能力を育成することにあります。専門分野の研究は、流通論・マーケティング論などを中心に行います。
講義の内容／ 授業スケジュール	(1~15)「ビジネスモデル」あるいは「課題研究」の研究報告書作成 (16~22) テキストを利用した学習(グループ単位) (23~30) テキストを利用した学習(個人単位) 夏休みあるいは合宿等時に「江戸東京博物館」「塩とたばこの博物館」などの文化施設のほか、中央・地方の卸売市場や各地の大市・六歳市などを訪問する予定です。
履修上の留意点	詳細なシラバスは開講時に配布します。様々な活動を自主的かつ積極的に経験してみたい人のみ履修してください。
成績評価の方法	日常の活動やゼミへの貢献度等を総合的に評価する。レポートや試験は行わない。
教科書／テキスト	必要に応じて相談して決めます。テキストは全員共通のものを使う場合もありますが、複数のグループに分けてそれぞれ別のものを使うこともあります。また、「日経MJ」「週刊ダイヤモンド」などの新聞や雑誌も用います。
参考書	基本的な文献あるいは重要かつ最新の資料は可能な限り研究室に揃えておきます。
その他	このゼミの運営モデルは2年生から卒業までの3年間でつくられています。3年次からの入ゼミは基本的には想定していませんが、欠員が生じた等の場合には追加募集をすることもあり得ます。詳しくは、問い合わせてください。

履修コード	108001
科目名	演習II
担当者名	百田 義治

講義の到達目標(ねらい)	グローバル化・情報化(IT革命)の進展など経営環境が激変するなかで、大きく変貌する日本企業とその経営の実態をリアルに学び、それぞれがビジネス・パーソンとして求められる企業経営の分析力と洞察力が獲得できることを目指します。
講義の内容／ 授業スケジュール	演習Iの継続です。5グループがそれぞれに決定したテーマについて取り組み、プレゼンテーションを行います。 前期 第1回 イントロダクション 第2回 テーマ決定とグループ編成 第3回 現代企業と経営環境の変化 第4回~第8回 グループ別・テーマ別プレゼンテーション 第9回 第1回発表の総括と今後の課題について 第10回 新たなテーマ決定 第11回~第15回 グループ別・テーマ別プレゼンテーション 後期(第16回~第30回) 前期と同じスケジュールで、それぞれのグループが2回づつプレゼンテーションを行う。
履修上の留意点	経済雑誌や新聞やネット情報などを日常的に熟読・検索し、現代企業とその経営に関心を払い、各自の問題意識をもってゼミに参加してください。
成績評価の方法	ゼミにおけるリーダーシップ、発表内容、レポートなどを総合して平常点評価を行います。
教科書／テキスト	未定
参考書	鈴木幸毅・百田義治編著『企業社会責任の研究』中央経済社、2008年。 福村毅・百田義治編著『経営組織の論理と変革』ミネルヴァ書房、2005年。
その他	「卒業研究」(4単位)を併設します。

履修コード	109101
科目名	演習II
担当者名	堀 龍二

講義の到達目標(ねらい)	わが国企業の人事・労務管理(人的資源管理)はいま大きく変化しつつあります。雇用、賃金、労働時間、昇進・昇格などの人事制度、能力開発、福利厚生、企業内労使関係といった労務管理のほとんどの領域で、かつて日本的労務管理(あるいは日本的経営)と特徴づけられた制度や慣行が改廃されつつあります。グローバルイゼーション、メガコンペティション、情報技術革新、それらに伴う企業・職場組織の再編などがその背景にあります。新しい方向を示すキーワードは、多様化、弾力化(フレキシビリティ)、成果主義、個別化などです。こうした変化をどのように把握し、どのように評価するか、自らの働き方(社会への貢献の仕方)として何を望むのか、メンバー同士の語り合いのなかで模索することがねらいです。その際に、諸外国の制度や慣行も比較対照として学習していきたい。
講義の内容／ 授業スケジュール	ゼミ生にワーキンググループを作ってもらい、現代人事労務管理の変容を、①雇用、②賃金、③労働時間、④能力開発、⑤福利厚生(企業年金を含む)、⑥労使関係などの領域ごとに大別して、各グループが1つの領域を担当し、具体的なテーマを決めて下調べや報告をし、全員で議論するという形式で進める予定です。最新の情報を共有するために、新聞記事をこまめにチェックして、情報を蓄積していく作業も毎回のゼミで行います。なお、ワーキンググループ方式以外の方法をゼミ生が希望する場合は、進め方を相談して決めます。テーマごとのディベートも予定しています。
準備学習	毎回のゼミでの議論をメモして、情報カードに残しておくこと。溜まった情報カードを組み合わせて体系的な理解を獲得することが目的です。
履修上の留意点	1つのテーマのもとにグループメンバーがお互いに協力して調べものをする楽しい学習と思ってほしい。また、全員が自由に発言できる雰囲気大切にしたい。
成績評価の方法	日頃のゼミへの参加、丹念な下調べ、レジュメ・レポートの提出、積極的な発言と参加を中心に評価します。
教科書／テキスト	共通テキストを用いるかどうかはゼミ生と相談して決めます。
参考書	ゼミのなかで適宜指示します。
その他	<卒業研究の有無> 引き続き演習IIIを履修する場合には、履修時に卒業研究を併設します。

履修コード	109221
科目名	演習II
担当者名	松井 柳平

講義の到達目標(ねらい)	統計学の知識が経済の分野で必要不可欠なものとなっている。世界を舞台に経済は毎日めまぐるしく変動し、激動している。こうした不確実な変動を分析するための統計的手法を、パソコンを用いることで実践的に習得する。
講義の内容／ 授業スケジュール	統計的な分析をおこない、評価・討論する。 必要な場合、輪読をおこなう。テキストは、ゼミ生と相談の上、決定する。
履修上の留意点	このゼミの履修にあたっては、数学の知識は事前にはまったく必要としない。
成績評価の方法	成績は授業中のゼミへの貢献によって評価する。具体的には、報告内容、質疑応答、討論への参加、課題達成度、ゼミ行事への積極的参加等を総合して評価する。出席は必須条件である。
教科書／テキスト	開講時に、ゼミ生と相談の上、決定する。
参考書	授業のなかで必要に応じて、指示する。
その他	パソコン教場でおこなう。レポーターによる報告に基づいて進める。

履修コード	105321
科目名	演習II
担当者名	松田 健

講義の到達目標(ねらい)	現代は極めて変化のスピードが早い時代です。こうした傾向は企業経営の世界にも当てはまります。企業は経営環境の著しい変化の中で日々の業務に携わりながらも、自らが拠って立つ基盤を模索しています。これは企業自身も自らと社会との関係をどのように構築していけばよいのかという課題に直面しているといえるでしょう。こうした理解に立ち、本演習では企業経営の現代的課題について取り上げながら、企業活動の体系的理解を目指します。
講義の内容／ 授業スケジュール	本演習では、企業形態、株式会社制度、企業統治ならびに企業の社会的責任などに代表される、現代の企業に関する重要な課題を考察の対象とします。一年を通じて、企業に関する基礎的な知識、概念ならびに理論に対する考察を踏まえ、各自で設定した研究テーマにしたがって卒業論文作成の準備に取り掛かれるように、企業の意義、役割ならびにその特質に関わる体系的な理解を目指します。 第1回 前期オリエンテーション 第2回～第11回 研究課題に関する資料に基づいた各自からの報告と質疑応答 第13回～第15回 夏合宿で扱う研究課題に関する資料輪読と討論 第16回 後期オリエンテーション 第17回～第26回 研究課題に関する資料に基づいた各自からの報告と質疑応答 第27回 小括：資料輪読による知見をまとめた学内研究報告練習会 第27回 小括：他大学ゼミとの研究交流会に向けた研究報告練習会 第28回 他大学ゼミとの研究交流会 第29回 卒論作成に向けたオリエンテーション 第30回 まとめ
履修上の留意点	専門演習とは、一つの学問領域に絞りながら、この領域における課題事項を集中的に考察、検討するものです。したがって、参加する学生は、自らの課題を自らが設定し、その課題に自らがチャレンジするという気概を持って演習に参加してください。
成績評価の方法	ゼミへの出席は最低要件です。各自の発表を主たる評価の対象としながら総合的に評価します。
教科書／テキスト	適宜指示します。その他に日本経済新聞と日経ビジネスを教材として利用します。
参考書	経営学辞典あるいは経営学用語集。
その他	卒業研究有り

履修コード	105331
科目名	演習II
担当者名	松本 典子

講義の到達目標(ねらい)	演習Iと同じです。 演習Iで研究したことを基礎に、更に発展した調査および研究を行います。また、非営利組織(NPO)・社会的企業の役割や社会問題に関する討論を行うことで、最後まで考え抜く力を養います。
講義の内容／ 授業スケジュール	演習Iと同様に、文献の輪読・討論を行い、非営利組織・行政・企業への訪問ヒアリング調査を実施します。年度末には、卒業研究の基礎となる報告書をまとめます。 1年の詳細なスケジュールは、話し合いによって決定します。
履修上の留意点	①積極的な姿勢で授業にのぞんでください。無断欠席・無断遅刻厳禁！ ②物事を積極的に調べてください。 ③NPO・企業・行政訪問、合宿等を積極的に企画し、参加しましょう。
成績評価の方法	出席およびゼミの活動にもとづいて総合的に判断します。
教科書／テキスト	ゼミ生と相談の上、決定します。
参考書	参考文献や報告書、新聞・雑誌記事、関連HPなどを随時紹介します。
その他	4年次(演習III)に卒業研究を併設します。 非営利組織論a・bを履修することがのぞましいです。

履修コード	105301
科目名	演習II
担当者名	溝手 芳計
講義の到達目標(ねらい)	食品の安全、南北問題、環境問題、過疎地域問題といったさまざまな問題が、近年、注目を集めています。これらは、農業のあり方、特に多国籍アグリビジネス（農業・食料関連産業）の影響力の増大、WTO体制への移行などと大きく関わっています。ゼミでは、上に掲げたような諸問題の理解と対策の手がかりを求めて、一緒に考えていきたいと思えます。演習IIでは、これらの問題に関する代表的な見解を見ていきます。
講義の内容／授業スケジュール	テキストの輪読とディスカッションを中心に進めます。今年はディベートにチャレンジしましょう。レジュメの作成、発表のやり方、議論の進め方など、集団学習のスキル取得も重視します。ふだんは3年生だけで学習しますが、このほか演習I（2年生）等と合同の合宿で学習と交流を進めます。
履修上の留意点	ゼミは集団学習、相互修練の場です。世の中、答えが一つとは決っていません。異なる意見を出し合って一緒に考えていくうちに理解が深まり、当初は考えられなかった結論に達することもあります。学生の皆さんが相互に疑問を出し合い、教えあい、意見交換していくことを大切にしてください。 ひとりひとりを大切にすることは当然ですが、同時に集団としての規律を守ることも求めます。
成績評価の方法	レポートと発表の内容・態度、議論への参加状況などを総合的に評価します。
教科書／テキスト	ゼミ生と相談の上、1年間のテーマを決め、これに沿ってテキストを選定します。
その他	演習IIIで「卒業研究」を併設します。

履修コード	107201
科目名	演習II
担当者名	光岡 博美
講義の到達目標(ねらい)	日本の福祉・社会保障、その制度や現状、日本経済との関連について、やや専門的な学習をする。この演習IIでの勉強をもとに、演習IIIではゼミ論文の作成に取り組んでもらいたい。
講義の内容／授業スケジュール	テキストに従って、各自の分担を決め、レポーターの報告に従って討議を行う。また、後半は各自の研究を発表してもらおう。 夏と春は2泊3日の合宿を行う。但し、合宿への参加は強制しない。
履修上の留意点	前期はテキストを論読していくが、後期は各自の研究を発表してもらおうので、前期のうちから準備しておくこと。
成績評価の方法	出席状況、レポート報告、研究発表等、総合的に判断する。
教科書／テキスト	参加者の意見や希望も考慮して決める。
参考書	テキストに従って、また必要に応じて紹介する。

履修コード	105341
科目名	演習II
担当者名	村松 幹二
講義の到達目標(ねらい)	現代の経済社会、特に経済活動と法・制度の関係を学ぶことで経済社会の仕組みについての理解を深めることを目的とする。そのために3年次には、企業組織論と「法と経済学」の基礎を学び、それらを用いて、企業組織における経済活動と法・制度が日常生活や企業の経済活動に与える影響を考察する。 経済学を用いて経済社会の仕組みを分析する方法を身につけ、論理的に議論できるようになることを重視する。参加者は日常生活における経済活動や政策に関する議論に関心を持ち、その意味を経済学の視点から分析し、意見を形成できるよう心がけてほしい。
講義の内容／授業スケジュール	前期には、企業組織論や「法と経済学」のいずれかのテキストを輪読し、現代の日本経済や日本企業の諸問題について経済学の視点から議論する。夏休みに討論会を行い、そこでの議論を踏まえて、後期にはワーキング・グループによる研究発表を行うとともに個人の研究テーマを決定し、個人研究のための指導を行う。4年次は卒論指導を行う。
履修上の留意点	ゼミへの出席、発表・報告を担当することを前提とし、毎回の討論に積極的に参加すること。ゼミの自主的な運営に積極的に参加すること。
成績評価の方法	ゼミへの出席、報告内容、討論への積極的な参加などにより総合的な評価を行う。
教科書／テキスト	開講時にゼミ生と相談の上、決定する。
その他	演習III履修時には、「卒業研究」（卒業論文）を併設する。

履修コード	105401
科目名	演習II
担当者名	森田 佳宏
講義の到達目標(ねらい)	財務会計は、企業をとりまく利害関係者の利害調整およびその意思決定に貢献することを目的として発展している。さらに、財務会計によってもたらされる情報に信頼性を付与するために会計監査が行われている。したがって、財務会計と会計監査には密接なつながりがあり、財務会計の知識なくして会計監査を深く理解することはできない。本演習においては、財務会計および監査の領域に属する諸問題を、学生相互間の討論を中心として研究していく。
講義の内容／授業スケジュール	まずテキストを用いて財務会計の理論を習得し、その後に監査論の学習に進む。これらの学習は、次年度における卒業研究の基礎となるものである。なお、夏合宿では日商簿記検定試験2級程度の学習を行う。
履修上の留意点	特別な事情がない限り、毎回出席すること。明るく楽しいゼミにしたいと思うので、自主的にゼミを運営できるような、積極的かつ協調の精神に富んだ諸君の参加を期待している。
成績評価の方法	いわゆるゼミであるから出席を重視するが、そのほかにゼミにおける報告（レジュメを含む）・発言内容やゼミ活動に対する取り組みなどを考慮に入れて総合的に評価する。
教科書／テキスト	最初の演習時に指示する。
参考書	演習時に適宜紹介する。
その他	演習IIIに「卒業研究」を併設する。

履修コード	106301
科目名	演習II
担当者名	谷敷 正光

講義の到達目標(ねらい) テーマ「戦後日本経済の発展と日本型経済システム」
3年演習は、戦後の日本経済の発展過程を中心に学びます。戦後の日本経済は、1950年代半ばから驚異的な経済成長を遂げ、国民総生産で資本主義第2位にまで成長し、「経済大国」「貿易大国」と称された。前期は欧米経済へのキャッチアップ完成までのダイナミックな経済成長と「日本型経済システム」について学びます。後期は1990年をピークに「バブル経済」が崩壊し、長いデフレ時代に突入し、キャッチアップ後時代遅れとなった「日本型経済システム」と「新型経済システム」を構築できずにジャパンバッシングからジャパンバッシングと化した日本経済を中心に学びます。また、4年演習では経済の発展過程を経済・人材・教育の側面から追求します。

講義の内容／授業スケジュール
第1回演習オリエンテーション(プレゼンテーションの仕方、資料検索の方法、レジュメの作成法、就活備法と就活支援について)。
第2回～第10回→戦後の日本経済を中心に、1950年代前半経済復興期を中心に、1955年以降の高度成長第1期、第II期、第III期、第IV期のキャッチアップ完成期を中心に。
第11回～第20回→安定成長期、経済成熟期を中心に、各段階の発展要因とその構造的特質、「日本経済システム」の構築過程を追及します。前期、サブゼミにおいて「就職適性検査」と「インターンシップのガイダンス」を行います。
第21回～第28回→「制度的疲労」によって日本型経済システムが破綻し、「パックスジャポニカ」も露と消え、「失われた十年」とも「失われた二十年」とも称される長期不況を中心に、基本文献や「学術論文」(学会雑誌)等を教材に、プレゼンテーションを行う追求します。後期、サブゼミにおいて「就職模擬面接」の練習と「就職の心構えと準備法」を企業の人からレクチャーを受けます。
第29回→「ゼミ論文」仮提出(「執筆要領」が守られているか確認。未完成部分の個別指導)。第30回→「ゼミ論文」本提出。

準備学習 日頃より新聞や経済の雑誌を読み、日本経済に関心を持つこと。

履修上の留意点 (経団連が就職活動の時期を改善せず、現状のままの時には)後期は就職を控えて「就職セミナー」に参加する機会も多くなるが、できるだけ授業には出席して下さい。

成績評価の方法 授業への参加、プレゼンテーションへの取り組み、レポートを基本に評価します。

教科書／テキスト 演習の時間に適宜紹介します。学術論文や参考資料を使用しますが、プリントして配布します。

参考書 経済雑誌「東洋経済」「エコノミスト」などは貸し出します。その他、参考書は演習の時間に適宜紹介します。

その他 3年ゼミ(演習II)では、「インターンシップb」を併設していますので、併せて履修して下さい。「インターンシップb」は「インターンシップa」(2単位)の履修が必要です。「a」「b」を併せて4単位の履修が可能です。
4年ゼミ(演習III)では、「卒業研究」(4単位)を併設していますので、併せて8単位の履修が可能です。2年次で「教育経済論」の講義(4単位)を履修していない人は、3年次での履修をのぞみます。

履修コード	107501
科目名	演習II
担当者名	矢野 浩一

講義の到達目標(ねらい) 演習のテーマは「ビジネス・経済・社会についての実証的アプローチ」である。ビジネス・経済・社会などの様々な問題について自分の力で考え行動できるように実証分析のやり方を学ぶ。それには統計学や経済学・データ分析などの知識が必要である。さらに自分の意見をしっかりと人に伝える文章表現やプレゼンテーション能力、自分の意見を裏付ける統計手法を身につけることを目指す。

講義の内容／授業スケジュール 演習Iの内容を踏まえて、学生の興味に応じてより発展的な内容に取り組んでいく(ただし、学生ごとに理解度にばらつきがあると思われるために、演習内容はそれに応じて柔軟に対応する)。

準備学習 教科書・参考書・資料等を予習しておくこと。

履修上の留意点 「統計原論」「ミクロ経済学」「マクロ経済学」「応用マクロ経済学」等の関連科目をあわせて履修することが望ましい。また、連絡のために駒澤大学総合情報センターのアカウントを取得しておくこと。

成績評価の方法 出席を中心に、発表内容・発言・ゼミへの貢献から判断する。

教科書／テキスト 教科書は開講時に協議する。

参考書 教科書だけにこだわらず、統計学・経済学・マーケティング等関連分野の書籍・雑誌・論文等から適宜選択する。

その他 演習III履修時には卒業研究(卒業論文)を併設する。

履修コード	107101
科目名	演習II
担当者名	山縣 弘志

講義の到達目標(ねらい) 比較経済論の専門的学習、研究。

講義の内容／授業スケジュール 現代世界のリアリティーをどうとらえるかは、経済学の重要な課題となっている。テクノロジーの発展が生み出すヴァーチャリティーと現実とのギャップをいかに埋めるか、私たちの知恵が問われている。20世紀に顕在化した課題 - 環境、戦争、福祉、民族、競争と平等、これらにどう取り組むべきか。市場主義の限界は明らかであり、他方で「20世紀社会主義」は対案となりえなかった。ヨーロッパ、ロシアの経験に学び、比較経済論の視点から、これらの問題を考えていきたい。
前期は参考書を読み、後期は各自の発表の形で進める。

準備学習 日頃から、新聞、インターネット、学術文献に目を通して、ヨーロッパやロシアの歴史・現状・政策…等に関心をもつように心がける。

履修上の留意点 毎回、発表担当者だけではなく、出席者全員の積極的発言を求める。

成績評価の方法 出席、発表、討論への参加を総合評価する。

参考書 相談のうえ決める。

その他 「卒業研究」あり。

履修コード	107301
科目名	演習II
担当者名	吉田 真広

講義の到達目標(ねらい) 国際金融現象の基礎にある原理や制度を学ぶと共に、日本経済に与える国際金融の実体について学ぶことが目的です。基本的には演習Iで学んだことを基礎にして、金融、国際経済、国際金融について、さらに理解を深めることを目的としています。
また、単に国際金融を専門として勉強するのではなく、それを通じて、社会を見る目、物事の考え方について学ぶことを目的としています。

講義の内容／授業スケジュール 国内及び国際的信用制度、日本と海外の証券市場、円ドル相場などに関する基礎的な理解を深めていきます。同時に、日本経済を巡る金融及び国際金融環境の変化、ヨーロッパ共通通貨ユーロ、人民元や円の国際化、銀行業及び金融業の国内及び対外的展開、日本とアジアの金融システム、通貨危機、金融危機などを含む様々な金融・国際金融現象を学んでいきます。最近の国際的金融不安についても、アメリカの金融システム、国際通貨論の視点から、その原因と構造を検討していきます。
前期はテキストを利用しつつ、毎回報告者によるレポートと討論を行います。後期は卒業論文の報告を前提に、各人がテーマをもって報告を行っていく予定です。

成績評価の方法 授業での報告内容と発言の積極性・内容、提出物など、総合的に判断します。

教科書／テキスト 現在、山田博文『これならわかるグローバル時代の日本経済入門 金融経済 第2版』大月書店、2005年12月、を予定していますが、良いテキストが出版されたならば、変更もあり得ます。また、第1回目のゼミで、ゼミ生の希望を聞いてから、テキストを変更することもあります。

参考書 必要に応じて、その都度示していきます。

その他 ゼミ宿または研修旅行を予定しています。

履修コード	108601
科目名	演習II
担当者名	渡邊 恵一

講義の到達目標(ねらい) 本演習では、近現代日本の経済史・経営史に関する研究を行なう。演習IIで輪読する文献は、もう少し読みごたえのある専門書へとステップアップしたい。文献輪読と並行して、ゼミの共同研究にも着手する。テーマは受講生の話し合いで決め、学生主体で調査、発表、論文化する力を養っていききたい。

講義の内容／授業スケジュール (1)前期ガイダンス、(2)～(14)文献輪読およびゼミ研究の基礎的作業、(15)ゼミ研究中間報告、(16)後期ガイダンス、(17)～(29)文献輪読およびゼミ研究の応用的作業、(30)ゼミ研究最終報告
*詳細については、前期ガイダンス、後期ガイダンス時に知らせる。

準備学習 前期・後期とも、所定のスケジュールにしたがって各自で進めておくこと。

履修上の留意点 授業時間だけでなく、合宿、コンパ、他大学とのインターゼミなどを含めたゼミ活動全般への積極的な参加が求められる。アルバイトやサークル活動との調整がつけられない人は受講を遠慮されたい。

成績評価の方法 演習に取り組む姿勢を総合的に評価した平常点。

教科書／テキスト 開講時に受講生と相談のうえ指定する。

参考書 授業の中で、その都度紹介する。

その他 演習IIでは、「インターンシップb」を併設する。
演習IIIでは、「卒業研究」を併設する。

履修コード	108101
科目名	演習II
担当者名	渡辺 雅男

講義の到達目標(ねらい) 演習IIに引き続き、「グローバル経済と生活」を大まかなテーマに据え、「生活」を取り巻くさまざまな問題について学ぶと同時に、卒業研究への取り組みを開始します。

講義の内容／授業スケジュール ①通常のゼミ活動
前半はテキストを決め、卒業研究に必要なさまざまなスキルを身につける作業を行います。レジュメの作り方から報告・討論の手法を身につけます。

②合宿について
春と夏に合宿を行います。春合宿は2泊程度で、長時間にわたる集中的なゼミ勉強を通じて、レジュメ作成能力、討論能力を徹底して習得します。夏合宿は、これまでは5泊～6泊にわたる農村での合宿でした。共同作業、座学、地域の皆さんとの交流を経験しました。今年の合宿の詳細は、みなさんと相談して決めたいと思います。

③インナー大会、ゼミ討論会等への参加
学内・学外のゼミ討論会には積極的に参加します。特に11月に行われる学外ゼミとの討論会に合わせて論文作成、討論スキルの向上などに力をいれていくこととなります。特に、ゼミの上級生として、2年生をリードする役割を果たすことが期待されます。そのほかに、ふれあい広場への参加などを通して、プランニング能力の向上、実行力の向上をめざします。

④原書講読も含めて、より高度な文献を読みこなし、資料を解析し、卒業研究に取り組むこととなります。インナー大会で培った論文作成能力をさらに向上させることを目標とします。

本ゼミからは「経済学部創立60周年記念奨学論文」特賞(1位)1名、入選1名、佳作3名の受賞者が出ました。いずれも論文の書き方から一步一步勉強していった成果です。論文作成は大変な作業ですが、理論を武器に現実問題に切り込んでいく楽しさを味わってほしいと思います。ぜひ、後に続けてください。興味を持てる課題を探ること、理論をきちんと勉強すること、論文に「のめりこめる楽しさ」を発見すること、これが本ゼミの目指すところです。

履修上の留意点 遅刻・欠席は厳禁です。ゼミは意見交換の場であり、一人ひとりの自主的なかわりと同時に、お互いに助け合い、問題への理解に達するための努力が不可欠となります。

また、ゼミ活動に関する作業をはじめとする集団的な行動への参加も必要です。アルバイトやサークル活動などでゼミ活動を欠席することはできません。履修予定表に載っている時間配分ではわからないのがゼミ活動です。忙しいことを承知の上で、やる気のある方の参加を希望します。

また、ゼミ活動に関する作業をはじめとする集団的な行動への参加も必須です。時には、土日でもゼミ活動に割られます。アルバイトよりゼミが優先となります。

ただ、その場に座っているだけでは、ゼミへの参加とはみなしえません。必ず毎回発言することが求められます。

ゼミでは、受動喫煙から徹底して非喫煙者の健康を守ることをモットーといたします。したがって、ゼミ開始10分前以降の喫煙、ゼミ合宿中の喫煙は禁止いたします。

成績評価の方法 報告・討論への参加を含め、平常点で評価します。

教科書／テキスト 時間のはじめに指示します。

参考書 時間のはじめに指示します。

履修コード	109901 109902
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	浅野 克巳

講義の到達目標(ねらい) 演習IIの継続として以下の内容を検討する。

講義の内容／授業スケジュール 1. 現代日本経済システムの特徴 2. 日本の企業と産業組織 3. 日本の企業システム 4. 市場と取引コスト 5. 情報の経済分析 6. ネットワーク外部性 7. 巨大企業の誕生と「収穫逓増」の波 8. 技術進歩と研究開発 9. 知的財産権と企業 10. 構造改革と日本経済 11. メインバンクシステムと資本市場 12. 日本企業とコーポレートガバナンス

履修上の留意点 演習は講義と違い学生諸君の参加によってはじめて成り立つ。授業には必ず出席することはもとより、授業はディスカッション形式で行うので、必ず予習をしておくことが大事。また、エクセルを使った経済分析やシミュレーションも行うので「情報センター」を利用して活用できるようにしておくこと。

成績評価の方法 出席率、授業態度、レポートの内容等を総合して評価する。

教科書／テキスト 長岡・平尾『産業組織の経済学』(日本評論社)1998年
ポール・ミルグロム＝ジョン・ロバーツ『組織の経済学』(NTT出版)1997年
小田切宏之『企業経済学』(東洋経済新報社)2000年

参考書 内閣府『経済財政白書』その他の資料については授業の中で指示する。

その他 卒業研究 有

履修コード	113201 113202
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	阿部 弘

講義の到達目標(ねらい) テーマ：日本経済論

講義の内容／授業スケジュール 「卒業研究」を併設し、演習IIIおよび「卒業研究」の指導を行います。

成績評価の方法 総合的に評価します。「定期試験」はありません。「卒業研究」の論文発表ができない場合は、単位にはなりません。

履修コード	319001 319002 319003
科目名	演習III 課題研究 演習II
担当者名	阿部 弘

講義の到達目標(ねらい)	テーマ：日本経済論
講義の内容／ 授業スケジュール	日本経済の歴史的展開 通常のゼミの他に年間2回の合宿予定。11月末から12月初めにゼミ論発表会予定。ゼミナールの成果を「ゼミ論集」に掲載する。
履修上の留意点	「演習」ですから出席することは基本です。 年間2回の合宿への参加は不可欠です。 4年次に「課題研究」を履修することが前提です。
成績評価の方法	総合的に評価します。「定期試験」はありません。
教科書／テキスト	池上惇『文化経済学のすすめ』丸善ライブラリー

履修コード	111701 111702
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	荒木 勝啓

講義の到達目標(ねらい)	経済変動や数理ファイナンスなどのモデルをコンピュータ上でシミュレートするというテーマに向けて様々なコンピュータ技法をマスターしていく。
講義の内容／ 授業スケジュール	4年生は経済変動モデルや数理ファイナンスモデルを構築していく。昨年度は回帰分析モデル、移動平均モデルを使い株式の売買シミュレーションを行なった。今年度は重回帰プログラミングの成果をもとにさまざまな社会現象の重回帰分析とその統計的検定を行う。
成績評価の方法	オリジナルモデルの作成と検定（ゼミ論）80、平常点20。
その他	プログラミングやコンピュータシミュレーションの実際をマスターした学生は、就職の際に圧倒的に希望の会社、職種につくことができるというのが実情である。DTPの技能についても同様である。本ゼミとは、そうしたプロフェッショナルな技能を身に付けた上で、その技術をもとにはじめてオリジナルな自己表現をすることができるという現実を知る場であると心得て欲しい。

履修コード	109291 109292
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	有井 行夫

講義の到達目標(ねらい)	現代日本社会は、経済問題にとどまらず、実に様々な社会問題をかかえています。少子高齢化、過労死、地域社会の荒廃、犯罪の増加、子供たちの学力の低下から、地球温暖化対策や地震災害対策にいたるまで容易に列挙することができますね。これら様々な社会問題の根底には実は企業中心社会という特殊な社会編成原理がすわっています。逆に様々な社会問題は企業中心社会の諸相であり、諸断面なのです。関心のある社会問題を自由に選んでその根底に潜む企業中心社会をえぐりだしてみましよう。演習Iと演習IIとの発展研究がこれです。演習IIIでは、以上の観点から卒業研究をまとめます。
講義の内容／ 授業スケジュール	前期＝各自卒業研究のテーマを決定。夏休み中＝資料と文献の読み込み。9月中間報告合宿。後期＝執筆。
成績評価の方法	卒業研究で評価します。

履修コード	109801 109802
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	飯田 泰之

講義の到達目標(ねらい)	演習のテーマは「日本経済への実証的アプローチ」である。近年、経済問題にとどまらずビジネス・社会・政治分野においても経済学的な思考は必須の教養になっている。そして、自身の意見を発表し、説得する（つまりは「自分がわかっている」ことを人に伝え、他人を「納得させる」）際には十分な実証的根拠を示し、聞き手を考慮した発表を行うことが必要とされる。本演習は「経済理論の理解」「統計を用いた証拠づけ」「プレゼンテーション能力」の3つを柱に、「使える経済学」を身につけることを目標としたい。
講義の内容／ 授業スケジュール	演習I・IIでの学習内容を継続的に発展させ、卒業研究の形で4年間の学習成果をまとめることを最終目標とする。
履修上の留意点	「ミクロ経済学」「マクロ経済学」「経済政策」「統計原論」「企業経済学a、b」等関連科目をあわせて履修することが望ましい。また、連絡のため駒澤大学総合情報センターのアカウントを取得しておくこと。
成績評価の方法	出席を中心に、発表内容・発言・ゼミへの貢献から判断する。
教科書／テキスト	教科書は開講時に協議する。
参考書	テキストのみにこだわらずゼミ生の興味に沿った論文を取り上げていく。
その他	「卒業研究」を併設する。演習IIIは卒業論文の指導が中心のため、履修登録時の登録を忘れないこと。

履修コード	111601 111602
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	石川 純治

講義の到達目標(ねらい)	上級会計学の学習、および卒業論文の指導を行います。
講義の内容／ 授業スケジュール	卒業論文については、夏休み中に論文のテーマおよび章別構成を仕上げる。後期になってそれを発表しながら完成させていくという作業をします。
成績評価の方法	ゼミ報告・レポートなどの平常点、及び卒業論文の内容評価。
教科書／テキスト	その都度指示します。
参考書	その都度指示します。
関連リンク	http://www.komazawa-u.ac.jp/~ishikawa/profile.htm

履修コード	109701 109702
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	石川 祐二

講義の到達目標(ねらい)	企業においては、会計情報が利用される場合、それによって様々な目的が果たされる。その目的と会計上の手法との関係を探ることで、会計が社会的な諸関係の中でいかなる意味を持つものであるのかを明らかにしたい。そのことによって、社会現象のもつ意味を考えるための視点を養うことに努めたい。 具体的には、「卒業研究」の論文作成に取り組むことで、社会現象を分析するための視点を身につけてほしい。
講義の内容／ 授業スケジュール	ゼミ生各自が研究テーマに関する調査・分析を進め、それを基に「卒業研究」を作成する。
履修上の留意点	初回の演習時に伝達するスケジュールに則り、「卒業研究」を作成するように努めること。
成績評価の方法	「卒業研究」の内容で評価する。
教科書／テキスト	特に指定しない。ただし、各自の研究に必要な書籍を利用すること。
参考書	必要に応じて紹介する。
その他	合宿その他のイベント等については、話し合いで決定する。

履修コード	110001 110002
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	岩波 文孝

講義の到達目標(ねらい)	経営破綻や機関投資家・投資ファンドの不祥事など企業経営をめぐる問題が続出しています。本演習では、トップ・マネジメントの構造と機能の理解を中核として、コーポレート・ガバナンスとコーポレート・パワーとの連関の検討を通じて、現代の企業経営の課題を多面的に考察していきます。現代の企業経営に関する問題意識を深めていき、卒業研究またはゼミ論文の執筆を通じて、企業と社会との関わり、CSRを踏まえた企業経営システムの構築に向けた課題を追究していきます。
講義の内容／ 授業スケジュール	各ゼミ生の「ゼミ論文」あるいは「卒業研究」報告を中心に討論し、「ゼミ論文」・「卒業研究」の作成に取り組みます。 合宿では、各ゼミ生のゼミ論文・卒業研究テーマの報告とともに、現代の企業経営が抱える諸問題について討論していきます。 1. ゼミ論文・卒業研究作成に向けたガイダンス (1) 2. 企業と社会の論点整理 (2~4) 3. 企業の社会的責任 (CSR) の現状と課題 (5~6) 4. ゼミ論文・卒業研究の個別報告 (7~15) 5. ゼミ論文・卒業研究の個別報告と執筆指導 (16~30)
履修上の留意点	ゼミナールは、受講生の主体的な学びの姿勢にもとづいて運営されます。ここでは専門の学習とともに、自らの課題を発見し、問題意識を深めていくという積極的な学習スタイルが求められます。受講の際には企業経営をめぐる諸問題について問題意識を持ちゼミナールに参加してもらいたい。
成績評価の方法	ゼミへの出席、発表内容、積極的な討議への参加、論文の執筆など平常点による総合評価を行います。
教科書／テキスト	開講時に指定します。
参考書	必要に応じて指定します。
その他	「卒業研究」を併設します。

履修コード	320911 320912 320913
科目名	演習III 課題研究 演習II
担当者名	岩波 文孝

講義の到達目標(ねらい)	企業をめぐるビジネス環境は複雑・多様化するとともに、不祥事の続出や経営不振などを解決するために経営システムの改革が企業に求められています。授業では、企業経営の仕組みを理解していくとともに、企業経営に関する興味・関心を深め、企業と社会との関わり、企業の社会的責任 (CSR) を踏まえた経営システムの構築にむけた課題について考えていきます。 課題研究は演習IIIに併設開講されているため、演習で学習した成果や受講生の問題意識に基づき、課題研究を執筆することになります。
講義の内容／ 授業スケジュール	演習時に通常の演習の授業とともに課題研究の指導を行います。 1. 授業のガイダンス (1~2) 2. 企業と社会をめぐる論点 (2~7) 3. CSRの現状 (8~15) 4. 現代CSRの課題 (16~23) 5. 現代の企業管理の課題と展望 (24~30)
履修上の留意点	課題研究は演習IIまたは演習IIIに併設されています。
成績評価の方法	日常の課題研究報告および指定された期日に提出された課題研究に基づき評価する。
教科書／テキスト	開講時に指定。
参考書	随時指定。
その他	「課題研究」を併設します。

履修コード	110101 110102
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	大石 雄爾

講義の到達目標(ねらい)	2年次・3年次の活動成果を「卒業論文」としてまとめること、そのための準備と執筆が主な活動となります。
講義の内容／ 授業スケジュール	前期は、各自が就職活動に専念し、自分の性格や能力に適した、やりがいのある仕事や就職先を見つけるための活動をします。 後期には、卒業論文作成のために詳細なレジュメを作成し、執筆にとりかかります。提出された論文は、ゼミ活動の思い出として残るよう『経済学ゼミ論集』（大石ゼミナール発行）にまとめられます。
準備学習	新聞にできるだけ目を通し、時事問題については自分でよく考えてみることに。
履修上の留意点	原則として平常点で評価しますが、「卒業論文」が提出されない場合には演習Ⅲの単位を取り消すことがあります。
成績評価の方法	平常点で評価します。
教科書／テキスト	新聞記事等、授業に使用する教材はそのつど支給します。
参考書	特に指定しない。
その他	①「卒業研究」を併設します。 ②コース制との関連：コースの履修は自由です。

履修コード	110401 110402
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	大吹 勝男

講義の到達目標(ねらい)	2年次・3年次の学習成果を基礎にして卒業論文の作成をめざします。
講義の内容／ 授業スケジュール	社会保障及び社会福祉等々に関する論争は、我々人間が生きてゆく上での重い課題を背負っている。故にテキストに拠る学習だけではなく、上記に関連する毎日のニュースを知らなければならない。本ゼミでは毎回、新聞・雑誌記事によってそれを補う。また、四年生は就活の情報収集の為に利用する。
成績評価の方法	ゼミ論文の提出によって成績を評価する。「卒業研究」も併せて開講する。

履修コード	112701 112702
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	小栗 崇資

講義の到達目標(ねらい)	日本の企業会計制度は、現在、大きな転換期にさしかかっており、会計ビッグバンを経て国際会計基準への統合へと突き進んでいます。計算構造の面でもディスクロージャーの面でもこれまでの財務会計の枠組みや原理・方法は大きく変容しつつあるといえます。会計の学習者にとっては、従来のような勉強だけでは変化についていくことができないので大変ですが、発想を変えれば、現代社会のなかでの会計の役割や仕組みを研究するチャンスと考えられます。演習では、「グローバル化する日本の企業会計制度」をテーマに学習を進めたいと思います。
講義の内容／ 授業スケジュール	演習Ⅲでは、演習Ⅱに続き、現代の財務会計の理論や方法を学習する予定です。そうした中で、国際会計基準のいくつかを取り上げ、その内容を深く検討してみたいと思います。演習は皆さんに報告をしてもらい、ディスカッションする方式で行います。資格勉強のように暗記するのではなく、「なぜそうなのか」「どうしてこうなるのか」という問題意識をぶつけあって研究することをこの演習ではめざします。後期には自分の研究テーマを設定し、卒業論文を書いてもらうつもりです。
履修上の留意点	ゼミでは皆さんに積極的に発言したり質問したりすることを求めます。毎回、司会者や報告者、質問者などの役割を分担して進める予定ですので、必ず出席してください。なお「卒業研究」も開講します。
成績評価の方法	総合的に判断します。①出席状況、②報告内容、③レポート、④ゼミ運営への貢献度。
教科書／テキスト	演習の中で指示します。
参考書	演習の中で指示します。

履修コード	111501 111502
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	勝田 佳裕

講義の到達目標(ねらい)	演習I・IIの集大成としてゼミナール論文（「卒業研究」）の作成をめざします。テーマは自由ですが第1回目の授業までにテーマを確定してもらいます。
講義の内容／ 授業スケジュール	前期は就職活動等で全員が揃うことは難しいことが予想されますが、就職情報を交流したり、新聞記事を題材に議論するのが慣例となっています。就職活動を通じて社会への関心が深まったり、勉学への新たな意欲が湧いてくるケースも少なくなく、飛躍的に成長できる時期でもあります。 後期はゼミ論の完成に向けて、報告・議論を積み重ねていきます。
履修上の留意点	4年生は学生時代の締めくくりの年です。勉学面でも、生活面でも社会人への備えが求められます。
成績評価の方法	年間を通した、ゼミナールへの参加の積極性を重視して評価します。
その他	「卒業研究」を併設します。

履修コード	109421 109422
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	北口 りえ

講義の到達目標(ねらい) 税務会計は、法人税法における課税所得計算に関する学問です。法人の所得に対して課される法人税は、企業にとって避けられないものであり、企業行動を左右する重要な要素のひとつとなっています。本演習は、法人税における課税所得が企業利益をベースとしてどのように算出されるのか、その課税所得の計算構造に関する理解を深めることを目的とします。

講義の内容／授業スケジュール 各自が選んだ研究テーマについての発表を中心に進め、ゼミ内でのディスカッションや論文指導により、その研究について深く掘り下げてもらいます。

履修上の留意点 ゼミ内で意欲的に発言し、ゼミの運営や行事（合宿、ゼミナール連合会での研究発表会、証券取引所見学や裁判所見学など）にも積極的に参加してください。卒業研究も開講します。

成績評価の方法 出席率、報告内容、ゼミやゼミの運営への参加度、レポート等の総合評価により行います。理由のない遅刻や無断欠席は大きな減点としますので、注意してください。

履修コード	109601 109602
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	北嶋 守

講義の到達目標(ねらい) この演習では大学生生活の総決算として各自の問題意識を踏まえて、卒業研究の作成を行いません。

講義の内容／授業スケジュール 演習IIIでは、これまでの共同研究を踏まえて、卒業研究の作成に向かって、個別指導の形で演習を行いません。第一回目の演習の時間に今年度の予定を伝えますので、必ず出席してください。

履修上の留意点 演習IIIは卒業研究の作成を中心課題としているため、少なくとも演習IIをすでに履修していることが前提となります。

成績評価の方法 出席状況、平常点（卒業研究作成指導への対応姿勢など）、卒業研究の内容を中心にして総合的に評価します。

教科書／テキスト 使用しません。

参考書 卒業研究の課題に応じて個別に紹介します。

その他 演習IIIでは原則として「卒業研究」を作成することが求められます。

履修コード	112001 112002
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	小杉 修二

講義の到達目標(ねらい) 演習IIと同じですので、そちらを見てください。

講義の内容／授業スケジュール 基本的には演習I、IIと同じです。演習Iでは温暖化のメカニズム、その害悪について学び、演習IIではそれらの知識を踏まえて、その対策についてどんなものがあるか（①地球に日傘 ②炭酸ガスの大気からの除去 ③炭酸ガスの発生削減）について考えます。

IIIはその総仕上げとして、2050年の世界の人口、経済規模を予測し、そこからどれほどの温室効果ガスが出てくるかを考えます。そして、海と森林が吸収してくれる分を差し引けば、放置しておいたときに大気中の炭酸ガス濃度を増やす分です。これらを「自然エネルギー」でどれだけ代替できるのか、また、省エネルギーの可能性はどれだけあるのかを考えます。

温暖化対策は所詮は人類の意思決定の問題ですが、地球はひとつでも人類はひとつではありません。それぞれに個別利害を持つ存在である国、集団、個人に分かれています。先進国と途上国では所得に大きな格差があります。貧しい国は豊かな国の生活レベルに追いつくこと、特に古典的貧困を解消することを優先しています。豊かな生活を謳歌している先進国の人間がその現実を知りながら、中国人やインド人はこれまで車に乗っていなかったのだから、これからもそれで頼むといって通じるのでしょうか。それどころか、先進国の中にも「格差」があって、これらを解決するためには経済成長が必要だと議論がされています。これまでは経済成長の中で格差問題は解決されてきたと考えられていました。一説によれば、21世紀末の世界の経済規模は今の10倍程度とされています。その時には炭酸ガスの排出規模も10倍程度になるでしょう。これを省エネルギーで乗り切るとしたら、効率を10倍にすることが最低限の条件です。トヨタのプリウスで言えばガソリン1リッターで140キロメートル走るようになります。たぶん不可能ですね。私たちが挑戦する課題はこうしたものです。

この課題を解決するのがいかに難しいかはすぐ想像できます。発想を変えて炭酸ガスを出さないエネルギーへの転換が必要です。つまり、今はエネルギー革命の時代です。これに対応して経済も全面的に変わる時代です。それにはどんな技術、社会の仕組みが必要かを考えます。

4年次も新聞資料を活用しますが、温暖化回避に現実の経済活動とどんな関係があるかに留意して自ら記事を探す姿勢が望ましい。

- 第1-5週：2050年の世界の人口と経済規模
- 第6-10週：代替エネルギーの可能性
- 第11-15週：温暖化対策として省エネルギーの可能性
- 第16-20週：炭酸ガスの吸収源の可能性
- 第21-25週：巨大技術の可能性とライフスタイル変更の可能性
- 第26-30週：炭酸ガス削減の国際的取り決めの方法

履修上の留意点 演習Iと同じ。

成績評価の方法 出席状況とゼミへの参加の積極性、発言を総合して判定。

教科書／テキスト 演習Iの継続+新しいテキストをゼミの進み具合に応じて考える。

参考書 演習Iと同じ。

その他 〈卒業研究〉あり。通常のゼミの4単位とは別に卒業研究の4単位が当てられる。

履修コード	109431 109432
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	小西 宏美

講義の到達目標(ねらい) 「多国籍企業、多国籍金融機関とカジノ資本主義」をテーマとしています。「カジノ資本主義」とは何か、多国籍企業・多国籍金融機関の活動がいかに経済を「カジノ化」してきたのか、「カジノ資本主義」は我々の生活をどのように変えてきたのか、について研究します。

講義の内容／授業スケジュール 前期はテキストを読み進めながら卒業研究のテーマを考えます。後期は各自の研究テーマにそって卒業研究を作成します。

履修上の留意点 卒業研究とセットで単位登録してください。

成績評価の方法 演習IIIは出席、報告、討論で評価します。卒業研究は提出した卒業論文で評価します。

教科書／テキスト 第1回目の講義で指示します。

履修コード	112901 112902
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	小林 正人

講義の到達目標(ねらい) テーマは「戦後日本の産業発展と景気循環」。このゼミでは「卒業研究」（卒業論文のみ）の作成を指導します。これにより各ゼミ生は、4年間の経済学部での学習と研究を大成します。3年生までのゼミでの調査や研究をふまえて、各ゼミ生が研究したい産業ないし業種について、あるいは特定の経済問題や労働生活問題について、テーマを自発的に決め、歴史と現状、問題点や課題などを卒業論文にまとめます。

講義の内容／授業スケジュール 「卒業論文の提出までに必要な事前審査」として、(1~2)各ゼミ生による「卒論プラン」の発表、(3~4)参考文献一覧の提出、(5~10)文献研究発表、(11~15)卒論の予定目次と題名の発表、(16~20)卒論の本論の中間発表、(21~25)結論の発表と審査、(26~30)最終稿の総合審査という各段階があります。最終稿の締め切りは11月末のゼミの日です。

上記の事前審査を通った論文は、教務部に提出できます(12月)。さらに卒業論文集(仮称『日本経済学生論集』)として編集し、印刷、製本します。したがって、卒論の最終稿はワープロを使い一定の書式に従って提出します。詳細について、下記のウェブサイトの「ゼミのひろば」のサイトの中の「卒論作成プラン」に従うこと。
<http://www.komazawa-u.ac.jp/~kobamasa/>

履修上の留意点 ゼミの円滑な運営のためのルールと役割分担に従うこと。

成績評価の方法 上記の「卒業論文の提出までに必要な事前審査」を通ってきたかどうかを評価します。

参考書 高価な文献で、卒論に必要なものがあれば、早めに申し出ること(研究費で購入する)。

その他 「卒業研究」(4単位、卒業論文のみ)を併設。

履修コード	110501 110502
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	清水 卓

講義の到達目標(ねらい) EU諸国の経済社会問題について、学生各自が決めたテーマでゼミ論文あるいは「卒業研究」を作成するのが課題です。参加者の意見がまとまれば、統一したテーマを集团的に研究することもあります。一生の思い出になるよう、大学時代の学習の総まとめとして真剣に取り組んでもらいたいと思います。

講義の内容／授業スケジュール EUの時事問題の検討とEUに関する研究書の講読を行います。

履修上の留意点 演習Iを参照のこと。

成績評価の方法 演習Iを参照のこと。

教科書／テキスト 演習Iを参照のこと。

その他 演習Iを参照のこと。

履修コード	109501 109502
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	代田 純

講義の到達目標(ねらい) 金融についての研究

講義の内容／授業スケジュール 就職活動と両立させて、卒論完成をめざす。

成績評価の方法 卒業論文の提出、内容で評価する。9月以降の卒業研究中間発表をしない場合、単位は認定しない。

教科書／テキスト 特に決めない。

参考書 必要に応じて紹介する。

その他 日本経済新聞、朝日新聞その他を使用する。

履修コード	110601 110602
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	鈴木 伸枝

講義の内容／授業スケジュール 公共経済学のゼミで学んだ知識を生かし、自らの興味をもった事柄について卒論(卒業研究)を書いてもらいます。

成績評価の方法 出席状況・予習状況・討論への参加度・レポートにより評価します。

教科書／テキスト 受講者と相談して決定します。

その他 「卒業研究」を併設します。

履修コード	110901 110902
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	瀬戸岡 紘

講義の到達目標(ねらい) 「グローバル化」と「デジタル化」の時代に即応して、経済、社会、経営、文化など各自の学習と研究の成果を卒業論文にまとめます。何をテーマにとりあげるかは、各自の希望で決定します。現代経済過程の成功例、失敗例どちらも最も豊富にもっているアメリカの経験を参照するところから、意外な結論をひきだせるなら卒論は成功といえましょう。

講義の内容／授業スケジュール 卒業論文の検討と完成が年間の最大の課題です。各自の論文の構想は、ゼミ生全体からのコメントを受けることでねりあげられます（みんなが一人のために）。他方、各ゼミ生は他人のテーマに関与することで耳学問としての幅広い知識と教養を得ることができます（一人がみんなのために）。また数百人におよぶ当ゼミ卒業生との交流をつうじて、就職・進学・留学の準備をします。そのほか、日本学生経済ゼミナールへの後輩の参加を後援したり、インターネットや遠隔授業をつうじた海外の学生との交流をリードしたり、工場見学などゼミの各種イベントにスーパーバイザーとして後輩を支援します。

成績評価の方法 ゼミ活動にたいする各自のあらゆる態度を総合して評価します。最大の眼目は本人のやる気です。

教科書／テキスト 卒業論文の作成に必要なあらゆる文献が教科書になりますが、それは個人で異なります。

参考書 卒業論文の作成に必要なあらゆる文献が参考書になりますが、それは個人で異なります。

その他 このゼミは、卒業生のほか、外部の人も参加・協力してくれることの多いゼミです。このゼミにかんする一層くわしい情報は、ゼミに直接きて見学したり問いあわせたりすることのほか、ゼミ生作成による下記のホームページにアクセスしてください。
<http://setookazemi.xxxxxxxx.jp/>

履修コード	111101 111102
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	曾我 信孝

講義の到達目標(ねらい) 卒業研究の指導と実社会に向けてのマーケティングの問題点の検討をねらいとする。

講義の内容／授業スケジュール 1～15回 ゼミ生の就職希望企業のマーケティング分析。
 16～25回 卒業研究の指導およびマーケティングの社会問題の検討。
 26～29回 合同ディベート大会の準備、合同ディベート大会（12月の第2日曜に開催予定）
 30回 合同ディベート大会の反省会

履修上の留意点 就職活動のため出席が困難な場合があるでしょうが、極力出席することを義務付けます。なお、併設している卒業研究受講者は、最低1回の発表を義務付けます。

成績評価の方法 平常点（授業への取り組み態度40%、ゼミでの発表20%、ディベート大会参加40%）

教科書／テキスト 特に指定しない

参考書 必要に応じて紹介する。

関連リンク <http://geocities.yahoo.co.jp/gl/nobusoga>

履修コード	109441 109442
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	館 健太郎

講義の到達目標(ねらい) 人々のかけひきを分析するための道具である「ゲーム理論」について学習し、これを使ってさまざまな社会現象を自分の言葉で説明できるようになることをめざす。ゲーム理論は、スポーツやカードゲームの必勝法の研究というよりも、私たちの日常生活や社会のなかで起きるさまざまなかけひきをゲームとみなし、それらをいくつかのパターンに整理して結果を予想するための学問で、その応用分野はとても広い。情報通信や交通手段の発達などによってネットワーク化されている今日の経済では、人々のつながりに関する理解を深めることの重要性はますます高まっている。

本演習では主に産業組織論、すなわち企業の投資、生産、販売などを通じた競争戦略や他の企業との戦略的提携など、それぞれの産業における企業間の競争と協力について扱う。また、補助金や規制などを通じて市場への介入を行う政府の産業政策・競争政策についても考える。例えば、家電産業や情報通信産業ではしばしば製品間の互換性が重要になるが、そのときに企業はどんな戦略をとるべきだろうか。政府は何か政策を打ち出すべきだろうか。ゲーム理論という共通の土台の上で議論できるようになることを目指す。

講義の内容／授業スケジュール 現実の経済現象をゲーム理論を応用して説明する論文を作成するために、発表とコメント、文章作成と添削と繰り返しながら完成を目指す。

準備学習 さまざまな文献を読みながら早めにテーマ探しをしてほしい。

履修上の留意点 卒業研究を提出することを前提とする。

成績評価の方法 平常点、卒業研究の仮提出（10月第4週まで）、本提出（12月）と内容で評価する。

履修コード	112801 112802
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	鄭 章淵

講義の到達目標(ねらい)	この授業の目的は、ゼミ生のみなさんに第二次世界大戦後の東アジア経済の発展過程について理解を深めてもらうことである。ここでいう東アジアとは、東北アジアと東南アジアを合わせた地域を想定している。同地域の著しい経済発展は「東アジアの奇跡」として世界の衆目を集め、日本を先頭に、アジアNIEs（新興工業経済地域：韓国、台湾、香港、シンガポール）、ASEAN3（タイ、マレーシア、インドネシア）、中国、その他と続く発展の様は「雁行型発展」と称されてきた。ところが、1997年のアジア通貨危機を機に東アジア経済は混迷に陥り、雁行型発展に乱れが見られるようになった。今日の事態は、東アジア経済を発展の側面からのみ捉えるのではなく、発展と危機の両面を視野に入れたアプローチが必須であることを示している。日本の経済的パートナーとして東アジア諸国の重要性が増している現状を鑑みると、日本の将来を担う皆さんにとって東アジアを理解することは大切な課題として提起されていると言える。
講義の内容／授業スケジュール	演習I・IIでの学習を基礎に初回授業時に発表する年間スケジュールに沿って「卒業研究」（卒業論文）を作成する。ゼミ生各自のテーマに従い、グループおよび個別指導を行う。
準備学習	アジア経済に関する新聞記事（WEB含む）を常日頃から読むようにすること。
履修上の留意点	この演習では3年間のゼミ活動の集大成として卒業論文の作成を目標としているので、ゼミ生の皆さんには論文の完成に向けて大いに努力してもらいたい。
成績評価の方法	授業での積極性および卒業研究の内容を参考に評価する。
その他	「卒業研究」を併設する。

履修コード	111301 111302
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	徳永 俊明

講義の到達目標(ねらい)	発展途上諸国＝アジア・アフリカ・ラテンアメリカ諸国の国際関係とその中での人びとの生活の問題を研究します。国際政治・経済のなかでの人間と人間との関係、とくに発展途上諸国民が直面している“貧困”と彼らのたにかいについて学びながら、日本・日本人・そして私たち一人ひとりの“豊かさ”と“貧困”を考えます。
講義の内容／授業スケジュール	上の趣旨にそって学生諸君と相談しながらすすめます。
履修上の留意点	何よりも＜考える＞努力を求めます。
成績評価の方法	＜考える＞努力をしたかどうかをもって評価します。
参考書	考え、討論するための資料を使ってすすめます。
その他	演習IIIに卒業研究を併設します。（希望者のみ。）

履修コード	112601 112602
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	友松 憲彦

講義の到達目標(ねらい)	演習II（3年）で開始した研究を継続発展させ、卒業研究をまとめます。
講義の内容／授業スケジュール	文献講読と卒業研究の中間報告を並行しておこないます。
履修上の留意点	「経済史」、「西洋経済史」「日本経済史」「商業史」等をあわせて履修することが望ましい。
成績評価の方法	平常点（ゼミに取り組む姿勢、報告、発表、討論）と年度末レポートを総合して評価します。
教科書／テキスト	最初の授業で指示します。
その他	卒業研究を併設します。合宿や博物館訪問、展覧会見学を予定しています。

履修コード	112501 112502
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	中濟 光昭

講義の到達目標(ねらい)	卒業論文作成を中心にゼミを進めます。毎回、各自の研究内容における問題点を明確にし、それについて全員で討論・アドバイスをすることで、お互いの卒業論文の内容を高めていくことで、比較的長い文章を誤字や論理的矛盾なく完成することを目的とします。
講義の内容／授業スケジュール	・研究計画書作成 ・論題の提出 ・研究テーマに関する調査・分析 ・レジュメ作成、レポーティング、発表 を行い、最終的に卒業論文を完成させます。
履修上の留意点	・ゼミへの積極的な参加を期待しています。 ・追加募集は致しません。 ・メールを読む、ワープロを打つといったことがゼミ活動上必須です。
成績評価の方法	進捗報告（50%）、討議への参加（50%）による総合評価を行います。
教科書／テキスト	別途指示
参考書	別途指示
その他	ゼミではパソコンを使用しますので、本ゼミを受講したい人は、総合情報センターへ利用登録を行う必要があります。卒業研究（論文及び作品）を併設します。
関連リンク	http://www.komazawa-u.ac.jp/~nakasumi/

履修コード	109451 109452
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	長山 宗広

講義の到達目標(ねらい)	テーマ：「地域の活性化」 演習IおよびIIでの学びを活かし、4年間の経済学部での学習と研究の集大成として、「卒業研究」の作成に取り組む。
講義の内容／ 授業スケジュール	各ゼミ生の「卒業研究」報告を中心に討論する。 卒業論文の提出にあたっては、「研究企画書の作成」「中間報告会での予備審査」「最終原稿の審査」といったプロセスを経る必要がある。
履修上の留意点	演習I、IIと同じ。
成績評価の方法	演習I、IIと同じ。 この他、上記の卒業論文提出までのプロセスに関して評価する。
教科書／テキスト	演習I、IIと同じ。
参考書	演習I、IIと同じ。
その他	「卒業研究」を併設する。

履修コード	112101 112102
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	番場 博之

講義の到達目標(ねらい)	番場ゼミ(演習III)の目的は、現代日本の流通・産業および世界の文化・暮らしと経済・産業の関係の研究と卒業論文の執筆である
講義の内容／ 授業スケジュール	(1~20) 企画授業・プレゼンテーション (21~30) 卒論報告 上記の内容と並行して、「日経MJ」「日経産業新聞」「朝日新聞」といった新聞あるいは「週刊ダイヤモンド」「企業診断」「商業界」などのビジネス誌を用いて、現在の日本経済事情・産業事情のなかからトピックを取り上げ、それについて全員で議論をする。また、各種地図・統計資料や旅行ガイドブック・時刻表なども用いて、各国の文化・経済の事情を検討しながら現在の世界経済・産業事情(特に流通・サービス産業)の状況についての議論を行う。 これらの学習ならびに2年次からの学習の成果を確認すべく、年末にディベートを行う。そこでのテーマは、4年次に議論してきた世界経済、日本の産業事情などのなかから、共通して関心をもった事柄を選定する。 数回に分けて「江戸東京博物館」「塩とたばこの博物館」などの文化施設のほか、中央・地方の卸売市場や大市や六蔵市などを訪問する。
履修上の留意点	詳細なシラバスは開講時に配布
成績評価の方法	日常の活動やゼミへの貢献度等を総合的に評価
教科書／テキスト	教科書は使用しない。 新聞・雑誌・統計資料などを使用していく。
参考書	基本的な書籍、新聞、雑誌、地図、統計資料、ガイドブックなどは研究室で揃えます。

履修コード	321201 321202 321203
科目名	演習III 課題研究 演習II
担当者名	番場 博之

講義の到達目標(ねらい)	この演習の目的は、流通産業・サービス産業の研究である
講義の内容／ 授業スケジュール	(1~20) 調査・研究報告 (21~30) 課題研究・研究報告
履修上の留意点	演習の進め方は履修者と相談して決めます。
成績評価の方法	平常点評価
教科書／テキスト	必要な場合には、履修者と相談して決めます。
その他	4年次からの履修を受け付けます。該当者は早めに相談に来てください。

履修コード	111901 111902
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	百田 義治

講義の到達目標(ねらい)	本演習は演習I・IIの継続として位置づけています。現代企業の経営管理に関わるテーマを中心に、演習IIの夏休み後に決定した卒業論文の作成に取り組みます。
講義の内容／授業スケジュール	演習I・IIの継続です。各人のテーマについて「卒業研究」に取り組み、毎回2人ずつ卒業研究の進捗度を発表します。 前期 第1回 インTRODクシヨ 第2回～第5回 毎回2名、計8名が発表 第6回 第1回の間総括 第7回～第10回 毎回2名、計8名が発表 第11回 第2回の間総括 第12回～第13回 毎回2名、計4名が発表 第14回～第15回 前期総括と課題の確認 後期 前期と同じスケジュールで、第16回～第30回に「卒業研究」の発表を行います。
履修上の留意点	経済雑誌や新聞やネット情報などを日常的に熟読・検索し、現代企業とその経営に関心を払い、各自の問題意識をもってゼミに参加してください。
成績評価の方法	ゼミにおけるリーダーシップ、発表内容、レポートなどを総合して平常点評価を行います。
教科書／テキスト	未定
参考書	未定
その他	「卒業研究」（4単位）を併設します。

履修コード	113001 113002
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	堀 龍二

講義の到達目標(ねらい)	演習IとIIの履修を前提にし、その集大成として各自が興味あるテーマに関して論文ないし本格的レポートを作成することを目指す。テーマは広く労働に関連する問題が望ましい。
講義の内容／授業スケジュール	各自のテーマに沿って、調べたことや纏めたことを、逐次報告してもらい、全員で討論・アドバイスを形式で進める。また毎回のゼミでは、最初の20分で、1週間の新聞記事の内容整理を行い、最新の動向をおさえる作業を行う。新聞記事の整理は、現代的な問題意識を養うのに適しているからである。こうしたプロセスにおいて、問題意識の深め方、情報収集の仕方・整理、論理的な記述の方法、レポートや論文の作法なども身に付けていくことにする。
準備学習	毎回の下調べやゼミでの議論をメモして、情報カードに残しておくこと。溜まった情報カードを組み合わせる体系的な理解を獲得するとともに、論文作成の基礎情報を整理することが目的です。
履修上の留意点	興味をもった問題の検討をまとめるという作業は考えることそのものである。そうした作業は必ずや役に立つ。
成績評価の方法	ゼミでの積極的な姿勢、レポート・論文への取り組みと成果で評価します。
教科書／テキスト	ゼミ生と話し合っ決定します。
参考書	適宜指示します。
その他	「卒業研究」を併設します。

履修コード	321241 321242 321243
科目名	演習III 課題研究 演習II
担当者名	堀 龍二

講義の到達目標(ねらい)	労務管理や人的資源管理に関する基本的知識の習得、現代的問題意識の喚起、それらに基づいてテーマを設定してアプローチすることなどをねらいとしている。現代の日本企業で働くとき、企業の働き方やねらいと自らの望む働き方とをいかに調和させていくかを考えてもらいたい。雇用はどうあるべきか。賃金・処遇は何を基準にすべきか。仕事をする能力をどのように育成していくのか、企業が考える問題は、働く者の職業人生に大きく関係・影響する。労働のあり方を身近な問題として考えたい。
講義の内容／授業スケジュール	最初は適当なテキスト、新聞記事、資料を利用して、輪読や要旨報告の形で知識の習得と現代的な問題意識の喚起を図る。次にゼミ生の数にもよるが、グループ研究を行う。グループごとに小テーマを決めて、資料、新聞やネットを利用して下調べをしてその成果をゼミで報告し、全員で討論する。適宜、統計資料の利用方法の実践、諸外国との比較なども行う。
準備学習	毎回の下調べやゼミでの議論をメモして、情報カードに残しておくこと。溜まった情報カードを組み合わせる体系的な理解を獲得するとともに、課題研究作成の基礎情報を整理することが目的です。
履修上の留意点	テキスト・資料・新聞記事などを読んで、分かりにくいと感じたところをそのままにしないで、ゼミで疑問をぶつけるような積極的な姿勢の持ち主を歓迎する。
成績評価の方法	ゼミへの出席・参加、丹念な下調べ、レジュメ・レポートの提出、積極的な発言を中心に評価する。
教科書／テキスト	初回に相談して決める。
参考書	適宜、紹介する。
その他	課題研究を併設する。 専修課程「企業労働」を認定する。系統学習に必要な科目は、社会政策、労働法、経営管理論、企業統治論、人的資源管理論、演習などである。

履修コード	113101 113102
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	松井 柳平

講義の到達目標(ねらい)	卒論を完成させる。
講義の内容/ 授業スケジュール	卒論指導。
履修上の留意点	受講生は、3年次からの継続に限る。
成績評価の方法	成績は授業中のゼミへの貢献によって評価する。具体的には、報告内容、質疑応答、討論への参加、課題達成度、ゼミ行事への積極的参加等を総合して評価する。出席は必須条件である。
教科書/テキスト	必要な場合、輪読をおこなう。テキストは、ゼミ生と相談の上、決定する。
参考書	授業のなかで必要に応じて、指示する。
その他	「卒業研究」を開設する。

履修コード	109461 109462
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	松田 健

講義の到達目標(ねらい)	<p>本演習では、「現代における企業と社会との関係を、どのように捉えればよいのか」という命題に基づきながら、企業経営の現代的課題や企業活動の体系的理解を通じて企業を広く理解する視点を身につけることを目標としています。</p> <p>とりわけ1990年代以降、企業の経済活動が急速にグローバル化したことを受け、それ以前の社会・政治・文化・国際関係といった多様な領域における諸問題と企業との関係性は大きく変容しつつあります。企業が持つ経済的性格のみならずその社会的性格にも焦点を当て、企業を社会経済システムの中に位置づけながら、企業と社会との相互関係から生じている現代的諸問題を考察し、それを卒業研究につなげていきたいと考えています。</p>
講義の内容/ 授業スケジュール	<p>本演習では、企業形態、株式会社制度、企業統治ならびに企業の社会的責任などに代表される、現代の企業に関する重要な課題を考察の対象とします。一年を通じて、企業に関する基礎的な知識、概念ならびに理論に対する考察を踏まえ、各自で設定した研究テーマにしたがって卒業研究論文の作成を試みます。</p> <p>第1回 オリエンテーション：論文作成の手順 第2回～第5回 演習参加者各自の研究課題テーマについての討論 第6回～第10回 演習参加者各自の研究課題に関する資料輪読（1） 第11回 小括：資料輪読（1）による知見をまとめた研究報告（1） 第12回～第14回 演習参加者各自の研究課題に関する資料輪読（2） 第15回 小括：資料輪読（2）による知見をまとめた研究報告（2） 第16回～第20回 演習参加者各自の研究課題に関する資料輪読（3） 第21回 小括：資料輪読（3）による知見をまとめた研究報告（3） 第22回～第26回 演習参加者各自の研究課題に関する資料輪読（4） 第27回 小括：資料輪読（4）による知見をまとめた研究報告（4） 第28回 論文作成の技術的指導：製本に向けて 第29回 卒業論文口頭試問（1） 第30回 卒業論文口頭試問（2）</p>
準備学習	卒論作成に向け、新聞やビジネス雑誌等は各自で必ず読んでおくこと。
履修上の留意点	卒業研究に向け、自らが設定した研究課題を体系的な論文にまとめ上げていく作業には、強い自律心が求められます。したがって演習参加者は、自らの課題を自らが設定し、その課題に自らがチャレンジするという気概を持って演習に参加してください。卒業研究が提出されない場合は単位認定が取り消される場合があります。
成績評価の方法	授業への出席は最低要件です。卒業研究にかかわる各自の報告を主たる評価の対象としながら総合的に評価します。
教科書/テキスト	開講時に指示します。
参考書	経営学辞典あるいは経営学用語集。
その他	卒業研究を併設します。

履修コード	321261 321262 321263
科目名	演習III 課題研究 演習II
担当者名	松田 健

講義の到達目標(ねらい) 本演習では、「現代における企業と社会との関係を、どのように捉えればよいのか」という命題に基づきながら、企業経営の現代的課題や企業活動の体系的理解を通じて企業を広く理解する視点を身につけることを目標としています。

とりわけ1990年代以降、企業の経済活動が急速にグローバル化したことを受け、それ以前の社会・政治・文化・国際関係といった多様な領域における諸問題と企業との関係性は大きく変容しつつあります。企業が持つ経済的性格のみならずその社会的性格にも焦点を当て、企業を社会経済システムの中に位置づけながら、企業と社会の相互関係性から生じている現代的諸問題を考察し、それを卒業研究につなげていきたいと考えています。

講義の内容／授業スケジュール 本演習では、企業形態、株式会社制度、企業統治ならびに企業の社会的責任などに代表される、現代の企業に関わる重要な課題を考察の対象とします。一年を通じて、企業に関する基礎的な知識、概念ならびに理論に対する考察を踏まえ、各自で設定した研究テーマにしたがって卒業研究論文の作成を試みます。

第1回 オリエンテーション：論文作成の手順
第2回～第5回 演習参加者各自の研究課題テーマについての討論
第6回～第10回 演習参加者各自の研究課題に関する資料輪読（1）
小括：資料輪読（1）による知見をまとめた研究報告（1）
第11回 演習参加者各自の研究課題に関する資料輪読（2）
第12回～第14回 演習参加者各自の研究課題に関する資料輪読（2）
小括：資料輪読（2）による知見をまとめた研究報告（2）
第15回 演習参加者各自の研究課題に関する資料輪読（3）
第16回～第20回 演習参加者各自の研究課題に関する資料輪読（3）
小括：資料輪読（3）による知見をまとめた研究報告（3）
第21回 演習参加者各自の研究課題に関する資料輪読（4）
第22回～第26回 演習参加者各自の研究課題に関する資料輪読（4）
小括：資料輪読（4）による知見をまとめた研究報告（4）
第27回 論文作成の技術的指導（1）
第28回 論文作成の技術的指導（2）
第29回 論文作成の技術的指導（2）
第30回 課題研究論文口頭報告

履修上の留意点 課題研究に向け、自らが設定した研究課題を体系的な論文にまとめ上げていく作業には、強い自律心が求められます。したがって演習参加者は、自らの課題を自らが設定し、その課題に自らがチャレンジするという気概を持って演習に参加してください。

成績評価の方法 講義への出席は最低要件です。したがって卒業研究にかかわる各自の報告を主たる評価の対象としながら総合的に評価します。

教科書／テキスト 基本となる教科書は開講時に指示しますが、その他に日本経済新聞あるいは日経ビジネスを使用します。

参考書 経営学辞典あるいは経営学用語集。

その他 課題研究を併設します。

履修コード	109471 109472
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	松本 典子

講義の到達目標(ねらい) 演習IIで研究したことを基礎に、卒業研究をまとめます。また、非営利組織・社会的企業の経営学についての理解を深めます。

講義の内容／授業スケジュール 各自の研究テーマにあわせて、文献講読、調査・分析を行い、卒業研究に取り組みます。講義内での発表、サブゼミにおいて中間報告を行うことで、卒業研究の質を高めます。

履修上の留意点 積極的に物事を調べ、積極的な姿勢で授業にのぞんでください。

成績評価の方法 出席およびゼミの活動にもとづいて総合的に判断します。

教科書／テキスト ゼミ生と相談の上、決定します。

参考書 参考文献や報告書、新聞・雑誌記事、関連HPなどを随時紹介します。

その他 卒業研究を併設します。

履修コード	109301 109302
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	溝手 芳計

講義の到達目標(ねらい) 食品の安全、南北問題、環境問題、過疎地域問題といったさまざまな問題が、近年、注目を集めています。これらは、農業のあり方、特に多国籍アグリビジネス（農業・食料関連産業）の影響力の増大、WTO体制への移行などと大きく関わっています。ゼミでは、上に掲げたような諸問題の理解と対策の手がかりを求めて、一緒に考えていきたいと思えます。演習IIIでは、ゼミ生自身の考えを整理し、表現する力の取得を目指します。

講義の内容／授業スケジュール 演習IIIでは、卒業研究に向けて、個別指導と集団討論を中心に進めます。

履修上の留意点 ゼミは集団学習、相互修練の場です。世の中、答えが一つと決っていません。学生相互の疑問の出し合い、教えあい、意見交換を大切にしてください。“みんな違ってみんないい”でいきましょう。

成績評価の方法 平常の議論への参加状況や卒業研究に向けた取り組み姿勢を基本として評価します。

教科書／テキスト 木下是雄『レポートの組み立て方』、ちくま学芸文庫、780円＋税、ISBN4-480-08121-6
他は、別途指示します。

参考書 必要に応じて紹介します。

その他 「卒業研究」を併設します。

履修コード	316901 316902 316903
科目名	演習III 課題研究 演習II
担当者名	溝手 芳計

講義の到達目標(ねらい)	食品の安全、南北問題、環境問題、過疎地域問題といったさまざまな問題が、近年、注目を集めています。これらは、農業のあり方、特に多国籍アグリビジネス（農業・食料関連産業）の影響力の増大、WTO体制への移行などと大きく関わっています。ゼミでは、上に掲げたような諸問題の理解と対策の手がかりを求めて、一緒に考えていきたいと思えます。
講義の内容／授業スケジュール	テキストの輪読とディスカッションを中心に進めます。レジュメの作成、発表のやり方、議論の進め方など、集団学習のスキル取得も重視します。
準備学習	テキストの予習が必要です。
成績評価の方法	レポートと発表の内容・態度、議論への参加状況などを総合的に評価します。
教科書／テキスト	ゼミ生と相談の上、決定します。ただし、領域は、食料、農業、農村、環境に関わるものとします。
参考書	随時、紹介します。

履修コード	111401 111402
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	光岡 博美

講義の内容／授業スケジュール	演習Ⅰ、Ⅱの勉強をもとに、総仕上げとしてのゼミ論文を完成させることが演習Ⅲの最大の目的です。ゼミ論文については、その内容はもとより、論文としての形式や体裁についても指導します。なお、「卒業研究」を併設します。ゼミ論文の完成の直前の時期には合宿（2泊3日程度）を行い、また、ゼミ論文の発表会の場とします。ゼミでの勉強の総仕上げとしての意味をもつ合宿です。全員参加を原則とします。
成績評価の方法	ゼミ論文の完成度によって評価します。ゼミ論文未提出者は単位を認定しません。なお、演習Ⅲには課題研究を併設します。

履修コード	109481 109482
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	村松 幹二

講義の到達目標(ねらい)	本演習ではこれまでの演習や共同研究において習得した知識にもとづき、各自の問題意識を踏まえて、卒業研究の作成を行なう。 卒業研究では、自身の意見を論理的に構成し、それに関する十分な実証的根拠を示し、相手に伝わる発表を行うことが必要とされる。そのために必要な論理的思考能力、資料収集・整理能力、プレゼンテーション能力を養い、自らの問題意識を卒業研究の形でまとめることを目的とする。
講義の内容／授業スケジュール	卒業研究の作成は、テーマの選定、論理の組み立て、資料収集・整理、本文の執筆、内容の報告の順に進める。ゼミ形式での発表と個別指導の形で演習を行なう。
履修上の留意点	特別な事情がない限り、毎回出席すること。原則として4年生の新規募集は行わない。
成績評価の方法	卒業研究の内容を中心に、ゼミへの出席状況、卒業研究作成プロセス、研究のプレゼンテーションなどから総合的に評価する。
参考書	卒業研究の課題に応じて個別に紹介する。

履修コード	110801 110802
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	森岡 仁

講義の到達目標(ねらい)	「卒業研究」の論文作成。 (新規募集はしない)
講義の内容／授業スケジュール	各自が決定した論文のテーマに沿って議論を重ね、最終的には論文の完成を目指す。
成績評価の方法	出席状況。
教科書／テキスト	特に使用せず。
参考書	論文テーマに沿って適宜指示する。
その他	「卒業研究」を併設。

履修コード	109401 109402
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	森田 佳宏

講義の到達目標(ねらい)	本演習は「卒業研究」（卒業論文）の研究報告を中心に行う。卒業論文のテーマは、演習Ⅰおよび演習Ⅱにおいて習得した財務会計および監査の知識にもとづき、これらの領域から各人が自由に決定することを原則とする。
講義の内容／授業スケジュール	卒業論文の報告は、テーマの選定、章立ての決定、内容の報告の順に進める。
履修上の留意点	特別な事情がない限り、毎回出席すること。なお、原則として4年生の新規募集は行わない。
成績評価の方法	最終的な卒業論文の内容はもとより、その作成過程における報告内容（レジュメを含む）、さらにはゼミ活動に対する取り組みなどを考慮に入れて総合的に評価する。卒業論文未提出者には演習Ⅲの単位を認定しない。
教科書／テキスト	原則として使用しない。
参考書	演習時に適宜紹介する。

履修コード	110201 110202
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	谷敷 正光

講義の到達目標(ねらい) テーマ〔経済発展と人材・技術〕
4年ゼミは、戦前日本経済の発展（工業化の準備期から産業資本確立期まで）と戦後の経済成長（復興期から失われた十年まで）を中心に、経済・産業を支えた人材や技術開発、工場内教育、教育制度など幅広く各自の問題意識に応じて自由に論題を設定して研究します。12月にはゼミ論文を完成し、論文集に発表します。

講義の内容／授業スケジュール 〔4年ゼミ〕は、就職活動で会社訪問する機会が多くなるので、プレゼンテーション、ディスカッションが難しくなります。したがって基礎文献、参考資料を使って、日本経済の発展と技術、人材、教育の検証を行うとともに〔卒業研究〕の作成が中心になります。
〔卒業研究〕は、2年生からゼミで学んできた集大成として各自の問題意識として自由に論題を設定し、論文の作成をすすめます。12月には完成し、教務部に提出します。
第1回～第5回 → 「卒業研究」論文の書き方、論題の設定、問題提起の仕方。
第6回～第20回 → 論文の構成の仕方、基礎資料の収集の仕方（駒澤大学図書館、他大学図書館、国会図書館、政府関係機関など）、論文の構成・基礎資料の収集等に関して個別指導。
第21回～第22回 → 「卒業研究」作成に向けて「執筆要領」（「卒業研究手引き」「ゼミ論文の書き方」を配布）の説明。
第23回～第28回 → 「卒業研究」作成に向けて個別指導。
第29回 → 「卒業研究」の仮提出（「執筆要領」が守られているか確認。未完成部分の個別指導）。
第30回 → 「卒業研究」本提出。

準備学習 日頃より新聞や雑誌「エコノミスト」「東洋経済」などを読み、世界経済や日本経済に関心を持つこと。
履修上の留意点 就職活動で多忙になるが、できるだけ授業に出席して下さい。
成績評価の方法 平常でのゼミ活動状況、「卒業論文」（卒業研究）の制作作業、討論で評価します。
教科書／テキスト 演習の時間に適宜紹介します。
参考書 各自の問題意識や論題によって、その都度、適宜紹介します。
その他 4年ゼミでは「卒業研究」を併設しています。希望する人は併せて履修することができます。「卒業研究」の進め方は4年ゼミの中で適宜説明します。

履修コード	110701 110702
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	矢野 浩一

講義の到達目標(ねらい) 演習のテーマは「ビジネス・経済・社会についての実証的アプローチ」である。ビジネス・経済・社会などの様々な問題について自分の力で考え行動できるように実証分析のやり方を学ぶ。それには統計学や経済学・データ分析などの知識が必要である。さらに自分の意見をしっかりと人に伝える文章表現やプレゼンテーション能力、自分の意見を裏付ける統計手法を身につけることを目指す。

講義の内容／授業スケジュール 演習I・IIでの学習内容を継続的に発展させ、卒業研究の形で4年間の学習成果をまとめることを最終目標とする（ただし、学生ごとに理解度にばらつきがあると思われるために、演習内容はそれに依りて柔軟に対応する）。

準備学習 教科書・参考書・資料等を予習しておくこと。
履修上の留意点 「統計原論」「ミクロ経済学」「マクロ経済学」「応用マクロ経済学」等の関連科目をあわせて履修することが望ましい。また、連絡のために駒澤大学総合情報センターのアカウントを取得しておくこと。
成績評価の方法 出席を中心に、発表内容・発言・ゼミへの貢献から判断する。
教科書／テキスト 教科書は開講時に協議する。
参考書 テキストのみにこだわらずゼミ生の興味に沿った論文を取り上げていく。
その他 「卒業研究」を併設する。演習IIIは卒業論文の指導が中心のため、履修登録時の登録を忘れないこと。

履修コード	111001 111002
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	山縣 弘志

講義の到達目標(ねらい) 比較経済論の専門的学習、研究を進め、論文作成をめざす。

講義の内容／授業スケジュール 3年次からの継続。就職活動に取り組みながら、各自の自主研究の発表を行ない、論文の形にまとめていく。

成績評価の方法 出席、発表、討論参加を総合評価する。
その他 「卒業研究」あり。

履修コード	109491 109492
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	吉田 真広

講義の到達目標(ねらい) 1 国際金融現象の基礎にある原理や制度を学ぶと共に、日本経済に与える今日の国際金融の様々な問題について理解を深め、自らがより深く学ぶべき課題を見つけること。
2 自らの研究対象へのアプローチの仕方を身につけ、それを実践していくこと。

講義の内容／授業スケジュール 最初はテキストを用いた授業を行います。自らの研究課題の経過報告とアドバイスを中心としたものにしていきます。

準備学習 常に自らの研究課題と向き合うこと。
履修上の留意点 特にありません。
成績評価の方法 出席は当たり前のことなので評価対象にはしていません。研究課題にどれだけ真剣に取り組んだのか、によって判断します。
教科書／テキスト 随時示します。
参考書 随時示します。
その他 特にありません。

履修コード	112401 112402
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	渡邊 恵一

講義の到達目標(ねらい)	近現代日本の経済史・経営史に関連したテーマにもとづく卒業研究(卒論)を、教員の指導を受けつつ執筆する。受講生は、執筆に必要な資料や統計データをできるかぎり渉猟し、実証密度の高い分析作業に挑んでもらう。
講義の内容／授業スケジュール	(1)前期ガイダンス、(2)～(14)目次案の作成、論文執筆や図表作成の技法、先行研究のサーベイ、参照資料・統計データの収集などに関する指導、(15)卒業研究中間報告会、(16)後期ガイダンス、(17～29)卒業研究の草稿作成と個別添削指導、(30)卒業研究最終報告会 *詳細については、前期ガイダンス、後期ガイダンス時に知らせる。
準備学習	前期・後期とも、所定のスケジュールにしたがって各自で進めておくこと。
履修上の留意点	受講生の新規募集は行わない(演習IIの継続者のみ受講可)。
成績評価の方法	卒業研究の作成に取り組む姿勢と論文の完成度で評価する。
教科書／テキスト	開講時に受講生と相談のうえ指定する。
参考書	個別指導の中で、適宜紹介していく。
その他	「卒業研究」を併設する。

履修コード	109411 109412
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	渡辺 雅男

講義の到達目標(ねらい)	卒業研究を行うためのゼミ活動を行います。 社会人になってから即戦力となる「資料収集能力」「レジュメ等の書類作成能力」「討論・プレゼンテーション能力」、さらにみんなで協力してプロジェクトを成功させるためのプランニング能力を身につけることが目標のひとつです。 また、大学生活の集大成としての年度にふさわしく、卒業研究の成果を論文としてまとめる作業とリンクさせるゼミ活動を行います。
講義の内容／授業スケジュール	演習IIに引き続き、グローバル化の下での国民生活の問題を扱います。食料問題、農業問題、地域経済に大きな影響をもたらすグローバル経済システムの実態を読み解く理論的枠組みを合わせて学んでいくので、経済理論の基礎も同時に身につきます。 卒業研究を行うためのゼミ活動となります。
履修上の留意点	就職活動中であっても、ゼミは通常通り毎週開かれます。 やむを得ない理由でゼミを休む時もかならず連絡を毎度入れることが必須となります。 自分が休む場合には、事前に提出物の提出、報告内容(レジュメ)等の送付などの作業が必要です。 就職活動を孤独ななかで行わない、就職活動だけの学生生活にならない、それが就職活動を成功に導くものです。 語れることをたくさん身につけて社会に出ていけるよう、ゼミで卒業まで頑張りましょう。
成績評価の方法	報告・討論への参加、提出物を含め、平常点で評価します。
その他	卒論を書き上げるというのは、苦しい作業ですが、あとで振り返ってみると人生の出発点を確定する貴重な体験です。これからの人生のすべてが詰まっている宝物となるものです。就職活動とうまく両立させて、悔いのない卒論を書き上げてください。

履修コード	096101
科目名	応用情報処理I
担当者名	井川 俊実

講義の到達目標(ねらい)	表計算ソフト(Excel)を使用したデータの分析やグラフ化は経済学を学ぶものにとっても必要不可欠なものになっています。この講義では、Excelの基本操作を習得しているものが経済分析などへの応用に活かせるように更に高度な技法を習得することを目的とします。
講義の内容／授業スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> Excelの基本操作(セル参照、合計関数など) ピボットテーブル VLOOKUP関数 ExcelVBAの基礎 相関と単回帰分析 パレート図の作成とABC分析 ゴールシークとソルバー、線形計画法への適用 重回帰分析(3変数間の相関) ExcelVBA応用(ユーザーフォームの作成)
履修上の留意点	1)本講座は応募人数によっては履修制限を行う場合があります。 2)Excelの応用面に重点を置くので、「情報入門」講座、「基礎情報処理」講座を履修するなど、Excelの基本操作は知っていることを前提にしています。
成績評価の方法	講義の中で課す課題及び出席状況により評価します。
教科書／テキスト	配布資料(講義時に随時配布します)。
参考書	日花弘子『仕事に役立つExcelビジネスデータ分析 改訂版』ソフトバンククリエイティブ2,680円ISBN978-4-7973-4636-7 木村幸子『速効!図形Excel2007 データベース編』毎日コミュニケーションズ1,580円ISBN978-4-8399-2336-5
その他	本講座はYeStudyを利用した講義になります。

履修コード	096201
科目名	応用情報処理II
担当者名	井川 俊実

講義の到達目標(ねらい) プレゼンテーション技術は、企業の営業活動や社内会議などでのプレゼンテーションで非常に重要なものになっていますが、大学においても研究成果の発表などで今後ますます重要になってきます。本講義では、プレゼンテーションツールの代表とも言えるPowerPointを使用して、効果的な発表資料の作成とその資料に基づく発表を繰り返し行うことで実際に活用できるレベルのプレゼンテーション技術を習得します。

講義の内容／授業スケジュール

- ・図解のポイント
- ・PowerPointの基本操作（クリップアート・写真の取込み、表・棒グラフ、円グラフ・Excel表・組織図）
- ・報告書、提案書、企画書の作成
- ・アニメーションの設定
- ・良い図解悪い図解
- ・プレゼンテーション技法
- ・プレゼン資料作成とプレゼンの実施
- ・PowerPointの実践技

履修上の留意点

- ・本講座は応募人数によっては履修制限を行う場合があります。
- ・PowerPointの活用面に重点を置くので、「情報入門」講座、「基礎情報処理」講座を履修するなど、PowerPointの基本操作は知っていることを前提にしています。
- ・PowerPointで作成した資料の発表に多くの時間を割くので、欠席や遅刻をしないこと。

成績評価の方法 作成したPowerPoint資料とその発表及び出席状況により評価します。

教科書／テキスト 配布資料（講義時に随時配布します）。

参考書 大槻有一郎『はじめてのPowerPoint2007基本編』秀和システム1,200円ISBN978-4-7980-1542-2
アスキー書籍編集部『Z式マスター パワーポイント2007』アスキー1,480円ISBN978-4-7561-4910-7

その他 本講座はYeStudyを利用した講義になります。

履修コード	092711
科目名	応用マクロ経済学
担当者名	矢野 浩一

講義の到達目標(ねらい) この講義ではマクロ経済学を中心として経済学の基礎的な知識を学びながら日本経済や世界経済が抱える様々な問題について理解を深めていく。特に経済学の理論を学ぶだけでなく、それらを様々な社会問題・経済問題への応用することによって、より実践的な知識を身につけることを主眼としている。受講することにより新聞や雑誌、インターネットで取り上げられる様々な社会問題・経済問題について自分で考えられるようになり、社会人になっても役立つ知識が身に付く。

講義の内容／授業スケジュール

1. 戦後日本経済の変遷：移り変わる産業と経済
2. 市場経済の登場人物：家計・企業・政府、市場、そして海外
3. 価格と市場（1）：完全競争市場とは何か
4. 価格と市場（2）：「需要と供給」分析
5. 生産物市場：企業の役割と責任
6. 余剰分析：社会余剰の分析と家賃規制
7. 労働市場：労働者の権利と規制
8. 市場の失敗（1）：独占と寡占、政府の役割
9. 市場の失敗（2）：情報の非対称性と消費者保護
10. 公共財と政府の役割：共有地の悲劇とただ乗り、税と社会資本
11. 外部性と温暖化、ピグー税：環境汚染を避けるには？
12. 貨幣と中央銀行・銀行：金融システムと信用創造
13. 利子と割引現在価値：貸付資金市場の役割
14. 株価と金融市場：株価、企業、株価指数、景気の変動
15. 国内総生産（1）：国の経済規模を測定する
16. 国内総生産（2）：誰が何をどのくらい使うのか？
17. 物価水準（1）：消費者物価指数、様々な物価
18. 物価水準（2）：インフレーションと失業、ハイパーインフレ
19. 経済成長（1）：生産性
20. 経済成長（2）：自然率仮説
21. 景気統計：データの見方、景気が良いとはどういうことか
22. 家計：合理的家計とそうでない家計、ライフサイクル仮説
23. IS-MP-PC分析（1）：景気の変動の仕組み
24. IS-MP-PC分析（2）：景気安定化のための政府・日銀の役割
25. IS-MP-PC分析（3）：財政政策と財政維持可能性
26. 社会保障：年金と少子高齢化、所得再分配
27. 貿易と比較優位：貿易と国際収支、関税、自由貿易と農業
28. 国際金融：為替レートと国際協調
29. 南北問題と経済成長：支援と自立
30. 経済学で分かっていること、分かっていないこと

準備学習 教科書と事前に配布する講義資料をよく読んでおくこと。

履修上の留意点 特に予備知識は必要としない。基本的には数学は用いないが、必要な場合は講義の中で解説する。講義には積極的に参加すること。また、私語は厳しく禁じる。携帯電話の電源は切るか、マナーモードすること。これらの常識が守れない者は退出させることがある。

成績評価の方法 定期試験・レポート・小テストによる総合評価とする。

教科書／テキスト 「スティグリッツ入門経済学」（東洋経済新報社）、3675円、ISBN-10: 4492313486

履修コード	092611
科目名	応用ミクロ経済学
担当者名	荒木 勝啓

講義の到達目標(ねらい) 全体テーマを「ミクロ経済学はどのように実践的に役に立つのか」とする。ミクロ経済学に馴染みのない学生でも理解可能なように、数学基礎から解説するが、飽くまで最終テーマは「役に立つ」であるので、最後までテーマを見失わないように。役に立つとは、経済学的には最適性と言い換えることができる。したがって、以下の小テーマは、各局面に応じた最適手法のバリエーションである。そのような観点から俯瞰すると、我々は経済の各局面で結局は最適な行動を追い求めているのだということに気が付き、テーマが自ずと見えてくるであろう。授業では、世界中で日々実行されている計算を、株価などのデータをもとに、関数電卓を使って実習する。

全体テーマを具体的に小テーマに分けると次のようになる。
まず経済学における制約付き最適化を身につけるために

(1) 制約付き最適化問題—ラグランジュ乗数法の習熟

次に要素間の最適代替関係の具体化として

(2) 長・短期費用関数の導出—撤退か拡張か

を学習する。さらにその応用としての

(3) 最適在庫管理問題

を学習する。これは経営学・経営工学では必修項目である。

以上は基礎的なミクロ経済学の復習ともなっている。

経済学における割引(discount)の概念を身につけるために、生活に身近な

(4) ローン計算の方法—毎月いくら返済すればよいか

を実習する。金融・証券・貿易・不動産・流通などの分野を将来目指す学生ならばこの知識は必要不可欠である。速算法(近似法)も学習する。

最後に現代社会における最大テーマの1つであるリスク最小化問題の

(5) 最適ヘッジの方法—現物と先物のポートフォリオを例に

を統計手法とともに計算する。(5)のために特にベータの求め方とt-検定という統計的手法も合わせて学習する。(5)によって金融工学のメイン・テーマとしての「ヘッジ」の実際が理解されるであろう。証券アナリストやファイナンシャル・プランナーを目指す学生にとってはいうまでもなく必須の知識である。

なおここにたどり着く前に煩雑な統計分析の知識を講義するが(下記19-23)、その過程で基本テーマを見失う学生が多いことが、アンケート調査からもわかる。しかし、抽象理論を現実化するにはデータ解析が不可欠であり、それには統計分析以外あり得ない。理論が力となるためにこの回り道は必要である。

以上を時期的に大きく2つに分けると(1)から(3)が前期で(4)から(5)が後期である。授業には計算のために関数電卓(1000円程度から各種売られている)が必要である。

実社会では計算はコンピュータによりなされているが、それだからこそ、良い悪いは別にして世の中はそのように回っているのだということを電卓による手計算で実感することが必要で、その感覚はおそらく、将来諸君のビジネスに生かされることであろう。

講義の内容／授業スケジュール

- 1-3. 基礎となる数学の復習—基礎から図解入りで説明するので高校のときに数学をやっていなかった人でもよく理解できると思う。
- 内容: 微分・全微分・偏微分係数・ベクトル・一次方程式(クラメルの公式)
- 4-6. 制約付き最適化問題(ラグランジュ乗数法)
- 7-9. 長・短期費用関数の導出
- 10-11. 最適在庫管理問題
- 12-13. 離散分析と連続分析、eと対数関数
- 14. 対数微分と成長
- 15. テイラー展開・マクローリン展開
- 16-17. 割引の各種公式
- 18. ローン計算の実習
- 19. 記述統計—平均・分散・標準偏差の計算
- 20-21. 確率、確率分布、密度分布、正規分布、t-分布、小標本データのt-検定
- 22-23. 回帰分析の計算法—ベータの産出
- 23-30. 最適ヘッジの方法

履修上の留意点

ノートをとることを欠かさないこと。金融工学などの手法のエッセンスが凝縮された内容なので、あとから文献等で調べようとすると膨大な量になる。
しかし、ノートをとってから見直すと、内容は専門書(洋書を含む)何冊分かの要約となり、また将来社会に出たときに使うことのできる真に有用な公式や図などで埋め尽くされていることが分かる。大げさな言い方をすれば、一生ものの公式集となるであろう。

学習内容は、金融、証券、貿易、流通、不動産、製造現場などでは実際にごく普通に使われている(むしろその入門でしかない)知識であり、諸君がもし将来ビジネスでまともに仕事をこなそうとするならば、必ず壁となって立ちふさがらざるを得ない必須知識である。たとえば住宅販売に従事したならば、パソコンもなにもない現場で顧客に速算で月々のローン返済額を提示しなければならないかもしれない。そうした役に立つ経済学的知識をこの授業では体育会系的に身につけさせようとしている。役に立つならばだじやれ暗記もいとわれない。世界は想像以上に先に進んでいる。授業はそうした実践で使える専門知識を体感で(手計算で)たたきこむことを目指している。

成績評価の方法

定期試験100、ただしノート持込可。ノートのコピー不可。授業に出ていればほぼ確実に解けるような問題を出すので安心して授業をとっていただきたい。授業は難解である。しかし授業にまともに出ているら試験問題は解ける(なぜなら授業時間中に繰り返し経験済みだから)という不思議なデジャブ試験。解き方が理にかなっていても、多少の計算ミスは大幅減点にはしない。もしきちんと計算したはずなのに点が悪い人は、解き方に合理性がなかったということ。

教科書／テキスト

特になし。

参考書

- 高森寛 『現代ファイナンスの基礎理論』
- 池田昌幸 『金融経済学の基礎』(朝倉書店)2000年
- Cuthbertson, K. and Nitzsche, D., Financial Engineering-Derivatives and Risk Management, John Wiley and Sons, Ltd., 2001.

その他

関数電卓(最低でも平方根とべき乗、log、eが計算できるもの。市価1000円位からある)またはその機能がついたスマートフォンなどが必要。

履修コード	311411
科目名	応用ミクロ経済学
担当者名	荒木 勝啓

講義の到達目標(ねらい) 全体テーマを「ミクロ経済学はどのように実践的に役に立つのか」とする。ミクロ経済学に馴染みのない学生でも理解可能なように、数学基礎から解説するが、飽くまで最終テーマは「役に立つ」であるので、最後までテーマを見失わないように。役に立つとは、経済学的には最適性と言い換えることができる。したがって、以下の小テーマは、各局面に応じた最適手法のバリエーションである。そのような観点から俯瞰すると、我々は経済の各局面で結局は最適な行動を追い求めているのだということに気が付き、テーマが自ずと見えてくるであろう。授業では、世界中で日々実行されている計算を、株価などのデータをもとに、関数電卓を使って実習する。

全体テーマを具体的に小テーマに分けると次のようになる。
まず経済学における制約付き最適化を身につけるために

(1) 制約付き最適化問題—ラグランジュ乗数法の習熟

次に要素間の最適代替関係の具体化として

(2) 長・短期費用関数の導出—撤退か拡張か

を学習する。さらにその応用としての

(3) 最適在庫管理問題

を学習する。これは経営学・経営工学では必修項目である。

以上は基礎的なミクロ経済学の復習ともなっている。

経済学における割引(discount)の概念を身につけるために、生活に身近な

(4) ローン計算の方法—毎月いくら返済すればよいか

を実習する。金融・証券・貿易・不動産・流通などの分野を将来目指す学生ならばこの知識は必要不可欠である。速算法(近似法)も学習する。

最後に現代社会における最大テーマの1つであるリスク最小化問題の

(5) 最適ヘッジの方法—現物と先物のポートフォリオを例に

を統計手法とともに計算する。(5)のために特にベータの求め方とt-検定という統計的手法も合わせて学習する。(5)によって金融工学のメイン・テーマとしての「ヘッジ」の実際が理解されるであろう。証券アナリストやファイナンシャル・プランナーを目指す学生にとってはいうまでもなく必須の知識である。

なおここにたどり着く前に煩雑な統計分析の知識を講義するが(下記19-23)、その過程で基本テーマを見失う学生が多いことが、アンケート調査からもわかる。しかし、抽象理論を現実化するにはデータ解析が不可欠であり、それには統計分析以外あり得ない。理論が力となるためにこの回り道は必要である。

以上を時期的に大きく2つに分けると(1)から(3)が前期で(4)から(5)が後期である。授業には計算のために関数電卓(1000円程度から各種売られている)が必要である。

実社会では計算はコンピュータによりなされているが、それだからこそ、良い悪いは別にして世の中はそのように回っているのだということを電卓による手計算で実感することが必要で、その感覚はおそらく、将来諸君のビジネスに生かされることであろう。

**講義の内容／
授業スケジュール**

1-3. 基礎となる数学の復習—基礎から図解入りで説明するので高校のときに数学をやっていなかった人でもよく理解できると思う。

内容: 微分・全微分・偏微分係数・ベクトル・一次方程式(クラメルの公式)

4-6. 制約付き最適化問題(ラグランジュ乗数法)

7-9. 長・短期費用関数の導出

10-11. 最適在庫管理問題

12-13. 離散分析と連続分析、eと対数関数

14. 対数微分と成長

15. テイラー展開・マクローリン展開

16-17. 割引の各種公式

18. ローン計算の実習

19. 記述統計—平均・分散・標準偏差の計算

20-21. 確率、確率分布、密度分布、正規分布、t-分布、小標本データのt-検定

22-23. 回帰分析の計算法—ベータの産出

23-30. 最適ヘッジの方法

履修上の留意点

ノートをとることを欠かさないこと。金融工学などの手法のエッセンスが凝縮された内容なので、あとから文献等で調べようとすると膨大な量になる。

しかし、ノートをとってから見直す、内容は専門書(洋書を含む)何冊分かの要約となり、また将来社会に出たときに使うことのできる真に有用な公式や図などで埋め尽くされていることが分かる。大げさな言い方をすれば、一生ものの公式集となるであろう。

学習内容は、金融、証券、貿易、流通、不動産、製造現場などでは実際にごく普通に使われている(むしろその入門でしかない)知識であり、諸君がもし将来ビジネスでまともに仕事をこなそうとするならば、必ず壁となって立ちふさがらざるを得ない必須知識である。たとえば住宅販売に従事したならば、パソコンもなにもない現場で顧客に速算で月々のローン返済額を提示しなければならないかもしれない。そうした役に立つ経済学的知識をこの授業では体育会系的に身につけさせようとしている。役に立つならばだじやれ暗記もいとわぬ。世界は想像以上に先に進んでいる。授業はそうした実践で使える専門知識を体感で(手計算で)たたきこむことを目指している。

成績評価の方法

定期試験100、ただしノート持込可。ノートのコピー不可。授業に出ていればほぼ確実に解けるような問題を出すので安心して授業をとっていただきたい。授業は難解である。しかし授業にまともに出ているら試験問題は解ける(なぜなら授業時間中に繰り返し経験済みだから)という不思議なデジャブ試験。解き方が理にかなっていれば、多少の計算ミスは大幅減点にはしない。もしきちんと計算したはずなのに点が悪い人は、解き方に合理性がなかったということ。

教科書／テキスト

特になし。

参考書

高森寛 『現代ファイナンスの基礎理論』

池田昌幸 『金融経済学の基礎』(朝倉書店)2000年

Cuthbertson, K. and Nitzsche, D., Financial Engineering-Derivatives and Risk Management, John Wiley and Sons, Ltd., 2001.

その他

関数電卓またはその機能を持つスマートフォンなどが必要。

履修コード	091511 091512
科目名	会計学基礎 会計学総論
担当者名	森田 佳宏

講義の到達目標(ねらい) 会計とは、特定の経済主体が営む経済活動およびこれに関連する経済的事象を、主として貨幣額で測定・記録・伝達する行為である。また、これらの行為を通じて得られる各種の情報を会計情報という。この会計情報の中心的存在が、貸借対照表や損益計算書などの財務諸表である。会計学の主たる研究領域としての企業会計は、企業が作成する会計情報の提供先の相違により、財務会計と管理会計とに分類されるが、とりわけ財務会計は、財務諸表の作成および公開をその主要な課題とする。公認会計士による会計監査も財務会計の領域に属する。

本講義は、会計学の初学者を対象として、会計学の概要を理解し、財務会計論や会計監査論を学習する上での基本的な知識を習得することを目的としている。このためには、財務諸表の作成・公開についての制度面・理論面からの理解のみならず、これと表裏一体をなす財務諸表作成のための技術的な側面、すなわち簿記の基礎についての理解も不可欠である。

講義の内容／授業スケジュール 第1回：ガイダンス
 第2・3回：会計とは何か、会計の意義・目的
 第4～8回：複式簿記の原理
 第9～13回：会計制度の体系、会計情報のディスクロージャー
 第14回：財務諸表の体系
 第15～19回：貸借対照表の構造
 第20～22回：損益計算書の構造
 第23回：キャッシュ・フロー計算書
 第24回：株主資本等変動計算書
 第25回：連結財務諸表
 第26～30回：財務諸表の監査

成績評価の方法 原則として定期試験（年度末）により評価する。

教科書／テキスト 新井清光著、川村義則補訂『現代会計学（第11版）』中央経済社、2,730円
 渡部裕久、片山寛、北村敬子編著『新検定簿記講義3級商業簿記』中央経済社、735円

参考書 講義の中で適宜紹介する。

履修コード	091601
科目名	会計学総論
担当者名	金子 良太

講義の到達目標(ねらい) 「会計はビジネスの共通言語」とも言われ、ビジネスをする際には必要不可欠な知識であり、会計の存在を抜きにして企業の経営状態を表すことはできません。また、会計の国際化に伴い、その重要性は以前にも増して高まってきました。本講義は、会計学の基本的な知識を習得することを目的としており、「総論」という名称通り、どちらかといえば「浅く広く」講義を行います。具体的には、財務諸表や会計に関連する新聞・雑誌記事を「読む」ことを主眼として、講義を行います。

授業は財務会計の目的からスタートし、財務諸表の意義と勘定科目の意味を理解してもらいます。実際の事例（たとえば、スターバックスのコーヒーの原価はいくらか、ユニクロのシャツを1枚売るといくらもうけができるか）などを挙げ、新聞記事や雑誌記事・プリントなども用いて授業を進めていきます。

簿記検定試験・ビジネス会計検定試験・税理士試験・公認会計士試験（日本・アメリカ）などについても、教員の体験を交えて紹介します。

講義の内容／授業スケジュール 授業内で中間試験を行います。中間試験の日程は、授業中に指示します。また、夏休み中にレポート（2000～3000字程度）を課します。

(1) オリエンテーション、(2～5) 財務諸表総論、会計を取り巻く法律、(6～11) 資産会計、負債・純資産会計、損益会計等、(12～13) キャッシュフロー計算書、中間試験(14～16) 連結財務諸表、(17～20) 各種会計基準、(21～23) 財務諸表分析その他、(24～25) 監査制度その他、(26) 国際会計の動向 (27～) まとめ

準備学習 簿記の知識があることが望ましいです。簿記の知識がない場合でももちろん受講できますが、簿記に関する最低限の知識は自習で補ってもらうことになります。

履修上の留意点 会計学は積み重ねが重要ですので、毎回出席して、復習に時間を当ててください。また、毎回電卓を持参してください。なお、遅刻は厳禁です。授業中の私語で注意された学生は、大幅減点されます。

成績評価の方法 出席・レポート（2000～3000字程度のレポートのほか、数回に一度の小レポート）30点、中間試験25点、定期試験45点。なお、受講生が少ない場合には、授業中に発言を求めることがあり、発言した学生には別途加点します。4～7月に不十分な出席で、中間試験も受験しなかった場合には、単位の取得は極めて困難です。

教科書／テキスト 大塚・金子・菅野・福島 著 「入門会計学(仮題)」中央経済社 2011年3月に刊行予定ですので、詳しくは初回の授業で指示します。

参考書 必要に応じて指示します。

その他 簿記論を未履修の学生は、なるべく簿記論を同時履修するようにしてください。

履修コード	097001
科目名	会計監査論
担当者名	森田 佳宏

講義の到達目標(ねらい) 会計監査とは、企業における会計記録および会計行為につき、それに関与しない独立第三者が分析的に検討を加え、その適否または正否に関する批判的意見を表明することである。会計監査のうち、現在もっとも広く行われ、かつ、もっとも重要な監査方式は、職業監査人すなわち公認会計士による財務諸表監査である。本講義においては、職業監査人による財務諸表監査を中心として、会計監査の意義・目的、種類および歴史、ならびに会計・監査制度、監査基準等について解説する。

講義の内容／授業スケジュール (1) 会計監査の意義と概要 (2~5) 企業会計法と監査、会計の国際化と監査、監査の主体① (6~10) 監査の主体②、外部監査制度の生成①、監査の種類、監査役監査、委員会設置会社 (11~15) ディスクローチャー制度(金融商品取引法・会社法)、外部監査制度の生成②、監査基準の生成①、監査基準の生成② (16~20) 監査基準の体系、公正不偏性と外観的独立性、監査のプロセス、内部統制、監査調書 (21~25) 重要な虚偽表示、監査の品質管理、守秘義務、リスク・アプローチ、監査要点 (26~30) 監査証拠、継続企業の前提、監査意見、監査報告書

履修上の留意点 本講義の履修にあたっては、すでに「簿記論」、「会計学基礎または会計学総論」および「財務会計論」を履修済みであることが望ましい。

成績評価の方法 原則として定期試験(年度末)により評価する。出席調査を数回行い、これも評価に反映させる。

教科書／テキスト 指定しない。必要に応じて資料を配付する。

参考書 山浦久司『監査論テキスト(第2版)』中央経済社
盛田良久、蟹江章、友杉芳正、長吉眞一、山浦久司編著『スタンダードテキスト監査論(第2版)』中央経済社
中央経済社編『監査法規集』中央経済社

履修コード	310501
科目名	会計監査論
担当者名	森田 佳宏

講義の到達目標(ねらい) 会計監査とは、企業における会計記録および会計行為につき、それに関与しない独立第三者が分析的に検討を加え、その適否または正否に関する批判的意見を表明することである。会計監査のうち、現在もっとも広く行われ、かつ、もっとも重要な監査方式は、職業監査人すなわち公認会計士による財務諸表監査である。本講義においては、職業監査人による財務諸表監査を中心として、会計監査の意義・目的、種類および歴史、ならびに会計・監査制度、監査基準等について解説する。

講義の内容／授業スケジュール (1) 会計監査の意義と概要 (2~5) 企業会計法と監査、会計の国際化と監査、監査の主体① (6~10) 監査の主体②、外部監査制度の生成①、監査の種類、監査役監査、委員会設置会社 (11~15) ディスクローチャー制度(金融商品取引法・会社法)、外部監査制度の生成②、監査基準の生成①、監査基準の生成② (16~20) 監査基準の体系、公正不偏性と外観的独立性、監査のプロセス、内部統制、監査調書 (21~25) 重要な虚偽表示、監査の品質管理、守秘義務、リスク・アプローチ、監査要点 (26~30) 監査証拠、継続企業の前提、監査意見、監査報告書

履修上の留意点 本講義の履修にあたっては、すでに「簿記論」、「会計学基礎または会計学総論」および「財務会計論」を履修済みであることが望ましい。

成績評価の方法 原則として定期試験(年度末)により評価する。出席調査を数回行い、これも評価に反映させる。

教科書／テキスト 指定しない。必要に応じて資料を配付する。

参考書 山浦久司『監査論テキスト(第2版)』中央経済社
盛田良久、蟹江章、友杉芳正、長吉眞一、山浦久司編著『スタンダードテキスト監査論(第2版)』中央経済社
中央経済社編『監査法規集』中央経済社

履修コード	100511
科目名	会計資格特別演習
担当者名	鈴木 勝浩

講義の到達目標(ねらい) 本講義は、特に税理士試験の法人税法(公認会計士試験の租税法の一部も含む)について、基礎的な理論及び計算方法を理解した上で、できる限り受験可能なレベルの知識の習得を目指すものである。法人税法は、企業会計において算出された決算利益を基礎に、税務上の調整を行って求められた課税所得に対して課せられる。したがって法人税法は企業会計と有機的に結びついており、その理解には企業会計の理論や会計処理を習熟していることが必要とされる。本講義では、企業会計の理論に関連付けながら、法人税法について理解を深めていきたい。法人税法は計算問題のウエートが高いため、計算演習を多く取り入れながらより確実な知識を求めていきたい。授業スケジュールについては、受講生の理解を考慮しながら柔軟に対処していく予定である。また本講義履修後は、税務会計(法人税法)を受験できるレベルに到達するのを目指してほしい。

講義の内容／授業スケジュール (1) 法人税のあらまし (2) 総則 (3) 課税所得 (4) 損益の期間帰属 (5) 棚卸資産 (6) 減価償却① (7) 減価償却② (8) 減価償却③ (9) 繰延資産 (10) 給与等① (11) 給与等② (12) 交際費等① (13) 交際費等② (14) 寄附金① (15) 寄附金② (16) 租税公課 (17) 貸倒損失と貸倒引当金① (18) 貸倒損失と貸倒引当金② (19) 圧縮記帳 (20) 受取配当等の益金不算入① (21) 受取配当等の益金不算入② (22) 有価証券 (23) その他の損益 (24) 同族会社と留保金課税① (25) 同族会社と留保金課税② (26) 所得税の控除 (27) 申告と納税 (28) 連結納税 (29) 総合演習① (30) 総合演習②

準備学習 財務会計の基礎理論の知識があれば効果的に学習を進めることができます。できる限り財務会計の基礎理論を理解するようにしてください。

履修上の留意点 本講義を履修するに当たっては、特に株式会社に関する会計理論を理解していることが必要であり、日商簿記2級の商業簿記(工業簿記の知識は不要)程度の知識を有していることが望ましい。積み上げ方式により講義を進めていくので、できるだけ欠席しないこと。

成績評価の方法 出席率と講義中の演習で評価する。

教科書／テキスト TAC税理士法人税法研究会編『税理士試験対策 平成23年度版 ポケットテキスト 法人税法』(TAC)

参考書 渡辺淑夫著『法人税法の要点整理[平成23年受験用]』(中央経済社)
渡辺淑夫著『法人税法(平成23年度版)』(中央経済社)
『法人税法 個別問題集[平成23年度版]』(TAC出版)
『法人税法 理論マスター[平成23年度版]』(TAC出版)
染谷英雄著『法人税法を初歩から学ぶ(第11版)』(中央経済社)
金子宏著『租税法(第12版)』(弘文堂)

その他 法人税法はボリュームの多い科目であり、難しいといわれています。しかし法理念と体系さえ把握できれば必ず理解できます。また実務上必ず必要となりますから、資格取得に対して高い目的意識をもって講義に参加してほしいと思います。疑問点については遠慮せずに積極的に質問をして早期に解決してください。

履修コード	097301
科目名	会計情報論
担当者名	石川 純治

講義の到達目標(ねらい)	変容する現代の会計のトータルな理解と将来の予見に役立つことを目標とする。
講義の内容／授業スケジュール	教科書と放送大学「現代の会計」(DVD)の講義とをあわせて、企業会計の変容のあり方を理論と制度の両面から講義する。 第1回講義全体の紹介。第2回～4回:「企業会計原則」と今日、第5回～第7回:時価会計の浸透(1)金融商品会計と「企業会計原則」、第8回～第10回:時価会計の浸透(2)退職給付会計と「企業会計原則」、第11回～第13回:変容の全体的捉え方、第14回～第16回:会計配分の基本モデル、第17回～第19回:会計枠組みの今日的変容、第20回～第22回:変容の構図、第23回～第24回:新たな会計秩序を求めて(1)、第25回～第26回:新たな会計秩序を求めて(2)、第27回～第28回:トライアングル体制の変容(1)、第29回～第30回:トライアングル体制の変容(2)
準備学習	講義で使用するスライドは、すべてYestudyからプリントできます。テキストはQ&A方式でわかりやすく書いていますので、(予習もできますが)特に復習してください。
履修上の留意点	細かな会計基準の知識は必要ないが、一応の会計学の基礎知識ないし関心をもっていただくことが望ましい。
成績評価の方法	小テストと定期試験。小テストは総合評価に加味されます。
教科書／テキスト	石川純治『変貌する現代会計』日本評論社1,600円。
参考書	別途指示する。
その他	YeStudyをよくご覧になってください。
関連リンク	http://www.komazawa-u.ac.jp/~ishikawa/profile.htm

履修コード	309411
科目名	会計情報論
担当者名	石川 純治
講義の到達目標(ねらい)	大きく変貌する今日の企業会計はどこに行こうとしているのか、その変容の形と方向について学習する。
講義の内容／授業スケジュール	教科書と放送大学「現代の会計」(DVD)の講義とをあわせて、企業会計の変容のあり方を理論と制度の両面から講義する。
準備学習	テキストの各章を(DVDもふくめて)2回行う予定です。1回目の講義(パワーポイントのスライド使用)を聞いた後、テキストでよく復習して2回目の講義に臨んで下さい。
履修上の留意点	会計学の基礎知識をもっていただくことが望ましい。
成績評価の方法	小テスト(2回)と定期試験。小テストは総合評価に加味されます。
教科書／テキスト	石川純治『変貌する現代会計』(日本評論社)1600円。
参考書	別途指示する。
その他	YeStudyをご覧ください。
関連リンク	http://www.komazawa-u.ac.jp/~ishikawa/profile.htm

履修コード	100251 100252
科目名	会計プロフェッショナルクラスI(会計士) 会計プロフェッショナルクラスI(税理士) ダミー
担当者名	内山 峰男 小栗 崇資 森田 佳宏 石川 祐二 石川 純治 北口 りえ

講義の到達目標(ねらい)	将来、公認会計士・税理士となることを目指している学生を対象として、資格試験の合格目標達成を側面から支援するとともに、学生生活が試験対策・受験勉強のみに偏ることのないよう指導して行きます。そのため、履修学生の日常生活等に関する相談にも対応し、かつ、職業会計人となった場合において役立つと思われる事柄で会計関連科目において触れる機会が少ないテーマについて、幅広く取り上げていきます。
講義の内容／授業スケジュール	おおむね、以下に掲げる「経営・会計・税務・監査」に関するテーマ(順番は目安であり、適宜、入れ替えや変更がある)について、講義とクラス討議を、演習(ゼミ)形式で進めます。その他、資格取得のための学習相談・指導や「会計研究」のレポート課題の出題および解説も、適宜、講義時間内に行います。 (1) イントロダクション、(2~4) インベスター・リレーションズ(IR)・アニュアルレポート、(5~8) 企業倫理コンプライアンス・リスクマネジメント(内部統制を含む)・職業倫理(公認会計士・税理士)、(9~12) 公会計監査(国・地方自治体・非営利法人)・中小企業の会計指針、(13~16) 企業利益と課税所得・企業分析と診断・経営問題解決方法論(コンサルティング手法)、(17~20) 時事問題、(21~24) 「会計研究」レポート課題の出題および解説、(25~30) 学習相談および指導(クラス全体および履修生別)。
準備学習	事前に次回の講義内容を伝えた場合には、インターネット・新聞雑誌・書籍等で、情報収集や予習をすること。また、日頃、プラス思考で幅広く知識獲得を心がける(常にアンテナを張る)こと。
履修上の留意点	職業会計人には「創造性・自主性・先見力・調査力」等が求められます。国家試験対策(受験勉強)に十分な時間をかけることは当然ですが、上記「講義のねらい」にもあるように、幅広い知識(ひいては哲学等の教養)も養う必要があります。クラスへの積極的参加をとおして、それらの能力の開発・養成を心がけてください。
成績評価の方法	出席率・討議参加度を勘案して、総合的に評価します。テーマについての発表や、別途(「会計研究」とは別に)、クラスレポートの提出を求めるともあります。
教科書／テキスト	特に指定しません。必要な資料は配布します。
参考書	そのつど紹介します。
その他	1. 「会計プロフェッショナルクラスI(会計士)」には、「会計研究A」の(1)～(5)が併設されます。併設される「会計研究A」については、(1)が財務会計論、(2)が管理会計論、(3)が監査論、(4)が租税法、(5)が「企業法」となります。いずれも、専任教員が副担当として受け持ちます。「会計プロフェッショナルクラスI(会計士)」の前期と後期に、それぞれ「会計研究A」のレポート課題の説明および解説を行います。なお、「会計研究A」の評価は、前期および後期に「会計研究A」の(1)～(5)のそれぞれで課されるレポートの内容および資格取得のための学習状況から総合的に判断します。 2. 「会計プロフェッショナルクラスI(税理士)」には、「会計研究B」の(1)および(2)が併設されます。併設される「会計研究B」については、(1)が簿記論、(2)が財務諸表論となります。いずれも、専任教員が副担当として受け持ちます。「会計プロフェッショナルクラスI(税理士)」の前期と後期に、それぞれ「会計研究B」のレポート課題の説明および解説を行います。なお、「会計研究B」の評価は、前期および後期に「会計研究B」の(1)および(2)のそれぞれで課されるレポートの内容および資格取得のための学習状況から総合的に判断します。

履修コード	100261 100262
科目名	会計プロフェッショナルクラスII(会計士) 会計プロフェッショナルクラスII(税理士) ダミー
担当者名	内山 峰男 小栗 崇資 森田 佳宏 石川 祐二 石川 純治 北口 りえ

講義の到達目標(ねらい)	本クラスは、「会計プロフェッショナルクラスI」を履修済みの学生で公認会計士試験・税理士試験を受けることとなる者を対象として、引き続き資格試験の合格目標達成を側面から支援するとともに、学生生活が試験対策・受験勉強のみに偏ることのないよう指導して行きます。そのため、履修学生の日常生活等に関する相談にも対応し、かつ、職業会計人となった場合において役立つと思われる事柄で会計関連教科において触れる機会が少ないテーマについて、幅広く取り上げていきます。
講義の内容／授業スケジュール	おおむね、以下に掲げる「経営・会計・税務・監査」に関するテーマ(順番は目安であり、適宜、入れ替えや変更がある)について、講義とクラス討議を、演習(ゼミ)形式で進めます。その他、資格取得のための学習相談・指導や「会計研究」のレポート課題の出題および解説も、適宜、講義時間内に行います。 (1) イントロダクション、(2~4) 会計基準の統合(IFRS等)、(5~7) 内部統制(システム監査を含む)、(8~9) 職業倫理(公認会計士・税理士)、(10~12) 公会計(東京都の会計基準・システム等)、(13~15) 経営コンサルティングの動向、(16~17) 国際税務、(18~20) 時事問題、(21~24) 「会計研究」レポート課題の出題および解説、(25~30) 学習相談および指導(クラス全体および履修生別)。
準備学習	事前に今回の講義内容を伝えた場合には、インターネット・新聞雑誌・書籍等で、情報収集や予習をすること。また、日頃、プラス思考で幅広く知識獲得を心がける(常にアンテナを張る)こと。
履修上の留意点	職業会計人には「創造性・自主性・先見力・調査力」等が求められます。国家試験対策(受験勉強)に十分な時間をかけることは当然ですが、上記「講義のねらい」にもあるように、幅広い知識(ひいては哲学等の教養)も養う必要があります。クラスへの積極的参加をとおして、それらの能力の開発・養成を心がけてください。
成績評価の方法	出席率・討議参加度を勘案して、総合的に評価します。テーマについての発表や、別途(「会計研究」とは別に)、クラスレポートの提出を求めることもあります。
教科書／テキスト	特に指定しません。必要な資料は配布します。
参考書	そのつど紹介します。
その他	1. 「会計プロフェッショナルクラスII(会計士)」には、「会計研究A」の(6)~(8)が併設されます。併設される「会計研究A」については、(6)が上級財務会計論、(7)が上級管理会計論、(8)が上級監査論となります。いずれも、専任教員が副担当として受け持ちます。「会計プロフェッショナルクラスII(会計士)」の前期と後期に、それぞれ「会計研究A」のレポート課題の説明および解説を行います。 なお、「会計研究A」の評価は、前期および後期に「会計研究A」の(6)~(8)のそれぞれで課されるレポートの内容および資格取得のための学習状況から総合的に判断します。 2. 「会計プロフェッショナルクラスII(税理士)」には、「会計研究B」の(3)~(5)が併設されます。併設される「会計研究B」については、(3)が上級簿記論、(4)が上級財務諸表論、(5)が税法となります。いずれも、専任教員が副担当として受け持ちますが、(5)の税法については履修時に登録が必要となります。「会計プロフェッショナルクラスII(税理士)」の前期と後期に、それぞれ「会計研究B」のレポート課題の説明および解説を行います。 なお、「会計研究B」の評価は、前期および後期に「会計研究B」の(3)~(5)のそれぞれで課されるレポートの内容および資格取得のための学習状況から総合的に判断します。

履修コード	100271 100272
科目名	会計プロフェッショナルクラスIII(会計士) 会計プロフェッショナルクラスIII(税理士) ダミー
担当者名	内山 峰男 北口 りえ

講義の到達目標(ねらい)	本クラスは、「会計プロフェッショナルクラスII」を履修済みで既に公認会計士試験・税理士試験を受けた学生を対象として、当初の目的を達成した学生には今後の進路を、また、引き続き受験を行う学生にはその合格目標達成を、側面から支援するとともに、学生生活が試験対策・受験勉強のみに偏ることのないよう指導して行きます。そのため、履修学生の日常生活等に関する相談にも対応し、かつ、職業会計人となった場合において役立つと思われる事柄で会計関連教科において触れる機会が少ないテーマについて、幅広く取り上げていきます。
講義の内容／授業スケジュール	おおむね、以下に掲げる「経営・会計・税務・監査」に関するテーマ(順番は目安であり、適宜、入れ替えがある)について、講義とクラス討議を、演習(ゼミ)形式で進めます。その他、資格取得のための学習相談・指導および進路に関する相談・指導を行います。 (1) イントロダクション、(2~5) 職業会計人の動向、(6~9) 国際財務報告基準(IFRS)および国際監査基準(ISA)の動向、(10~13) 職業会計人と企業経営者の関わり、(14~17) 外部講師(実務家等)による講義、(18~23) 時事問題、(24~30) 受験および進路に関する相談および指導。
準備学習	事前に今回の講義内容を伝えた場合には、インターネット・新聞雑誌・書籍等で、情報収集や予習をすること。また、日頃、プラス思考で幅広く知識獲得を心がける(常にアンテナを張る)こと。
履修上の留意点	職業会計人には「創造性・自主性・先見力・調査力」等が求められます。国家試験対策(受験勉強)に十分な時間をかけることは当然ですが、上記「講義のねらい」にもあるように、幅広い知識(ひいては哲学等の教養)も養う必要があります。クラスへの積極的参加をとおして、それらの能力の開発・養成を心がけてください。
成績評価の方法	出席率・討議参加度を勘案して、総合的に評価します。テーマについての発表やクラスレポートの提出を求めることもあります。
教科書／テキスト	特に指定しません。必要な資料は配布します。
参考書	そのつど紹介します。
その他	1. 「会計プロフェッショナルクラスIII(会計士)」には、「会計研究A」の併設はありません。 2. 「会計プロフェッショナルクラスIII(税理士)」には、「会計研究B」の(6)が併設されます。併設される「会計研究B」の(6)は、上級税法となり、専任教員が副担当として受け持ちますが、クラスの履修時に登録が必要となります。この場合、前期に、レポート課題の説明および解説を行います。なお、その評価は、当該レポートの内容および資格取得のための学習状況から総合的に判断します。

履修コード	093901
科目名	環境経済論
担当者名	林 公則

講義の到達目標(ねらい) 本講義の目標は、現実が生じている公害・環境問題と環境経済理論との関係を明らかにすることである。以上の目標を達成するために、できる限り実際に生じた公害・環境問題を取り上げながら、それと関連している環境経済理論を紹介する。環境経済理論が机上の空論ではなく、現実の問題と密接に関連して誕生・発展していることを理解して欲しい。

講義では、市場経済について理論的に説明した上で、市場経済の分析では抜け落ちてしまっている国家、技術、環境といった側面に焦点を当てていく。経済学において外部的な要素とされてきた環境に対して現実の経済活動がどのような影響を与えてきたのかという視点から「環境と経済」との関係を検討していく。

講義の内容／授業スケジュール 第1回：ガイダンス、第2～4回：経済学の基礎知識、基本的な環境経済理論の紹介（外部不経済論、社会的費用論、物質代謝論）、第5～8回：技術と環境・経済（シューマッハーの中間技術、ラスキンの本質価値）、第9～11回：大気汚染（四日市、自動車公害）、第12～15回：気候変動・エネルギー問題（排出権取引、原子力問題、再生可能エネルギー普及促進政策）、第16～20回：水俣病、第21～24回：公共事業による環境破壊（大阪国際空港事件、川辺川ダム問題、環境アセスメント）、第25～27回：自然保護・アメニティ保全（ナショナル・トラスト、水源税）、第28～30回：地域環境政策（外来型開発、内発的発展）

成績評価の方法 前期と後期の学期末にそれぞれ課すレポートと講義への参加状況とで判断する。

教科書／テキスト 特定の教科書は用いず、毎回レジュメを配布する。それぞれの講義ごとに参考にした図書を示すので、興味のある者はそれらを参照してもらいたい。

履修コード	097111
科目名	管理会計論 a
担当者名	石川 祐二

講義の到達目標(ねらい) 本講義では、伝統的に管理会計研究の領域において取り扱われてきた諸問題について検討を加える。とりわけ、企業業績の測定・管理に関わる範囲を中心として、そのために用いられる会計情報について学ぶことになる。それを通じて、会計情報の経営管理的意味を明らかにする。

講義の内容／授業スケジュール 1. ガイダンス 2～3. 管理会計論の捉え方 4. 管理会計論の成立と発展 5. 管理会計における情報の性質 6. コスト概念 7. 利益概念 8. CVP分析 9. 予算編成と利益計画 10～11. 予算実績差異分析 12. セグメント別業績評価 13. 活動基準原価計算 14. 活動基準管理 15. まとめ

履修上の留意点 会計学基礎（総論）および簿記論を履修済みであることが好ましい。また、電卓を用いることがあるので、その際は持参すること。

成績評価の方法 定期試験（前期末）により評価する。

教科書／テキスト 毎回配布するプリントが教科書代わりである。

参考書 石川祐二著『現代ドイツ管理会計制度論』（森山書店）

履修コード	308111
科目名	管理会計論 a
担当者名	石川 祐二

講義の到達目標(ねらい) 本講義では、伝統的に管理会計研究の領域において取り扱われてきた諸問題について検討を加える。とりわけ、企業業績の測定・管理に関わる範囲を中心として、そのために用いられる会計情報について学ぶことになる。それを通じて、会計情報の経営管理的意味を明らかにする。

講義の内容／授業スケジュール 1. ガイダンス 2～3. 管理会計論の捉え方 4. 管理会計論の成立と発展 5. 管理会計における情報の性質 6. コスト概念 7. 利益概念 8. CVP分析 9. 予算編成と利益計画 10～11. 予算実績差異分析 12. セグメント別業績評価 13. 活動基準原価計算 14. 活動基準管理 15. まとめ

履修上の留意点 会計学基礎（総論）および簿記論を履修済みであることが好ましい。また、電卓を用いることがあるので、その際は持参すること。

成績評価の方法 定期試験（前期末）により評価する。

教科書／テキスト 毎回配布するプリントが教科書代わりである。

参考書 石川祐二著『現代ドイツ管理会計制度論』（森山書店）

履修コード	097121
科目名	管理会計論 b
担当者名	石川 祐二

講義の到達目標(ねらい) 本講義においては、現代において特に注目されている、新たな管理会計研究の領域について取り上げることにする。具体的には、業績評価に関わる新たな手法に検討を加えることや、企業の「経営管理」と「会計」との関係をとらえ直すことが中心的な課題となる。このことを通じて、伝統的な管理会計研究では捕捉しきれなかった会計現象の意味を明らかにしたい。それにより、現代的な意味で、管理会計の社会的機能を理解することが、本講義の目指すところである。

講義の内容／授業スケジュール 1. ガイダンス 2. 企業管理と法律規定 3. 企業管理と会計制度の関係性 4～5. 企業管理と会計基準との関係性 6～7. 企業内部の管理システムと会計報告との関係性 8. 企業管理情報の会計的意味 9. 財務管理と引当金との関係 10～11. バランス・スコアカードの会計的意味 12～13. 管理システムに関わる監査制度の新展開 14. 管理会計の社会的意味 15. まとめ

準備学習 毎回、テキストを一読した上で講義に臨むこと。

履修上の留意点 会計学基礎（総論）および簿記論、管理会計論aを履修済みであることが好ましい。

成績評価の方法 中間レポート（30%）および定期試験（後期末：70%）により評価する。

教科書／テキスト 石川祐二著『現代ドイツ管理会計制度論』（森山書店）

参考書 必要に応じて紹介する。

履修コード	308121
科目名	管理会計論 b
担当者名	石川 祐二

講義の到達目標(ねらい) 本講義においては、現代において特に注目されている、新たな管理会計研究の領域について取り上げることにする。具体的には、業績評価に関わる新たな手法に検討を加えることや、企業の「経営管理」と「会計」との関係をとらえ直すことが中心的な課題となる。このことを通じて、伝統的な管理会計研究では捕捉しきれなかった会計現象の意味を明らかにしたい。それにより、現代的な意味で、管理会計の社会的機能を理解することが、本講義の目指すところである。

講義の内容／授業スケジュール 1. ガイダンス 2. 企業管理と法律規定 3. 企業管理と会計制度の関係性 4~5. 企業管理と会計基準との関係性 6~7. 企業内部の管理システムと会計報告との関係性 8. 企業管理情報の会計的意味 9. 財務管理と引当金との関係 10~11. バランス・スコアカードの会計的意味 12~13. 管理システムに関わる監査制度の新展開 14. 管理会計の社会制度的意味 15. まとめ

準備学習 毎回、テキストを一読した上で講義に臨むこと。

履修上の留意点 会計学基礎(総論)および簿記論、管理会計論aを履修済みであることが好ましい。

成績評価の方法 中間レポート(30%)および定期試験(後期末:70%)により評価する。

教科書／テキスト 石川祐二著『現代ドイツ管理会計制度論』(森山書店)

参考書 必要に応じて紹介する。

履修コード	091911 091912
科目名	企業管理論 a 経営管理論 a
担当者名	岩波 文孝

講義の到達目標(ねらい) 経済的・社会的環境が急激に変化している状況において、企業管理の構造変化および企業管理のあり方が社会から問われている。巨大企業のトップ・マネジメントをめぐる、所有と経営の分離にともなう会社支配の問題、グローバル化の進展・企業間競争の激化・資本調達にともない企業の透明性と効率性が求められている。本講義では、コーポレート・ガバナンスに関連付けながら現代の巨大企業におけるトップ・マネジメント機能の特質を考察していきたい。

講義の内容／授業スケジュール 1. 授業の概要: ガイダンス (1)
2. 企業と社会 (2~3)
3. 会社支配論とトップ・マネジメント (3~4)
4. 取締役会改革とコーポレート・ガバナンス (5)
5. CSRとトップ・マネジメント機能 (6~7)
6. 日本企業のトップ・マネジメント改革 (8~9)
7. アメリカ企業のトップ・マネジメント改革 (10)
8. イギリス企業のトップ・マネジメント改革 (11)
9. ドイツ企業のトップ・マネジメント改革 (12)
10. ロシア企業のトップ・マネジメント改革 (13)
11. グローバル企業のコーポレート・ガバナンス (14)
12. 企業管理改革の課題と展望 (15)
授業の進め方について、付言しておきます。授業の進行はテキストの順序とは異なります。

準備学習 企業経営の動向について、日常的に新聞・ニュース等を通じて情報収集をしてください。

履修上の留意点 現代社会の諸事情や企業経営について興味関心を持って受講してもらいたい。

成績評価の方法 定期試験(前期末)により評価します。

教科書／テキスト 風間信隆・海道ノブチカ編著(2009)『コーポレート・ガバナンスと経営学』ミネルヴァ書房、2800円+税、ISBN978-4-623-05409-1

参考書 代田純編著(2010)『金融危機と証券市場』同文館。
日本比較経営学会編(2006)『会社と社会』文理閣、3150円、ISBN-13: 978-4892595318
仲田正機編著(2005)『比較コーポレート・ガバナンス研究』中央経済社、2600円+税、ISBN4-502-37970-0

履修コード	091921 091922
科目名	企業管理論 b 経営管理論 b
担当者名	岩波 文孝

講義の到達目標(ねらい) 経済的・社会的環境が急激に変化している状況において、企業管理の構造変化および企業管理のあり方が社会から問われている。本講義では、日本企業を中心とするCSR経営とそれを主導すべき社会的規制の脆弱な実態を踏まえ、現代日本のCSRの意義と限界を導きだし、持続可能な社会をめざすCSR型ビジネスモデルと経営、環境、社会分野における今後の課題を検討する。

講義の内容／授業スケジュール 1. 授業の概要: ガイダンス (1)
2. CSRと企業管理 (2~3)
3. ステークホルダーと企業管理 (4)
4. コーポレート・ガバナンスとマネジメント (5~6)
5. グローバル・ガバナンスとマネジメント (7~8)
6. 多国籍企業とCSR (9~10)
7. CSRと環境マネジメント (11)
8. 労働CSRの現状と課題 (12~13)
9. CSR経営の課題と展望 (14~15)
授業の進め方について、付言しておきます。授業の進行はテキストの順序とは異なります。

準備学習 企業経営の動向について、日常的に新聞・ニュース等を通じて情報収集をしてください。

履修上の留意点 現代社会の諸事情や企業経営について興味関心を持って受講してもらいたい。

成績評価の方法 定期試験(後期末)により評価します。

教科書／テキスト 足立辰雄・井上千一編著(2009)『CSR経営の理論と実際』中央経済社、2800円+税、ISBN978-4-502-66680-3

参考書 日本比較経営学会編(2006)『会社と社会』文理閣、3150円、ISBN-13: 978-4892595318

履修コード	09991
科目名	企業経営学 a
担当者名	名取 修一

講義の到達目標(ねらい) 企業経営活動は、利潤生産・商品生産過程において、生活の糧を提供し、人々の「豊かさの創造」機会をも生み出している。そして企業が存続し続けるためには利潤達成を実現すると同時に、社会的責任の遂行がなされなければならない。本講義では、こうした観点に立って経営者・管理者行動に視点を当てる。

講義の内容／授業スケジュール 企業経営学aでは、企業経営活動を全般に渡って概観する中で、「企業とは何か」を中心に講義する。そこでは、単に企業そのものの定義や概念を理解するだけでなく、「活動体」であり「存続体」であるという視点から企業と環境の構造的、体系的連関の構図の把握を目指す。
まず、資本と労働の構造的・機能的な関係からの二重性、また国内・国際市場との複層性を理解する。その上で、国際社会化、情報社会化の展開とともに、たとえば労働生産性の追求と超高齢社会、人々の生活と機械的合理主義、国内ならびに国際的格差の構造化、自然環境や生活圏の保全と物質的豊かさの追求問題等を考察し、広い視野から企業の実像を探る。

1. ガイダンス
2. 経営学とは何か
3. 企業の特徴①
4. 企業の特徴②
5. 企業形態
6. 株式会社制度の特徴①
7. 株式会社制度の特徴②
8. 企業集団
9. コーポレート・ガバナンス①
10. コーポレート・ガバナンス②
11. 企業経営とステークホルダーの今
12. 中小企業論①
13. 中小企業論②
14. 非営利組織論
15. 前期のまとめ

履修上の留意点 受講生は、新聞等のメディア情報を積極的に見ておくことと自分自身の独自ノートを創ること。

成績評価の方法 受講態度（出席状況）・定期試験により評価する。

教科書／テキスト 百田義治編著『経営学 基礎』（中央経済社）

参考書 鈴木幸毅著『環境経営学・環境経営学の確立に向けて』（税務経理協会）、名取修一・市川 彰編著『現代経営学要論』（同友館）

その他 講義形式で進めるが、適宜学生との相互授業に心がける。授業内容に応じて資料を配布する。

履修コード	099981
科目名	企業経営学 b
担当者名	名取 修一

講義の到達目標(ねらい) 企業経営活動は、利潤生産・商品生産過程において、生活の糧を提供し、人々の「豊かさの創造」機会をも生み出している。そして企業が存続し続けるためには利潤達成を実現すると同時に、社会的責任の遂行がなされなければならない。本講義では、こうした観点に立って経営者・管理者行動に視点を当てる。

講義の内容／授業スケジュール 企業経営学aで理解した企業活動の構造的・体系的な理解の上から、経営学の体系的な理解を目指す。経営学の各論を整理し、それぞれの理論的・実践的理解と統合化を主たる命題として講義するなかで、受講生各自が自らの視点と問題意識を持つことができるように努めたい。
企業による生産主体としての活動は、その構造的視点と行動的視点の統合において理解されなければならない。今日、企業経営活動は構造改革が展開され、またそれに伴ってさまざまな制度改革が動められている。「日本の経営」の優位性が変異し、従来とは大きく様変わりしてきている。後期の授業は、学生自身が積極的に問題視点を形成していくよう、講義の進行に努めたい。

1. ガイダンス
2. 経営学史を学ぶ
3. 「科学的管理法」確立の意味
4. 「科学的管理法」の深化と今
5. 管理過程論・管理原則論と今
6. 人間関係論の展開とその意義
7. 現代組織論の源流
8. コンテンジェンシー理論の特徴
9. 経営戦略論
10. 人的資源管理論の展開と問題点
11. 日本の経営の今を考える
12. グローバル化とナショナリズム
13. 環境経営学
14. CSRと企業倫理
15. 後期のまとめ

履修上の留意点 受講生は、新聞等のメディア情報を積極的に見ておくことと自分自身の独自ノートを創ること。

成績評価の方法 受講態度（出席状況）・定期試験により評価する。

教科書／テキスト 百田義治編著『経営学 基礎』（中央経済社）

参考書 鈴木幸毅著『環境経営学・環境経営学の確立に向けて』（税務経理協会）、名取修一・市川 彰編著『現代経営学要論』（同友館）

その他 講義形式で進めるが、適宜学生との相互授業に心がける。授業内容に応じて資料を配布する。

履修コード	097231
科目名	企業経済学 a
担当者名	飯田 泰之

講義の到達目標(ねらい) 企業活動のミクロ経済学的な分析を行う。経済学的な思考法は、現代のあらゆる社会科学の基礎であるといっても過言ではない。そして、経済学的な思考法を最も素朴に適用して組み立てられているのがミクロ経済学である。本講では狭義の企業経済学にこだわらず、経済学的な思考法自体に積極的に言及することで、今後の学習の基礎(ベース)を提供したいと考えている。
なお、企業経済学aで主に扱うのは市場に対する企業の活動である。様々な市場環境に対して、企業はどのように活動するかを主なターゲットとする。

講義の内容／授業スケジュール 以下のテーマを各二講義ずつ講義する。
1. 企業とはなにか？
2. 経済学と経営学
3. 経済学思考について
4. 競争市場での企業活動
5. 価格支配力と企業活動
6. ライバル企業との競争と協調
7. 利潤最大化の3つの方向性

履修上の留意点 出席は問わないかわりに講義中の私語には厳しく対応する。なお、企業経済学bとの同時履修を強く推奨する。

成績評価の方法 中間レポートと学期末試験によって評価する。

教科書／テキスト なし

参考書 必要となる参考書については講義中に適宜指示する。

履修コード	097241
科目名	企業経済学 b
担当者名	飯田 泰之

講義の到達目標(ねらい) 企業活動のミクロ経済学的な分析を行う。経済学的な思考法は、現代のあらゆる社会科学の基礎であるといっても過言ではない。そして、経済学的な思考法を最も素朴に適用して組み立てられているのがミクロ経済学である。本講では狭義の企業経済学にこだわらず、経済学的な思考法自体にも積極的に言及することで、今後の学習の基礎(ベース)を提供したいと考えている。
なお、企業経済学bでは企業戦略の立案、企業内部でのマネジメント・ガバナンスの問題を主に扱う。

講義の内容／授業スケジュール 以下のテーマについて、各二講義ずつで学習していく。
1. レッドオーシャンとブルーオーシャン
2. コスト優位戦略
3. 差別化優位戦略
4. 価格戦略
5. ファイブ・フォース分析
6. コーポレート・ファイナンス
7. 企業経済学から考える

履修上の留意点 出席は問わないかわりに講義中の私語には厳しく対応する。なお、企業経済学aとの同時履修を強く推奨する。また、企業経済学aを履修していることを前提に講義を進めるため注意すること。

成績評価の方法 中間レポートと学期末試験によって評価する。

教科書／テキスト なし

参考書 必要となる参考書については講義中に適宜指示する。

履修コード	098171
科目名	企業社会責任論
担当者名	桑山 三恵子

講義の到達目標(ねらい) この講義の到達目標は、グローバルな視点に立ち、企業と社会が共に持続的に発展するための企業像を考察することである。昨年11月には、世界初の「あらゆる組織の社会的責任」に関する国際標準と考えられる規格(ISO26000)が約10年間にわたる議論を踏まえて発行された。このような社会状況を踏まえ、ステークホルダーの概念とステークホルダー・マネジメント理論を理解するとともに、日・米・欧の「企業の社会責任」に対するとらえ方を比較検討する。また、企業とステークホルダーとのコミュニケーションの代表である企業の「CSRレポート」を題材に、グループワークによって、企業経営におけるCSR活動を分析する。

講義の内容／授業スケジュール (1) ガイダンス、ISO26000の意味
(2~4) 企業とは何か、日米欧のコーポレートガバナンス、日米欧の企業社会責任の認識
(5) CSRと国際標準
(6~7) ステークホルダーの概念、ステークホルダー・マネジメント、サプライチェーン・マネジメント
(8) CSRマーケティング
(9~12) CSRレポートの分析(グループワーク)
(13) 企業社会責任投資の歴史的経緯と現状、B.O.Pビジネス
(14) ソーシャルビジネスと社会企業家
(15) 社会と企業を共に持続的に発展させる企業像の考察

準備学習 次回の授業のテーマに関連する情報を参考書やインターネットで収集すると理解が深まる。また、授業中に配布する資料については講義終了後に熟読すること。グループワークには、積極的に関わること。

履修上の留意点 企業と社会の相互関係という視点から、新聞、雑誌、テレビの特集番組、企業の社会責任報告書、インターネット上の情報に積極的にアクセスすること。

成績評価の方法 学期末の定期試験、グループワークへの取り組み姿勢、出席を加味して総合的に評価。

教科書／テキスト 授業開始時に指定

参考書 谷本寛治『CSR—企業と社会を考える』2006年刊(NTT出版)1600円 ISBN4-7571-2179-2
田中宏司『CSR入門講座 第1巻『CSRの基礎知識』』2005年刊(日本規格協会)1300円 ISBN4-542-70150-6
高巖+日経CSRプロジェクト編『CSR—企業価値をどう高めるか』2004年刊 1600円 ISBN4-532-31181-0
他に、授業中に紹介

履修コード	096711 096712
科目名	企業戦略論 a 経営戦略論 a
担当者名	田淵 泰男

講義の到達目標(ねらい) 企業をとりまく経営環境が、めまぐるしく、ダイナミックに変化している現代、経営戦略の優劣いかんが、企業の栄枯盛衰に重大な影響をもつようになってきました。企業がそうした環境に、いかにうまく適応すべきかを考える経営戦略は、現代企業にとって最も重要なものであるとともに、現代経営学における中心的な研究分野の1つになっています。この講義では、これまでの経営戦略論の展開をふまえ、経済学部で経営戦略論を学ぶ皆さんにとって是非必要な重要論点にかんする知識を提供し、それらの考え方の理解をはかることをねらいとしています。

講義の内容／授業スケジュール 「企業戦略論 a・経営戦略論 a」は、「企業戦略論」を主たる内容とします。企業戦略は、企業全体の将来のあり方に関する戦略です。その内容は、企業の諸事業を全体としてどのようにバランスないし統合するか、新しくどのような事業に進出するか、将来にわたってどのような企業を形成していくか、等にかかわる戦略です。この講義は以下の主要分野について、それぞれの理論を事例もまじえて解説します。

- ・経営戦略論への招待
- ・戦略とは何か、経営戦略の概念、経営戦略論の発展過程、経営戦略の体系。
- ・企業のアイデンティティと事業活動領域を選択・決定する「ドメインの定義」
- ・企業が成長戦略のなかで新しい製品・市場をめざして複数の事業分野に経営資源を展開していく「多角化戦略」
- ・多角化した企業が経営資源をどのような製品事業へ選択的に重点配分すべきかを考える「事業ポートフォリオ戦略」

履修上の留意点 企業行動の論理を探究しようとする意欲をもって、その機会を常日頃意識的にさまざまな視点からとらえようとする姿勢が大切です。

成績評価の方法 授業の進捗内容にあわせて実施する3回程度の中間試験（事前に予告）によって評価します。

教科書／テキスト 使用しません。毎回、プロジェクター（パワーポイント）を利用します。図表を多用するときや、詳細な説明を要するときはプリントを配布します。

参考書 適宜紹介します。

履修コード	096721 096722
科目名	企業戦略論 b 経営戦略論 b
担当者名	田淵 泰男

講義の到達目標(ねらい) 企業をとりまく経営環境が、めまぐるしく、ダイナミックに変化している現代、経営戦略の優劣いかんが、企業の栄枯盛衰に重大な影響をもつようになってきました。企業がそうした環境に、いかにうまく適応すべきかを考える経営戦略は、現代企業にとって最も重要なものであるとともに、現代経営学における中心的な研究分野の1つになっています。この講義では、これまでの経営戦略論の展開をふまえ、経済学部で経営戦略論を学ぶ皆さんにとって是非必要な重要論点にかんする知識を提供し、それらの考え方の理解をはかることをねらいとしています。

講義の内容／授業スケジュール 「企業戦略論 b・経営戦略論 b」は、「競争戦略論」を主たる内容とします。競争戦略は、競合企業に対して持続的な競争優位を確立するための戦略であり、現在最も注目されている戦略論の研究テーマです。この講義は以下の主要分野について、それぞれの理論を事例もまじえて解説します。

- ・業界の競争構造分析フレームワーク（競争の程度から収益性の高い魅力的な業界を探し出す考え方と手法）である「5つの競争要因」分析。
- ・競争優位状態の分析と戦略的ポジションの選択にかかわる「競争の基本戦略」、および「戦略グループ」「価値連鎖」等。
- ・競争優位の源泉に関する2つの考え方として、「ポジショニング・アプローチ」と「資源ベース・アプローチ」（リソース・ベースト・ビュー）。
- ・競争地位の類型化とそれに対応して要求される「競争対抗戦略」。
- ・製品ライフサイクル別の競争戦略、先発企業の競争優位性、後発企業の競争逆転の戦略、業界標準規格（デファクト・スタンダード）をめぐる競争戦略、「ブルーオーシャン戦略」など。

履修上の留意点 企業行動の論理を探究しようとする意欲をもって、その機会を常日頃意識的にさまざまな視点からとらえようとする姿勢が大切です。

成績評価の方法 授業の進捗内容にあわせて実施する3回程度の中間試験（事前に予告）によって評価します。

教科書／テキスト 開講時に説明します。毎回、プロジェクター（パワーポイント）を利用します。図表を多用するときや、詳細を要するときはプリントを配布します。

参考書 適宜紹介します。

履修コード	099181
科目名	企業統治論 a
担当者名	水村 典弘

講義の到達目標(ねらい) 企業統治論 a の到達目標は、株式会社の歴史と仕組みを正確に理解し、株式会社の統治（コーポレート・ガバナンス）のメカニズムを解明していくことにあります。特に、公開企業の経営企画部や総務部で勤務するために必要な基本的な知識や最新の情報について、積極的に講義していきます。

講義の内容／授業スケジュール 第1回：ガイダンス、第2回：企業とは何か？、第3回・第4回：株式会社の過去・現在・未来、第5回～第8回：日本における株式会社制度、第9回～第12回：制度設計の意図と問題、第13回～第15回：日本における企業統治問題と公開会社法の問題（受講生の人数や興味関心の方向などに応じて、講義の内容を軌道修正することもあります。ガイダンスには必ず出席するようにして下さい。）

準備学習 報道される株式会社制度や証券市場の変化に関心を持つように心掛けて下さい。日本国外の変化や日本国外の変化をフォローしていれば、講義の内容を深く理解できると思います。また受講生に予備的な知識が乏しくとも、株式会社制度の基本については講義の前半部で詳細に説明していきます。

履修上の留意点 経済報道や企業報道（新聞・雑誌、インターネット、TVの特集番組）などに日頃から接するように心掛けて下さい。講義の内容等について、御不明な点は必ず質問するようにして下さい。

成績評価の方法 平常点をベースとして、学期末試験（70%）と中間テスト（30%）の得点を基準として評価します。（※受講生の人数に応じて、成績評価の方法を変えこともあります。その際には、講義時間内に複数回にわたってアナウンス致します。）

教科書／テキスト 特に指定しません。

参考書 海道ノブチカ・風間信隆編著『コーポレート・ガバナンスと経営学—グローバル化下の変化と多様性—』ミネルヴァ書房、2009年。
<http://www.minervashobo.co.jp/book/b49888.html>

履修コード	099191
科目名	企業統治論b
担当者名	水村 典弘

講義の到達目標(ねらい)	株式会社の統治のメカニズムが制度的に構築されていたとしても、組織内部で問題が起こらないとも限りません。企業統治論bでは、公的規制・自主規制・企業倫理のフレームワークを理解したうえで、「良い会社とは？」あるいは「良い仕事とは？」について受講生同士で考えていきます。
講義の内容／授業スケジュール	第1回：ガイダンス、第2回：企業統治と企業倫理、第3回：日本の企業社会と公的規制、第4回：日本の企業社会と自主規制、第5回：日本の企業社会と企業倫理、第6回～第12回：企業倫理の課題事項（ケースワーク）、第13回～第15回：ダウンスайдリスクとしての企業倫理（受講生の人数や興味関心の方向などに応じて、講義の内容を軌道修正することもあります。ガイダンスには必ず出席するようにして下さい。）
準備学習	経済報道や企業報道（新聞・雑誌、インターネット、TVの特集番組）などに日頃から接するように心掛けて下さい。日本国外の変化や日本国外の変化をフォローしていれば、講義の内容を深く理解できると思います。
履修上の留意点	過年度と同様に、企業統治論bは、グループワークを軸として講義を進めていきます。グループワークは、就職活動の選考の初期段階でも広く導入されています。少人数のグループ内で自分の意見を述べる練習を積み重ねていけば、あなたの可能性も拓けるはずですよ。
成績評価の方法	平常点（平常点の構成要素：①出席、②グループ単位の発表内容が優れていると受講生が判断した場合には加点していただきます。但し、受講生の人数に応じて、成績評価の方法を変えることもあります。その際には、講義時間内に複数回にわたってアナウンス致します。）
教科書／テキスト	特に指定しません。
参考書	マイケル・サンデル(著)、鬼澤忍(訳)『これからの「正義」の話をしよう—いまを生き延びるための哲学—』早川書房、2010年。 http://www.minervashobo.co.jp/book/b49888.html

履修コード	098161
科目名	企業倫理
担当者名	桑山 三恵子

講義の到達目標(ねらい)	この講義の到達目標は、営利組織である企業が企業倫理の徹底に取り組む意味と背景を理解し、具体的な不祥事事例の分析を通して組織に企業倫理を浸透させるための枠組みを習得することである。はじめに企業経営に関連が深いと考えられる倫理規範論の代表的な考えを学習する。次に、グループワークにより、具体的な不祥事事例を分析し、倫理的思考にもとづく意思決定を身につける。さらに、日米の企業経営の特徴を踏まえ、不祥事の再発防止と企業倫理を組織に浸透するための具体的な方策につき検討する。
講義の内容／授業スケジュール	(1) ガイダンス 企業倫理論の位置づけ (2～5) 法と倫理、企業経営に関連の深い倫理規範論の基礎を学ぶ (6～9) 企業不祥事事例分析（グループワーク） (10) アメリカの産業社会と企業倫理 (11) 日本の産業社会と企業倫理 (12～13) 企業倫理の組織内制度化 倫理綱領、組織体制、教育コミュニケーション、内部通報制度 監査 (14) 企業倫理と内部統制 (15) まとめ
準備学習	今回の授業のテーマに関連する情報を参考書やインターネットで収集すると効果が高まる。また、授業中に紹介する資料や配布する資料を講義終了後に熟読しておくこと。事例分析は、グループワークで実施するが、各自事例の資料を熟読し、理解を深めること。
履修上の留意点	企業経営と倫理に関するテーマをとりあげた新聞、雑誌、テレビの特集番組等の情報に積極的にアクセスすることを心がけること。
成績評価の方法	学期末の定期試験、グループワークへの積極的取り組みと出席も加味して総合的に評価する。
教科書／テキスト	授業開始時に指定
参考書	日本経営倫理学会監修 水谷雅一編著『経営倫理』2003年刊（同文館出版）2400円 ISBN4-495-37131-2 小林俊治 百田義治 編 『社会から信頼される企業-企業倫理の確立に向けて』2004年刊（中央経済社）2400円 ISBN4-502-37550-0 他に、授業中に紹介

履修コード	097041
科目名	起業論
担当者名	長山 宗広

講義の到達目標(ねらい) 1990年代以降、日本では廃業率が開業率を上回り、経済のダイナミズムが失われてきている。特に、地方圏においては、企業誘致による外来型開発に限界が見える中、地域における新規開業企業の増大・創業支援が重要な課題となっている。本講義では、こうした課題解決に向けて主体的に挑戦できる人材(起業家)を養成する。そのため、学術的研究を概説するとどまらず、ビジネスプラン(事業計画書)作成の演習などを交えた実践的学習をすすめていく。

講義の内容／授業スケジュール

- (1) 前期(ベンチャー論)のサマリー、起業論のガイダンス
- (2) 起業、起業家とは
- (3) 近年の起業活動の実態
- (4) 起業家の実像(ゲスト・スピーカーによる講義)
- (5) 起業活動の出発点(事業機会の発見)
- (6) ビジネス・アイデアの創出
- (7) 起業とイノベーション
- (8) ビジネスプランと起業家
- (9) 起業活動と経営戦略(ビジネスモデル、ドメイン)
- (10) 創業期のマーケティング活動
- (11) アクションプラン
- (12) 計数計画、資金調達
- (13) 組織・人材戦略
- (14) ビジネスプランの作成
- (15) まとめ

履修上の留意点 起業論、ベンチャー論を一括履修することがのぞましい。

成績評価の方法 期末試験による評価:50%
講義中のレポート(ビジネスプラン)および出席状況など平常点:50%

教科書／テキスト 教科書は特に指定しない。都度、プリント等を配布する。

参考書 高橋徳行『起業学の基礎』勁草書房、2005年
高橋徳行『起業学入門』通商産業調査会、2000年
ジェフリー・A・ティモンズ『ベンチャー創出の理論と戦略』ダイヤモンド社、1997年

その他 少なくとも、1回は、ゲスト・スピーカー(起業経験者)による講義を行う。

履修コード	092411
科目名	企業論基礎
担当者名	劉 永鶴

講義の到達目標(ねらい) 本講義は、企業の法律形態、企業の支配・統治構造ならびに企業成長に対する理論的究明を中心内容とする。なかには、株式会社の特質、支配形態および統治構造を重点的に講義し、その国際比較も行う。これを通して、現代社会における企業とくに巨大な株式会社の全体構図ならびに最新動向をより広い角度からアプローチし、受講者の現代企業に対する理解を深める。

講義の内容／授業スケジュール

前期には、企業論の研究対象、主な企業形態とそれぞれの特徴について講義する。

- I 企業論の研究対象
- II 企業の種類と企業形態
- III 企業形態の発展過程
- IV 単独出資者の企業:個人企業
- V 会社企業:①合名会社 ②合資会社 ③合同会社 ④有限会社

後期には、株式会社の特徴と会社機関、企業支配、企業統治、企業成長と社会などを講義する。

- VI 株式会社の特質と会社機関
- VII 株式会社の資金調達
- VIII 株式会社の支配
- IX 株式会社のガバナンス
- X 企業成長と社会

準備学習 前回の授業内容を復習し、当日の授業内容について予習しておくこと。

履修上の留意点 予習はもちろんのこと、各章ごとに「演習問題」を出す。演習問題を中心に復習すること。

成績評価の方法 前期と後期に分けて2回の筆記テストを行い、その成績に、普段の講義への出席状況を加味して評価する。

教科書／テキスト とくに指定しない。

参考書 ・百田義治編著『経営学基礎』中央経済社、2010年。
・作新学院大学経営学研究グループ(代表:中村瑞穂)著『経営学-企業と経営の理論』白桃書房、2003年。
その他、授業の初回目に指示する。

その他 授業中に適宜プリントと資料を配付する。

履修コード	095911
科目名	基礎情報処理I ◎
担当者名	谷口 裕子

講義の到達目標(ねらい) コンピュータを活用して情報収集やレポート作成、プレゼンテーションを行うことは、大学で学ぶ上で欠かせない要素となってきた。さらにこうした能力は社会においても必須である。本講義では、経済学を学ぶ上で必要な「ツールとしてのパソコンの扱い方・ソフトウェアの使い方」の習得を目指す。コンピュータの扱いに慣れることとインターネット(電子メールやWWW)を利用できるようになること、さらにはMicrosoft Wordによる文書の作成技法および表計算ソフト(Microsoft Excel)の基本操作を習得することを目的とする。

講義の内容／授業スケジュール (1)教場の使い方、コンピュータの起動・終了方法、受講上の注意など
(2-6)パソコンの仕組み、Microsoft Windowsの基本的な使い方、タイピング練習、インターネットとネットケツト、インターネット用語の説明、ブラウザの使い方、電子メールの使い方
(7-13) Wordの基本操作、文書の作成・印刷、表の作成、文書レイアウト、図の作成、図の挿入
(14-15) 表計算Excelの基本操作

履修上の留意点 1)この講義では、より実践的な技術の習得を目指し、実習を行う。積極的に知識を吸収することを期待している。
2)コンピュータ使用経験の少ない初心者を対象とした講義を行う。経験者には高度な課題を与えるなどの工夫を行う予定であるので講師に申告すること。
3)実習を中心に進めるので欠席・遅刻をしないようにすること。
4)評価に関わる各試験の追試験は行わない。合理的な事由を文書によって申告した時のみ考慮する。
5)抽選登録の際、3つある基礎情報処理I・II全てについて第1順位から第3順位まで優先順位を決めて、3つとも抽選登録すること。
6)基礎情報処理I・IIは、同じ曜日・時限のものをセットで選択しなければならない。
7)抽選で当選した前期「基礎情報処理I」の4月初回の授業に必ず出席して、担当教員から許可を得なければ履修できない。
8)経済学科1年次は必ずこの講義を履修登録すること。来年度以降2年次以降の履修は原則としてできないので注意すること。
9)2年次以降の学生で当科目を履修したい場合は初回講義に必ず出席し、担当教員の指示を受けること。
10)後期の基礎情報処理IIの履修登録ミスが目立っている。後期の基礎情報処理IIも忘れずに履修登録すること。

成績評価の方法 各カテゴリー終了時に行う授業時間中の小テスト及び最終講義に実施する総合テストの結果から総合的に評価する。高度な課題を提出した者は別途加点する。

教科書／テキスト 開講時に指定する。

参考書 必要に応じて紹介する。

その他 その他
1)1年次生のみ対象の科目です。2年次以降は【原則として】履修できません。
2)就業力基礎I、IIと連携した内容がありますので、就業力基礎I、IIを履修する学生は本科目も履修ください。

履修コード	095921
科目名	基礎情報処理I ◎
担当者名	谷口 裕子

講義の到達目標(ねらい) コンピュータを活用して情報収集やレポート作成、プレゼンテーションを行うことは、大学で学ぶ上で欠かせない要素となってきた。さらにこうした能力は社会においても必須である。本講義では、経済学を学ぶ上で必要な「ツールとしてのパソコンの扱い方・ソフトウェアの使い方」の習得を目指す。コンピュータの扱いに慣れることとインターネット(電子メールやWWW)を利用できるようになること、さらにはMicrosoft Wordによる文書の作成技法および表計算ソフト(Microsoft Excel)の基本操作を習得することを目的とする。

講義の内容／授業スケジュール (1)教場の使い方、コンピュータの起動・終了方法、受講上の注意など
(2-6)パソコンの仕組み、Microsoft Windowsの基本的な使い方、タイピング練習、インターネットとネットケツト、インターネット用語の説明、ブラウザの使い方、電子メールの使い方
(7-13) Wordの基本操作、文書の作成・印刷、表の作成、文書レイアウト、図の作成、図の挿入
(14-15) 表計算Excelの基本操作

履修上の留意点 1)この講義では、より実践的な技術の習得を目指し、実習を行う。積極的に知識を吸収することを期待している。
2)コンピュータ使用経験の少ない初心者を対象とした講義を行う。経験者には高度な課題を与えるなどの工夫を行う予定であるので講師に申告すること。
3)実習を中心に進めるので欠席・遅刻をしないようにすること。
4)評価に関わる各試験の追試験は行わない。合理的な事由を文書によって申告した時のみ考慮する。
5)抽選登録の際、3つある基礎情報処理I・II全てについて第1順位から第3順位まで優先順位を決めて、3つとも抽選登録すること。
6)基礎情報処理I・IIは、同じ曜日・時限のものをセットで選択しなければならない。
7)抽選で当選した前期「基礎情報処理I」の4月初回の授業に必ず出席して、担当教員から許可を得なければ履修できない。
8)経済学科1年次は必ずこの講義を履修登録すること。来年度以降2年次以降の履修は原則としてできないので注意すること。
9)2年次以降の学生で当科目を履修したい場合は初回講義に必ず出席し、担当教員の指示を受けること。
10)後期の基礎情報処理IIの履修登録ミスが目立っている。後期の基礎情報処理IIも忘れずに履修登録すること。

成績評価の方法 各カテゴリー終了時に行う授業時間中の小テスト及び最終講義に実施する総合テストの結果から総合的に評価する。高度な課題を提出した者は別途加点する。

教科書／テキスト 開講時に指定する。

参考書 必要に応じて紹介する。

その他 その他
1)1年次生のみ対象の科目です。2年次以降は【原則として】履修できません。
2)就業力基礎I、IIと連携した内容がありますので、就業力基礎I、IIを履修する学生は本科目も履修ください。

履修コード	095901
科目名	基礎情報処理I ◎
担当者名	羽田 美香

講義の到達目標(ねらい) コンピュータを活用して情報収集やレポート作成、プレゼンテーションを行うことは、大学で学ぶ上で欠かせない要素となってきた。さらにこうした能力は社会においても必須である。本講義では、経済学を学ぶ上で必要な「ツールとしてのパソコンの扱い方・ソフトウェアの使い方」の習得を目指す。コンピュータの扱いに慣れることとインターネット(電子メールやWWW)を利用できるようになること、さらにはMicrosoft Wordによる文書の作成技法および表計算ソフト(Microsoft Excel)の基本操作を習得することを目的とする。

講義の内容／授業スケジュール (1) 教場の使い方、コンピュータの起動・終了方法、受講上の注意など
(2-6) パソコンの仕組み、Microsoft Windowsの基本的な使い方、タイピング練習、インターネットとネットケツト、インターネット用語の説明、ブラウザの使い方、電子メールの使い方
(7-13) Wordの基本操作、文書の作成・印刷、表の作成、文書レイアウト、図の作成、図の挿入
(14-15) 表計算Excelの基本操作

履修上の留意点 1) この講義では、より実践的な技術の習得を目指し、実習を行う。積極的に知識を吸収することを期待している。
2) コンピュータ使用経験の少ない初心者を対象とした講義を行う。経験者には高度な課題を与えるなどの工夫を行う予定であるので講師に申告すること。
3) 実習を中心に進めるので欠席・遅刻をしないようにすること。
4) 評価に関わる各試験の追試験は行わない。合理的な事由を文書によって申告した時のみ考慮する。
5) 抽選登録の際、3つある基礎情報処理I・II全てについて第1順位から第3順位まで優先順位を決めて、3つとも抽選登録すること。
6) 基礎情報処理I・IIは、同じ曜日・時限のものをセットで選択しなければならない。
7) 抽選で当選した前期「基礎情報処理I」の4月初回の授業に必ず出席して、担当教員から許可を得なければ履修できない。
8) 経済学科1年次は必ずこの講義を履修登録すること。来年度以降2年次以降の履修は原則としてできないので注意すること。
9) 2年次以降の学生で当科目を履修したい場合は初回講義に必ず出席し、担当教員の指示を受けること。
10) 後期の基礎情報処理IIの履修登録ミスが目立っている。後期の基礎情報処理IIも忘れずに履修登録すること。

成績評価の方法 各カテゴリー終了時に行う授業時間中の小テスト及び最終講義に実施する総合テストの結果から総合的に評価する。高度な課題を提出した者は別途加点する。

教科書／テキスト 講時に指定する。

参考書 必要に応じて紹介する。

その他 1年次生のみ対象の科目です。2年次以降は原則として履修できません。就業力基礎I、IIに関連する内容を実習することがあります。

履修コード	096011
科目名	基礎情報処理II
担当者名	谷口 裕子

講義の到達目標(ねらい) 本講義は「基礎情報処理I」の単位取得者を対象とした講義に位置づけられる。コンピュータの基本的操作を習得していることを前提として、前期に続き表計算ソフト(Microsoft Excel)によるデータ処理法、Microsoft PowerPointによるプレゼンテーション技法を習得することを目的とする。

講義の内容／授業スケジュール (1-3) WordとExcelの要点の復習
(4-10) データ集計、関数の利用、表の書式(罫線・列幅の変更など)・印刷、グラフの作成、Wordとの連携
(11-15) プレゼンテーションPowerPointの基本操作、スライドの作成、スライドショー、文字修飾、図の挿入、アニメーション機能、個人発表

履修上の留意点 1) この講義では、より実践的な技術の習得を目指し、実習を行う。積極的に知識を吸収することを期待している。
2) 「基礎情報処理I」の単位取得者を前提に講義を進める。経験者には高度な課題を与えるなどの工夫を行う予定であるので講師に申告すること。
3) 実習を中心に進めるので欠席・遅刻をしないようにすること。
4) 評価に関わる各試験の追試験は行わない。合理的な事由を文書によって申告した時のみ考慮する。
5) 抽選登録の際、3つある基礎情報処理I・II全てについて第1順位から第3順位まで優先順位を決めて、3つとも抽選登録すること。
6) 基礎情報処理I・IIは、同じ曜日・時限のものをセットで選択しなければならない。
7) 抽選で当選した前期「基礎情報処理I」の4月初回の授業に必ず出席して、担当教員から許可を得なければ履修できない。
8) 経済学科1年次は必ずこの講義を履修登録すること。来年度以降2年次以降の履修は原則としてできないので注意すること。
9) 2年次以降の学生で当科目を履修したい場合は初回講義に必ず出席し、担当教員の指示を受けること。
10) 4月の履修登録時、当科目の履修登録ミスが目立っている。必ず後期の基礎情報処理IIも忘れずに履修届に記入して登録すること。

成績評価の方法 各カテゴリー終了時に行う授業時間中の小テスト、プレゼンテーション資料及び個人発表、最終講義に行う総合テストの結果から総合的に評価する。高度な課題を提出した者は別途加点する。

教科書／テキスト 開講時に指定する。

参考書 必要に応じて紹介する。

その他 1) 1年次生のみ対象の科目です。2年次以降は【原則として】履修できません。
2) 就業力基礎I、IIと連携した内容がありますので、就業力基礎I、IIを履修する学生は本科目も履修ください。

履修コード	096021
科目名	基礎情報処理II
担当者名	谷口 裕子

講義の到達目標(ねらい) 本講義は「基礎情報処理I」の単位取得者を対象とした講義に位置づけられる。コンピュータの基本的操作を習得していることを前提として、前期に続き表計算ソフト(Microsoft Excel)によるデータ処理法、Microsoft PowerPointによるプレゼンテーション技法を習得することを目的とする。

講義の内容／授業スケジュール (1-3) WordとExcelの要点の復習
(4-10) データ集計、関数の利用、表の書式(罫線・列幅の変更など)・印刷、グラフの作成、Wordとの連携
(11-15) プレゼンテーションPowerPointの基本操作、スライドの作成、スライドショー、文字修飾、図の挿入、アニメーション機能、個人発表

履修上の留意点 1) この講義では、より実践的な技術の習得を目指し、実習を行う。背積極的に知識を吸収することを期待している。
2) 「基礎情報処理I」の単位取得者を前提に講義を進める。経験者には高度な課題を与えるなどの工夫を行う予定であるので講師に申告すること。
3) 実習を中心に進めるので欠席・遅刻をしないようにすること。
4) 評価に関わる各試験の追試験は行わない。合理的な事由を文書によって申告した時のみ考慮する。
5) 抽選登録の際、3つある基礎情報処理I・II全てについて第1順位から第3順位まで優先順位を決めて、3つとも抽選登録すること。
6) 基礎情報処理I・IIは、同じ曜日・時限のものをセットで選択しなければならない。
7) 抽選で当選した前期「基礎情報処理I」の4月初回の授業に必ず出席して、担当教員から許可を得なければ履修できない。
8) 経済学科1年次は必ずこの講義を履修登録すること。来年度以降2年次以降の履修は原則としてできないので注意すること。
9) 2年次以降の学生で当科目を履修したい場合は初回講義に必ず出席し、担当教員の指示を受けること。
10) 4月の履修登録時、当科目の履修登録ミスが目立っている。必ず後期の基礎情報処理IIも忘れずに履修届に記入して登録すること。

成績評価の方法 各カテゴリー終了時に行う授業時間中の小テスト、プレゼンテーション資料及び個人発表、最終講義に行う総合テストの結果から総合的に評価する。高度な課題を提出した者は別途加点する。

教科書／テキスト 開講時に指定する。

参考書 必要に応じて紹介する。

その他 その他
1) 1年次生のみ対象の科目です。2年次以降は【原則として】履修できません。
2) 就業力基礎I、IIと連携した内容がありますので、就業力基礎I、IIを履修する学生は本科目も履修ください。

履修コード	096001
科目名	基礎情報処理II
担当者名	羽田 美香

講義の到達目標(ねらい) 本講義は「基礎情報処理I」の単位取得者を対象とした講義に位置づけられる。コンピュータの基本的操作を習得していることを前提として、前期に続き表計算ソフト(Microsoft Excel)によるデータ処理法、Microsoft PowerPointによるプレゼンテーション技法を習得することを目的とする。

講義の内容／授業スケジュール (1-3) WordとExcelの要点の復習
(4-10) データ集計、関数の利用、表の書式(罫線・列幅の変更など)・印刷、グラフの作成、Wordとの連携
(11-15) プレゼンテーションPowerPointの基本操作、スライドの作成、スライドショー、文字修飾、図の挿入、アニメーション機能、個人発表

履修上の留意点 1) この講義では、より実践的な技術の習得を目指し、実習を行う。背積極的に知識を吸収することを期待している。
2) 「基礎情報処理I」の単位取得者を前提に講義を進める。経験者には高度な課題を与えるなどの工夫を行う予定であるので講師に申告すること。
3) 実習を中心に進めるので欠席・遅刻をしないようにすること。
4) 評価に関わる各試験の追試験は行わない。合理的な事由を文書によって申告した時のみ考慮する。
5) 抽選登録の際、3つある基礎情報処理I・II全てについて第1順位から第3順位まで優先順位を決めて、3つとも抽選登録すること。
6) 基礎情報処理I・IIは、同じ曜日・時限のものをセットで選択しなければならない。
7) 抽選で当選した前期「基礎情報処理I」の4月初回の授業に必ず出席して、担当教員から許可を得なければ履修できない。
8) 経済学科1年次は必ずこの講義を履修登録すること。来年度以降2年次以降の履修は原則としてできないので注意すること。
9) 2年次以降の学生で当科目を履修したい場合は初回講義に必ず出席し、担当教員の指示を受けること。
10) 4月の履修登録時、当科目の履修登録ミスが目立っている。必ず後期の基礎情報処理IIも忘れずに履修届に記入して登録すること。

成績評価の方法 各カテゴリー終了時に行う授業時間中の小テスト、プレゼンテーション資料及び個人発表、最終講義に行う総合テストの結果から総合的に評価する。高度な課題を提出した者は別途加点する。

教科書／テキスト 開講時に指定する。

参考書 必要に応じて紹介する。

その他 1年次生のみ対象の科目です。2年次以降は原則として履修できません。
就業力基礎I、IIに関連する内容を実習することがあります。

履修コード	101291
科目名	基礎ゼミ
担当者名	山田 雅俊

講義の到達目標(ねらい) 基礎ゼミは、1年次生のみを対象とし、今後の4年間の勉学の基礎となる知識と学習技術とを、具体的な問題を題材にしながら学びます。この講義の主たるねらいは、①学習のための知識と技術とを演習形式で身に付けてもらうこと、②社会・経済問題への興味を養うこと、のふたつです。また、この講義で必要とする基礎知識とは、たとえば、高校の政治・経済のテキストで扱われているような基本的・常識的レベルの知識を指します。

講義の内容／授業スケジュール 上記の目的を達成するために、15回の講義を通じて「聴く、読む、調べる、整理する、書く」といった基本的技術を、ノートのとり方、本の読み方と要約の仕方、資料・情報収集の仕方と整理の方法、レポートの書き方、などの実習を通じて学び、4年間の大学生活における学習面での基礎作りを目指します。

- 第1回：オリエンテーション：大学での学び方
- 第2回：基礎知識の習得（大学生になる：心構え編）
- 第3回：基礎知識の習得（大学生になる：基礎知識編）
- 第4回：「学び」の理解：「学び」の方法を知ろう
- 第5回：「学び」の目的（1）「学び」と自己理解
- 第6回：「学び」の目的（2）「なりたい自分」と「学び」の計画
- 第7回：「学び」の技術（1）論理的思考
- 第8回：「学び」の技術（2）ノート・レポート・ディスカッション
- 第9回：「学び」の技術（3）図書館とインターネットの活用
- 第10回：「学び」の技術（4）情報収集・利用と情報倫理
- 第11回：「学び」の技術（5）論点整理・資料整理
- 第12回：「学び」と表現（1）レポート作成とプレゼンテーション
- 第13回：「学び」と表現（2）プレゼンテーションをやってみよう①
- 第14回：「学び」と表現（3）プレゼンテーションをやってみよう②
- 第15回：まとめ

準備学習 新聞を読みましょう。

履修上の留意点 基礎ゼミが1年次の「全員履修科目」となっているのは、この科目の重要性を示しています。理由なく欠席することのないことを望みます。また、PCの活用が不可欠になりますから、「情報入門I」、「情報入門II」は必ず履修して下さい。さらに、企業とそれを取り巻く経済社会との相互関連への理解を深めるためにも、新聞、雑誌の経済・経営欄に目を向け、自らにアンテナを張るように心がけて下さい。

成績評価の方法 授業への出席を最低要件とし、レポート（50%）、プレゼンテーション（20%）ならびに講義への参加姿勢その他（30%）で評価します。

教科書／テキスト 授業内で適宜指示します。

参考書 授業内で適宜指示します。

その他 就業力基礎I、IIと連携した内容があるので、就業力基礎I、IIを履修する学生は本科目も履修して下さい。

履修コード	101311
科目名	基礎ゼミ
担当者名	山田 雅俊

講義の到達目標(ねらい) 基礎ゼミは、1年次生のみを対象とし、今後の4年間の勉学の基礎となる知識と学習技術とを、具体的な問題を題材にしながら学びます。この講義の主たるねらいは、①学習のための知識と技術とを演習形式で身に付けてもらうこと、②社会・経済問題への興味を養うこと、のふたつです。また、この講義で必要とする基礎知識とは、たとえば、高校の政治・経済のテキストで扱われているような基本的・常識的レベルの知識を指します。

講義の内容／授業スケジュール 上記の目的を達成するために、15回の講義を通じて「聴く、読む、調べる、整理する、書く」といった基本的技術を、ノートのとり方、本の読み方と要約の仕方、資料・情報収集の仕方と整理の方法、レポートの書き方、などの実習を通じて学び、4年間の大学生活における学習面での基礎作りを目指します。

- 第1回：オリエンテーション：大学での学び方
- 第2回：基礎知識の習得（大学生になる：心構え編）
- 第3回：基礎知識の習得（大学生になる：基礎知識編）
- 第4回：「学び」の理解：「学び」の方法を知ろう
- 第5回：「学び」の目的（1）「学び」と自己理解
- 第6回：「学び」の目的（2）「なりたい自分」と「学び」の計画
- 第7回：「学び」の技術（1）論理的思考
- 第8回：「学び」の技術（2）ノート・レポート・ディスカッション
- 第9回：「学び」の技術（3）図書館とインターネットの活用
- 第10回：「学び」の技術（4）情報収集・利用と情報倫理
- 第11回：「学び」の技術（5）論点整理・資料整理
- 第12回：「学び」と表現（1）レポート作成とプレゼンテーション
- 第13回：「学び」と表現（2）プレゼンテーションをやってみよう①
- 第14回：「学び」と表現（3）プレゼンテーションをやってみよう②
- 第15回：まとめ

準備学習 新聞を読みましょう。

履修上の留意点 基礎ゼミが1年次の「全員履修科目」となっているのは、この科目の重要性を示しています。理由なく欠席することのないことを望みます。また、PCの活用が不可欠になりますから、「情報入門I」、「情報入門II」は必ず履修して下さい。さらに、企業とそれを取り巻く経済社会との相互関連への理解を深めるためにも、新聞、雑誌の経済・経営欄に目を向け、自らにアンテナを張るように心がけて下さい。

成績評価の方法 授業への出席を最低要件とし、レポート（50%）、プレゼンテーション（20%）ならびに講義への参加姿勢その他（30%）で評価します。

教科書／テキスト 授業内で適宜指示します。

参考書 授業内で適宜指示します。

その他 就業力基礎I、IIと連携した内容があるので、就業力基礎I、IIを履修する学生は本科目も履修して下さい。

履修コード	101211
科目名	基礎ゼミ
担当者名	勝田 佳裕

講義の到達目標(ねらい) 基礎ゼミは、勉学意欲に燃えて入学してきた新入生の皆さんに、入学後の学習の道案内をするとともに、学習のためのスキル(学習技術)を身につけてもらおうという目的で設けられた科目です。
 新聞を広げてみると、私たちの暮らす社会は実に様々な問題があることがわかります。社会科学、とくに経済学や商学・会計学・経営学を学ぶということは、新聞に載っているさまざまな問題がなぜ生まれてくるのか、その問題をどのように解決すれば良いのかということについて、事実を正確に認識した上で、考えることです。その過程で、どのような問題であろうと興味・関心が湧いてくればしめたものです。
 興味・関心が芽生えた問題をさらに追求しようとするとき、基本として「聴く、読む、調べる、整理する、書く」といった学習技術が大いに役立ちます。たとえば、講義で聴いたことをノートにとるだけでもそれなりのコツが必要です。ノートはとったけれども、後で見直してみたらサッパリ、というのでは役に立ちません。基礎ゼミでは、具体的な問題を皆さんに紹介して興味・関心を喚起しながら、同時にそれを題材にして学習のための知識と技術を演習形式で身に付けてもらいます。

講義の内容／授業スケジュール 内容は、大別して(1)大学生活の過ごし方(3回程度)、(2)学習技術の習得(6回程度)、(3)レポート作成とプレゼンテーション(5回程度)の3つを柱とします。
 基礎ゼミは、商学科の新入生を対象としていますので、最初に大学生活の過ごし方について考えます。大学4年間をどう過ごすのか、卒業後の進路も含めた人生計画を立ててみましょう。
 学習技術の習得は、ノートのとり方、本の読み方と要約の仕方、資料・情報収集の仕方と整理の方法、レポートの書き方、などです。これらを、具体的問題を題材にしながら実習します。
 最後に、それぞれ興味・関心のあるテーマについてレポートを作成し、プレゼンテーションします。

準備学習 基礎ゼミでは、新聞の切り抜きやレポートなどの課題が出されることがあります。担当者の指示に従って課題をこなしましょう。

履修上の留意点 基礎ゼミが1年次の「全員履修科目」となっているのは、この科目の重要性を示しています。理由なく欠席することのないことを望みます。また、学習スキルを身に付けたり、プレゼンテーションを行うためにはPCの活用が不可欠です。「情報入門I」、「情報入門II」は必ず履修して下さい。

成績評価の方法 出席、レポート、プレゼンテーションで評価します。

教科書／テキスト 第1講時に担当者がそれぞれ指示します。

参考書 担当者が適宜紹介します。

その他 基礎ゼミで基礎知識と学習技術を習得し、社会・経済問題への興味・関心を養い、4年間の勉学に大いに役に立てられることを期待します。
 1年次生のみ対象の科目です。2年次以降は履修できません。

1)就業力基礎I、IIと連携した内容がありますので、就業力基礎I、IIを履修する学生は本科目も履修ください

履修コード	101221
科目名	基礎ゼミ
担当者名	勝田 佳裕

講義の到達目標(ねらい) 基礎ゼミは、勉学意欲に燃えて入学してきた新入生の皆さんに、入学後の学習の道案内をするとともに、学習のためのスキル(学習技術)を身につけてもらおうという目的で設けられた科目です。
 新聞を広げてみると、私たちの暮らす社会は実に様々な問題があることがわかります。社会科学、とくに経済学や商学・会計学・経営学を学ぶということは、新聞に載っているさまざまな問題がなぜ生まれてくるのか、その問題をどのように解決すれば良いのかということについて、事実を正確に認識した上で、考えることです。その過程で、どのような問題であろうと興味・関心が湧いてくればしめたものです。
 興味・関心が芽生えた問題をさらに追求しようとするとき、基本として「聴く、読む、調べる、整理する、書く」といった学習技術が大いに役立ちます。たとえば、講義で聴いたことをノートにとるだけでもそれなりのコツが必要です。ノートはとったけれども、後で見直してみたらサッパリ、というのでは役に立ちません。基礎ゼミでは、具体的な問題を皆さんに紹介して興味・関心を喚起しながら、同時にそれを題材にして学習のための知識と技術を演習形式で身に付けてもらいます。

講義の内容／授業スケジュール 内容は、大別して(1)大学生活の過ごし方(3回程度)、(2)学習技術の習得(6回程度)、(3)レポート作成とプレゼンテーション(5回程度)の3つを柱とします。
 基礎ゼミは、商学科の新入生を対象としていますので、最初に大学生活の過ごし方について考えます。大学4年間をどう過ごすのか、卒業後の進路も含めた人生計画を立ててみましょう。
 学習技術の習得は、ノートのとり方、本の読み方と要約の仕方、資料・情報収集の仕方と整理の方法、レポートの書き方、などです。これらを、具体的問題を題材にしながら実習します。
 最後に、それぞれ興味・関心のあるテーマについてレポートを作成し、プレゼンテーションします。

準備学習 基礎ゼミでは、新聞の切り抜きやレポートなどの課題が出されることがあります。担当者の指示に従って課題をこなしましょう。

履修上の留意点 基礎ゼミが1年次の「全員履修科目」となっているのは、この科目の重要性を示しています。理由なく欠席することのないことを望みます。また、学習スキルを身に付けたり、プレゼンテーションを行うためにはPCの活用が不可欠です。「情報入門I」、「情報入門II」は必ず履修して下さい。

成績評価の方法 出席、レポート、プレゼンテーションで評価します。

教科書／テキスト 第1講時に担当者がそれぞれ指示します。

参考書 担当者が適宜紹介します。

その他 基礎ゼミで基礎知識と学習技術を習得し、社会・経済問題への興味・関心を養い、4年間の勉学に大いに役に立てられることを期待します。
 1年次生のみ対象の科目です。2年次以降は履修できません。

1)就業力基礎I、IIと連携した内容がありますので、就業力基礎I、IIを履修する学生は本科目も履修ください

履修コード	101321
科目名	基礎ゼミ
担当者名	曾我 信孝

講義の到達目標(ねらい) 基礎ゼミは、勉学意欲に燃えて入学してきた新入生の皆さんに、入学後の学習の道案内をするとともに、学習のためのスキル(学習技術)を身につけてもらおうという目的で設けられた科目です。
 新聞を広げてみると、私たちの暮らす社会は実に様々な問題があることがわかります。社会科学、とくに経済学や商学・会計学・経営学を学ぶということは、新聞に載っているさまざまな問題がなぜ生まれてくるのか、その問題をどのように解決すれば良いのかということについて、事実を正確に認識した上で、考えることです。その過程で、どのような問題であろうと興味・関心が湧いてくればしめたものです。
 興味・関心が芽生えた問題をさらに追求しようとするとき、基本として「聴く、読む、調べる、整理する、書く」といった学習技術が大いに役立ちます。たとえば、講義で聴いたことをノートにとるだけでもそれなりのコツが必要です。ノートはとったけれども、後で見直してみたらサッパリ、というのでは役に立ちません。基礎ゼミでは、具体的な問題を皆さんに紹介して興味・関心を喚起しながら、同時にそれを題材にして学習のための知識と技術を演習形式で身に付けてもらいます。

講義の内容／授業スケジュール 内容は、大別して(1)大学生活の過ごし方(3回程度)、(2)学習技術の習得(6回程度)、(3)レポート作成とプレゼンテーション(5回程度)の3つを柱とします。
 基礎ゼミは、商学科の新入生を対象としていますので、最初に大学生活の過ごし方について考えます。大学4年間をどう過ごすのか、卒業後の進路も含めた人生計画を立ててみましょう。
 学習技術の習得は、ノートのとり方、本の読み方と要約の仕方、資料・情報収集の仕方と整理の方法、レポートの書き方、などです。これらを、具体的問題を題材にしながら実習します。
 最後に、それぞれ興味・関心のあるテーマについてレポートを作成し、プレゼンテーションします。

準備学習 基礎ゼミでは、新聞の切り抜きやレポートなどの課題が出されることがあります。担当者の指示に従って課題をこなしましょう。

履修上の留意点 基礎ゼミが1年次の「全員履修科目」となっているのは、この科目の重要性を示しています。理由なく欠席することのないことを望みます。また、学習スキルを身に付けたり、プレゼンテーションを行うためにはPCの活用が不可欠です。「情報入門I」、「情報入門II」は必ず履修して下さい。

成績評価の方法 出席、レポート、プレゼンテーションで評価します。

教科書／テキスト 第1講時に担当者がそれぞれ指示します。

参考書 担当者が適宜紹介します。

その他 基礎ゼミで基礎知識と学習技術を習得し、社会・経済問題への興味・関心を養い、4年間の勉学に大いに役に立てられることを期待します。
 1年次生のみ対象の科目です。2年次以降は履修できません。

1)就業力基礎I、IIと連携した内容がありますので、就業力基礎I、IIを履修する学生は本科目も履修ください

履修コード	101331
科目名	基礎ゼミ
担当者名	曾我 信孝

講義の到達目標(ねらい) 基礎ゼミは、勉学意欲に燃えて入学してきた新入生の皆さんに、入学後の学習の道案内をするとともに、学習のためのスキル(学習技術)を身につけてもらおうという目的で設けられた科目です。
 新聞を広げてみると、私たちの暮らす社会は実に様々な問題があることがわかります。社会科学、とくに経済学や商学・会計学・経営学を学ぶということは、新聞に載っているさまざまな問題がなぜ生まれてくるのか、その問題をどのように解決すれば良いのかということについて、事実を正確に認識した上で、考えることです。その過程で、どのような問題であろうと興味・関心が湧いてくればしめたものです。
 興味・関心が芽生えた問題をさらに追求しようとするとき、基本として「聴く、読む、調べる、整理する、書く」といった学習技術が大いに役立ちます。たとえば、講義で聴いたことをノートにとるだけでもそれなりのコツが必要です。ノートはとったけれども、後で見直してみたらサッパリ、というのでは役に立ちません。基礎ゼミでは、具体的な問題を皆さんに紹介して興味・関心を喚起しながら、同時にそれを題材にして学習のための知識と技術を演習形式で身に付けてもらいます。

講義の内容／授業スケジュール 内容は、大別して(1)大学生活の過ごし方(3回程度)、(2)学習技術の習得(6回程度)、(3)レポート作成とプレゼンテーション(5回程度)の3つを柱とします。
 基礎ゼミは、商学科の新入生を対象としていますので、最初に大学生活の過ごし方について考えます。大学4年間をどう過ごすのか、卒業後の進路も含めた人生計画を立ててみましょう。
 学習技術の習得は、ノートのとり方、本の読み方と要約の仕方、資料・情報収集の仕方と整理の方法、レポートの書き方、などです。これらを、具体的問題を題材にしながら実習します。
 最後に、それぞれ興味・関心のあるテーマについてレポートを作成し、プレゼンテーションします。

準備学習 基礎ゼミでは、新聞の切り抜きやレポートなどの課題が出されることがあります。担当者の指示に従って課題をこなしましょう。

履修上の留意点 基礎ゼミが1年次の「全員履修科目」となっているのは、この科目の重要性を示しています。理由なく欠席することのないことを望みます。また、学習スキルを身に付けたり、プレゼンテーションを行うためにはPCの活用が不可欠です。「情報入門I」、「情報入門II」は必ず履修して下さい。

成績評価の方法 出席、レポート、プレゼンテーションで評価します。

教科書／テキスト 第1講時に担当者がそれぞれ指示します。

参考書 担当者が適宜紹介します。

その他 基礎ゼミで基礎知識と学習技術を習得し、社会・経済問題への興味・関心を養い、4年間の勉学に大いに役に立てられることを期待します。
 1年次生のみ対象の科目です。2年次以降は履修できません。

1)就業力基礎I、IIと連携した内容がありますので、就業力基礎I、IIを履修する学生は本科目も履修ください

履修コード	101271
科目名	基礎ゼミ
担当者名	村松 幹二

講義の到達目標(ねらい) 基礎ゼミは、1年次生のみを対象とし、今後の4年間の勉学の基礎となる知識と学習技術とを、具体的な問題を題材にしながら学びます。この講義の主たるねらいは、①学習のための知識と技術とを演習形式で身に付けてもらうこと、②社会・経済問題への興味を養うこと、のふたつです。また、この講義で必要とする基礎知識とは、たとえば、高校の政治・経済のテキストで扱われているような基本的・常識的レベルの知識を指します。

講義の内容／授業スケジュール 上記の目的を達成するために、15回の講義を通じて「聴く、読む、調べる、整理する、書く」といった基本的技術を、ノートのとり方、本の読み方と要約の仕方、資料・情報収集の仕方と整理の方法、レポートの書き方、などの実習を通じて学び、4年間の大学生活における学習面での基礎作りを目指します。

- 第1回：オリエンテーション：大学での学び方
- 第2回：基礎知識の習得（大学生になる：心構え編）
- 第3回：基礎知識の習得（大学生になる：基礎知識編）
- 第4回：「学び」の理解：「学び」の方法を知ろう
- 第5回：「学び」の目的（1）「学び」と自己理解
- 第6回：「学び」の目的（2）「なりたい自分」と「学び」の計画
- 第7回：「学び」の技術（1）論理的思考
- 第8回：「学び」の技術（2）ノート・レポート・ディスカッション
- 第9回：「学び」の技術（3）図書館とインターネットの活用
- 第10回：「学び」の技術（4）情報収集・利用と情報倫理
- 第11回：「学び」の技術（5）論点整理・資料整理
- 第12回：「学び」と表現（1）レポート作成とプレゼンテーション
- 第13回：「学び」と表現（2）プレゼンテーションをやってみよう①
- 第14回：「学び」と表現（3）プレゼンテーションをやってみよう②
- 第15回：まとめ

準備学習 新聞を読みましょう。

履修上の留意点 基礎ゼミが1年次の「全員履修科目」となっているのは、この科目の重要性を示しています。理由なく欠席することのないことを望みます。また、PCの活用が不可欠になりますから、「情報入門I」、「情報入門II」は必ず履修して下さい。さらに、企業とそれを取り巻く経済社会との相互関連への理解を深めるためにも、新聞、雑誌の経済・経営欄に目を向け、自らにアンテナを張るように心がけて下さい。

成績評価の方法 授業への出席を最低要件とし、レポート（50%）、プレゼンテーション（20%）ならびに講義への参加姿勢その他（30%）で評価します。

教科書／テキスト 授業内で適宜指示します。

参考書 授業内で適宜指示します。

その他 就業力基礎I、IIと連携した内容があるので、就業力基礎I、IIを履修する学生は本科目も履修して下さい。

履修コード	101281
科目名	基礎ゼミ
担当者名	村松 幹二

講義の到達目標(ねらい) 基礎ゼミは、1年次生のみを対象とし、今後の4年間の勉学の基礎となる知識と学習技術とを、具体的な問題を題材にしながら学びます。この講義の主たるねらいは、①学習のための知識と技術とを演習形式で身に付けてもらうこと、②社会・経済問題への興味を養うこと、のふたつです。また、この講義で必要とする基礎知識とは、たとえば、高校の政治・経済のテキストで扱われているような基本的・常識的レベルの知識を指します。

講義の内容／授業スケジュール 上記の目的を達成するために、15回の講義を通じて「聴く、読む、調べる、整理する、書く」といった基本的技術を、ノートのとり方、本の読み方と要約の仕方、資料・情報収集の仕方と整理の方法、レポートの書き方、などの実習を通じて学び、4年間の大学生活における学習面での基礎作りを目指します。

- 第1回：オリエンテーション：大学での学び方
- 第2回：基礎知識の習得（大学生になる：心構え編）
- 第3回：基礎知識の習得（大学生になる：基礎知識編）
- 第4回：「学び」の理解：「学び」の方法を知ろう
- 第5回：「学び」の目的（1）「学び」と自己理解
- 第6回：「学び」の目的（2）「なりたい自分」と「学び」の計画
- 第7回：「学び」の技術（1）論理的思考
- 第8回：「学び」の技術（2）ノート・レポート・ディスカッション
- 第9回：「学び」の技術（3）図書館とインターネットの活用
- 第10回：「学び」の技術（4）情報収集・利用と情報倫理
- 第11回：「学び」の技術（5）論点整理・資料整理
- 第12回：「学び」と表現（1）レポート作成とプレゼンテーション
- 第13回：「学び」と表現（2）プレゼンテーションをやってみよう①
- 第14回：「学び」と表現（3）プレゼンテーションをやってみよう②
- 第15回：まとめ

準備学習 新聞を読みましょう。

履修上の留意点 基礎ゼミが1年次の「全員履修科目」となっているのは、この科目の重要性を示しています。理由なく欠席することのないことを望みます。また、PCの活用が不可欠になりますから、「情報入門I」、「情報入門II」は必ず履修して下さい。さらに、企業とそれを取り巻く経済社会との相互関連への理解を深めるためにも、新聞、雑誌の経済・経営欄に目を向け、自らにアンテナを張るように心がけて下さい。

成績評価の方法 授業への出席を最低要件とし、レポート（50%）、プレゼンテーション（20%）ならびに講義への参加姿勢その他（30%）で評価します。

教科書／テキスト 授業内で適宜指示します。

参考書 授業内で適宜指示します。

その他 就業力基礎I、IIと連携した内容があるので、就業力基礎I、IIを履修する学生は本科目も履修して下さい。

履修コード	101231
科目名	基礎ゼミ
担当者名	山下 裕介

講義の到達目標(ねらい) 基礎ゼミは、勉学意欲に燃えて入学してきた新入生の皆さんに、入学後の学習の道案内をするとともに、学習のためのスキル(学習技術)を身につけてもらおうという目的で設けられた科目です。
 新聞を広げてみると、私たちの暮らす社会は実に様々な問題があることがわかります。社会科学、とくに経済学や商学・会計学・経営学を学ぶということは、新聞に載っているさまざまな問題がなぜ生まれてくるのか、その問題をどのように解決すれば良いのかということについて、事実を正確に認識した上で、考えることです。その過程で、どのような問題であろうと興味・関心が湧いてくればしめたものです。
 興味・関心が芽生えた問題をさらに追求しようとするとき、基本として「聴く、読む、調べる、整理する、書く」といった学習技術が大いに役立ちます。たとえば、講義で聴いたことをノートにとるだけでもそれなりのコツが必要です。ノートはとったけれども、後で見直してみたらサッパリ、というのでは役に立ちません。基礎ゼミでは、具体的な問題を皆さんに紹介して興味・関心を喚起しながら、同時にそれを題材にして学習のための知識と技術を演習形式で身に付けてもらいます。

講義の内容／授業スケジュール 内容は、大別して(1)大学生活の過ごし方(3回程度)、(2)学習技術の習得(6回程度)、(3)レポート作成とプレゼンテーション(5回程度)の3つを柱とします。
 基礎ゼミは、商学科の新入生を対象としていますので、最初に大学生活の過ごし方について考えます。大学4年間をどう過ごすのか、卒業後の進路も含めた人生計画を立ててみましょう。
 学習技術の習得は、ノートのとり方、本の読み方と要約の仕方、資料・情報収集の仕方と整理の方法、レポートの書き方、などです。これらを、具体的問題を題材にしながら実習します。
 最後に、それぞれ興味・関心のあるテーマについてレポートを作成し、プレゼンテーションします。

準備学習 基礎ゼミでは、新聞の切り抜きやレポートなどの課題が出されることがあります。担当者の指示に従って課題をこなしましょう。

履修上の留意点 基礎ゼミが1年次の「全員履修科目」となっているのは、この科目の重要性を示しています。理由なく欠席することのないことを望みます。また、学習スキルを身に付けたり、プレゼンテーションを行うためにはPCの活用が不可欠です。「情報入門I」、「情報入門II」は必ず履修して下さい。

成績評価の方法 出席、レポート、プレゼンテーションで評価します。

教科書／テキスト 第1講時に担当者がそれぞれ指示します。

参考書 担当者が適宜紹介します。

その他 基礎ゼミで基礎知識と学習技術を習得し、社会・経済問題への興味・関心を養い、4年間の勉学に大いに役に立てられることを期待します。
 1年次生のみ対象の科目です。2年次以降は履修できません。

1)就業力基礎I、IIと連携した内容がありますので、就業力基礎I、IIを履修する学生は本科目も履修ください

履修コード	101241
科目名	基礎ゼミ
担当者名	山下 裕介

講義の到達目標(ねらい) 基礎ゼミは、勉学意欲に燃えて入学してきた新入生の皆さんに、入学後の学習の道案内をするとともに、学習のためのスキル(学習技術)を身につけてもらおうという目的で設けられた科目です。
 新聞を広げてみると、私たちの暮らす社会は実に様々な問題があることがわかります。社会科学、とくに経済学や商学・会計学・経営学を学ぶということは、新聞に載っているさまざまな問題がなぜ生まれてくるのか、その問題をどのように解決すれば良いのかということについて、事実を正確に認識した上で、考えることです。その過程で、どのような問題であろうと興味・関心が湧いてくればしめたものです。
 興味・関心が芽生えた問題をさらに追求しようとするとき、基本として「聴く、読む、調べる、整理する、書く」といった学習技術が大いに役立ちます。たとえば、講義で聴いたことをノートにとるだけでもそれなりのコツが必要です。ノートはとったけれども、後で見直してみたらサッパリ、というのでは役に立ちません。基礎ゼミでは、具体的な問題を皆さんに紹介して興味・関心を喚起しながら、同時にそれを題材にして学習のための知識と技術を演習形式で身に付けてもらいます。

講義の内容／授業スケジュール 内容は、大別して(1)大学生活の過ごし方(3回程度)、(2)学習技術の習得(6回程度)、(3)レポート作成とプレゼンテーション(5回程度)の3つを柱とします。
 基礎ゼミは、商学科の新入生を対象としていますので、最初に大学生活の過ごし方について考えます。大学4年間をどう過ごすのか、卒業後の進路も含めた人生計画を立ててみましょう。
 学習技術の習得は、ノートのとり方、本の読み方と要約の仕方、資料・情報収集の仕方と整理の方法、レポートの書き方、などです。これらを、具体的問題を題材にしながら実習します。
 最後に、それぞれ興味・関心のあるテーマについてレポートを作成し、プレゼンテーションします。

準備学習 基礎ゼミでは、新聞の切り抜きやレポートなどの課題が出されることがあります。担当者の指示に従って課題をこなしましょう。

履修上の留意点 基礎ゼミが1年次の「全員履修科目」となっているのは、この科目の重要性を示しています。理由なく欠席することのないことを望みます。また、学習スキルを身に付けたり、プレゼンテーションを行うためにはPCの活用が不可欠です。「情報入門I」、「情報入門II」は必ず履修して下さい。

成績評価の方法 出席、レポート、プレゼンテーションで評価します。

教科書／テキスト 第1講時に担当者がそれぞれ指示します。

参考書 担当者が適宜紹介します。

その他 基礎ゼミで基礎知識と学習技術を習得し、社会・経済問題への興味・関心を養い、4年間の勉学に大いに役に立てられることを期待します。
 1年次生のみ対象の科目です。2年次以降は履修できません。

1)就業力基礎I、IIと連携した内容がありますので、就業力基礎I、IIを履修する学生は本科目も履修ください

履修コード	101251
科目名	基礎ゼミ
担当者名	吉田 真広

講義の到達目標(ねらい) 基礎ゼミは、勉学意欲に燃えて入学してきた新入生の皆さんに、入学後の学習の道案内をするとともに、学習のためのスキル(学習技術)を身につけてもらおうという目的で設けられた科目です。
 新聞を広げてみると、私たちの暮らす社会は実に様々な問題があることがわかります。社会科学、とくに経済学や商学・会計学・経営学を学ぶということは、新聞に載っているさまざまな問題がなぜ生まれてくるのか、その問題をどのように解決すれば良いのかということについて、事実を正確に認識した上で、考えることです。その過程で、どのような問題であろうと興味・関心が湧いてくればしめたものです。
 興味・関心が芽生えた問題をさらに追求しようとするとき、基本として「聴く、読む、調べる、整理する、書く」といった学習技術が大いに役立ちます。たとえば、講義で聴いたことをノートにとるだけでもそれなりのコツが必要です。ノートはとったけれども、後で見直してみたらサッパリ、というのでは役に立ちません。基礎ゼミでは、具体的な問題を皆さんに紹介して興味・関心を喚起しながら、同時にそれを題材にして学習のための知識と技術を演習形式で身に付けてもらいます。

講義の内容／授業スケジュール 内容は、大別して(1)大学生活の過ごし方(3回程度)、(2)学習技術の習得(6回程度)、(3)レポート作成とプレゼンテーション(5回程度)の3つを柱とします。
 基礎ゼミは、商学科の新入生を対象としていますので、最初に大学生活の過ごし方について考えます。大学4年間をどう過ごすのか、卒業後の進路も含めた人生計画を立ててみましょう。
 学習技術の習得は、ノートのとり方、本の読み方と要約の仕方、資料・情報収集の仕方と整理の方法、レポートの書き方、などです。これらを、具体的問題を題材にしながら実習します。
 最後に、それぞれ興味・関心のあるテーマについてレポートを作成し、プレゼンテーションします。

準備学習 基礎ゼミでは、新聞の切り抜きやレポートなどの課題が出されることがあります。担当者の指示に従って課題をこなしましょう。

履修上の留意点 基礎ゼミが1年次の「全員履修科目」となっているのは、この科目の重要性を示しています。理由なく欠席することのないことを望みます。また、学習スキルを身に付けたり、プレゼンテーションを行うためにはPCの活用が不可欠です。「情報入門I」、「情報入門II」は必ず履修して下さい。

成績評価の方法 出席、レポート、プレゼンテーションで評価します。

教科書／テキスト 第1講時に担当者がそれぞれ指示します。

参考書 担当者が適宜紹介します。

その他 基礎ゼミで基礎知識と学習技術を習得し、社会・経済問題への興味・関心を養い、4年間の勉学に大いに役立つことを期待します。
 1年次生のみ対象の科目です。2年次以降は履修できません。

1)就業力基礎I、IIと連携した内容がありますので、就業力基礎I、IIを履修する学生は本科目も履修ください

履修コード	101261
科目名	基礎ゼミ
担当者名	吉田 真広

講義の到達目標(ねらい) 基礎ゼミは、勉学意欲に燃えて入学してきた新入生の皆さんに、入学後の学習の道案内をするとともに、学習のためのスキル(学習技術)を身につけてもらおうという目的で設けられた科目です。
 新聞を広げてみると、私たちの暮らす社会は実に様々な問題があることがわかります。社会科学、とくに経済学や商学・会計学・経営学を学ぶということは、新聞に載っているさまざまな問題がなぜ生まれてくるのか、その問題をどのように解決すれば良いのかということについて、事実を正確に認識した上で、考えることです。その過程で、どのような問題であろうと興味・関心が湧いてくればしめたものです。
 興味・関心が芽生えた問題をさらに追求しようとするとき、基本として「聴く、読む、調べる、整理する、書く」といった学習技術が大いに役立ちます。たとえば、講義で聴いたことをノートにとるだけでもそれなりのコツが必要です。ノートはとったけれども、後で見直してみたらサッパリ、というのでは役に立ちません。基礎ゼミでは、具体的な問題を皆さんに紹介して興味・関心を喚起しながら、同時にそれを題材にして学習のための知識と技術を演習形式で身に付けてもらいます。

講義の内容／授業スケジュール 内容は、大別して(1)大学生活の過ごし方(3回程度)、(2)学習技術の習得(6回程度)、(3)レポート作成とプレゼンテーション(5回程度)の3つを柱とします。
 基礎ゼミは、商学科の新入生を対象としていますので、最初に大学生活の過ごし方について考えます。大学4年間をどう過ごすのか、卒業後の進路も含めた人生計画を立ててみましょう。
 学習技術の習得は、ノートのとり方、本の読み方と要約の仕方、資料・情報収集の仕方と整理の方法、レポートの書き方、などです。これらを、具体的問題を題材にしながら実習します。
 最後に、それぞれ興味・関心のあるテーマについてレポートを作成し、プレゼンテーションします。

準備学習 基礎ゼミでは、新聞の切り抜きやレポートなどの課題が出されることがあります。担当者の指示に従って課題をこなしましょう。

履修上の留意点 基礎ゼミが1年次の「全員履修科目」となっているのは、この科目の重要性を示しています。理由なく欠席することのないことを望みます。また、学習スキルを身に付けたり、プレゼンテーションを行うためにはPCの活用が不可欠です。「情報入門I」、「情報入門II」は必ず履修して下さい。

成績評価の方法 出席、レポート、プレゼンテーションで評価します。

教科書／テキスト 第1講時に担当者がそれぞれ指示します。

参考書 担当者が適宜紹介します。

その他 基礎ゼミで基礎知識と学習技術を習得し、社会・経済問題への興味・関心を養い、4年間の勉学に大いに役立つことを期待します。
 1年次生のみ対象の科目です。2年次以降は履修できません。

1)就業力基礎I、IIと連携した内容がありますので、就業力基礎I、IIを履修する学生は本科目も履修ください

履修コード	099291
科目名	キャリア・デザイン ◎
担当者名	竹下 睿麒

講義の到達目標(ねらい)	<p>「キャリア」とは、狭義には「個人が自分の仕事人生を通してつー連の職業および職務」ですが、広義には（職業・労働の世界での生き方に限定されず）「人生の諸過程（ライフプロセス）、生き方（ライフスタイル）」を意味します。従って「キャリア・デザイン」とは、自分らしい生き方を実現するためには、どのような知識・技能を身につければよいかを考え、実践すること（人生設計）です。21世紀の生涯学習社会において個人が自立するためには、職業人として、家族やコミュニティの一員として、学びや遊びの主体として、自分の能力を生かし、「キャリア・アップ」や「キャリア・チェンジ」を行うことが重要となります。</p> <p>講義では、個性的創造的キャリア形成のために自ら考え、判断し、意思決定をしていくうえで必要な基礎的能力を身につけてもらいたいと思います。また、広く各分野からゲスト講師を迎え、さまざまな「キャリア」＝それぞれの方の労働・生活・人生の喜怒哀楽の実際を紹介・評価してもらう機会を適宜設けます。ゲストの個性あふれる人生体験はきっとみなさんに大きなヒントになるでしょう。</p>
講義の内容／ 授業スケジュール	<p>講義-1. 企業による雇用システムの変化と就職戦線への対応（学業と就職準備活動の両立）、2. 21世紀はどんな時代・社会になるのか（生涯学習社会と「キャリア・デザイン」）、3. ライフサイクルと職業生活（職業と就職の意味）、4. 「キャリア・デザイン」と大学の役割（学業と課外活動の意義）、5. 大学生活をどのように過ごすか（進路選択＝職探しは自分探しである）。ゲスト講師による「キャリア・デザイン（人生設計論）」-前期3～4回、後期5～6回。なお、前期、後期の初めに「授業実施計画」（スケジュール表）を配布します。</p>
準備学習	講義内容をノートに筆記し、講義後整理することが望まれる。
履修上の留意点	出席を重視します。
成績評価の方法	後期の期末に記述形式の定期試験を行います。出席点と試験の結果を総合して評価します。
教科書／テキスト	教科書は使用しません。
参考書	講義のつど紹介します。
その他	1・2年次生のみ対象の科目です。3年次生以降は履修できません。適宜、講義内容に関連するレジュメ、プリント、資料を配付します。

履修コード	094401
科目名	教育経済論
担当者名	谷敷 正光

講義の到達目標(ねらい) この講義は経済発展に教育・訓練(人材養成教育)が果たした意義とその役割について明らかにする。19世紀の欧米列強との圧力に始まった途上国日本の「先進国へのキャッチアップ」(戦前期)、第二次大戦後の疲弊経済から「欧米経済へのキャッチアップ」の完成(戦後期)について、それを可能にした初期条件に日本の高い教育水準と教育があり、それが急速なキャッチアップを可能としたといわれている。

本年度は外国から高く評価された日本の教育・訓練(人材養成)について、前者は産業革命育成期から産業資本確立期を中心に、後者は「特需」を契機に復興した経済復興期から高度経済成長・低成長期・成熟期までを中心に、それぞれの経済発展段階の特徴とその時に教育・訓練(人材養成)が果たした意義と役割について明らかにする。また、一時、欧米各国は経済面で国際競争力の低下が顕著となり、「国際競争力の低下」が「教育水準の低下」と密接に関連しているとの観点から教育改革がなされたが、欧米各国の経済発展と教育・訓練(人材養成)の役割についても考察する。

- 講義の内容／授業スケジュール**
1. 工業化の条件と基礎教育
 - (1) ガイダンス・発展途上国とリテラシー
 - (2) 途上国日本の産業化とリテラシー→教育水準と識字率、非識字教育と児童労働
 - (3) 途上国日本の工業化と教育→徳川時代の遺産
 - (4) 江戸時代工業化条件の準備、途上国と非識字運動
 2. 途上国日本の経済発展と実業教育政策(戦前期)
 - (5) 学制時代の経済と教育→産業革命育成期「富国強兵・殖産興業」
 - (6) 学制時代の経済と教育→「学制」公布と行政管理学校
 - (7) 教育令時代の経済と教育→産業革命準備期(明治10年代)
 - (8) 教育令時代の経済と教育→「教育令」公布と職工学校・機業地学校
 - (9) 学校令時代の経済と教育→第1次産業革命と紡績業の発展
 - (10) 学校令時代の経済と教育→「学校令」公布と実業補習学校・徒弟学校
 - (11) 実業学校令時代の経済と教育→第2次産業革命と鉄鋼業の発展・生産財部門の確立
 - (12) 実業学校令時代の経済と教育→「実業学校令」「専門学校」公布と「上からの教育」
 - (13) 実業学校令時代の経済と教育→委託教育・工場内学校と「下からの教育」
 3. 日本の高度経済成長と産業教育政策(戦後期)
 - (14) 戦後経済の民主化と教育
 - (15) 経済復興期の経済発展と教育→「産業教育振興法」
 - (16) 高度成長第I期の経済発展と教育
 - (17) 高度成長第II期の経済発展と教育
 - (18) 高度成長第III期の経済発展と教育
 - (19) 高度成長第IV期の経済発展と教育
 - (20) 低成長期の経済発展と教育
 - (21) 成熟期の経済発展と教育。
 4. 欧米の経済成長と教育
 - (22) サッチャー政権の経済成長と教育→「サッチャーリズム」と「プリティッシュ・デイズ改革」
 - (23) サッチャー政権の経済成長と教育→「教育改革法」と「教育のプリティッシュ・デイズ改革」
 - (24) ブレア政権の経済成長と教育→「第三の道」と「福祉のニューディール」
 - (25) ブレア政権の経済成長と教育→「教育委員会の民営化」と「教育アクションゾーン改革」
 - (26) レーガン政権の経済成長と教育→「レーガノミックス」と「危機に立つ国家」
 - (27) ブッシュ政権の経済成長と教育→「ブッシュノミックス」と「2000年のアメリカ教育戦略」
 - (28) クリントン政権の経済成長と教育→「クリントノミックス」
 - (29) クリントン政権の経済成長と教育→「アメリカ教育法」と「教育大国」
 - (30) 講義の総括、提示した「課題」の確認

準備学習 毎時間提示した「課題」は復習を兼ねてまとめてください。毎時間、参考文献を挙げるので、講義の予習や復習の参考にして下さい。

履修上の留意点 ①年間回数小テストを実施し、平常点とします。②毎時間、講義の「参考資料」として、ビデオ(VTR)・DVDを使用します。③毎時間、講義用の「プリント」を配布します。一度配布したプリントは、後の時間では配布しません。

成績評価の方法 授業中の小テストと夏休レポート(2割)、定期試験(8割)によって評価します。定期試験は「持込」ではありません。

教科書／テキスト 教科書の代わりに毎時間、講義用「プリント」を配布し、教科書とします。

参考書 参考文献は講義の中で単元ごとに毎時間、詳細に紹介します。以下は講義当初の参考文献です。OECD編『世界の児童労働』明石書店。H・R・ウオッチ著『インドの債務児童労働』明石書店。中岡哲郎著『日本近代技術の形成 伝統と近代のダイナミクス』朝日新聞社。佐々木讓著『幕臣たちと技術立国』集英社。大野健一著『途上国日本の歩み』有斐閣。以下は講義の中で、単元ごとに紹介します。

履修コード	100551
科目名	教員試験特別演習
担当者名	谷敷 正光

講義の到達目標(ねらい) 本講は、教員採用試験を目指している人に、教師としての資質・力量の形成と教員試験に必要な基礎学力を育成することを主眼としています。近年、教員採用試験はより優れた、魅力ある教師を求めて選考試験も多様化・高度化し、筆記試験のみならず、面接試験、論文試験、模擬授業試験・場面指導試験・ロールプレイング試験、その他全般にわたって、さまざまな工夫がなされています。

本講は第一に「なぜ教師を目指すのか」「どんな教師になりたいのか」「どんな教育をしたいのか」といった教師をめざすのに不可欠な教育理念・教師像の形成を行います。第二には学校において学習指導・生徒指導上起こるさまざまな問題場面・問題行動を想定してその対処法を徹底的に討論し、学習指導・生徒指導上の心構えや対応策を修得します。第三には各自が描いている教育観教師像・指導理念・指導方法が、実際の教育現場で通用するかどうかを確認するため、できるだけ小中高校の教師と対話する機会をもち、学校では実際にどのような対処法・指導法を取っているかを学びます。第四には公立学校教員試験の対策として「教職教養」「一般教養」「専門教養」の対策と学習法、「集団面接」「個人面接」「集団討論」の練習、「論文演習」(添削指導)を行います。最後に、教師としての資質・力量の形成のため、「サブゼミ」において各自「模擬授業の実践」「小・中学校ティーチングアシスタント」「小・中学校学習支援ボランティア」の実践活動を行います。教職を目指す人ならば学部、学科を問いませんので、ともに勉強し、教員志望の夢を叶えたいと思う。

講義の内容／授業スケジュール 第1回～第2回 教員採用試験の実施状況、教員試験の心構えと学習計画、参考書と問題集について、教師として必要な資質と能力について、小・中学校でのティーチング・アシスタントの実践について。

第3回～第4回 一般教養の取り組み方について、専門教養の取り組み方について。

第5回～第7回 西洋教育史の要点整理と問題演習。

第8回～第10回 日本教育史の要点整理と問題演習。

第11回～第15回 教育原理の要点整理と問題演習。

第16回～第17回 教育法規の要点整理と問題演習。

第18回～第22回 教育心理の要点整理と問題演習。

第23回～第26回 同和・人権教育、道徳教育、学習指導要領の要点整理と問題演習は可能な限り実施。

第27回～第29回 模擬授業実践、模擬面接の練習。

第30回 1年間の総括と課題の提出。

準備学習 日頃よりTVニュースを見たり、新聞・雑誌に目を通し、学校教育や児童生徒の動向を把握するとともに文部科学省の動向や受験する県の教育委員会の動向をつかむこと。

履修上の留意点 1. 集団討論の練習(今日的教育課題を中心に討論)、個人面接・集団面接の練習、教育論文演習は先輩教師(小学校、中学校、高等学校、教育委員会の先生)の指導の下に実施します。
2. 学校教育への認識を深め、児童生徒理解のために、小学校、中学校で「ティーチング・アシスタント」を実践し、教師としての実際的能力の修得につとめ、教師としての資質・力量の形成を行います。
3. 教員としての資質向上のため、特別支援学校でのボランティア活動を行います。
4. 「模擬授業の実践」「小・中学校ティーチングアシスタント」「特別支援学校でのボランティア」などの実践活動は、「特別演習」の時間内での実施は不可能で、「サブゼミ」において徹底的に行います。

成績評価の方法 各種課題提出、小テスト、討論、小論文演習、受講態度など総合的に評価します。追試験は実施しません。

教科書／テキスト 必要に応じて「教科書」の代わりに「プリント」を配布するので、教科書は使用しません。

履修コード	323601
科目名	行政法
担当者名	金子 昇平

講義の到達目標(ねらい) 現代の行政法は、従来、対象とされていない新たな法分野が続出しているといえる。例えば、行政手続法の制定をはじめ、情報公開法、個人情報保護法、環境アセスメント法等を挙げることが出来るが、これらの法領域に対応すべく行政法の理論を考えていかなければならない。

そこで講義においては、行政法での、基本的な原理や原則に対する、よりアップ・ツー・デートな課題を積極的に掲示し、諸君とともに、問題発見と問題解決のための法的手法を考えてみたい。

講義の内容／授業スケジュール 1) 行政法の基礎(1～5)
①行政と法の一般的関係(行政の概念と分類、行政法の成立、行政法の特性) ②日本行政法の基本構造(公法・私法二元論とその有用性、行政法学のあり方) ③行政法の法源(成文法源、不文法源、行政法の効力) ④日本行政法の基本原理(法律による行政の原理、法治主義、行政のコントロール・システムの充実、法の一般原理)

2) 行政過程論(6～15)
①行政の行為形成論(行政立法・法規命令と行政規則) ②行政行為(行政行為の意義、行政行為と法の拘束、行政行為の種類、行政行為と裁量、行政行為の効力、行政行為の瑕疵、行政行為と法律関係、行政行為の附款) ③行政上の契約(問題の所在、行政上の契約の問題点) ④行政指導(意義、行政指導と法の拘束、行政指導と救済制度) ⑤行政計画(意義、計画と法の拘束、計画と救済制度)

3) 行政上の一般的制度(16～25)
①行政上の義務履行確保(行政上の強制執行、行政代執行、直接強制、執行罰) ②即時強制 ③行政調査(行政調査の意義及び問題点) ④行政手続(行政手続の意義と機能、適正手続の基本的内容、行政手続法の法源、行政手続法、命令・計画策定手続、手続の瑕疵と処分) ⑤行政情報管理(情報公開、情報公開の理念・意義・展開、情報公開法、行政機関個人情報保護、行政スタイルの変革)

4) 行政過程における私人(26～30)
①行政過程における私人の地位 ②行政過程における私人の行為

準備学習 毎回、事前に教科書の該当部分を予め学習しておくこと。

履修上の留意点 行政法は、きわめて数多くの法律が登場してくるので、六法全書を持参すること。

成績評価の方法 期末試験の成績により評価する。

教科書／テキスト 塩野宏『行政法I』(行政法総論)〔第五版〕有斐閣

参考書 塩野宏他編『行政判例百選I、II』(第五版)(有斐閣)

履修コード	058501
科目名	行政法
担当者名	鶏徳 啓登

講義の到達目標(ねらい) 現代国家は、一般に福祉国家と言われるようになったが、我国も憲法制定後60年経過して、国外的・国内的に、社会情勢の変化に伴う新しい問題が生じてきている。国内的には戦後の経済政策の下になされた約1万件に上る規制の緩和がなされる一方で、国民の高齢化問題に対処すべく消費税率の引き上げ、宗教法人法の改正による宗教団体の規制問題など枚挙に暇がない。

本講義は、種々の行政作用を中心に行政法の輪郭を理解することをねらいとする。

講義の内容／授業スケジュール

1回～3回 : 行政法の意義について(法令の種別と法の解釈を含む)。
4回～6回 : 行政作用と行政行為について。
7回～15回 : 行政行為(特許や許可等)の意義、内容、効力について。
16回～20回 : 行政上の強制手段と行政上の処罰について。
21回～25回 : 国家による賠償と補償について。
26回～30回 : 行政上の不服申し立てと行政事件訴訟について。

成績評価の方法 成績評価は出席状況と試験またはレポートによる。

教科書／テキスト 原田尚彦著 『行政法要論』(学陽書房) 3,000円:ISBN4-313-31222-6
『小六法』 出版社・定価各種

参考書 塩野宏著『行政法I・II』(有斐閣)4,000円 その他、教場にて説明。

履修コード	097061
科目名	協同組合論
担当者名	山口 浩平

講義の到達目標(ねらい) 生協、農協などの協同組合は、民主的に管理され、構成員の共通の目的を達成するための事業体です。この講義では協同組合の実態と役割、その意義を理解し、その各国における現状と課題を把握し、そしてその現代的な姿を探ることを目的としています。

講義の内容／授業スケジュール

1. 協同組合が存在する背景と法制度、社会・経済システムの中での位置づけ: 株式会社・NPO等との比較(1~5回)、2. 日本における各種協同組合の現状: 農協・生協・協同組織金融等(6~10回)、諸外国の協同組合と非営利・協同セクターの中での存在意義、新しい協同組合(11~15回)

準備学習 日本における協同組合は個別法によって規定されています。可能ならば、事前に日本の法人制度についての学習を行って下さい。

履修上の留意点 実際の協同組合が提供しているサービス(生協の店舗、宅配など)を利用してみることをお勧めします。

成績評価の方法 学期末試験(7割)と授業内に提出を求める課題(3割)を中心に、講義への参加も考慮し、総合的に評価します。

教科書／テキスト 特に指定しません。毎回資料を配布します。

参考書 河野直践(2006)『協同組合入門』創森社
栗本昭編著(2006)『21世紀の新協同組合原則』コープ出版社
川口清史・富沢賢治編(1999)『福祉社会と非営利・協同セクター』日本経済評論社

履修コード	097801
科目名	銀行システム論
担当者名	近廣 昌志

講義の到達目標(ねらい) 個別の銀行について考えれば、預金者から預金を受け入れて貸出を行い、その他資産から収益をあげているように見えます。しかし、銀行システム全体をひとつのセクターとして考えてみると、預金の存在は貸出の結果であると考えられるのです。つまり、銀行は現金で預金を獲得しなくても貸出できるのですが、この謎を解くことができれば、銀行システム論の核心を理解することになるでしょう。

本講義は、銀行業務に対する知識習得と、銀行システムに対する理論面からの考察とを組み合わせで展開します。

預金取扱金融機関としての銀行は、貨幣経済社会において他の経済主体や金融機関にはみられない特殊性を有しています。本講義のねらいは、貨幣経済および金融システムの中心にある銀行システムに対する理解を深めるために、まず、事実としての銀行業務を把握することから始め、銀行の固有業務、民間経済主体との関わりにおける機能および役割について解説します。次に、個別銀行の総体である銀行システムに関して、ネットワークとしての意義と社会的役割について検討し、銀行セクターに関する理論面の解説と考察に移ります。

銀行システムに関する理論的考察の重要性が認識できれば、金融部門のみならず経済社会に対する視点を身に付けることができると期待されます。銀行の基礎理論を身に付け、銀行あるいは銀行システムが経済社会にとって特別な存在であることの意味を考えましょう。

講義の内容／授業スケジュール 第2～9講で銀行業務の解説など現実的側面を、第10～14講で理論的側面を取扱います。

- [第1講] ガイダンスおよびイントロダクション：問題の捉え方
- [第2講] 銀行の歴史と現代の銀行①：銀行の歴史と銀行の分類を中心に
- [第3講] 銀行の歴史と現代の銀行②：銀行業の国際比較を中心に
- [第4講] 決済システムと銀行業①：商業信用と手形交換システム
- [第5講] 決済システムと銀行業②：システムとしての決済・為替制度
- [第6講] 銀行の固有業務①：預金業務・信託業務を中心に
- [第7講] 銀行の固有業務②：銀行貸出・融資業務を中心に
- [第8講] 銀行の固有業務③：銀行の国際業務を中心に国際通貨の供給を考える
- [第9講] 銀行の収益構造：銀行のバランスシートから考える
- [第10講] 銀行券と預金貨幣①：現金は銀行にとって必要か？
- [第11講] 銀行券と預金貨幣②：信用創造の理論的解釈
- [第12講] 銀行券と預金貨幣③：マネーストックの増減要因の解釈
- [第13講] 銀行システムとしての金融政策①：中央銀行の役割と市中銀行との同質性
- [第14講] 銀行システムとしての金融政策②：金利コントロールが量的コントロールか
- [第15講] 講義のまとめ

履修上の留意点 本講義と併せて、後期科目の「現代銀行事情」の履修を推奨します。美しくノートを取り、配布する資料やパワーポイントの内容をよく整理してください。疑問点や質問があれば後回しにせず、その日のうちに講師に声をかけてください。

成績評価の方法 定期試験（70%）およびレポート（30%）により評価します。なお、評価のランクについては、基本的に定期試験およびレポートの合計点により算出しますが、記述内容が論理性に優れている場合および受講時の取組みに優れている場合には、合計点から算出されるランクよりも高いランクで評価する場合があります。

教科書／テキスト 開講時に指示しますが、参考図書の中から指定する場合があります。

参考書 建部正義著『はじめて学ぶ金融論（第2版）』大月書店、2005年。
鹿野嘉昭著『日本の金融制度（第2版）』東洋経済新報社、2006年。
東短リサーチ株式会社編『東京マネー・マーケット（第7版）』有斐閣、2009年。
日本経済新聞社編『ドキュメント 惑うマネー』日本経済新聞社、2003年。

履修コード	090901
科目名	金融論
担当者名	代田 純

講義の到達目標(ねらい) 通貨など金融の基本から説明する。小切手・手形を踏まえ、銀行貸出へと進む。最終的に公的金融、証券市場を含む、金融の全体像の理解を目指す。
テキストはイラストを多用した、ビジュアル系なので、わかりやすい。

講義の内容／授業スケジュール 年間を通じた授業の流れとしては、以下のような予定である。（各項目でおおむね2回の講義を予定する）
1 金融とは、2 通貨とは、3 小切手・手形とは、4 ペイオフ解禁とは、5 銀行貸出とは、6 金利とは、7 金融市場とは、8 証券市場とは、9 国債とは、10 金融機関とは、11 公的金融とは、12 財政投融资とは、13 郵便貯金とは、14 簡易保険とは、15 公的年金とは、16 政府系金融機関の再編とは

履修上の留意点 OHPにより、授業を進める。原則として板書はしない（チョークによる環境問題もあるため）。毎年、多人数の学生が履修登録しており、大規模講義になっています。しかし経済学科では選択必修科目であり、履修制限はしない。

成績評価の方法 定期試験（80点）とレポート（20点）により評価する。追試験は実施する。レポートについては、11月ころ、YeStudyにアップする予定。

教科書／テキスト 代田 純著、『新版 図説 やさしい金融財政』（丸善）、2009年12月、定価1800円＋税、ISBN-978-4-621-08214-0を使用する。

参考書 レポートの際に、
二上・代田編著、『証券市場論』（有斐閣）2011年
代田純編、『金融危機と証券市場の再生』（同文館）2010年
代田純編著、『日本の国債・地方債と公的金融』（税務経理協会）2007年のいずれか（本人の選択による）を使用する。

その他 私語は厳禁する。私語をする学生には退出を命じる。

履修コード	308601
科目名	金融論
担当者名	代田 純

講義の到達目標(ねらい)	通貨など金融の基本から説明する。小切手・手形を踏まえ、銀行貸出へと進む。最終的に公的金融、証券市場を含む、金融の全体像の理解を目指す。
講義の内容／ 授業スケジュール	年間を通じた授業の流れとしては、以下のような予定である。(おおむね各項目2回の講義を予定する。) 1 金融とは、2通貨とは、3小切手・手形とは、4ペイオフ解禁とは、5銀行貸出とは、6金利とは、7金融市場とは、8証券市場とは、9国債とは、10金融機関とは、11公的金融とは、12財政投融资とは、13郵便貯金とは、14簡易保険とは、15公的年金とは、16政府系金融機関の再編とは
履修上の留意点	OHPにより授業を進める。原則として板書はしない(チョークによる環境問題もあるため)。
成績評価の方法	定期試験(80点)とレポート(20点)により評価する。追試験は実施する。
教科書／テキスト	代田 純著、『図説 やさしい金融財政』、(丸善)、定価1800円+税、ISBN978-4-621-08214-0 を使用する。
参考書	レポートの際に、 二上・代田編著、『証券市場論』、(有斐閣)2011年 代田 純編、『金融危機と証券市場の再生』(同文館)2010年 のいずれか(本人の選択による)を使用する。
その他	出席はとらないが、私語は厳禁する。

履修コード	095831
科目名	グローバル・ビジネス論 a
担当者名	日高 克平

講義の到達目標(ねらい)	1980年代末から本格化した地球規模での経済活動(グローバル化)によって、現代企業のビジネスは劇的に変化しています。グローバル化の現代的特徴は、ICT(情報通信技術)の飛躍的発展をともなっていることにあるため、現代企業のビジネス・モデルを分析する際にも、企業経営のグローバル化とICT化を関連付けることが肝要です。本講義では、そのような視座に立って、グローバル・ビジネスを展開する企業の具体的な事例を取り上げつつ、企業経営の新たな手法や技法を探るとともに、その革新的特性や問題点を解明することを目的としています。
講義の内容／ 授業スケジュール	グローバル・ビジネスの概念と歴史(第1~3回)、今日のグローバル化と企業経営(第4~5回)、グローバル・ビジネス論-グローバル戦略とローカル戦略-(第6~7回)、グローバル・マーケティング戦略(第8~9回)、生産活動のグローバル化-海外生産拠点の配置と調整-(第10~12回)、革新的ビジネス・モデルの事例研究(第13~15回)
履修上の留意点	グローバル・ビジネスに関する情報は、日頃の新聞、経済誌、テレビやインターネット等によって豊富に得られます。受講者は、授業を理解するのみに留まらず、そのような情報源に積極的にアクセスし、自ら知識を蓄えながら理解を深めるよう努力してください。
成績評価の方法	学期末試験に、出席状況および受講態度、講義中に課した提出物の評価を加味して総合判定します。
教科書／テキスト	講義時に配布するオリジナルのレジュメと資料を使用します。本講義の指定教科書はありません。参考文献については、各回のレジュメの中で紹介します。

履修コード	095841
科目名	グローバル・ビジネス論 b
担当者名	日高 克平

講義の到達目標(ねらい)	国境を越えて事業を拡大する企業行動は、市民生活にもさまざまな影響を及ぼしています。後期の課題を一言で表現すれば、グローバル・ビジネスと市民社会との共生関係をどのように築くべきか、という問題を検討すること、と言えます。グローバル・ビジネスは、優れた商品やサービスの提供という部分ではわれわれの生活に欠かせないものではありませんが、他方で、環境問題、雇用や労働条件をめぐる問題、人権問題等を引き起こす場合もあります。したがって、個々のビジネス・モデルを検討する場合、グローバル・ビジネスの恩恵の部分だけでなく、負の部分も認識した上で総合的に評価をくだすことが重要です。また21世紀のビジネス・モデルがどうあるべきか、どのようなビジネスを育成していくべきか、という問題について、「共生」というキーワードを用いて考察します。
講義の内容／ 授業スケジュール	グローバル・ビジネスの現代的特徴および戦略的課題(第1~3回)、グローバル・リストラクチャリング-グローバル M&A とアライアンス戦略-(第4~6回)、グローバル・ビジネスと国家・地域・都市(第7~9回)、グローバル・ビジネスと CSR-環境・人権・労働問題-(第10~12回)、共生型ビジネス・モデルとその事例研究(第13~15回)
履修上の留意点	グローバル・ビジネスに関する情報は、日頃の新聞、経済誌、テレビやインターネット等によって豊富に得られます。受講者は、授業を理解するのみに留まらず、そのような情報源に積極的にアクセスし、自ら知識を蓄えながら理解を深めるよう努力してください。
成績評価の方法	学期末試験に、出席状況および受講態度、講義中に課した提出物の評価を加味して総合判定します。
教科書／テキスト	講義時に配布するオリジナルのレジュメと資料を使用します。本講義の指定教科書はありません。参考文献については、各回のレジュメの中で紹介します。

履修コード	098011
科目名	グローバル・ファイナンス
担当者名	小西 宏美

講義の到達目標(ねらい) 本講義では、企業の海外生産、投資活動を金融の側面から支えてきたグローバル・ファイナンスの役割とその弊害について学習する。今日のグローバル化は企業の国際的生産活動に因るところが大きい。たとえばDELLがPCを生産するとき、マイクロプロセッサはフィリピン、メモリは韓国、キーボードは台湾からそれぞれ調達し、それらを中国の工場で組み立て日本に出荷するといった具合である。グローバル・ファイナンスは、こうした企業の国際的生産、投資活動を金融の側面から支える。
しかし逆にグローバル・ファイナンスがもたらす問題もある。それは経済の「カジノ化」（カジノ資本主義）である。今アメリカ発の金融危機によって世界経済が混乱しているが、これも「カジノ資本主義」がもたらした問題と言える。本講義ではグローバル・ファイナンスの役割とその問題点を検討しながら、将来的に望ましい企業金融のあり方や金融システムの枠組みについて考える。

講義の内容／授業スケジュール I 多国籍企業の国際的生産体制とグローバル・ファイナンス（1～14）ユーロ市場、シンジケート・ローン、証券化
II デリバティブ取引 ～リスク回避と投機的取引～（15～24）デリバティブ取引
III カジノ化する国際金融市場（25～28）ヘッジ・ファンド、カジノ資本主義

準備学習 毎日、新聞を読みグローバル・ファイナンス関連の用語に慣れておくこと。
授業内容に関する質問は毎回配布するコメントカードに記載し、解答をYestudyで確認しておくこと。

履修上の留意点 授業にはノートを持参すること。

成績評価の方法 前期終了時点での授業内試験、後期終了後の定期試験で評価します。点数が合格点に満たない場合は、毎回のコメントカードへの記入も考慮します。

教科書／テキスト 指定しません。

参考書 奥田宏司、神沢正典編（2010）『現代国際金融論（第2版）』法律文化社、2600円（予価）、978-4-589-03240-9
スーザン・ストレンジ（2007）『カジノ資本主義』岩波現代文庫（" Casino Capitalism" 1986）1260円、978-4006001728
上川孝夫、藤田誠一、向寿一（2007）『現代国際金融論（第3版）』有斐閣ブックス、3045円、978-4641183469

その他 授業内で配布するプリントや毎回のコメントカードへの解答はYeStudyにアップしています。学習の参考にして下さい。

履修コード	091411 091412
科目名	経営学基礎 経営学総論
担当者名	小阪 隆秀

講義の到達目標(ねらい) この講義では、企業経営についての基本的な考え方を理解するために、経営学の基礎的な概念や理論を概説します。まず、企業とは何かを明らかにするために、企業についての理論の紹介から始め、株式会社の特質と経営者支配の成立を明らかにする。そこから、経営学における管理論の体系に則して、経営管理論、経営組織論、経営戦略論についての基本的な理論をとり上げていきます。このような諸理論の概説のなかで、具体的な事例についても出来るかぎり数多く紹介する予定ですが、この講義の主眼は、あくまでも経営学の「基礎理論」の修得にあります。それゆえ、経営学の領域のさまざまな専門科目への入門としての位置づけられるものであります。

講義の内容／授業スケジュール [第1回] 前期オリエンテーション：企業経営と経営学
[第2回] 企業と市場
[第3回] 企業の諸形態
[第4回] 株式会社の特質
[第5回] 株式会社における所有・経営・支配
[第6回] 専門経営者支配
[第7回] 企業の社会的責任（Corporate Social Responsibility）
[第8回] コーポレート・ガバナンス（企業統治）
[第9回] ステイクホルダー（利害関係者）・アプローチ
[第10回] 企業倫理
[第11回] 日本企業と資金調達構造
[第12回] 日本企業と生産システム
[第13回] 日本企業と雇用構造
[第14回] 株式会社の特質企業集団と系列
[第15回] 前期のまとめと試験
[第16回] 経営管理の基礎理論（1）：F.W.テイラーの科学的管理法
[第17回] 経営管理の基礎理論（2）：人間関係論
[第18回] 組織の構造要件と組織の諸形態
（職能別部門組織、事業部制組織、マトリックス組織）
[第19回] 組織原則と集権型・分権型
[第20回] 組織の大規模化とライフサイクル
[第21回] 現代巨大企業の成立と戦略（1）：フォード自動車会社
[第22回] 現代巨大企業の成立と戦略（2）：GM（ジェネラル・モーターズ）
[第23回] 経営理念・ビジョンと戦略策定
[第24回] 多角化戦略
[第25回] 資源戦略
[第26回] 競争戦略
[第27回] M&Aと戦略的提携
[第28回] グローバル戦略（1）
[第29回] グローバル戦略（2）
[第30回] 後期のまとめと試験

準備学習 授業中にしっかりノートを取り、その内容を整理しておいてください。小テストの問題は、そのノートの中から出します。それゆえ、授業の際には、それまでのノートを必ず持参してください。

履修上の留意点 授業中に年間を通じて予告なしに6回程度「小テスト」を行います。また、夏休み中に「課題レポート」を課します。これらは成績評価に直結していますので、登録の際にはこの点を十分考慮して、受講するかどうかを判断してください。

成績評価の方法 授業中に行う小テスト30点、夏休みの課題レポート10点、前期試験30点、後期試験30点の合計100点満点で評価します。

教科書／テキスト なし

参考書 百田義治編著『経営学基礎』中央経済社、2006年。その他の参考書は、授業中に指示します。

その他 なし

履修コード	091901
科目名	経営管理論
担当者名	岩波 文孝

講義の到達目標(ねらい) 経済的・社会的環境が急激に変化している状況において、企業管理の構造変化および企業管理のあり方が社会から問われている。本講義では、コーポレート・ガバナンスからのアプローチおよびCSRからのアプローチに基づき現代の企業管理の特質、特にトップ・マネジメント機能の現代的特質を考察していきたい。

講義の内容／授業スケジュール

1. 授業の概要・ガイダンス (1)
2. 企業と社会 (2~3)
3. 会社支配論とトップ・マネジメント (4~5)
4. 取締役会改革とコーポレート・ガバナンス (6)
5. CSRとトップ・マネジメント機能 (7)
6. 日本企業のトップ・マネジメント改革 (8~9)
7. アメリカ企業のトップ・マネジメント改革 (10)
8. イギリス企業のトップ・マネジメント改革 (11)
9. ドイツ企業のトップ・マネジメント改革 (12)
10. ロシア企業のトップ・マネジメント改革 (13)
11. グローバル企業のコーポレート・ガバナンス (14)
12. トップ・マネジメント改革とコーポレート・ガバナンスの展望 (15)
13. CSRと企業管理 (16~17)
14. ステークホルダーと企業管理 (18)
15. ステークホルダーの現状 (19)
16. コーポレート・ガバナンスとマネジメント (20~21)
17. グローバル・ガバナンスとマネジメント (22~23)
18. CSRと環境マネジメント (24)
19. 労働CSRの現状と課題 (25~27)
20. 企業管理改革の課題と展望 (28~30)

授業の進め方について、付言しておきます。授業の進行はテキストの順序とは異なります。

準備学習 企業経営の動向について、日常的に新聞・ニュース等を通じて情報収集をしてください。

履修上の留意点 現代社会の諸事情や企業経営について興味関心を持って受講してもらいたい。

成績評価の方法 定期試験(年度末)により評価します。

教科書／テキスト 前期教科書：風間信隆・海道ノブチカ編著(2009)『コーポレート・ガバナンスと経営学』ミネルヴァ書房、2800円+税、ISBN978-4-623-05409-1
後期教科書：足立辰雄・井上千一編著(2009)『CSR経営の理論と実際』中央経済社、2800円+税、ISBN978-4-502-66680-3

参考書 代田純編著(2010)『金融危機と証券市場』同文館。
日本比較経営学会編(2006)『会社と社会』文理閣、3150円、ISBN-13: 978-4892595318
仲田正機編著(2005)『比較コーポレート・ガバナンス研究』中央経済社、2600円+税、ISBN4-502-37970-0

履修コード	330111
科目名	経営管理論 a
担当者名	岩波 文孝

講義の到達目標(ねらい) 経済的・社会的環境が急激に変化している状況において、企業管理の構造変化および企業管理のあり方が社会から問われている。巨大企業のトップ・マネジメントをめぐる、所有と経営の分離にともなう会社支配の問題、グローバル化の進展・企業間競争の激化・資本調達にともなう企業の透明性と効率性が求められている。本講義では、コーポレート・ガバナンスに関連付けながら現代の巨大企業におけるトップ・マネジメント機能の特質を考察していきたい。

講義の内容／授業スケジュール

1. 授業の概要：ガイダンス (1)
2. 企業と社会 (2~3)
3. 会社支配論とトップ・マネジメント (3~4)
4. 取締役会改革とコーポレート・ガバナンス (5)
5. CSRとトップ・マネジメント機能 (6~7)
6. 日本企業のトップ・マネジメント改革 (8~9)
7. アメリカ企業のトップ・マネジメント改革 (10)
8. イギリス企業のトップ・マネジメント改革 (11)
9. ドイツ企業のトップ・マネジメント改革 (12)
10. ロシア企業のトップ・マネジメント改革 (13)
11. グローバル企業のコーポレート・ガバナンス (14)
12. 企業管理改革の課題と展望 (15)

授業の進め方について、付言しておきます。授業の進行はテキストの順序とは異なります。

準備学習 企業経営の動向について、日常的に新聞・ニュース等を通じて情報収集をしてください。

履修上の留意点 現代社会の諸事情や企業経営について興味関心を持って受講してもらいたい。

成績評価の方法 日常評価により評価します。

教科書／テキスト 風間信隆・海道ノブチカ編著(2009)『コーポレート・ガバナンスと経営学』ミネルヴァ書房、2800円+税、ISBN978-4-623-05409-1

参考書 代田純編著(2010)『金融危機と証券市場』同文館。
日本比較経営学会編(2006)『会社と社会』文理閣、3150円、ISBN-13: 978-4892595318
仲田正機編著(2005)『比較コーポレート・ガバナンス研究』中央経済社、2600円+税、ISBN4-502-37970-0

履修コード	330121
科目名	経営管理論 b
担当者名	岩波 文孝

講義の到達目標(ねらい) 経済的・社会的環境が急激に変化している状況において、企業管理の構造変化および企業管理のあり方が社会から問われている。本講義では、日本企業を中心とするCSR 経営とそれを主導すべき社会的規制の脆弱な実態を踏まえ、現代日本のCSR の意義と限界を導きだし、持続可能な社会をめざすCSR 型ビジネスモデルと経営、環境、社会分野における今後の課題を検討する。

講義の内容／授業スケジュール

1. 授業の概要：ガイダンス (1)
2. CSRと企業管理 (2～3)
3. ステークホルダーと企業管理 (4)
4. コーポレート・ガバナンスとマネジメント (5～6)
5. グローバル・ガバナンスとマネジメント (7～8)
6. 多国籍企業とCSR (9～10)
7. CSRと環境マネジメント (11)
8. 労働CSRの現状と課題 (12～13)
9. CSR経営の課題と展望 (14～15)

授業の進め方について、付言しておきます。授業の進行はテキストの順序とは異なります。

準備学習 企業経営の動向について、日常的に新聞・ニュース等を通じて情報収集をしてください。

履修上の留意点 現代社会の諸事情や企業経営について興味関心を持って受講してもらいたい。

成績評価の方法 日常評価により評価します。

教科書／テキスト 足立辰雄・井上千一編著 (2009) 『CSR経営の理論と実際』中央経済社、2800円+税、ISBN978-4-502-66680-3

参考書 日本比較経営学会編 (2006) 『会社と社会』文理閣、3150円、ISBN-13: 978-4892595318

履修コード	093001
科目名	景気循環論
担当者名	野村 信廣

講義の到達目標(ねらい) 景気循環への関心は極めて高い。それは (1) 景気循環が多くの人の生活に影響すること (2) 景気循環の姿がその都度変化すること (3) 景気循環が経済・政治の諸問題に影響すること-のためである。講義では (1) 景気循環を把握する方法 (2) 景気循環を引き起こす原因とメカニズム (3) 景気循環を応用した景気の過去分析や現状把握、将来予測-などを学ぶ。受講生が景気判断に対する理解・評価能力を習得し、自分自身で景気判断や予測が出来るようになる。

講義の内容／授業スケジュール

[前期] (1) 景気とサイクル (第1回～第6回)
(2) 景気循環の主な内容 (第7回～第15回)
[後期] (3) 景気循環の歴史 (第16回～第24回)
(4) 景気循環の理論 (第25回～第30回)

準備学習 過去1週間の内外の景気循環の記事を整理し、予定されている授業のテキストを読んでおくこと

履修上の留意点 日々の内外景気循環に興味を持つこと

成績評価の方法 レポート (前期)、定期試験 (筆記・後期)、出席状況を加味して総合的に評価

教科書／テキスト 景気循環学会・金森久雄「ゼミナール・景気循環入門」(東洋経済新報社)

参考書 適宜参考資料を作成・配布

その他 講義中心だが、質問や討議を歓迎

履修コード	099911 099912 099913 099914
科目名	経済外国書講読I a 外国書講読I a 経済外国書講読II a 外国書講読II a [英語]
担当者名	浅野 克巳

講義の到達目標(ねらい) 今年度の「経済外国書講読 I a (英語)」のテキストはN.Gregory Mankiw, Macroeconomics, 7th ed., 2010 をつかいます。書名の示す通り現代マクロ経済学の入門書ですから、英文・内容には特に難解なところはありません。英文をできるだけ早くかつ正確に読んで全体の要旨を把握する力をつけることが目標ですが、同時に本書を熟読することによって現代マクロ経済学の最新の研究成果とアウトラインを吸収することもこの講義のねらいです。

講義の内容／授業スケジュール 最初の授業でマクロ経済学の基礎レベルの復習を兼ねてテキストの要約と内容の紹介を行います。それ以降は毎回、受講者に日本語訳をしてもらい、内容について検討をします。

- 1-1 National Income: Where It Comes From and Where It Goes.
- 1-2 What Determines the Total Production of Goods and Services?
- 1-3 How Is National Income Distributed to the Factors of Production?
- 1-4 What Determines the Demand for Goods and Services?
- 1-5 What Brings the Supply and Demand for Goods and Services Into Equilibrium?
- 2-1 What Is Money?
- 2-2 The Quantity Theory of Money.
- 2-3 Seigniorage: The Revenue From Printing Money.
- 2-4 Inflation and Interest Rates.
- 2-5 The Nominal Interest Rate and the Demand for Money.
- 2-6 The Social Costs of Inflation.
- 2-7 Hyperinflation.
- 3-1 The Open Economy.
- 3-2 The International Flows of Capital and Goods.
- 3-3 Saving and Investment in a Small Open Economy.
- 3-4 Exchange Rates.

準備学習 履修者は予定箇所の予習が不可欠です。

履修上の留意点 英文の文献を読み内容を正しく理解する能力を身に付けてほしいと思います。できる限り多くのテキストを読む努力をおしまないこと。到達目標を確認するため、数回の小テストを行います。

成績評価の方法 期末試験の成績と出席状況で成績を評価します。

教科書／テキスト テキストにはN.Gregory Mankiw, Macroeconomics, 7th ed., 2010 を使用します。該当する箇所はプリントを配布します。

参考書 関連する参考書としては、N.G. マンキュー『マンキュー入門経済学』（東洋経済新報社）およびN.G. マンキュー『マンキュー経済学IIマクロ編』（東洋経済新報社）をあげておきます。

その他 特にありません。

履修コード	100131 100132 100133 100134
科目名	経済外国書講読I a 外国書講読I a 経済外国書講読II a 外国書講読II a [中国語]
担当者名	小杉 修二

講義の到達目標(ねらい) 中国経済の担い手は主として中国人であり、主たる経済活動は中国大陸で行われている。そこで主として使われているのは中国語である。「また聞き」でない、生の声は中国語で行われている。この「また聞き」でない生の声を書物を通じてくみ取る訓練が「外国書講読」である。ここでは現在の中国の在り方を大枠で作った鄧小平の文書＝『鄧小平文選』を読む。

講義の内容／授業スケジュール 第1-5週：第1章 第6-10週：第2章 第11-15週：第3章 第16-20週：第4章 第21-25週：第5章 第26-30週：第6章

履修上の留意点 語学の初心者が一から始める科目ではない。中国語を学んでいることが前提になる。中国語を母語とするものは「厳密な日本語」への翻訳を志す者に限る。

成績評価の方法 出席とテストで行う。

履修コード	099931 099932 099933 099934
科目名	経済外国書講読I a 外国書講読I a 経済外国書講読II a 外国書講読II a [ドイツ語]
担当者名	小林 正人

講義の到達目標(ねらい) ドイツ語で経済理論を学ぶ。

講義の内容／授業スケジュール テキストを輪読しながら、資本主義経済の仕組みについて理論的に考えます。受講生の語学能力に合わせてスケジュールを調整します。

準備学習 テキストをあらかじめ読んで十分に和訳をしておき、いつでも和訳を発表できるように準備しておくこと。ドイツ語の経済用語の対訳一覧をつくっていくと力が身につきます。

履修上の留意点 継続的な学習が重要なので、毎週確実に出席することを求めます。

成績評価の方法 授業への出席率に、輪読のときの発表量と和訳の水準を加えて総合評価します。和訳した文章を期末に提出してもらって評価に追加することも考えています。

教科書／テキスト Johann Most, "Kapital und Arbeit", 1873, reprinted in 1972.
上記の文献をコピーして配付します。

参考書 ヨハン・モスト／原著、カール・マルクス／加筆・改訂、大谷禎之介／訳『マルクス自身の手による資本論入門』大月書店、2009年。

履修コード	099811 099812 099813 099814
科目名	経済外国書講読I a 外国書講読I a 経済外国書講読II a 外国書講読II a [英語]
担当者名	鈴木 伸枝

講義の到達目標(ねらい) ノーベル経済学賞の受賞講演録を輪読します。経済学用語を習い、経済学の専門書や学術論文を英語で読む力を養うとともに、これまで経済学者たちがどのような問題に着目し研究してきたかを垣間見て刺激を受ける機会にもなるでしょう。

講義の内容／授業スケジュール 第1回：ガイダンス&教材選び。候補の講演録を5～10本紹介し、その中のどれから読んでいくかを決めます（多数決）。
第2回以降：1人あたり1段落程度を音読して訳してもらいます。

成績評価の方法 予習・発表（音読・訳）の平常点により評価します。

教科書／テキスト ノーベル経済学賞の受賞講演録から何点か選びます。

履修コード	100151 100152 100153 100154
科目名	経済外国書講読I a 外国書講読I a 経済外国書講読II a 外国書講読II a [朝鮮語]
担当者名	鄭 章淵

講義の到達目標(ねらい) この授業は、韓国の経済発展に関する朝鮮語（韓国語）文献を講読して、韓国経済について理解を深めてもらうことを目的とする。

講義の内容／授業スケジュール 受講生には予め朝鮮語に対する基礎的な理解力が求められるが、授業では、受講生の習熟度に合わせてできるだけ平易な解説に努めるつもりである。朝鮮語に自信のない諸君も奮って参加してもらいたい。

準備学習 新聞・WEBサイトの韓国経済に関する記事を読むこと。

履修上の留意点 授業での課題の遂行状況（レポートなど）を基に成績を評価するので授業を休まないようにしてもらいたい。

成績評価の方法 レポート回数などを加味して総合的に評価する。

教科書／テキスト 初回授業時にプリントを配布する。テキストは、おもに韓国の新聞記事を使用する。

参考書 辞書や文法書など参考書については初回授業時に紹介する。

履修コード	099831 099832 099833 099834
科目名	経済外国書講読I a 外国書講読I a 経済外国書講読II a 外国書講読II a [英語]
担当者名	松本 典子

講義の到達目標(ねらい) 非営利組織（non-profit organization）や社会的企業（social enterprise）に関する英語文献を素材に、外国語の専門書に慣れ親しむこと、楽しみながら読解力を維持・向上させること、非営利組織および社会的企業の経営学に関わるさまざまな知識・技法・思想を学ぶことが本講義のねらいです。

講義の内容／授業スケジュール 非営利組織および社会的企業に関する下記の英語文献を講読します。
・Nyssens, Marthe, ed. [2006] "Social Enterprise", Routledge.
・Carroll, Archie B. and Buchholtz, Ann K., eds. [2009] "Business & Society : ethics and stakeholder management", South-Western Cengage Learning.

履修上の留意点 ・必ず予習をして参加してください。
・非営利組織論aとbをすでに履修していることを前提として講義をすすめます。

成績評価の方法 ・成績は、定期試験50%、出席・報告状況等50%で、総合的に評価します。

教科書／テキスト 随時、配布します。

参考書 適宜、指示します。

その他 ・輪読形式です。

履修コード	100141 100142 100143 100144
科目名	経済外国書講読I a 外国書講読I a 経済外国書講読II a 外国書講読II a [ロシア語]
担当者名	山縣 弘志

講義の到達目標(ねらい) ロシア語に親しみ、ロシアに関する知識を増やす。

講義の内容／授業スケジュール 経済に関連した比較的易しい読み物、記事を読み、議論する。

履修上の留意点 ロシア語既修者を対象とする。

成績評価の方法 授業における発表を評価する。

教科書／テキスト 数種類の候補の中から、履修者の関心とレベルにあったものを選定する。

履修コード	099921 099922 099923 099924
科目名	経済外国書講読I b 外国書講読I b 経済外国書講読II b 外国書講読II b [英語]
担当者名	浅野 克巳

講義の到達目標(ねらい) 今年度の「経済外国書講読 Ib (英語)」のテキストはN. Gregory Mankiw, Macroeconomics, 7th ed., 2010 をつかいます。書名の示す通り現代マクロ経済学の入門書ですから、英文・内容は特に難解なところはありません。英文をできるだけ早くかつ正確に読んで全体の要旨を把握する力をつけることが目標ですが、同時に本書を熟読することによって現代マクロ経済学の最新の研究成果とアウトラインを吸収することもこの講義のねらいです。

講義の内容／授業スケジュール 最初の授業でマクロ経済学の基礎レベルの復習を兼ねてテキストの要約と内容の紹介を行います。以降は受講者各自が日本語訳を行い内容に検討を加えます。
1-1 Economic Growth : Capital Accumulation and Population Growth.
1-2 The Accumulation of Capital.
1-3 The Golden Rule Level of Capital.
2-1 Technological Progress in the Solow Model.
2-2 From Growth Theory to Growth Empirics.
2-3 Policies to Promote Growth.
2-4 Evaluating the Rate of Saving.
2-5 Beyond the Solow Model: Endogenous Growth Theory.
3-1 Introduction to Economic Fluctuations : The Facts About the Business Cycle.
3-2 Time Horizons in Macroeconomics.
3-3 Aggregate Demand.
3-4 Aggregate Supply.
3-5 Stabilization Policy.
4-1 Building the IS-LM Model.
4-2 The Goods Market and the IS Curve.
4-3 The Money Market and the LM Curve.
4-4 The Short-Run Equilibrium.

準備学習 履修者各自は予習しておく必要があります。
履修上の留意点 できる限り多くのテキストを読む努力を惜しまないこと。到達目標を確認するため数回の小テストを行います。
成績評価の方法 期末試験の成績と出席状況で成績を評価します。
教科書／テキスト テキストはN. Gregory Mankiw, Macroeconomics, 7th ed., 2010 をつかいます。該当する箇所はプリントを配布します。
参考書 関連する参考書としては、N. G. マンキュー『マンキュー入門経済学』（東洋経済新報社）およびN. G. マンキュー『マンキュー経済学IIマクロ編』（東洋経済新報社）をあけておきます。
その他 特にありません。

履修コード	100161 100162 100163 100164
科目名	経済外国書講読I b 外国書講読I b 経済外国書講読II b 外国書講読II b [中国語]
担当者名	小杉 修二

講義の到達目標(ねらい) 中国経済の担い手は主として中国人であり、主たる経済活動は中国大陸で行われている。そこで主として使われているのは中国語である。「また聞き」でない、生の声は中国語で行われている。この「また聞き」でない生の声を書物を通じてくみ取る訓練が「外国書講読」である。ここでは現在の中国の在り方を大枠で作った鄧小平の文書＝『鄧小平文選』を読む。

講義の内容／授業スケジュール 第1-5週：第1章 第6-10週：第2章 第11-15週：第3章 第16-20週：第4章 第21-25週：第5章 第26-30週：第6章
履修上の留意点 語学の初心者が一から始める科目ではない。中国語を学んでいることが前提になる。中国語を母語とするものは「厳密な日本語」への翻訳を志す者に限る。
成績評価の方法 出席とテストで行う。

履修コード	099941 099942 099943 099944
科目名	経済外国書講読I b 外国書講読I b 経済外国書講読II b 外国書講読II b [ドイツ語]
担当者名	小林 正人

講義の到達目標(ねらい) ドイツ語で経済理論を学ぶ。
講義の内容／授業スケジュール テキストを輪読しながら、資本主義経済の仕組みについて理論的に考えます。受講生の語学能力に合わせてスケジュールを調整します。
準備学習 テキストをあらかじめ読んで十分に和訳をしておき、いつでも和訳を発表できるように準備しておくこと。ドイツ語の経済用語の対訳一覧をつくっていくと力が身につきます。
履修上の留意点 継続的な学習が重要なので、毎週確実に出席することを求めます。
成績評価の方法 授業への出席率に、輪読のときの発表量と和訳の水準を加えて総合評価します。和訳した文章を期末に提出してもらって評価に追加することも考えています。
教科書／テキスト Johann Most, "Kapital und Arbeit", 1873, reprinted in 1972. 上記の文献をコピーして配付します。
参考書 ヨハン・モスト／原著、カール・マルクス／加筆・改訂、大谷禎之介／訳『マルクス自身の手による資本論入門』2009年、大月書店。
その他 前期から連続して履修することが望ましい。

履修コード	099821 099822 099823 099824
科目名	経済外国書講読I b 外国書講読I b 経済外国書講読II b 外国書講読II b [英語]
担当者名	鈴木 伸枝

講義の到達目標(ねらい) ノーベル経済学賞の受賞講演録を輪読します。経済学用語を習い、経済学の専門書や学術論文を英語で読む力を養うとともに、これまで経済学者たちがどのような問題に着目し研究してきたかを垣間見て刺激を受ける機会にもなるでしょう。

講義の内容／授業スケジュール 第1回：ガイダンス&教材選び。候補の講演録を5～10本紹介し、その中のどれから読んでいくかを決めます（多数決）。
第2回以降：1人あたり1段落程度を音読して訳してもらいます。

成績評価の方法 予習・発表（音読・訳）の平常点により評価します。

教科書／テキスト ノーベル経済学賞の受賞講演録から何点か選びます。

履修コード	100181 100182 100183 100184
科目名	経済外国書講読I b 外国書講読I b 経済外国書講読II b 外国書講読II b [朝鮮語]
担当者名	鄭 章淵

講義の到達目標(ねらい) この授業は、韓国の経済発展に関する朝鮮語（韓国語）文献を講読して、韓国経済について理解を深めてもらうことを目的とする。

講義の内容／授業スケジュール 受講生には予め朝鮮語に対する基礎的な理解力が求められるが、授業では、受講生の習熟度に合わせてできるだけ平易な解説に努めるつもりである。朝鮮語に自信のない諸君も奮って参加してもらいたい。

準備学習 新聞・WEBサイトの韓国経済に関する記事を読むこと。

履修上の留意点 授業での課題の遂行状況（レポートなど）を基に成績を評価するので授業を休まないようにしてもらいたい。

成績評価の方法 レポート回数などを加味して総合的に評価する。

教科書／テキスト 初回授業時にプリントを配布する。テキストは、おもに韓国の新聞記事を使用する。

参考書 辞書や文法書など参考書については初回授業時に紹介する。

履修コード	099841 099842 099843 099844
科目名	経済外国書講読I b 外国書講読I b 経済外国書講読II b 外国書講読II b [英語]
担当者名	松本 典子

講義の到達目標(ねらい) 非営利組織（non-profit organization）や社会的企業（social enterprise）に関する英語文献を素材に、外国語の専門書に慣れ親しむこと、楽しみながら読解力を維持・向上させること、非営利組織および社会的企業の経営学に関わるさまざまな知識・技法・思想を学ぶことが本講義のねらいです。

講義の内容／授業スケジュール 非営利組織および社会的企業に関する下記の英語文献を講読します。
・Nyssens, Marthe, ed. [2006] "Social Enterprise", Routledge.
・Carroll, Archie B. and Buchholtz, Ann K., eds. [2009] "Business & Society : ethics and stakeholder management", South-Western Cengage Learning.

履修上の留意点 ・必ず予習をして参加してください。
・非営利組織論aとb、経済外国書講読Ia（松本）あるいはIIa（松本）をすでに履修していることを前提として講義をすすめます。

成績評価の方法 ・成績は、定期試験50%、出席・報告状況等50%で、総合的に評価します。

教科書／テキスト 随時、配布します。

参考書 適宜、指示します。

その他 ・輪読形式です。

履修コード	100171 100172 100173 100174
科目名	経済外国書講読I b 外国書講読I b 経済外国書講読II b 外国書講読II b [ロシア語]
担当者名	山縣 弘志

講義の到達目標(ねらい) ロシア語に親しみ、ロシアに関する知識を増やす。

講義の内容／授業スケジュール 比較的易しい読み物、記事を読み、議論する。

履修上の留意点 ロシア語既修者を対象とする。

成績評価の方法 授業における発表を評価する。

教科書／テキスト 数種類の候補の中から、履修者の関心とレベルにあったものを選定する。

履修コード	089201
科目名	経済学概説
担当者名	鄭 章淵

講義の到達目標(ねらい)	この講義では、専門科目を履修する上で最低限必要と思われる経済学の基礎知識について解説する。受講生のみなさんに経済学的思考と解析能力を身に付けてもらうことがこの講義の目的である。
講義の内容/ 授業スケジュール	経済学とは何か(第1回)、経済体制について(第2回)、資本主義経済の歴史(第3～5回)、経済学の潮流(第6～7回)、国民経済について(第8回)、企業(第9回)、市場と価格(第10～12回)、金融と財政(第13～15回)、国民所得(第16～17回)、経済成長と景気循環(第18～19回)、世界経済の枠組み(IMF=WTO体制)(第20～21回)、国際貿易・国際投資・国際金融(第22～24回)、地域経済統合(第25回)、日本経済の歩み(第26～28回)、その他の分野(労働問題、社会福祉、環境問題)(第29～30回)
準備学習	参考書の該当箇所や新聞・WEBサイトの経済欄をよく読むこと。
履修上の留意点	講義内容をレポート課題とするので授業を欠席することなくノートをよくとってもらいたい。
成績評価の方法	前・後期2回のレポートで判定する。成績は各レポート点数の平均点とする。
教科書/テキスト	特に定めない。
参考書	①井原哲夫ほか著『経済学入門』第2版、日本評論社、ISBN 978-4-535-55553-2 ②伊藤元重著『はじめての経済学(上)・(下)』日経文庫ISBN 978-4-532-11014-7 ISBN 978-4-532-11015-4 ③杉本昭七ほか編『現代世界経済をとらえる』東洋経済新報社、ISBN 4-492-44196-4

履修コード	089401
科目名	経済学概説
担当者名	徳永 俊明

講義の到達目標(ねらい)	経済学部での勉強の出発点は、社会と歴史、その自分とのかかわりへのしっかりした問題意識です。問題とは何か、どこに、どのような問題があるのか、なぜそれが問題なのか——この講義は、<経済>を軸にして社会・歴史を考える時、視野を広くし、考察を深くすることで、どのように問題を突き止めることができるのかを理解してもらうことを目標にしたい。
講義の内容/ 授業スケジュール	(1)講義の趣旨(2)<問題>(3)<人類史>、<進歩> (4)<日本>、<世界>(5)<日本>の基本問題 (6)日本経済の基本問題(7)<世界>の基本問題 (8)世界経済の基本問題(9)予備日 (10)「国際連合憲章」、「世界人権宣言」、「日本国憲法」 (11)<社会>と<歴史>(12)<資本主義> (13)<経済学>(14)<関係>と<立場> (15)小括(16)<経済学>の<対象>と<目的> (17)<問題意識>(18)<世界観>、<人生観> (19)<暮らし>と<生活>(20)<豊かさ>と<貧しさ> (21)<会社>あるいは<企業>(22)<会社員> (23)<職業>、<労働>、<仕事>(24)予備日 (25)<自由>(26)事例研究①(27)事例研究② (28)特別講義(29)<人生>と経済学(30)まとめ
履修上の留意点	講義のポイントをしっかりノートしなければ、レポートの作成ができないでしょう。
成績評価の方法	前期・後期各1回のレポートで評価します。
教科書/テキスト	特にありません。
参考書	・暉峻淑子『豊かさとは何か』、岩波新書 ・鶴見良行『バナナと日本人』、岩波新書

履修コード	089301
科目名	経済学概説
担当者名	友松 憲彦

講義の到達目標(ねらい) この講義は、経済学の考え方、経済や経済学の基礎知識を理解し、経済学への導入をはかることを目標にしています。経済学の基礎的な知識や理論を説明し、それと関連させながら経済の歴史的発達や現在の経済問題について解説し、経済学という学問の性格や特徴について理解します。

講義の内容／授業スケジュール

I. 経済学の課題 (第1回)

II. 経済学の基礎理論

(1) 国民経済と経済主体 (企業・家計・政府) (第2,3回)

(2) 市場経済の機能と限界 (市場メカニズム、市場の失敗) (第4,5回)

(3) 国民所得と経済成長 (国民所得, 経済成長, 経済循環) (第6,7回)

(4) 貨幣と金融 (貨幣と金融の機能, 金融機関, 中央銀行と金融政策) (第8~10回)

(5) 政府と財政 (政府財政と租税, 財政の機能, 政府と財政政策) (第11,12回)

(6) 国際経済 (貿易と国際収支, 国際経済機構, 地域経済統合) (第13~15回)

III. 経済の歩み

(1) 世界経済の歴史

①資本主義の発達 (第16回)

②資本主義の確立 (第17回)

③資本主義の変質 (第18回)

④「大恐慌」と資本主義の変容 (第19回)

⑤社会主義の成立と変容 (第20回)

(2) 日本経済の歴史

①明治維新から第二次世界大戦まで (第21回)

②戦後改革 (第22回)

③高度経済成長 (第23回)

④低成長時代 (第24回)

⑤バブル経済の形成と崩壊 (第25回)

⑥平成大不況 (第26,27回)

⑦日本型システム (第28回)

⑧戦後国際経済と日本 (第29,30回)

履修上の留意点 この科目は必修科目であり、講義で話すことは経済学部で学ぶ者が誰でも知らなければならない経済学の基礎です。基礎が身につけていないと、今後4年間で履修する多くの専門科目を理解することが困難になります。講義に真剣に取り組むことはもちろん重要ですが、参考文献や配布資料を読み、自分でも経済学を理解するための積極的な努力をすることが大切です。また、新聞は経済学の勉強に大変役に立ちます。新聞を読む習慣を身につけましょう

成績評価の方法 授業時間内の小テスト、定期試験(年度末)の成績で評価する。

参考書 橋本俊詔『家計からみる日本経済』岩波新書, 2004年
野口旭『ゼロからわかる経済の基本』講談社現代新書, 2002年
『Q&A日本経済100の常識<2010年版>』日本経済新聞出版社, 2009年
三谷・並木・月脚編『大人のための近現代史:19世紀編』東京大学出版会, 2009年

履修コード	089511 089512
科目名	経済学基礎 経済学概説
担当者名	森田 成也

講義の到達目標(ねらい) はじめて経済学を学ぶ人のために、経済学の基礎理論の初歩的知識を体系的に教えます。商品・貨幣から始めて、国家・世界市場まで展開します。

講義の内容／授業スケジュール 授業の前半は経済学の基礎理論のうち、資本主義の真の土台であり、その秘密である、資本の生産過程をやります。後半は、それ以降、世界市場までです。

(前半)

1、経済学とは何か、2~3、商品とは何か-商品生産社会と価値法則、4、貨幣とは何か、5、貨幣の資本への転化、資本の生成、6、利潤の源泉としての剰余価値とその発生メカニズム、7~9、剰余価値生産の3つの形態、10、生産様式と包摂、労働者統合、11~12、労賃と雇用、13~14、資本の蓄積メカニズムと相対的過剰人口

(後半)

15~17、資本の流通過程、18、平均利潤率と生産価格、19、利潤率の傾向的低下の法則、20、商業資本、21、利子生み資本、22、銀行資本、23、株式会社と法人資本主義、24、独占資本と独占利潤、25、土地所有と地代、26、国家と市民社会、27、世界市場と帝国主義、28、全体のおさらい

履修上の留意点 板書中心の授業になるので、必ずノートはとってください。出席はとくにとりません。

成績評価の方法 夏休みのレポートと学期末試験の2つで成績評価します。とくに学期末試験が重要です。夏休みのレポートは、学期末試験に対する追加点と考えてください

(1) 夏休みのレポート・・・夏休みのレポートとして、いくつかの課題の本を指定しますので、それを読んで、内容の要約と感想を書いてください。提出は夏休み後の授業。
(2) 学期末試験・・・1年間の授業すべてが範囲になります。穴埋め問題と筆記問題の両方が適度なバランスで出題されます。

教科書／テキスト 森田成也『価値と剰余価値の理論』(作品社)、2009年刊、2300円

参考書 森田成也『資本と剰余価値の理論』(作品社)、2008年刊、2300円

履修コード	090601
科目名	経済史
担当者名	新川 徳彦

講義の到達目標(ねらい) 現代の資本主義社会はどのように形成されてきたのでしょうか。世界経済は商業や流通を通じてどのように結びついてきたのでしょうか。この講義では、現代経済の仕組みがどのように作り上げられてきたのか、またその原形はどのようなものであったのかについて説明します。主にヨーロッパの具体的な歴史的事例を用いてアプローチの方法やモデルを説明しますが、アジアを含む非ヨーロッパ諸国における経済発展、そして私たちが生きる現代社会のさまざまな問題との関連についても同時に考えていきましょう。

講義の内容／授業スケジュール 【前期】 (1) 経済史とはなにか (2) 中世ヨーロッパの経済 (3-4) 村落共同体と経済活動 (5-6) 中世の商業と都市 (7-9) 遠隔地商業の発達 (10) 中世末期ヨーロッパの経済 (11) 近代化の起点 (12-13) 商業革命 (14) 16・17世紀の経済発展 (15) 前期まとめ
【後期】 (16-17) 宗教改革と資本主義 (18) 絶対王政と市民革命 (19-20) 重商主義政策 (21) オランダの経済発展 (22-23) イギリス産業革命前夜 (24-27) イギリス産業革命 (28-29) 大陸ヨーロッパの工業化 (30) 後期まとめ

成績評価の方法 出席、小レポート、学期末試験により総合的に評価します。

教科書／テキスト 特に指定しません。

参考書 石坂昭雄他『新版 西洋経済史』有斐閣双書、1985年 (ISBN 978-4641098107)。
荒井政治他『概説西洋経済史』有斐閣選書、1980年 (ISBN 978-4641082496)。
このほか、テーマ毎に講義の中で指示します。

その他 授業は講義形式。配付資料およびPowerPointによって行います。

履修コード	092501
科目名	経済数学
担当者名	池田 宏

講義の到達目標(ねらい) 経済学に必要な道具としての数学、およびその道具として使う数学を修得するために必要な数学的基礎の理解を目的とする。経済学で使う道具としての数学で基礎となるのは線形代数と微分積分である。本講義ではこの2分野のなかで経済学で使う事柄のうちの基本的な方法の修得を目指す。

講義の内容／授業スケジュール 前期：線形代数 1. ガイダンス (2. 3. 4. 5) ベクトルと行列の定義と計算 (6. 7) 1次変換と固有値、固有ベクトル (8. 9. 10) 行列式の定義と計算 (11. 12) 連立1次方程式 (掃き出し方) 13. 線形計画法 14. 試験
後期：微分積分 (1. 2. 3. 4) 微分の基礎 (5. 6) 接線、増減、極値 (7. 8. 9. 10) 基本関数の微分 (11. 12) 高次導関数 13. 多変数関数と偏微分 14. 試験

準備学習 高校普通科の2年までに学習する行列、ベクトル、微分の復習

履修上の留意点 高校2年までに学習した程度の微分の基礎知識が必要である。

成績評価の方法 前後期に各一回行う試験と、授業内で提出する課題と出席状況からなる平常点から総合評価します。 評価の割合は試験点 (80%) と平常点 (20%) です。

教科書／テキスト 教科書は指定しない。必要な時に適宜、教材プリントを配布する。

参考書 田代嘉宏著 『数学概論 線形代数／微分積分』 裳華房 本体2,400円
ISBN4-7853-1078-2 C3041

履修コード	090701
科目名	経済政策
担当者名	飯田 泰之

講義の到達目標(ねらい) 現代経済に関する諸問題についてその政策的な対応のあり方を論じる。
複雑な現状を理解し、対応策を探るためにも問題を整理し、論理的に把握することが必要である。経済問題に関してその導きの糸となるものこそが経済理論に他ならない。本講では基本的なミクロ経済学・マクロ経済学の知識を援用し「経済学的に妥当な政策」を論じることを中心的な課題とする。講義全体に必要な基本ツールの学習後、個々の経済問題について、
(1) 理論的な枠組みを解説し
(2) 基本理論を用いて政策的課題を論じ
(3) 現実の事例・データで確認する
というプロセスを繰り返すことで講義を進めていく。

講義の内容／授業スケジュール 以下のテーマを各3講毎に講義する。
【前期】
1. 経済学と経済政策の基礎理論 (1) ミクロ編
2. 競争市場の効率性と政府介入
3. 公益事業と競争政策
4. 外部性と公共財
5. 情報の経済学
【後期】
6. 経済学と経済政策の基礎理論 (2) マクロ編
7. 短期安定化政策
8. 中期安定化政策
9. 再分配政策の意義と方法
10. 現代日本経済の政策的課題

履修上の留意点 出席は問わないかわりに講義中の私語等には厳しく対応する。

成績評価の方法 夏・冬2回のレポート提出と後期試験による。

教科書／テキスト 岩田規久男・飯田泰之『ゼミナール経済政策入門』(日本経済新聞社)2006年

参考書 必要となる参考書については講義中に適宜指示する。

履修コード	093701
科目名	経済地理
担当者名	矢延 洋泰

講義の到達目標(ねらい)	経済的諸活動の空間構造を地理学的に捉えてみたい。なかでも世界で最も経済発展が著しい東アジア地域を中心に考察します。
講義の内容/ 授業スケジュール	(1) 地理学の中における経済地理学とは (2) 経済を中心にみた世界史の潮流 (3) 経済社会の変化を探る (4) 東南アジアの基礎知識 (5) アジア・ダイナミズムの源泉を探る-OECD レポートの衝撃とその分析、アジアNIES誕生の意味。(6) 成長の基層文化 (7) 戦後日本の経済発展と周辺アジアとの関係 (8) 東南アジアにみる地域協力機構の色々-ASEANの成立過程、シンガポールの経済開発と成長の限界、成長の三角地帯構想の背景、(9) 冷戦崩壊後の世界と日本-冷戦とバブル崩壊後の日本の対応、幻のEAEC構想とAFTA実現の意味、太平洋を跨ぐAPECの思惑、日米中が描くASEANを核にした地域協力、(10) 「ハブ」と「スポークス」の考え方 (11) 大航空時代の周辺アジアと日本の動向
履修上の留意点	学ぶことに意欲を持ち、アジアに興味と関心のある学生を期待します。文献紹介は適宜するつもりですが、それらは必ず読むようにしてください。
成績評価の方法	学期末の筆記試験(80%)と、授業内に提出を求める課題、アトランダムに取る出席(20%)で評価します。
教科書/テキスト	教科書は使いませんが、適宜プリントを配布します。配布は基本的に2週としますので、忘れずに取得するようにしてください。
参考書	矢延洋泰『インサイト東南アジア』勁草書房 3255円 ISBN4-326-65182-2
その他	質問は授業の後に受け付けます。諸般の事情で授業スケジュールを変更する場合があります。

履修コード	325201
科目名	経済法
担当者名	東出 浩一

講義の到達目標(ねらい)	経済法の中心をなす独占禁止法について、基本的な事項を理解することを目標とします。条文の解説にとどまらず、できるだけ具体的な事件の審判決や相談事例を紹介し、実際の事例でどのような事項が論点となったか等を説明することにより、実務的な理解が進むように講義を進める予定です。
講義の内容/ 授業スケジュール	おおむね、次の事項について説明する予定です。 1 独占禁止法の概要 2 行為主体 3~6 私的独占・不当な取引制限 7~12 不公正な取引方法等 13~16 企業結合規制 17~22 事件処理手続・排除措置・課徴金 23~24 争訟手続 25~26 適用除外 27 民事訴訟 28 刑事罰・犯則調査手続 29~30 ケーススタディ
準備学習	教科書「経済法」(第6版)の該当部分を一読しておいてください。
履修上の留意点	レジュメを用いて講義を進めますが、講義の際にレジュメを配布することはしません。レジュメは、YeStudyにUPしておきますので、あらかじめ各自用意してください。
成績評価の方法	期末試験によって成績評価をします。
教科書/テキスト	「経済法」(第6版・岸井大太郎・向田直範ほか)・有斐閣アルマ
参考書	「逐条解説 平成21年改正独占禁止法」(藤井宣明・稲熊克己)・商事法務
その他	YeStudy のコース登録キーは、325201 です。
関連リンク	http://www.jftc.go.jp/

履修コード	098701
科目名	経済法
担当者名	若林 亜理砂

講義の到達目標(ねらい)	経済法の中心をなす独占禁止法を理解することを目標とする。独占禁止法は、市場における競争秩序の維持をになうものであるが、これは事業者の活動にかかわるのみならず、私たち消費者の生活にも密着している。この点を念頭に置き、講義では、なるべく多くの事例を紹介することにより、独占禁止法の解釈や運用について具体的なイメージをもって理解ができるように進める予定である。
講義の内容/ 授業スケジュール	以下のトピックについて講義を行う予定である。 1 独占禁止法の基礎概念 2 不当な取引制限 3 私的独占 4 一般集中規制 5 市場集中規制 6 不公正な取引方法 7 公正取引委員会 8 私的エンフォースメント・刑事罰
履修上の留意点	初回の説明を必ず聞いてから履修するようにしてください。
成績評価の方法	期末試験により評価を行う。
教科書/テキスト	泉水文雄他 リーガルクエスト『経済法』(有斐閣 2010)
参考書	別冊ジュリスト(No.199)『経済法判例・審決百選』(有斐閣)

履修コード	306701
科目名	経済理論ⅠA・資本の原理
担当者名	有井 行夫

講義の到達目標(ねらい) 経済のエネルギーとは、水力や火力、電力、原子力など自然力一般ではなく、人間自身のエネルギー、すなわち労働力です。地中における諸資源の地質学的生成、原生林や大気の生成など、人間エネルギーの関与しない自然的生成は経済関係を構成しません。経済システムとは、人間自身のエネルギーを組織しバランスよく発揮させている仕組みなのです。そして今日の経済システムは、かぎりない利潤追求を活動動機とする企業の商品生産にもとづいて実現されています。

さて、企業のかぎりない利潤追求を意味づけているのは、利潤の再投資運動、すなわちお金を産むお金の運動です。この運動のことを資本といますが、資本こそは、現代の経済システムの編成原理です。経済理論Aは、資本の存在と意味について、経済活動の原点から掘り下げます。なお、経済理論Bは、資本の意義の理解を前提して資本による社会的諸制度の意味づけをとらえる経済理論Aの発展コースです。また、ミクロ経済学、マクロ経済学は、おなじく現代経済システムの構造を原理的に考察しますが、経済理論A、Bとはアプローチの方法がちがいます。

講義の内容／授業スケジュール 【前期】(第1週-第4週)第1章=経済学の対象と方法。(第5週-第13週)第2章=商品と貨幣。
【後期】(第13週-第22週)第3章=資本と剰余価値。(第23週-第26週)第4章=資本の蓄積。(第27週)第5章=結論。

履修上の留意点	骨格的内容の理解に時間を集中します。
成績評価の方法	授業中にアンダーラインを指示した箇所から出題した実力試験で7割、秋のレポートで3割の評価をします。
教科書／テキスト	大谷禎之介『図解社会経済学』(桜井書店)3,000円
参考書	有井行夫著『マルクスはいかに考えたか—資本の現象学』

履修コード	306801
科目名	経済理論ⅠB・経済システムの原理
担当者名	大石 雄爾

講義の到達目標(ねらい) 今日の経済システムは、限りない利潤追求を活動動機とする企業による商品の生産、すなわち資本の運動に基づいて実現されています。経済理論Aでは、資本のシステムの基礎的条件を明らかにしました。現実の資本のシステムは、それを構成するさまざまな部分が関連しあって動いています。経済理論Bでは、より複雑な、現実の資本主義の構造について理解を進めていきます。

講義の内容／授業スケジュール

- 1 経済理論ⅠBを始めるにあたって
- 2~3 経済学の対象と方法
- 4~5 商品と貨幣
- 6~7 資本の生産過程
- 8~10 資本の再生産と流通
- 11~13 利潤と利潤率の低下法則
- 14~16 商業利潤・利子・地代
- 17~18 産業循環と恐慌
- 19~23 独占資本主義の経済構造
- 24 資本主義の矛盾と危機
- 25~ 現代資本主義の経済構造

準備学習	新聞には日常的に目を通し、経済や社会問題について考える習慣をつけること。
履修上の留意点	この科目は「経済理論A」の発展科目ですが、その未修者にも配慮して講義を進めますので、「経済理論A」の未修者に不利になることはありません。 この科目はノートを取りながら学ぶことで全体の理解が可能となる、体系的な性格を持っています。履修者には、1年を通して欠かさず出席することが求められます。
成績評価の方法	授業時間中に小レポートを書き、提出を求めることがあります。成績評価は、後期末に実施される定期試験の点数を基礎に小レポートの点数を勘案して行います。
教科書／テキスト	一井昭著『ポリティカル・エコノミー』(桜井書店)2,520円
参考書	大石雄爾著『商品の価値と価格』(創風社)3,600円

履修コード	307001
科目名	経済理論II・マクロ経済学
担当者名	浅野 克巳

講義の到達目標(ねらい) 現代経済学は「マクロ理論」と「ミクロ理論」からなる。「マクロ」とは大きいという意味を持ち、「ミクロ」は小さいという意味を持つ。このコースでは経済全体の動きを分析する「マクロ理論」の基礎を勉強する。具体的に言うと、景気の良し悪しは何によって決まるか？物価の変動はどのような要因によるものか。デフレ経済の要因は何か？さらに政府の経済活動についてどのように考えるべきか。また輸出・輸入、経常収支といった外国との経済関係をどのように捉えたらよいか。マクロ理論はこれらの疑問に答えるきわめて日常的で身近な分野であるといえる。

新聞その他のメディアで日常的に使われる経済用語や基本的な考え方をしっかりマスターすることがこの授業の第1の目標だ。さらに、公務員試験その他の国家試験で必須の経済学の受験対策としても通用するようなレベルを目指したい。

講義の内容／授業スケジュール 年間のスケジュールは以下のとおりであるが、理解しにくいトピックスには十分時間をかけ説明するが、テキストなどで「読めばわかる」箇所は簡単に済ませ時間の節約を心がけたい。

1. マクロ経済活動とマクロ経済学の考え方
2. 経済循環と国民所得
3. GDPとは何か、それはどのようにして決まるのか
- 4～5. 消費・貯蓄そして投資
- 6～7. 独立支出の変化とGDPの関係
- 8～9. 有効需要と乗数メカニズム
10. 政府の経済的役割
11. 輸出と輸入（グローバル経済と国際貿易）
12. 貨幣の機能と信用創造
13. 貨幣需要と利子率
14. 財政政策の基本構造
15. 財政・金融政策とマクロ経済
16. 財市場とIS曲線の導出
17. 貨幣市場とLM曲線の導出
18. IS-LMモデルと財政金融政策
19. クラウディング・アウト、流動性のワナ
- 20～21. マンデル＝フレミング・モデル
22. インフレとデフレについて
23. 総需要と総供給
24. 労働市場の働き
25. 貨幣とマクロ経済
- 26～27. 金融政策と金融システム
28. 為替市場と金融政策
- 29～30. 経済成長と景気循環

履修上の留意点 現代経済学を勉強する上で不可欠なことは、実際の経済問題に強い関心を持つことだ。これらはさまざまなメディアをとおしてあふれるほど提供されている。とくに『日本経済新聞』やその他の新聞には毎日必ず目をとおすこと。授業でも関連する記事やデータは参考にするので、できるだけスクラップブック等に整理しておくことよい。これは授業だけでなく、将来の就職活動に際しても役立つはずだ。

また、経済学を理解するために数学の知識が必要だといわれるが、入門的コースで使う数学は高校の基礎解析あるいは代数程度で十分。必要に応じて授業の中でも説明するが、要は「習うより慣れる！」のつもりで反復練習に限る。

ついでに、初心者でも使いやすいコンピュータを使ってシミュレーションしてみることも、面白く経済学を学ぶ方法だろう。ともあれ授業には必ず出席し、予習復習を実行すれば100点取るのも夢じゃない。

成績評価の方法 定期試験（年度末）と授業内試験（5～7回実施予定）、およびレポート（1～2回）の成績を総合評価する。

教科書／テキスト テキストおよび参考書については最初の授業で詳しく説明します。

参考書 参考書：伊藤元重『入門経済学第3版』日本評論社
 N. G. マンキュー『マンキュー入門経済学』東洋経済新報社
 N. G. マンキュー『マンキュー経済学IIマクロ編』東洋経済新報社
 問題集：公務員試験の過去問などの国家試験の受験対策にも十分通用するようできる限り問題練習をすることも理解を確実にする近道だ。自分で復習をかねて解いてみることをとくにお勧めする。

その他 授業中わからないこと、その他問題点などあったら、オフィスアワーを設けていますので利用してください。

履修コード	306901
科目名	経済理論II・ミクロ経済学
担当者名	松井 柳平

講義の到達目標(ねらい) 理論的な経済分析の基礎となるミクロ経済学の理論を、ゲーム理論をベースとして解説する。消費者や企業などの個別経済主体が自発的かつ合理的に行動しているとき、どのような社会・経済状態が実現するか考察する。その際、その帰結の理解よりもむしろ、その帰結に至る論理展開、つまり分析方法の理解に重点を置く。

講義の内容／授業スケジュール <前期>
 ガイダンス 講義の概要等説明
 あるパン屋の話
 ナッシュ均衡
 バックワード・インダクション
 サブゲーム完全均衡
 <後期>
 交渉ゲーム
 オークション
 消費者理論
 金融とリスク管理
 契約と誘因

準備学習 事前に、中学時代の数学の計算問題等について、理解と計算能力を完全にしておくこと。講義プリントを、YeStudyから事前にプリントアウトして必ず予習してきた上で、講義に臨むこと。

履修上の留意点 この講義の履修においては、小学校・中学校・高校での算数・数学について、その基本的な部分の理解がきちんとできていることが前提となる。こうした算数、初等的な数学について自信のない受講生は、算数や中学時代の数学の教科書を事前に十分よく復習した上で授業に臨んでもらう必要がある。
 具体的には、
 ◎小学校の算数における「数と計算」（個数を数える・比べる、加法・減法・乗法・除法、小数・分数の計算、約数・倍数、約分・通分、）、「数量関係」（表やグラフ、交換法則、結合法則や分配法則、比、比例）
 ◎中学校の数学における「数と式」（正の数と負の数・その四則計算、一元一次方程式、文字を用いた式の四則計算、連立二元一次方程式、式の展開や因数分解、等）、「数量関係」（比例・反比例の関係、変数・変域、一次関数、等）
 ◎高校の「数学I」における「方程式と不等式」、「二次関数」
 以上について理解ができていない人は、この講義を理解するのに困難を感じる場合が多々あるだろう。こうした基礎学力について自信がない受講生は、必ず、算数や中学時代の数学の勉強を自学自習すること。
 また、受講生の予習と復習を前提とし、授業中に学生に答えを尋ねる場合が多々ある。したがって、受講生はYeStudyに登録し、講義プリントを、YeStudyから事前にプリントアウトして必ず予習してきた上で、講義に臨むこと。
 公務員試験、経済学検定試験、その他各種資格試験を将来、受験しようという学生は、この科目やマクロ経済学を履修した後、さらに、応用ミクロ経済学、応用マクロ経済学、公共経済学、経済政策などの科目を履修することが望まれる。

成績評価の方法 成績評価は基本的に、定期試験（年度末）に基づくが、授業中に自ら手を上げて練習問題を自発的に発表して内容がよかった人には成績評価に加味する。
 また、夏期休暇中にレポート課題を課す場合がある（レポート課題の有無は7月の授業中にアナウンスする）。

教科書／テキスト 梶井・松井『ミクロ経済学-戦略的アプローチ』（日本評論社）ISBN4-535-55202-9

参考書 岩田 規久男『経済学を学ぶ』（筑摩書房）（ちくま新書）ISBN4-480-05602-5
 武藤 滋夫『ゲーム理論入門（日経文庫：経済学入門シリーズ）』（日本経済新聞社）ISBN：4532108292
 渡辺 隆裕『図解雑学 ゲーム理論』（ナツメ社）ISBN：4816337458
 渡辺 隆裕『ゼミナール ゲーム理論入門』（日本経済新聞出版社）ISBN：4532133467

その他 受講生の予習を前提とし、授業中の学生による発表によって授業を進めていく。

履修コード	089801 089802
科目名	経済理論A・資本の原理 経済理論I A・資本の原理
担当者名	阿部 弘

講義の到達目標(ねらい) 「経済理論」という科目は経済学の基本的内容をなすものである。この講義は主としてマルクスの『資本論』を軸にして講義・演習をおこなう。一般に知られているように、『資本論』はその副題を「経済学批判」としていて、階級社会における「体制的な経済学」に対する批判を展開している。この講義では「資本主義の経済」が抱えている問題は何か、その基本的な枠組みについて、『資本論』が19世紀半ば(1867年)に批判をしたその内容を検証する。と同時に、現在「アメリカ発の世界的金融危機」に端を発した「慢性的不況」そして「失業」が日常不断の現象になっているなかで、この問題を直視するに当たってマルクスへの回帰が言われるようになってきていることの本質を明らかにすることを通じて、「経済学」は今何を課題として提起すべきかを把握する。

講義の内容／授業スケジュール 経済学はその誕生から「富」とは何かの問題提起をしてきた。現在もそうである。最初に人間と労働との関係を考察し、この労働と富との関係を考察する。そして人間から乖離していく富、この富に支配されている人間を分析する。次にはこの人間を支配する富が資本関係の中で形成されてくる過程の分析を、資本の運動とその体系を分析することによって明らかにする。最後にこの資本的富の生産・運動が人間を階級に編成しそのなかでの階級間における種々の闘争について概観する。
講義は前期15回、後期15回の合計で30回である。
I 「富」とは何か(前期15回)
1: 「富」とは何か(01-03回)
(1) 「富」は人間にとって外部に存在する No. 01
(2) 「富」の人間からの乖離 02
(3) 「富」に支配された人間 03
2: 「経済学の方法」(04-09回)
(1) 「国富」 04
(2) 私的所有 05
(3) 価値 06
* R1(第1回レポート)に向けた「総括」 07
* R1に向けての課題とその特徴点の整理 08
自宅学習
* R1でのレポートの特徴と問題点およびレポート返却 09
3: 人間社会と交換価値(10-15回)
(1) 商品 10
(2) 貨幣 11
(3) 商品カテゴリーと人間社会 12
* R2 に向けた「総括」 13
* R2に向けての課題とその特徴点の整理 14
自宅学習
* R2でのレポートの特徴と問題点およびレポート返却 15
II 資本(11/111で後期15回)
1: 資本の生産(01-03回)
(1) 資本と商品 16
(2) 資本の本質 17
(3) 階級の生産 18
2: 資本の運動法則(04-09回)
(1) 資本の運動範式 19
(2) 資本の生産と再生産 20
(3) 階級社会の拡大再生産 21
* R3 に向けた「総括」 22
R3に向けての課題とその特徴点の整理 23
自宅学習
R3でのレポートの特徴と問題点およびレポート返却 24
3: 資本の蓄積と階級の生産(10-12回)
(1) 資本の蓄積 25
(2) 資本関係と人間労働 26
(3) 資本蓄積の本質 27
III 資本主義生産様式と人間社会—まとめ(13回) 28
* R4 に向けた「総括」(14回) 29
* R4に向けての課題とその特徴点の整理(15回) 30
「自宅学習」による講義回数欠如については極力「補講」をする形で補うが、それでも足りない場合には、「教務部」の手を煩わすことなしに(日曜日など)講師が教場を確保してこれを行うことにする。

準備学習 1 大学の「授業」は、受講生の皆さんが自ら考え・研究していく、ということをもットーとしている。そこでこの「講義」は、皆さん一人一人が全員毎回授業に出席しノートをとって考えるというのが基本なのでもし止むを得なくて「欠席」するようなことがあれば、そのときにはどのような内容の講義がなされたのかなどを調べて自分の考えを身につけていることが必要である。
2 この講義では、講師の著作であるテキストを2冊用いる。他人の思想というのは受講生にとっては、それを吸収するにしても、自分自身の思想ではあり得ない。ましてや、テキストという形で提供されているものは、すでに過去に形成されたものであるため、受講生は、このテキストを批判的に考察し、現社会的なものと比較していかなければならない。

履修上の留意点 この科目は経済学科の「必修」科目である。皆さん全員がこの科目を履修してもらうために「レポート」を4回おこなうので、出席が重要になる。不定期であるが、「出席」の確認を簡単なレポートで行う。

成績評価の方法 1 レポートによる評価
(1) 年間4回のレポート(R1など)作成を通じて「成績評価」を行う。
(2) レポートは、R1: 5月/ R2: 6月末~7月初旬/ R3: 10月~11月/ R4: 12月~1月
* R1のテーマは講義開始日(4月)に発表する。なおこのテーマを4月中に知ろうとしないものは失格とする。またレポート返却日から次のレポートの1週間前の授業までにレポートを取りにこない場合は失格とする。
2 その他: 「定期試験」は行わない。

教科書／テキスト 教科書: 阿部弘: 『労働と所有』、八千代出版、1983。
阿部弘: 『経世済民論と経済学』(新版)、創成社、2011。

参考書 参考書: マルクス: 『資本論』。大月書店、国民文庫 1~9分冊

その他 講師との連絡: 講師との連絡が必要になると思われるので、次に記しておく:
阿部弘: 研究室: 第2研究棟 5F No. 2538室
TEL: 03-3418-9360
メール・アドレス: xupabe@nifty.com

履修コード	089901 089902 089903
科目名	経済理論A・資本の原理 経済理論I A・資本の原理 経済原論
担当者名	有井 行夫

講義の到達目標(ねらい) 経済のエネルギーとは、水力や火力、電力、原子力など自然力一般ではなく、人間自身のエネルギー、すなわち労働力です。地中における諸資源の地質学的生成、原生林や大気の生成など、人間エネルギーの関与しない自然的生成は経済関係を構成しません。経済システムとは、人間自身のエネルギーを組織しバランスよく発揮させている仕組みなのです。そして今日の経済システムは、かぎりない利潤追求を活動動機とする企業の商品生産にもとづいて実現されています。

さて、企業のかぎりない利潤追求を意味づけているのは、利潤の再投資運動、すなわちお金を産むお金の運動です。この運動のことを資本といますが、資本こそは、現代の経済システムの編成原理です。経済理論Aは、資本の存在と意味について、経済活動の原点から掘り下げます。なお、経済理論Bは、資本の意義の理解を前提して資本による社会的諸制度の意味づけをとらえる経済理論Aの発展コースです。また、ミクロ経済学、マクロ経済学は、おなじく現代経済システムの構造を原理的に考察しますが、経済理論A、Bとはアプローチの方法がちがいます。

講義の内容／授業スケジュール 【前期】(第1週-第4週)第1章=経済学の対象と方法。(第5週-第13週)第2章=商品と貨幣。
【後期】(第13週-第22週)第3章=資本と剰余価値。(第23週-第26週)第4章=資本の蓄積。(第27週)第5章=結論。

履修上の留意点	骨格的内容の理解に時間を集中します。
成績評価の方法	授業中にアンダーラインを指示した箇所から出題した実力試験で7割、秋のレポートで3割の評価をします。
教科書／テキスト	大谷禎之介『図解社会経済学』(桜井書店)3,000円
参考書	有井行夫著『マルクスはいかに考えた—資本の現象学』

履修コード	089701 089702
科目名	経済理論A・資本の原理 経済理論I A・資本の原理
担当者名	大石 雄爾

講義の到達目標(ねらい) 私たちが生活している資本主義社会は、利潤追求を目的とする資本が支配的な力となり、生産・分配・消費のあり方を規定している社会です。この「経済理論A」では、科学的な方法に基づいて打ち立てられたマルクスの経済理論を中心に話を進めます。

この講義では、経済理論と現実の経済問題との関連についてもできる限り触れていきます。受講する皆さんも、新聞・テレビ・ラジオなどの報道に注意を向け、世界および日本国内で生じている政治・経済問題について考えてみてください。

講義の内容／授業スケジュール

- 1 経済学を始めるにあたって
- 2~3 経済学の対象と方法
- 4~6 商品とは何か?
- 7~8 貨幣とは何か?
- 9~10 貨幣の資本への転化
- 11~13 資本の生産過程
- 14~15 労賃とは何か?
- 16~17 資本の蓄積過程
- 18~19 資本の循環と回転
- 20~21 社会的総資本の再生産と流通
- 22~24 利潤、価値の生産価格への転化
- 25~26 利潤率の傾向的低下の法則
- 27 現代資本主義理解のために

準備学習	新聞には日常的に目を通し、経済や社会問題について考える習慣をつけること。
履修上の留意点	経済理論A(資本の原理)は体系的なまとまりを持っているため、講義の全体を通して聞くことによってよく理解できるでしょう。授業には、年間を通して毎回出席することを求めます。
成績評価の方法	授業時間中に小レポートを書き、提出を求めることがあります。成績評価は、後期末に実施される定期試験の点数を基礎に小レポートの点数を勘案して行います。
教科書／テキスト	一井昭著『ポリティカル・エコノミー』(桜井書店)2,520円
参考書	大石雄爾著『商品の価値と価格』(創風社)3,600円

履修コード	090001 090002
科目名	経済理論B・経済システムの原理 経済理論IB・経済システムの原理
担当者名	阿部 弘

講義の到達目標(ねらい) 現代の私たちの経済社会の運動は「資本」の運動原理に基づいている。この講義の前半部分は＜IA＞としてその原理の根本を明らかにしてきた。この後半部分の＜IB＞では、現実の資本の運動がどのようなことに基づいているのか、その利潤追求の原理を明らかにする。特に利子や配当の取得だけを運動の基本とするような資本の商品化のなかで、この利潤(利子・配当)本位の資本関係の展開(金融資本)が人間社会に対して、「労働」の内容・目的を人間の生活に役立つような属性から、如何にして効率よくカネを得ることができるのかの属性に変えていってしまうことを明らかにしていく。そのような金融資本の運動は人間の労働を「効率」至上主義で用いるために、「失業」や「産業予備軍」を社会の属性と化していく。人間がそのなかでその尊厳を問わねばならないような事態が種々発生してくる貌を観ながら、そのような状況を打開するにはどうしたらよいか、組織的な運動の展望を得ることを目的とする。

講義の内容／授業スケジュール 最初に資本運動の原点である「利潤」の分析をする。この「利潤」は資本が商品化して、資本の使用価値が直接的に「利子・配当」を得ることにあるということが、この資本を商品化するのであるから、「利潤」はそれを生み出す過程から疎外されていってしまう。利子・配当に転化した利潤獲得の競争は人間の労働をないがしろにし、失業を社会の構造的な問題にし、消費を破壊し、また資本それ自体の運動をも窒息させていく。経済全体への圧迫は人間の消費構造を麻痺させ、人々は支払能力を失っていく。ここに現代における「過剰生産恐慌」を招来することを明らかにする。社会崩壊のなかで労働者は団結する以外に力をもっていないのであるから、自分たちの生活を護るために労働組合(Trade Union)を結成して労働運動を展開していく。また資本家側も階級としてこれに対抗し、国家をもその傘下に治めて独占資本体制・金融資本支配体制を敷く。各種の資本家の団体の結成と国家的保障体制のもとに、その支配体制を貫徹するために、中小企業を潰していく過程を分析していくとともに、これに対抗する労働者の運動などを観ていく。

講義は前期15回・後期15回の年間30回の予定で行う。

A：利潤の生産(前期01-06回)

- 1 剰余価値と利潤 No. 01
- 2 利潤の生産と生産価格体系の形成 02
- 3 社会的虚偽の価値体系の形成 03
- * R1(第1回レポート)に向けた「総括」 04
- * R1に向けての課題とその特徴点の整理 05
- # 自宅学習
- * R1でのレポートの特徴と問題点およびレポート返却 06

B：利潤体系の運動(前期07-15回)

- 1 利潤体系とその構成要素 07
- 2 利潤の分配と再分配 08
- 3 資本の商品化 09
 - (1) 利潤の商品化 10
 - (2) 利子生み資本 11
 - (3) 擬制資本の形成 12
- * R2に向けた「総括」 13
- * R2に向けての課題とその特徴点の整理 14
- # 自宅学習
- * R2でのレポートの特徴と問題点およびレポート返却 15

C：恐慌と独占(後期15回)

- 1 過剰生産恐慌とその必然性(01-09回)
 - (1) 社会的総生産における矛盾とその体系
 - 1) 社会的総生産体系 16
 - 2) 社会的総生産と資本関係 17
 - 3) 社会的総生産と産業連関 18
 - (2) 独占資本
 - 1) カルテル 19
 - 2) トラスト 20
 - 3) コンツェルン/金融資本 21
 - (3) まとめおよび R3 に向けた「総括」 22
- * R3に向けての課題とその特徴点の整理 23
- # 自宅学習
- * R3でのレポートの特徴と問題点およびレポート返却 24
- 2 失業とその産業予備軍機構化(10-15回)
 - (1) 資本蓄積 25
 - (2) 産業予備軍 26
 - (3) 「貧困対策」とその問題点 27
- 3 労働組合と独占体(13回) 28
- * R4 に向けた「総括」 29
- * R4に向けての課題とその特徴点の整理 30
- # 「自宅学習」による講義回数欠如については極力「補講」をする形で補うが、それでも足りない場合には、「教務部」の手を煩わすことなしに(日曜日など)講師が教場を確保してこれを行うことにする。

準備学習 1 大学の「授業」は、受講生の皆さんが自ら考え・研究していく、ということをもットーとしている。そこでこの「講義」は、皆さん一人一人が全員毎回授業に出席しノートをとって考えるというのが基本なのでもし止むを得なくて「欠席」するようであれば、そのときにはどのような内容の講義がなされたのかなどを調べて自分の考えを身につけていることが必要である。
2 この講義では、講師の著作であるテキストを2冊用いる。他人の思想というのは受講生にとっては、それを吸収するにしても、自分自身の思想ではあり得ない。ましてや、テキストという形で提供されているものは、すでに過去に形成されたものであるため、受講生は、このテキストを批判的に考察し、現社会的なものと比較していかねなければならない。

履修上の留意点 皆さん全員にこの科目を履修してもらうために、「レポート」を4回おこなうので、出席が重要になる。不定期であるが「出欠」の確認を簡単なレポートで行う。

成績評価の方法 1 レポートによる評価
(1) 年間4回のレポート(R1など)作成を通じて「成績評価」を行う。
(2) レポートは、R1：5月／ R2：6月末～7月初旬
R3：10月～11月／ R4：12月～1月
* R1のテーマは講義開始日(4月)に発表する。なおこのテーマを4月中に知らずとしないものは失格とする。またレポート返却日から次のレポートの1週間前の授業までにレポートを取りにこない場合は失格とする。
2 その他：「定期試験」は行わない。

教科書／テキスト 阿部弘：『労働と所有』、八千代出版、1983
阿部弘：『経世済民論と経済学』(新版)、創成社、2011

参考書 マルクス：『資本論』、大月書店、国民文庫 1～9分冊
ヒルファディング：『金融資本論』、岩波文庫
レーニン：『帝国主義論』、大月書店、国民文庫

その他 講師との連絡が必要になると思われるので、次に記しておく：
阿部弘：研究室：第2研究棟 5F No. 2538室
TEL:03-3418-9360
メール・アドレス:xupabe@nifty.com

履修コード	095311
科目名	契約理論
担当者名	村松 幹二

講義の到達目標(ねらい) 生産や消費といった経済活動を相互に結び付けている取引関係には、大きく分けると、交換と契約の2つがある。交換(市場取引)は通常、匿名の相手との一時点で終わる関係であるのに対し、契約関係は事前の調査・交渉や契約内容の実行に時間がかかり、多くの場合、長期にわたって続く関係である。経済主体は相互に様々な契約関係を結ぶことで、企業をはじめ様々な組織・システムを構築している。本講義では、ミクロ経済学、なかでもゲーム理論や情報の経済学の手法を用いて、雇用契約や金融契約などの契約関係から見た経済主体の相互の関連と経済システムについて論じる。受講する学生には、この授業を通じて、システムとしての経済・企業組織、その中における経済主体の相互関連を考えることで経済社会全体についての視点を身につけてもらいたい。

講義の内容／授業スケジュール

第1回：イントロダクション：交換と契約
 第2回：情報の経済学：期待効用とリスク
 第3回：エージェント関係と情報の非対称性
 第4回：雇用契約(1) 成果と賃金
 第5回：雇用契約(2) インセンティブとリスク
 第6回：雇用契約(3) 複数の仕事、複数人による仕事
 第7回：長期雇用関係(1) 長期雇用の下での賃金体系
 第8回：長期雇用関係(2) 昇進と技能形成
 第9回：長期雇用関係(3) 採用、転職、解雇
 第10回：直接金融と間接金融
 第11回：金融契約と情報の非対称性(1) 逆選択
 第12回：金融契約と情報の非対称性(2) モラル・ハザード
 第13回：コーポレート・ガバナンス(1) 株主-経営者関係
 第14回：コーポレート・ガバナンス(2) 経営者の規律付け
 第15回：まとめ：契約と組織
 定期試験

履修上の留意点 講義ではミクロ経済学とゲーム理論、情報の経済学の知識を前提とするため、「ミクロ経済学」、「企業経済学」、「ゲーム理論」、「情報の経済学」、「制度の経済学」のいずれかをすでに履修した学生を対象とする。

成績評価の方法 成績評価は、主に定期試験による。ただし必要に応じて課題を出し、成績評価に加算する場合もある。

教科書／テキスト テーマが多岐にわたるため特定のテキストは指定せず、配布するレジュメをもとに講義を行う。

参考書 テーマに応じて講義内で参考文献を示す。

履修コード	092801
科目名	計量経済学
担当者名	田中 正光

講義の到達目標(ねらい) 経済学で学んだ消費関数や投資関数などが現実の経済にどの程度適用できるか検証を行うには、関連データを集め、これら諸関数の構造方程式を推計し、それらの推計パラメータをさまざまな角度から評価する作業が必要になる。こうした経済の構造の解明を目指すためのツールとして、また簡単な経済予測を行うためのツールとして計量経済学がある。本講義では、計量経済学の概略を簡単な理論と数値例から学び、計量経済学の有用性の理解を深めることを目指す。

講義の内容／授業スケジュール (1~6) 計量経済学に最低限必要な基礎的統計学 (7~10) 統計学の応用 (11~16) 最小二乗法と回帰モデル (17~18) 重回帰モデル (19~20) 回帰モデルの仮説検定 (21) ダミー変数の利用 (22~27) 系列相関、多重共線性、分散不均一 (28~30) 連立方程式モデル

準備学習 初回到講義全体の目次を渡すので、講義前に該当箇所のおよその内容を図書館などで調べておくことが望ましい。

履修上の留意点 授業の中で簡単な計算をする場面がしばしばあるので、電卓(関数電卓が望ましい)を持参すること。また、エクセルをしばしば使うので同ソフトにもある程度慣れていただきたい。

成績評価の方法 前期末と後期末に授業内で実施する試験の結果、通常授業における演習問題の結果、出席状況等を総合的に判断して成績を評価する。

教科書／テキスト 指定なし。

参考書 伴金美・中村二郎・跡田直澄『エコノメトリックス(新版)』2006年(有斐閣)
 唯是康彦『Excelで学ぶ計量経済学』2003年(東洋経済新報社)
 白砂堤津耶『初歩からの計量経済学』2000年(日本評論社)
 養谷千鳳彦『計量経済学』1998年(東洋経済新報社)

その他 授業では、原則的にプリントを配布する。これに従って授業を進める予定である。しかしながら、講義を進める過程で、履修者の興味・理解度に応じて講義内容の軌道修正を行う場合があるのでご理解願いたい。

履修コード	097271
科目名	ゲーム理論 a
担当者名	館 健太郎

講義の到達目標(ねらい) 複数の意思決定主体が関わる状況を分析するためのツールであるゲーム理論について、できるだけ多くの応用例を交えながら基本的な考え方を解説する。講義で解説される例に対する理解を深める中で、ゲーム理論が幅広い分野で利用されていることを実感してほしい。ゲーム理論aでは基礎的な概念について学習する。

講義の内容／授業スケジュール

1. イントロダクション
2. 標準型ゲームの解法 (1) : 支配戦略
3. 標準型ゲームの解法 (2) : 戦略の予想
4. 標準型ゲームの解法 (3) : ナッシュ均衡
5. ネットワーク外部性
6. 状況に応じた均衡戦略の変化
7. 展開型ゲームの解法 : 部分ゲーム完全均衡
8. コミットメント
9. タイミングと優位性
10. リスクと期待値
11. 期待効用
12. 混合戦略のナッシュ均衡
13. オークション (1)
14. オークション (2)
15. 総復習

※講義の進捗などにより内容を変更することがある。

履修上の留意点 ゲーム理論bと合わせて履修することが望ましい。

成績評価の方法 定期試験 (100点)。ただし、授業中に加点方式で課題を出すことがある。

教科書／テキスト 配布資料と板書をもとに講義を行う。

履修コード	097281
科目名	ゲーム理論 b
担当者名	鈴木 伸枝

講義の到達目標(ねらい) 複数の意思決定主体が関わる状況を分析するためのツールであるゲーム理論について、できるだけ多くの応用例を交えながら基本的な考え方を解説する。講義で解説される例に対する理解を深める中で、ゲーム理論が幅広い分野で利用されていることを実感してほしい。ゲーム理論bではゲーム理論aの内容を踏まえて、特に情報の非対称性が存在する場合を扱う。

講義の内容／授業スケジュール

ゲーム理論a復習 (第1回)
 連続ゲーム・準備編 : 企業の利潤最大化行動 (第2回)
 連続ゲーム : 複占 (第3-5回)
 ここまでの復習 (第6回)
 繰り返しゲーム・準備編 : 割引現在価値 (第7回)
 繰り返しゲーム : 繰り返しによる協力 (第8-10回)
 情報の非対称性 (第11-13回)
 進化ゲーム (第14回)
 復習 (第15回)
 ※講義の進捗に応じて内容を変更することがある。

履修上の留意点 ゲーム理論aを履修していることを前提として講義を行う。履修していない場合にはナッシュ均衡、混合戦略、部分ゲーム完全均衡、期待効用などについて学習しておくこと。

成績評価の方法 定期試験によって評価する。

教科書／テキスト なし。プリント・板書を中心に授業を行う。

参考書 ジョン・マクミラン 『経営戦略のゲーム理論』 有斐閣 3600円 4-641-06754-6

履修コード	099331
科目名	現代企業論 a
担当者名	松田 健

講義の到達目標(ねらい) 本講義では、企業に関する基礎的な知識、概念ならびに理論等を広く体系的に習得します。企業の基本的構造、主として制度上の観点からの基本的課題事項の整理を通じて、現代企業の特質とその役割を理解することを目的としています。

講義の内容／ 授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 現代企業と経済学 (1) (持続可能な社会と企業：現代企業論の基礎)</p> <p>第3回 現代企業と経済学 (2) (企業と市場)</p> <p>第4回 現代企業と経済学 (3) (取引コスト論)</p> <p>第5回 現代企業と経済学 (4) (所有権理論)</p> <p>第6回 企業形態 (1) (企業形態の分類とその意図)</p> <p>第7回 企業形態 (2) (個人企業・合名・合資・株式会社・LLC/LLP)</p> <p>第8回 企業形態 (3) (会社制度の歴史的発展とその意義)</p> <p>第9回 株式会社の特質 (1) (株式会社制度と所有者支配論)</p> <p>第10回 株式会社の特質 (2) (株式会社制度と専門経営者)</p> <p>第11回 現代株式会社と機関化現象 (1) (株主の機関化・法人化を巡る問題)</p> <p>第12回 現代株式会社と機関化現象 (2) (機関的大株主と企業支配様式)</p> <p>第13回 企業集中形態 (1) (企業集団)</p> <p>第14回 企業集中形態 (2) (連結経営と企業グループ)</p> <p>第15回 まとめ</p>
----------------------------	---

準備学習 企業経営とそれを取り巻く「経営環境」としての経済社会との相互関連への理解を深めるためには「新聞を毎日読むこと」がとてよい刺激になります。新聞、雑誌の政治・経済・経営欄に目を通し、現代の経済・経営にとって何が問題となっているのかという点にアンテナを張るように心がけて下さい。

履修上の留意点 講義の予習復習を心がけてください。用語がわからないと講義を聞いても理解不足に陥ります。自分で使い易い経営学辞典あるいは経営学用語集を入手しておいて下さい。また、聴講する皆さんは大学生ですから細かいことは言いませんが、少なくとも講義を聴きたいと思って参加している同僚学生にとって邪魔になる行為は慎んでください。

成績評価の方法 授業への出席は、単位認定のための最低要件です。定期試験(80%)を行い、この評価に、授業中の小レポートによる評価(20%)を加味して総合的に評価し、60点以上の者に単位を認めます。

教科書／テキスト 開講時に指示します。

参考書 経営学辞典あるいは経営学用語集(⇒これではなければならないという指定はありませんが、自分で使い易いものを選んで使用して下さい)。

その他 なし

履修コード	314391
科目名	現代企業論 a
担当者名	松田 健

講義の到達目標(ねらい) 本講義では、企業に関する基礎的な知識、概念ならびに理論等を広く体系的に習得します。企業の基本的構造、主として制度上の観点からの基本的課題事項の整理を通じて、現代企業の特質とその役割を理解することを目的としています。

講義の内容／ 授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 現代企業と経済学 (1) (持続可能な社会と企業：現代企業論の基礎)</p> <p>第3回 現代企業と経済学 (2) (企業と市場)</p> <p>第4回 現代企業と経済学 (3) (取引コスト論)</p> <p>第5回 現代企業と経済学 (4) (所有権理論)</p> <p>第6回 企業形態 (1) (企業形態の分類とその意図)</p> <p>第7回 企業形態 (2) (個人企業・合名・合資・株式会社・LLC/LLP)</p> <p>第8回 企業形態 (3) (会社制度の歴史的発展とその意義)</p> <p>第9回 株式会社の特質 (1) (株式会社制度と所有者支配論)</p> <p>第10回 株式会社の特質 (2) (株式会社制度と専門経営者)</p> <p>第11回 現代株式会社と機関化現象 (1) (株主の機関化・法人化を巡る問題)</p> <p>第12回 現代株式会社と機関化現象 (2) (機関的大株主と企業支配様式)</p> <p>第13回 企業集中形態 (1) (企業集団)</p> <p>第14回 企業集中形態 (2) (連結経営と企業グループ)</p> <p>第15回 まとめ</p>
----------------------------	---

準備学習 企業経営とそれを取り巻く「経営環境」としての経済社会との相互関連への理解を深めるためには「新聞を毎日読むこと」がとてよい刺激になります。新聞、雑誌の政治・経済・経営欄に目を通し、現代の経済・経営にとって何が問題となっているのかという点にアンテナを張るように心がけて下さい。

履修上の留意点 講義の予習復習を心がけてください。用語がわからないと講義を聞いても理解不足に陥ります。自分で使い易い経営学辞典あるいは経営学用語集を入手しておいて下さい。また、聴講する皆さんは大学生ですから細かいことは言いませんが、少なくとも講義を聴きたいと思って参加している同僚学生にとって邪魔になる行為は慎んでください。

成績評価の方法 授業への出席は、単位認定のための最低要件です。定期試験(80%)を行い、この評価に、授業中の小レポートによる評価(20%)を加味して総合的に評価し、60点以上の者に単位を認めます。

教科書／テキスト 開講時に指示します。

参考書 経営学辞典あるいは経営学用語集(⇒これではなければならないという指定はありませんが、自分で使い易いものを選んで使用して下さい)。

その他 なし

履修コード	099341
科目名	現代企業論 b
担当者名	松田 健

講義の到達目標(ねらい)	本講義では「現代企業論a」の履修を踏まえ、「企業とは何か」という視点から、企業の果たす役割、企業統治ならびに企業の社会的責任など、現代の企業経営にとって重要なTOPICSを欧州企業のケースを中心に学習します。
講義の内容／授業スケジュール	<p>第1回 企業の目的と経営者の役割 (1) (経営理念と企業の目的)</p> <p>第2回 企業の目的と経営者の役割 (2) (企業価値と株主の富の最大化)</p> <p>第3回 企業統治 (1) (企業統治とは何か：利害関係者と会社権力の正当性)</p> <p>第4回 企業統治 (2) (株主と企業 (経営者)：プリンシパル=エージェント問題)</p> <p>第5回 企業統治 (3) (株式所有構造と企業間関係)</p> <p>第6回 企業統治 (4) (アングロ・サクソン型企業統治)</p> <p>第7回 企業統治 (5) (日本型企業統治)</p> <p>第8回 欧州企業の戦略と社会性 (1) EU (欧州連合) と企業の社会性</p> <p>第9回 欧州企業の戦略と社会性 (2) RDS：スーパーメジャーの戦略</p> <p>第10回 欧州企業の戦略と社会性 (3) スタトイル：ノルウェーにおけるCSR</p> <p>第11回 欧州企業の戦略と社会性 (4) ルノー：CSR戦略の国際的展開</p> <p>第12回 欧州企業の戦略と社会性 (5) フォルクスワーゲン：共同決定法と資本市場</p> <p>第13回 欧州企業の戦略と社会性 (6) レゴ：安全性、高品質</p> <p>第14回 欧州企業の戦略と社会性 (7) エアバス：汎欧州企業</p> <p>第15回 まとめ</p>
準備学習	「現代企業論a」を受講していることが望ましいです。特に「現代企業論b」では、ケースを取り上げながら進めていくので、「新聞を毎日読むこと」や、「経済ニュース」を見聞きすることは不可欠です。日々の新聞、雑誌の政治・経済・経営欄に目を通し、現代の経済・経営にとって何が問題となっているのかという点にアンテナを張るように心がけて下さい。
履修上の留意点	講義の予習復習を心がけてください。用語がわからないと講義を聞いても理解不足に陥ります。自分で使い易い経営学辞典あるいは経営学用語集を入手しておいて下さい。また、聴講する皆さんは大学生ですから細かいことは言いませんが、少なくとも講義を聴きたいと思って参加している同僚学生にとって邪魔になる行為は慎んでください。
成績評価の方法	授業への出席は、単位認定のための最低要件です。定期試験 (80%) を行い、この評価に、授業中の小レポートによる評価 (20%) を加味して総合的に評価し、60点以上の者に単位を認めます。
教科書／テキスト	高橋俊夫編著『EU企業論』中央経済社、2008年。
参考書	経営学辞典あるいは経営学用語集 (⇒これでなければならないという指定はありませんが、自分で使い易いものを選んで使用して下さい)。
その他	なし

履修コード	314411
科目名	現代企業論 b
担当者名	松田 健

講義の到達目標(ねらい)	本講義では「現代企業論a」の履修を踏まえ、「企業とは何か」という視点から、企業の果たす役割、企業統治ならびに企業の社会的責任など、現代の企業経営にとって重要なTOPICSを欧州企業のケースを中心に学習します。
講義の内容／授業スケジュール	<p>第1回 企業の目的と経営者の役割 (1) (経営理念と企業の目的)</p> <p>第2回 企業の目的と経営者の役割 (2) (企業価値と株主の富の最大化)</p> <p>第3回 企業統治 (1) (企業統治とは何か：利害関係者と会社権力の正当性)</p> <p>第4回 企業統治 (2) (株主と企業 (経営者)：プリンシパル=エージェント問題)</p> <p>第5回 企業統治 (3) (株式所有構造と企業間関係)</p> <p>第6回 企業統治 (4) (アングロ・サクソン型企業統治)</p> <p>第7回 企業統治 (5) (日本型企業統治)</p> <p>第8回 欧州企業の戦略と社会性 (1) EU (欧州連合) と企業の社会性</p> <p>第9回 欧州企業の戦略と社会性 (2) RDS：スーパーメジャーの戦略</p> <p>第10回 欧州企業の戦略と社会性 (3) スタトイル：ノルウェーにおけるCSR</p> <p>第11回 欧州企業の戦略と社会性 (4) ルノー：CSR戦略の国際的展開</p> <p>第12回 欧州企業の戦略と社会性 (5) フォルクスワーゲン：共同決定法と資本市場</p> <p>第13回 欧州企業の戦略と社会性 (6) レゴ：安全性、高品質</p> <p>第14回 欧州企業の戦略と社会性 (7) エアバス：汎欧州企業</p> <p>第15回 まとめ</p>
準備学習	「現代企業論a」を受講していることが望ましいです。特に「現代企業論b」では、ケースを取り上げながら進めていくので、「新聞を毎日読むこと」や、「経済ニュース」を見聞きすることは不可欠です。日々の新聞、雑誌の政治・経済・経営欄に目を通し、現代の経済・経営にとって何が問題となっているのかという点にアンテナを張るように心がけて下さい。
履修上の留意点	講義の予習復習を心がけてください。用語がわからないと講義を聞いても理解不足に陥ります。自分で使い易い経営学辞典あるいは経営学用語集を入手しておいて下さい。また、聴講する皆さんは大学生ですから細かいことは言いませんが、少なくとも講義を聴きたいと思って参加している同僚学生にとって邪魔になる行為は慎んでください。
成績評価の方法	授業への出席は、単位認定のための最低要件です。定期試験 (80%) を行い、この評価に、授業中の小レポートによる評価 (20%) を加味して総合的に評価し、60点以上の者に単位を認めます。
教科書／テキスト	高橋俊夫編著『EU企業論』中央経済社、2008年。
参考書	経営学辞典あるいは経営学用語集 ⇒これでなければならないという指定はありませんが、用語がわからないと聴講しても理解不足に陥りますので、自分で使い易いものを選んで使用して下さい。 その他の指定図書については、適時指示します。
その他	なし

履修コード	097901
科目名	現代銀行事情
担当者名	近廣 昌志

講義の到達目標(ねらい) 本講義のねらいは、現代の経済現象を銀行事情の制度面および理論面から理解し、逆に経済問題から現代の銀行事情を認識することにあります。
 今日、超低金利時代にあつて、不況は銀行システムの機能不全が原因と考えられるでしょうか。確かに、北海道拓殖銀行の破綻に見られるように、銀行が経済社会に与える影響がいかに大きいかを必要以上に実証することになりました。だからこそ、巨額の公的資金を入れて銀行を救済したのですが、未だに完済出来ていない銀行もあります。
 戦後、重要な役割を担ってきた長期信用銀行が姿を消したのも、大枠においては傾斜生産方式の終焉と無関係ではありません。また、バブル経済と中央銀行・市中銀行との関わりや、90年代の終わりにかけて行われた日本版金融ビッグバンおよびアジア金融危機、今世紀に入り目立つようになった中小企業金融の貸し渋りや貸し剥がし問題、そして世界不況を招いたサブプライム・ローン問題など、金融の中心である銀行システムあるいは個別銀行が抱える問題点や事情は、銀行に対する知識とともに、経済動向との関連において捉える必要があります。
 私たちにとって資産である預金は、銀行にとってみれば負債であり、また銀行からの借入金は私たちにとっては負債ですが、銀行にとってみれば貸出という資産です。経済の動きは、銀行のバランスシートの状態あるいは問題とリンクが深く、経済問題を考える上で、貨幣を創造し、金融の核をなす銀行あるいは銀行セクターが抱える事情や銀行行動を理解する必要があると言えるのです。
 本講義では、日本の高度成長時代から今日までの経済と照らし合わせながら、現代の銀行が抱える現実問題に対して検討し考察します。

講義の内容／授業スケジュール

- [第1講] ガイダンスおよびイントロダクション：問題の捉え方
- [第2講] 高度経済成長を支え後押しした銀行①：銀行制度と銀行間の垣根問題
- [第3講] 高度経済成長を支え後押しした銀行②：銀行中心の金融システムと公的金融
- [第4講] 高度経済成長を支え後押しした銀行③：国債保有増大と金融行政および規制
- [第5講] バブル経済の銀行事情①：ブラザ合意の意義と影響
- [第6講] バブル経済の銀行事情②：銀行融資の実態
- [第7講] 預貸率の低下と手形割引の激減に関する検討
- [第8講] 銀行理論から考える不良債権問題
- [第9講] 日本版金融ビッグバンの意図
- [第10講] 日本版金融ビッグバンの影響と効果
- [第11講] 銀行中心の金融再編・コングロマリット化
- [第12講] BIS規制の影響：バーゼルⅠ・Ⅱの銀行経営に与える影響
- [第13講] サブプライム・ローン問題と銀行信用収縮
- [第14講] グローバル化と銀行の将来像
- [第15講] 講義のまとめ

履修上の留意点 本講義と併せて、前期科目の「銀行システム論」を履修されることを推奨します。美しくノートを取り、配布する資料やパワーポイントの内容をよく整理してください。疑問点や質問があれば後回しにせず、その日のうちに講師に声をかけてください。

成績評価の方法 定期試験（70%）およびレポート（30%）により評価します。なお、評価のランクについては、基本的に定期試験およびレポートの合計点により算出しますが、記述内容が論理性に優れている場合および受講時の取組みに優れている場合には、合計点から算出されるランクよりも高いランクで評価する場合があります。

教科書／テキスト 開講時に指示しますが、参考図書の中から指定する場合があります。

参考書 齊藤 正著『戦後日本の中小企業金融』ミネルヴァ書房、2003年。
 建部正義著『金融危機下の日銀の金融政策』中央大学出版部、2010年。
 内藤純一著『戦略的金融システムの創造』中央公論新社、2004年。
 山口義行編著『バブル・リレー』岩波書店、2009年。

履修コード	100601
科目名	現代経済事情I〔現代の就職事情〕
担当者名	川村 稔

講義の到達目標(ねらい)	(社会) 就職を考える前に、現代の企業や自治体で求められる人材や活躍している人材とは?をテーマに様々な業界が求める人材像=人材イメージ(能力、資質、性格、意欲、志向など)について具体的に紹介します。現代企業などの採用(人材)戦略についての理解を深めます。授業を通して、社会で活躍のできる要件を知り強化することができます。
講義の内容/ 授業スケジュール	<p>様々な業界や業種で働く人材という視点から社会について学びます。就職がゴールではなく、そこで活躍する人材を研究することで、より社会を実践的に学ぶことができます。自分を活かせる『業界や仕事』を“組織で活躍する人材像”から知ることができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人材像を知る意味と必要性について ・新卒採用への期待と中途採用の違い ・人材要件と人材像とは ・営業職、開発職、管理職など職域や階層により必要な人材要件とは ・企業が人材像を決める方法 ・全ての業界で共通する人材像や人材要件とは ・社会、経済状況による人材像の変化 ・様々な業界、業種を知り、活躍する人材像を考え、その理由を検討する <p>例： 公務員、流通、ホテル、メーカー、マスコミ、IT、金融、他</p> <p>※今年は、採用選考で行う各種面接や筆記試験の持つ“意味”を説明します。意味を知ること、就職に対する誤解を解消し不安を拭きます。自分を磨く大切さを授業で学んで欲しいと思います。</p>
準備学習	<p>簡潔な課題レポートを課します(A4版1枚)。 テーマは社会全般に常に関心を持ってもらうために、ニュースや日常の出来事から気になったテーマを取り上げ、意見などを課題レポートに記入してもらいます。</p> <p>そのレポートを元に授業の出席者と意見交換をしながら考えをまとめ、伝える、理解する力などの社会人としてだけでなく、組織人として必要なコミュニケーション能力も合わせて養成します。</p>
履修上の留意点	課題レポートの提出と意見交換をしてもらいますので、積極的な参加を希望します。意見交換の時間は、昨年の授業で最も盛り上がる時間でした。講義は、社会人向けに研修講師を行っているノウハウを活用しますので、安心して参加して下さい。
成績評価の方法	毎回の課題レポートと期末レポートの提出で評価します。
教科書/テキスト	レジメを配布します。YeStudyを活用しますが、利用できない方は考慮します。定期的に社会や就職についての情報や意見を掲載します。
参考書	適宜紹介します。
その他	<p>駒大経済学部のOBとしてできるだけ多くのメッセージを伝えたいと思いますので、意欲のある方の出席を希望します。</p> <p>任期は今年で終了予定なので、最後にまとめて多くを伝えます。大学を卒業して以来、国際会議をプロデュースする仕事で出会った人々や、企業の採用と人材育成の仕事を通じて知りあった数万名の出会いを集大成した授業として位置付けたいと思います。</p> <p>半年ですが、充実した時間にしますので多くの参加をお待ちします。</p>
関連リンク	http://www014.upp.so-net.ne.jp/minoru-4/index.html

履修コード	100701
科目名	現代経済事情II〔地域資源と社会的企業〕
担当者名	市川 望美

講義の到達目標(ねらい) 経済社会が成熟するにつれ、多様化するニーズや社会的課題を解決する手法の一つとして、社会的企業の必要性が高まってきています。

従来は、地域や社会における課題は、行政などの公的セクターによって対応が図られてきましたが、社会的課題の増加・多様化を受け、公的セクターだけで解決を図ることは、難しい状況にあります。

誰もが安心して暮らし、活気のある社会を創っていくためには、公的セクターだけでなく、民間セクター（NPO、企業、個人など多様な担い手）によって「新しい公共」を創りだしていくことが必要不可欠です。

本講義では、社会的なミッションと事業性の両立を図りながら、多種多様な事業内容で展開される社会的な事業を事例などからひもとき、事業が生み出す社会的な価値や意義、地域及び社会・経済全体の活性化などについて理解を深めていきます。

社会的企業・事業はまだまだ発展途上にあり、未知の世界かもしれませんが、本講義では、なるべく旬な、最新の動きをお伝えできればと考えています。

支え合いと活気がある社会をつくっていくために必要な事は何か、講義を通してみんなで考えて行きましょう。共感力・想像力・好奇心などを最大限に発揮しながら、一人ひとりが新しい公共の未来の担い手となっていくために、学生ならではの自由な発想で参加してください。

多様な社会人と触れ、学生同士でも意見を交換できる、実践的な機会となるような授業にしていきます。授業へのアイデアや要望なども歓迎です！

講義の内容／授業スケジュール 講義だけではなく、多様なゲストティーチャーをお迎えし、生きた実践を通して学びます。また、学生同士が自由にディスカッションできるように、グループワークも行います。

- (1) オリエンテーション、新しい公共について
- (2～3) 多様な社会的企業と地域資源
- (4～10) 事例を通してみる社会的事業
- 5～6事例を予定。社会的企業に取り組む市民団体（NPO等）、企業代表者、行政セクター担当者等をお招きし、実際の取り組みを紹介いただきます。
- 各事例から得たものをグループワーク等を通して振り返り、自分の考えとしてさらに消化していきます。

(11～14) 自分たちの視点からの社会的事業計画づくり(グループワーク)

※詳細は、受講生と相談しながら決定する予定です。

準備学習 必須の事前学習はありませんが、以下のようなことに取り組んでおくと講義がより充実したものとなります。

- ◆授業の中では「新しい公共」について触れて行きます。
事前に内閣府の「新しい公共」関連資料に目を通しておくと、講義の理解がより深まると思います。
(特に「新しい公共」宣言について
=>授業で資料は適宜配布しますが以下サイトからもダウンロード可能です)
{ <http://www5.cao.go.jp/entaku/pdf/declaration-nihongo.pdf> }

- ◆普段から身近な話題やニュースなどを通し、現代社会においてどのような課題があり、どのような担い手がどのように課題に取り組んでいるのか、経済活動だけに縛られることなく、幅広くアンテナを立てておいてください。

- ◆自分自身が今不便に感じていること、不安に感じていることなどがあれば、それが最も身近な社会的課題です。
普段から、そういったことに目を向けておいていただければ十分です。

- ◆ご興味があれば、講師のツイートなどもご覧下さい。
on twitter: @cherry7272

履修上の留意点 学術的な裏付けによる理解や形式的なレポートではなく、自分の感覚や感性をいかした議論や発表を期待しています。市民である自分との接点をもって講義にのぞんでください。

成績評価の方法 講義・議論への参加、毎回提出の感想・意見（60%）、発表・試験（40%）
※出席状況、講義への参加の様子、グループワークなどでの発言、各回終了時に提出する感想などをベースに評価を行います。

教科書／テキスト 各授業でプリントを配布します。

参考書 必要に応じ、講義に合わせて紹介します。

履修コード	100801
科目名	現代経済事情III [ユニバーサルデザイン]
担当者名	安藤 千賀

講義の到達目標(ねらい) 障害者や高齢者を含めた様々な人々が心地よく過ごすことができる社会の実現をめざして、「相手の立場を考慮する」という基準に基づいて社会のあり方を再考する、このような考え方をユニバーサルデザインと言います。本校義ではユニバーサルデザインの視点＝「相手の立場で考える」を基準に私達の生活に関わりの多い法律や制度などを含めて社会のあらゆる側面を対象にその問題点を検証します。

講義の内容／授業スケジュール 第1回：ユニバーサルデザイン（UD）とは何か？ 第2回：UDの歴史と概念
第3回：UDの普及・気付き 第4回：UDに取り組む企業
第5回：UDが企業にもたらす効果 第6回：UDの様々な試み
第7回～8回：企業の様々な事例紹介 第9回：心のUD
第10回～12回：UDに取り組む地域 事例紹介
第13回：やさしくないニッポン 第14～15回：ユニバーサルデザインの未来
※講義の順序や内容などは変更の可能性があります

準備学習 下記に記す書籍を読むなど、できるだけ新聞、テレビ、雑誌、ネットなどでユニバーサルデザインに関する記事などを見つけて読んで下さい。授業の内容がより深く理解できると思います。

履修上の留意点 特にありません

成績評価の方法 出席、参加度合い（意欲）、小レポート、学期末レポート試験で総合的に評価します

教科書／テキスト 講義に必要な資料は授業中に配布します

参考書 「UD革命 思いやりの復権」ばばこういち/安藤千賀
リベルタ出版（1800円）

その他 講義は、DVDやパワーポイントを使用

履修コード	100901
科目名	現代経済事情IV [韓・台・中企業の成長と日本産業]
担当者名	浅海 信行

講義の到達目標(ねらい) 日本経済は、米国のサブプライムローン問題を契機に、08年から後退局面に入り、同年9月にはリーマンショックによる世界同時不況に巻き込まれたうえ、同時に円も急騰したことで、戦後最悪と形容された深刻な不況に見舞われた。こうしたなか、日本の自動車メーカーおよび電機メーカーのほとんどが巨額の赤字を計上するなど負け組となった。

一方、自動車ではドイツのVWや韓国の現代自動車が、デジタル製品では米国のアップル、HP、台湾のエイサー、台湾積体回路（半導体製造受託）、鴻海精密工業（電子製品製造受託）、韓国の三星電子、LG電子などが勝ち組となった。

日本企業の競争力の低下はイノベーションの革新性に欠けるうえ、先進国市場を重視するため過剰品質、過剰機能、過剰性能を志向する傾向が強く、そのうえ新興国市場をターゲットとする姿勢が欠如したことに起因すると指摘されている。

そこで、デジタル製品を中心として、自動車も含め、韓国・台湾・中国企業の業績と競争戦略を検証するとともに、欧米企業の経営戦略転換も視野に入れ、日本企業が今後採るべき事業戦略の方向性も論ずる。

講義の内容／授業スケジュール 1回～2回：世界トップ100社にみるアジア企業およびデジタル製品の企業別世界シェア
3回：三星電子、LG電子、現代自動車など韓国財閥の興亡、4回：アジア通貨危機とリーマンショックの与えた影響、5回：LG電子の現状、6回：現代自動車の躍進、7回：トヨタの失速とWVの加速、8回：三星電子は半導体メモリー、薄型テレビ、携帯端末で世界シェアトップクラス、9回～10回：台湾ハイテク産業の特徴（半導体、液晶パネルなど）、11回：台湾は対中投資が生命線、12回：台湾はパソコン王国、13回：中国の白物家電の急成長、14回：中国パソコン「レノボ」の躍進と低迷、15回：中国は太陽電池、リチウムイオン電池でも日本メーカーを脅かす。

準備学習 教科書として下記「韓国・台湾・中国企業の成長戦略 ～課題はガバナンスと研究開発～
著者：浅海信行、2008年10月発行」を無償配布します。ただ、テキストの本文は300ページあるため、すべて講義することは時間的に難しいので、事前に読んでおくことと授業が分かりやすいと思われま

参考書として、「世界不況を乗り越える韓国・台湾・中国企業 ～成長の軌跡と競争戦略～」2010年12月発行を取り上げますが、これは上記教科書を発行した折にリーマンショックが起きたために、新たに書き下ろしたもので、特にメーカーなどへの就活に有用であるので、一読をお勧めします。

履修上の留意点 特にありません。

成績評価の方法 学期末試験で評価します。

教科書／テキスト 教科書は前項で述べたように、講師著作の「韓国・台湾・中国企業の成長戦略」を無償配布しますので、奮って受講してください。

参考書 参考書として前項で取り上げた講師著作の「世界不況を乗り越える韓国・台湾・中国企業」はリーマンショック後の動向を改めて書き下ろし、取りまとめたもので、特に自動車、電機、IT産業への就職を希望する場合には極めて有用であるので、一読をお勧めします。これは教科書として指定しませんが、駒大紀伊屋書店に、参考書として取り寄せるよう要請しておきます。なお、配布教科書および当該参考書は授業で紹介します。

その他 2010年発行の「世界不況を乗り越える韓国・台湾・中国企業」の統計などは必要に応じてコピーを配布し、参考に供します。

履修コード	101101
科目名	現代産業事情II
担当者名	江夏 あかね

講義の到達目標(ねらい) 本講座は、「現代の資本主義と証券市場」をテーマとして、外資系金融機関の現役アナリストによって講義が行われる。証券市場に関する基礎から出発するため、証券業務に初めて触れる者にも十分対応しうる授業である。また、講義においては、主にクレジット市場で注目されているニュース等を題材としたケース・スタディーなどを通じて、実践に即した機会を設ける。証券業界のみならず、広く金融業界への就職を検討する際に大いに参考になることが期待される。

講義の内容／授業スケジュール 以下の進行を予定しているが、講師の都合によって変更される場合があるので、毎回の授業においてスケジュールを確認しておくこと。
 第1回 ガイダンス
 第2回 金融・経済関連情報の捉え方
 第3回 証券投資のリスク・リターンの概念
 第4回 証券市場の概要と市場参加者
 第5回 債券市場の役割と債券の基礎知識
 第6回 債券市場のインフラおよび格付けの基礎
 第7回 社債等民間セクター・クレジット市場の概要とクレジット分析の基礎 (1)
 第8回 社債等民間セクター・クレジット市場の概要とクレジット分析の基礎 (2)
 第9回 公的セクター・クレジット市場の概要とクレジット分析の基礎 (地方債-1)
 第10回 公的セクター・クレジット市場の概要とクレジット分析の基礎 (地方債-2)
 第11回 公的セクター・クレジット市場の概要とクレジット分析の基礎 (財投機関債-1)
 第12回 公的セクター・クレジット市場の概要とクレジット分析の基礎 (財投機関債-2)
 第13回 海外クレジット市場の概要および最近の動き
 第14回 レポートの講評
 第15回 まとめ

成績評価の方法 定期試験とレポートで評価する。

教科書／テキスト 毎回資料を配布する。授業ではパワーポイントを用いる予定。

参考書 江夏あかね『地方債の格付けとクレジット』商事法務、¥4,725,978-4785716172。
 代田純『日本の国債・地方債と公的金融』税務経理協会、¥2,100,978-4419048792。
 その他、必要に応じて参考図書指定する予定。

その他 金融機関の現役社員による講義であり、定刻に開始し、4年生の就職活動による場合を除き、原則として遅刻は認めない。授業中の私語は厳禁。受講態度に問題がある場合、退室を指導することがある。

履修コード	101201 101202 101203
科目名	現代産業事情III 現代企業論 特殊講義II
担当者名	百田 義治

講義の到達目標(ねらい) 本科目は東京税理士会の寄附講座として開講されます。東京税理士会所属の14人の現役の税理士の方々（そのほとんどは駒澤大学または駒澤大学大学院の卒業生）が、それぞれの実務経験を踏まえながら、税理士の役割や社会的使命、さまざまな税法の内容や意義、また税理士の実際の姿などについて、わかりやすく講義します。受講生が、本授業を通して、財政や租税に関する実際的な知識を獲得し、できれば税理士や公認会計士などの職業会計人を目指す機会となることを期待しています。

講義の内容／授業スケジュール 以下のテーマでの授業を予定しています。
 第1回 わが国の租税制度
 第2回 グローバル化と証券税制
 第3回 法人と個人の税金のしくみ
 第4回 相続税のはなし
 第5回 贈与税のはなし
 第6回 所得税のはなし
 第7回 法人税のはなし
 第8回 税理士制度の歴史から税理士の仕事の魅力まで
 第9回 リスク・マネジメントと税務会計
 第10回 税理士と地方自治体の監査制度
 第11回 税務調査と税理士
 第12回 サラリーマンと税金のはなし
 第13回 消費税のはなし
 第14回 税制改正のはなし
 第15回 まとめ

成績評価の方法 定期試験とレポートで評価する。

教科書／テキスト 毎回資料を配布する。

参考書 特になし。

その他 この科目は、履修制限（150名～200名）をします。最初の授業で履修制限の説明をします。
 本授業はすべて外部講師（税理士）の方々によって進められます。授業における私語および携帯電話の使用は禁止します。また講師講演中の遅刻入場や途中退席も原則として禁止します。

履修コード	100611
科目名	現代産業論 a
担当者名	北嶋 守

講義の到達目標(ねらい) 本講義は、日々変化する日本の産業の動向について、特に戦後からバブル経済崩壊までの高度経済成長期とその後のインターネットの登場、経済のグローバル化、環境問題及び人口減少社会の到来等々に伴う日本の産業の変化に焦点を当て、具体的な事例を紹介することによって、学生諸君の現代産業を見る眼を豊かにすることを目的に開講するものである。

講義の内容／授業スケジュール 第1回は、講義全体の進め方を説明した上で、日本の産業の分類及び歴史的概観について講義する。第2回から第3回は、戦後日本の産業の黎明期について講義する。第4回から第5回は、戦後日本の産業の革新期・成長期について講義する。第6回から第7回は、バブル経済崩壊に至る経緯及びバブル経済崩壊後の日本の産業構造の変化について講義する。第8回から第9回は、IT(情報技術)、インターネットの普及が日本の産業に与えた影響を中心に講義する。第10回から第11回は、アジア地域を中心とした日本企業のグローバル展開に伴う日本の産業の変化について講義する。第12回から第13回は、環境問題・高齢化社会の進行が日本の産業に与える影響について講義する。第14回から第15回は、地域産業イノベーションの視点から今後の日本の産業政策の方向性について講義する。

履修上の留意点 定期的にレポート課題を用意するので、常に産業情報、特に新聞情報について目を通しておくこと。欠席は大きなマイナスになるのでその点も十分留意すること。

成績評価の方法 中間レポート課題の提出状況、期末試験(レポートまたは執筆試験)及び出席状況に基づいて評価する。

教科書／テキスト 小川正博・西岡正・北嶋守編『日本企業のものづくり革新』(同友館)をメインテキストとする。また、必要に応じてプリント類を配布する。

参考書 経済産業省等編『ものづくり白書』、中小企業庁編『中小企業白書』、(財)日本情報処理開発協会編『情報化白書』、(財)機械振興協会経済研究所編『日本の機械産業2010』他。

その他 意欲的な学生の出席を期待する。

履修コード	100621
科目名	現代産業論 b
担当者名	北嶋 守

講義の到達目標(ねらい) 本講義は、日々変化する日本の産業の動向について、リーディング産業及び地域産業等に焦点を当てながら、個々の産業セクター別に具体的な事例を紹介することによって、学生諸君の現代産業を見る眼を豊かにすることを目的に開講するものである。

講義の内容／授業スケジュール 第1回は、講義全体の進め方を説明した上で、日本の産業を牽引する産業(リーディング産業)の概要及びこれまでのリーディング産業の変遷過程について講義する。第2回から第3回は、日本の自動車産業の動向とその競争力について講義する。第4回から第5回は、電気電子産業(家電・半導体・液晶・太陽光パネル等)の動向について講義する。第6回から第7回は、精密機械産業について講義する。第8回から第9回は、医療福祉機器及び環境機器産業の動向について講義する。第10回から第11回は、サービス産業及びコンテンツ産業の動向について講義する。第12回から第13回は、地域産業(観光及び地場産業)の動向について講義する。第14回から第15回は、今後成長が期待される新産業分野とそれに関連する産業政策及び世界規模で見た場合の日本の産業の競争力向上における課題について講義する。

履修上の留意点 定期的にレポート課題を用意するので、常に産業情報、特に新聞情報について目を通しておくこと。欠席は大きなマイナスになるのでその点も十分留意すること。

成績評価の方法 中間レポート課題の提出状況、期末試験(レポートまたは執筆試験)及び出席状況に基づいて評価する。

教科書／テキスト 小川正博・西岡正・北嶋守編『日本企業のものづくり革新』(同友館)をメインテキストとする。また、必要に応じてプリント類を配布する。

参考書 経済産業省等編『ものづくり白書』、中小企業庁編『中小企業白書』、(財)日本情報処理開発協会編『情報化白書』、(財)機械振興協会経済研究所編『日本の機械産業2010』他。

その他 意欲的な学生の出席を期待する。

履修コード	093101
科目名	現代資本主義論
担当者名	森田 成也

講義の到達目標(ねらい) 私たちが生きている資本主義社会がまさに現代資本主義であり、そこではグローバリゼーション、貧困と格差の拡大、地球温暖化と環境破壊、戦争、繰り返される金融バブルと金融恐慌、等々の深刻な現実が起きています。こうした現象を、まず前半では、その基本枠組みが20世紀に成立し20世紀末に新自由主義へと大きく変貌した現代資本主義という枠組みで説明し、現代資本主義を論じたさまざまな論者の議論も紹介していきます。後半では、この日本における特殊性について講義し、今日における現状変革の課題について考えていきます。

講義の内容／授業スケジュール <前半>
1、講義を始めるにあたっての簡単な説明(古典的資本主義→過渡期→現代資本主義)、2、古典的資本主義Ⅰ(その基本的特徴)、3、古典的資本主義Ⅱ(2つの総括形態——恐慌と帝国主義)、4、過渡期Ⅰ(周期的恐慌と独占の形成)、5、過渡期Ⅱ(帝国主義と第1次世界大戦)、6、過渡期Ⅲ(ロシア革命と労働者国家)、7、過渡期Ⅳ(アメリカの台頭)、8、過渡期Ⅴ(世界恐慌と30年代アメリカ)、9、過渡期Ⅵ(第2次世界大戦と現代資本主義の成立)、10、現代資本主義の前期Ⅰ(国際的枠組み)、11~14、現代資本主義の前期Ⅱ~Ⅴ(基本的特徴)
<後半>
15、前期のおさらい、16~19、現代資本主義の前期から後期への過渡Ⅰ~Ⅳ、20~22、現代資本主義の後期Ⅰ~Ⅲ、23、現代資本主義の特殊形態としての日本資本主義Ⅰ(戦前から戦後)、24、日本資本主義Ⅱ(戦後改革)、25、日本資本主義Ⅲ(日本型労資関係の成立)、26、日本資本主義Ⅳ(終身雇用)、27、日本資本主義Ⅴ(年功賃金)、28~29、日本資本主義の新自由主義Ⅰ~Ⅱ、30、全体のおさらい

履修上の留意点 板書中心の授業になるので、必ずノートをとること。とくに出席はとりません。

成績評価の方法 夏休みのレポートと学期末試験の2つで成績評価します。とくに学期末試験が重要です。夏休みのレポートは、学期末試験に対する追加点と考えてください
(1)夏休みのレポート……夏休みのレポートとして、課題の本を指定しますので、それを読んで、内容の要約と感想を書いてください。提出は夏休み後の授業。
(2)学期末試験……1年間の授業すべてが範囲になります。穴埋め問題と筆記問題の両方が適度なバランスで出題されます。

教科書／テキスト 『新自由主義批判の再構築』、2010年、法律文化社

参考書 デヴィッド・ハーヴェイ『新自由主義』、2007年刊、作品社、2400円

その他 経済原論や経済学概説など基礎的科目の履修者が望ましい。

履修コード	095101
科目名	現代西欧経済論
担当者名	清水 卓

講義の到達目標(ねらい)	本講義では、第2次大戦から今日に至る間の、西欧諸国の経済の構造変化と経済政策の展開を段階的に把握し、現在のグローバル化を特徴とする経済・社会の諸課題を視る視座を得ることを目的とします。
講義の内容／ 授業スケジュール	第1回～第3回 戦後西欧の経済成長 第4回～第6回 経済危機の時代 第7回～第9回 独・仏・英の経済 第10回～第12回 北欧・地中海諸国、ベネルクスの経済 第13回～第15回 グローバリゼーションと欧州諸国経済
準備学習	授業で紹介する資料を読むことが重要であることはいうまでもありませんが、過去一週間の新聞からEU関連の記事を整理することも効果的事前学習となります。さらに、予定されている授業のテーマに関連した質問を用意して出席すれば、授業内容をより深く理解できるようになります。
履修上の留意点	1年次、2年時の学習で経済学の基礎知識および国際経済・国際金融に関する基礎的知識を有していることが望まれます。講義内容を理解するためにも、新聞・雑誌、インターネット、TV特集番組などの欧州諸国のニュース報道に関心を持ちましょう。
成績評価の方法	学期末試験(8割)と授業内で提出を求める課題(2割)を基本に評価します。総合評価の際、出席状況も勘案します。
教科書／テキスト	特に指定しません。
参考書	(1) W・ラカー(著)、加藤他(訳)、「ヨーロッパ現代史—西欧・東欧・ロシア」芦書房 (2) 原・工藤「現代ヨーロッパ経済史」有斐閣 (3) 広田功編 「現代ヨーロッパの社会経済政策 その形成と展開」日本経済評論社
その他	なし
関連リンク	http://europa.eu/

履修コード	310121
科目名	現代西欧経済論
担当者名	清水 卓

講義の到達目標(ねらい)	本講義では、第2次大戦から今日に至る間の、西欧諸国の経済の構造変化と経済政策の展開を段階的に把握し、現在のグローバル化を特徴とする経済・社会の諸課題を視る視座を得ることを目的とします。
講義の内容／ 授業スケジュール	第1回～第3回 戦後西欧の経済成長 第4回～第6回 経済危機の時代 第7回～第9回 独・仏・英の経済 第10回～第12回 北欧・地中海諸国、ベネルクスの経済 第13回～第15回 グローバリゼーションと欧州諸国経済
準備学習	授業で紹介する資料を読むことが重要であることはいうまでもありませんが、過去一週間の新聞からEU関連の記事を整理することも効果的事前学習となります。さらに、予定されている授業のテーマに関連した質問を用意して出席すれば、授業内容をより深く理解できるようになります。
履修上の留意点	1年次、2年時の学習で経済学の基礎知識および国際経済・国際金融に関する基礎的知識を有していることが望まれます。講義内容を理解するためにも、新聞・雑誌、インターネット、TV特集番組などの欧州諸国のニュース報道に関心を持ちましょう。
成績評価の方法	学期末試験(8割)と授業内で提出を求める課題(2割)を基本に評価します。総合評価の際、出席状況も勘案します。
教科書／テキスト	特に指定しません。
参考書	(1) W・ラカー(著)、加藤他(訳)、「ヨーロッパ現代史—西欧・東欧・ロシア」芦書房 (2) 原・工藤「現代ヨーロッパ経済史」有斐閣 (3) 広田功編 「現代ヨーロッパの社会経済政策 その形成と展開」日本経済評論社
その他	特になし。
関連リンク	http://europa.eu/

履修コード	098201
科目名	憲法
担当者名	金子 勝

講義の到達目標(ねらい)	日本国憲法は、国民を「幸福」にする憲法であり、世界に存在する憲法の中で、最も優れた憲法の1つであることを確認していただくこと。
講義の内容／ 授業スケジュール	第1回 講義事始。 第2回・第3回 憲法学という科学の性質。 第4回・第5回 憲法とは何か。 第6回～第8回 憲法を制定・運用する国家権力。 第9回～第11回 日本国憲法の制定。 第12回～第14回 日本国憲法の内容—(1) 国民主権と国家主権。 第15回～第20回 日本国憲法の内容—(2) 基本的人権。 ①自由権②法の下の平等権③社会権④政治的権利 ⑤平和的生存権 第21回～第23回 日本国憲法の内容—(3) 非武装・非戦平和主義。 第24回～第26回 日本国憲法の内容—(4) 統治機構。 ①国会②内閣③裁判所④財政 第27回 日本国憲法の内容—(5) 地方自治。 第28回 日本国憲法の内容—(6) 天皇 第29回・第30回 日本国憲法と日米安保条約
準備学習	新聞やテレビ・ラジオや雑誌などのマス・メディアによって、現実の憲法問題を把握していただきたい。
履修上の留意点	憲法問題が起きたら、その問題が日本国憲法のどの条項と関係しているのかを把握できるようになっていただきたい。
成績評価の方法	学年末試験で判定する。
教科書／テキスト	金子勝『社会科学の世界』・勁草書房・2600円。
参考書	講義において指示します。
その他	「六法」を必ず持参して下さい。

履修コード	09111
科目名	公共経済学 a
担当者名	鈴木 伸枝

講義の到達目標(ねらい) 社会福祉や環境政策といった政府介入はなぜ必要か、どのような政策が望ましいのか、理想をすべて満たすような政策はあるのか、ないとすれば、どのような政策なら実現可能なのか、そして実施された政策はどんな効果をもたらすのか、公共経済学では、こうした問題をミクロ経済学的手法を用いて効率性・公平性の観点から考えます。

市場への政府介入の経済学的根拠は、効率性面での市場の失敗を引き起こす「不完全競争」「外部性」「不完全情報」の3要因と、「公平性」にあります。一方、市場の失敗は必ずしも政府介入により解決されるとは限りません。不完全情報のため最適な政策が実施できなかつたり、規制が新たな不完全競争の原因となつたりするからです。

【公共経済学a】では、上で挙げた効率性3要因のうち「不完全競争」を中心に扱いながら、完全競争市場の効率性・公平性と政府介入の影響について学びます。【公共経済学b】では「外部性」「不完全情報」を学ぶとともに、「外部性」と「公平性」を組み合わせる所得再分配を説明したり、「外部性」と「不完全情報」の両側面から教育を捉えたりと、より高度な理論を紹介していきます。この講義をしっかり理解すれば、講義時間内で扱いきれない多くの政策についても習得した理論を応用して自分で考えたり、専門書を読んでさらに知識を深めることができます。

講義の内容／授業スケジュール

- 「1. ガイダンス」(第1回)
- 「2. 政府の役割」(第1-2回)
- 「3. 完全競争」(第2-4回)
- 「4. 独占」(第4-6回)
- 「5. 寡占」(第6-8回)
- 「6. 課税」(第8-10回)
- 「7. 価格統制」(第10-12回)
- 「8. 競争均衡の効率性・公平性」(第12回)

履修上の留意点

【ミクロ経済学】もしくは【企業経済論a・b】を履修済みであることを前提として講義を進めます。また、公共経済学は数学を多用する分野です。高校数学の予備知識は要求しませんが、講義でわからなかつた部分を理解するまで根気よく復習できない人には履修をお勧めしかねます。

成績評価の方法

期末試験1回(100点満点)で評価します。60点未満の場合は不可とし、60点以上は本学のGPA評価ルールに従って成績をつけます。

教科書／テキスト

穴埋め式の講義ノートを配布します。市販の教科書は特に指定しません。

その他

YeStudy(現代応用経済学科)にてレポート課題や練習問題を配布します。配布済みの講義ノート(空欄は未記入)もYeStudyで公開するので、欠席・紛失の際は各自ダウンロードしてください。

履修コード	313511
科目名	公共経済学 a
担当者名	鈴木 伸枝

講義の到達目標(ねらい) 社会福祉や環境政策といった政府介入はなぜ必要か、どのような政策が望ましいのか、理想をすべて満たすような政策はあるのか、ないとすれば、どのような政策なら実現可能なのか、そして実施された政策はどんな効果をもたらすのか、公共経済学では、こうした問題をミクロ経済学的手法を用いて効率性・公平性の観点から考えます。

市場への政府介入の経済学的根拠は、効率性面での市場の失敗を引き起こす「不完全競争」「外部性」「不完全情報」の3要因と、「公平性」にあります。一方、市場の失敗は必ずしも政府介入により解決されるとは限りません。不完全情報のため最適な政策が実施できなかつたり、規制が新たな不完全競争の原因となつたりするからです。

【公共経済学a】では、上で挙げた効率性3要因のうち「不完全競争」を中心に扱いながら、完全競争市場の効率性・公平性と政府介入の影響について学びます。【公共経済学b】では「外部性」「不完全情報」を学ぶとともに、「外部性」と「公平性」を組み合わせる所得再分配を説明したり、「外部性」と「不完全情報」の両側面から教育を捉えたりと、より高度な理論を紹介していきます。この講義をしっかり理解すれば、講義時間内で扱いきれない多くの政策についても習得した理論を応用して自分で考えたり、専門書を読んでさらに知識を深めることができます。

講義の内容／授業スケジュール

- 「1. ガイダンス」(第1回)
- 「2. 政府の役割」(第1-2回)
- 「3. 完全競争」(第2-4回)
- 「4. 独占」(第4-6回)
- 「5. 寡占」(第6-8回)
- 「6. 課税」(第8-10回)
- 「7. 価格統制」(第10-12回)
- 「8. 競争均衡の効率性・公平性」(第12回)

履修上の留意点

【ミクロ経済学】もしくは【企業経済論a・b】を履修済みであることを前提として講義を進めます。また、公共経済学は数学を多用する分野です。高校数学の予備知識は要求しませんが、講義でわからなかつた部分を理解するまで根気よく復習できない人には履修をお勧めしかねます。

成績評価の方法

受講者数20名以上の場合には、期末試験1回(100点満点)で評価します。60点未満は不可とし、60点以上は本学のGPA評価ルールに従って成績をつけます。受講者数20名未満の場合には、試験のかわりに宿題を5回程度出し、平常点と合わせて評価します。

教科書／テキスト

穴埋め式の講義ノートを配布します。市販の教科書は特に指定しません。

その他

YeStudy(現代応用経済学科)にてレポート課題や練習問題を配布します。配布済みの講義ノート(空欄は未記入)もYeStudyで公開するので、欠席・紛失の際は各自ダウンロードしてください。

履修コード	099121
科目名	公共経済学 b
担当者名	鈴木 伸枝

講義の到達目標(ねらい) 社会福祉や環境政策といった政府介入はなぜ必要か、どのような政策が望ましいのか、理想をすべて満たすような政策はあるのか、ないとすれば、どのような政策なら実現可能なのか、そして実施された政策はどんな効果をもたらすのか、公共経済学では、こうした問題をミクロ経済学的手法を用いて効率性・公平性の観点から考えます。

市場への政府介入の経済学的根拠は、効率性面での市場の失敗を引き起こす「不完全競争」「外部性」「不完全情報」の3要因と、「公平性」にあります。一方、市場の失敗は必ずしも政府介入により解決されるとは限りません。不完全情報のため最適な政策が実施できなかつたり、規制が新たな不完全競争の原因となつたりするからです。

【公共経済学a】では、上で挙げた効率性3要因のうち「不完全競争」を中心に扱いながら、完全競争市場の効率性・公平性と政府介入の影響について学びます。【公共経済学b】では「外部性」「不完全情報」を学ぶとともに、「外部性」と「公平性」を組み合わせて所得再分配を説明したり、「外部性」と「不完全情報」の両側面から教育を捉えたりと、より高度な理論を紹介していきます。この講義をしっかり理解すれば、講義時間内で扱いきれない多くの政策についても習得した理論を応用して自分で考えたり、専門書を読んでさらに知識を深めることができます。

講義の内容／授業スケジュール E. 【公共経済学a】復習(第1回)
 9. 消費者行動(第2-4回)
 10. 外部性(第4-6回)
 11. 公共財(第6-9回)
 12. 応用1: 環境問題・所得再分配(第9-11回)
 13. 情報の非対称性(第12-13回)
 14. 応用2: 教育(第13回)

履修上の留意点 【公共経済学a】に加えて【ミクロ経済学】もしくは【企業経済論a・b】を履修済みであることを前提として講義を進めます。また、公共経済学は数学を多用する分野です。高校数学の予備知識は要求しませんが、講義でわからなかつた部分を理解するまで根気よく復習できない人には履修をお勧めしかねます。

成績評価の方法 定期試験は「レポート試験」(12月にレポート課題を公開し、1月の期末試験会場にて回収するシステム)とします。60点未満は不可とし、60点以上の場合は本学のGPA評価ルールに従って成績を評価します。

教科書／テキスト 穴埋め式の講義ノートを配布します。市販の教科書は特に指定しません。

その他 YeStudy(現代応用経済学科)にてレポート課題や練習問題を配布します。配布済みの講義ノート(空欄は未記入)もYeStudyで公開するので、欠席・紛失の際は各自ダウンロードしてください。

履修コード	313521
科目名	公共経済学 b
担当者名	鈴木 伸枝

講義の到達目標(ねらい) 社会福祉や環境政策といった政府介入はなぜ必要か、どのような政策が望ましいのか、理想をすべて満たすような政策はあるのか、ないとすれば、どのような政策なら実現可能なのか、そして実施された政策はどんな効果をもたらすのか、公共経済学では、こうした問題をミクロ経済学的手法を用いて効率性・公平性の観点から考えます。

市場への政府介入の経済学的根拠は、効率性面での市場の失敗を引き起こす「不完全競争」「外部性」「不完全情報」の3要因と、「公平性」にあります。一方、市場の失敗は必ずしも政府介入により解決されるとは限りません。不完全情報のため最適な政策が実施できなかつたり、規制が新たな不完全競争の原因となつたりするからです。

【公共経済学a】では、上で挙げた効率性3要因のうち「不完全競争」を中心に扱いながら、完全競争市場の効率性・公平性と政府介入の影響について学びます。【公共経済学b】では「外部性」「不完全情報」を学ぶとともに、「外部性」と「公平性」を組み合わせて所得再分配を説明したり、「外部性」と「不完全情報」の両側面から教育を捉えたりと、より高度な理論を紹介していきます。この講義をしっかり理解すれば、講義時間内で扱いきれない多くの政策についても習得した理論を応用して自分で考えたり、専門書を読んでさらに知識を深めることができます。

講義の内容／授業スケジュール E. 【公共経済学a】復習(第1回)
 9. 消費者行動(第2-4回)
 10. 外部性(第4-6回)
 11. 公共財(第6-9回)
 12. 応用1: 環境問題・所得再分配(第9-11回)
 13. 情報の非対称性(第12-13回)
 14. 応用2: 教育(第13回)

履修上の留意点 【公共経済学a】に加えて【ミクロ経済学】もしくは【企業経済論a・b】を履修済みであることを前提として講義を進めます。また、公共経済学は数学を多用する分野です。高校数学の予備知識は要求しませんが、講義でわからなかつた部分を理解するまで根気よく復習できない人には履修をお勧めしかねます。

成績評価の方法 受講者数20名以上の場合には、定期試験は「レポート試験」(12月にレポート課題を公開し、1月の期末試験会場にて回収するシステム)とします。60点未満は不可とし、60点以上は本学のGPA評価ルールに従って成績を評価します。受講者数20名未満の場合には、定期試験のかわりに宿題を5回程度出し、平常点と合わせて評価します。

教科書／テキスト 穴埋め式の講義ノートを配布します。市販の教科書は特に指定しません。

その他 YeStudy(現代応用経済学科)にてレポート課題や練習問題を配布します。配布済みの講義ノート(空欄は未記入)もYeStudyで公開するので、欠席・紛失の際は各自ダウンロードしてください。

履修コード	093601
科目名	工業政策
担当者名	奥山 雅之

講義の到達目標(ねらい) わが国の工業（「ものづくり」産業）は、その技術力を背景に高い国際競争力を有しており、産業全体を支える重要な存在です。
この講義では、数多くの企業事例を取り上げ、ものづくり産業の特徴を確認しながら、産業の「過去」「現在」そして「将来」を考察します。また、ものづくり産業に対する国や地方公共団体の政策の課題と方向性についても検討を加えていきます。
前期では、ものづくり産業の現状をさまざまな角度から分析し、その課題と今後の方向性を明らかにします。後期では、産学連携、知的財産、環境問題、CSR（企業の社会的責任）など、ものづくり産業をめぐる今日的な題材に検討を加えます。
1年間を通じて、ものづくり産業に関する政策的な課題設定力と、自分なりの解決策を提案する力を持つことを到達目標としています。

講義の内容／授業スケジュール

前期（1～3） 工業の意義と役割
（4～6） 工業の発展と工業政策の歩み
（7～9） 産業構造とものづくり産業
（10～13） 工業の立地問題
（14～15） ものづくり中小企業と政策
後期（16～19） ものづくり産業の業種別動向（自動車産業、繊維産業ほか）
（20～21） 「ソフトなものづくり」産業（映画産業、アニメーション産業ほか）
（22～23） ものづくりを支える人材の確保・育成
（24～25） イノベーションと産学連携
（26） 知的財産の創造・保護・活用
（27） 創業・ベンチャー支援策
（28～29） 工業振興と環境問題
（30） 工業振興とCSR（企業の社会的責任）

準備学習 事前学習としては、日ごろから新聞の経済・産業関連記事に接しておくことを望みます。事後学習としては、配布した資料とノートを再確認し、各週のテーマに対する自分なりの考え方をまとめておくことが重要です。

履修上の留意点 日頃からものづくり産業や企業に関心を持つことを望みます。

成績評価の方法 成績は学年末試験とレポートで評価します。試験が8割、レポートが2割のウェイトで評価します。試験およびレポートの内容については、講義に積極的に参加していた人が有利になるように配慮します。追試は行いません。

教科書／テキスト 特に指定しません。配布する資料によって講義を実施します。

参考書 加藤秀雄『地域中小企業と産業集積』（新評論）

その他 なし

履修コード	096401 096402
科目名	交通論 交通政策
担当者名	金 兌奎

講義の到達目標(ねらい) 交通サービス及び交通産業の概念・特徴・分析アプローチなどについて具体的かつ体系的に理解する。

講義の内容／授業スケジュール

- ①交通論の概略：交通論を学ぶ目的、交通論の対象
- ②交通サービスの需要と供給の特性（2回）
- ③交通サービスへの規制（2回）
- ④運賃理論（2回）
- ⑤運賃政策（3回）
- ⑥交通投資の特徴（2回）
- ⑦前期のまとめ
- ⑧鉄道政策及び鉄道輸送事業の特徴（2回）
- ⑨国鉄の分割民営化、JR・民鉄の現状（2回）
- ⑩航空政策及び航空輸送事業の特徴（2回）
- ⑪航空輸送事業における規制緩和及びローコストキャリアの新規参入（2回）
- ⑫空港整備制度
- ⑬道路政策及び道路整備制度（2回）
- ⑭高速道路公団の民営化及び高速道路の無料化
- ⑮後期のまとめ

履修上の留意点 交通の様々な側面を正確に理解するためには、ミクロ経済学の知識を必要とする。受講者は基礎的なミクロ経済学を理解していることが望まれる。

成績評価の方法 平常点（出席、レポートなど）と試験の成績による総合評価

教科書／テキスト なし

参考書 藤井彌太郎・中条潮編『現代交通政策』東京大学出版会、1992年
山内弘隆・竹内健蔵『交通経済学』有斐閣アルマ、2002年
杉山雅洋他編著『明日の都市交通政策』成文堂、2003年

その他 授業は、パワーポイントを使って進めるが、補助のプリントを配布する予定である。

履修コード	094201
科目名	国際金融論
担当者名	吉田 真広

講義の到達目標(ねらい) 近年、米国で発生したサブプライムローン問題は、日本を始め各国の経済と金融に深刻な影響を与えました。国際金融とは国際的なお金の流れであり、まさに国際金融上の出来事が各国経済に直結していることを示したものと いえます。グローバル化が進化した今日の経済の動きを理解するためには、国際金融についての知識が不可欠です。本講義では、今日のドル体制下の世界経済とグローバル化している各国経済を理解するため、国際金融市場と国際金融制度に関する基礎的な理解を身につけることを目的としています。

講義の内容／授業スケジュール

前期

- 1 国際収支
 - ・国際取引 ・各項目 ・記載原理 ・国民経済との関係
- 2 為替の基礎
 - ・基本的な仕組み ・逆為替と並為替 ・為替相場 ・直物相場と先物相場
- 3 為替市場
 - ・外国為替市場の構造 ・銀行の為替取引 ・金融派生商品

後期

- 4 国際通貨体制1
 - ・金本位制 ・戦後の固定相場制 ・変動相場制
- 5 国際通貨体制2
 - ・国際通貨条件 ・ドル体制 ・ユーロと人民元
- 6 為替相場諸学説
 - ・購買力平價説 ・為替心理説 ・諸為替相場アプローチ

*なお、トピックスを取り上げることもあり得ます。

履修上の留意点 出席をとることもありえます。

成績評価の方法 年二回の試験。

教科書／テキスト テキストは使用しません。

参考書 授業中、必要に応じて適宜指示します。

その他 国際金融に関係のあるニュースや新聞記事に日頃から関心を持つておくこと。

履修コード	311001
科目名	国際金融論
担当者名	吉田 真広

講義の到達目標(ねらい) 近年、米国で発生したサブプライムローン問題は、日本を始め各国の経済と金融に深刻な影響を与えました。国際金融とは国際的なお金の流れであり、まさに国際金融上の出来事が各国経済に直結していることを示したものと いえます。グローバル化が進化した今日の経済の動きを理解するためには、国際金融についての知識が不可欠です。本講義では、今日のドル体制下の世界経済とグローバル化している各国経済を理解するため、国際金融市場と国際金融制度に関する基礎的な理解を身につけることを目的としています。

講義の内容／授業スケジュール

前期

- 1 国際収支
 - ・国際取引 ・各項目 ・記載原理 ・国民経済との関係
- 2 為替の基礎
 - ・基本的な仕組み ・逆為替と並為替 ・外国為替相場の見方 ・直物相場と先物相場
- 3 為替市場
 - ・外国為替市場の構造 ・銀行の為替取引 ・金融派生商品

後期

- 4 国際通貨体制1
 - ・金本位制 ・戦後の固定相場制 ・変動相場制
- 5 国際通貨体制2
 - ・国際通貨条件 ・ドル体制 ・ユーロと人民元
- 6 為替相場諸学説
 - ・購買力平價説 ・為替心理説 ・諸為替相場アプローチ

*なお、トピックスを取り上げることもあり得ます。

履修上の留意点 出席をとることもある。

成績評価の方法 年二回の試験。

教科書／テキスト テキストは使用しない。

参考書 授業中、必要に応じて適宜示す。

その他 国際金融に関係のあるニュースや新聞記事に日頃から関心を持つておくこと

履修コード	091201 091202
科目名	国際経済論 国際経済学
担当者名	徳永 俊明

講義の到達目標(ねらい) 世界経済は、今日、世界社会・日本社会のあり方の<土台>をなしているものです。世界の姿・日本の姿を理解するカギは世界経済を理解することにあります。この講義では、このような位置にある世界経済の<基本構造>の解明をめざします。

講義の内容／授業スケジュール

[前期]

(1・2) 講義のテーマ・趣旨の説明、(3・4) 資本の本源蓄積と重商主義植民地体制、(5・6) 産業革命と自由貿易植民地体制、(7) 小括、(8・9) 帝国主義植民地体制、(10・11) 第1次世界大戦と世界経済、(12・13) 戦間期の世界経済、(14) 小括、(15) 予備日

[後期]

(1・2) 第2次世界大戦と世界経済、(3・4) 「アメリカ中心体制」、(5) 貿易：GATT/WTO、(6) 国際通貨制度：IMF、(7・8) 「援助」、(9・10) 多国籍企業、(11) 小括、(12・13) <南北問題>、(14) 新国際経済秩序、(15) 小括

成績評価の方法 ミニ・レポート(2回予定、各20点)と学年末レポート(60点)で評価します。世界経済の“枝葉”ではなく、“幹”の理解度を重視します。(追試験は行いません。)

教科書／テキスト とくにありません。

履修コード	308901
科目名	国際経済論
担当者名	徳永 俊明

講義の到達目標(ねらい) 世界経済は、今日、世界社会・日本社会のあり方の<土台>をなしているものです。世界の姿・日本の姿を理解する力には世界経済を理解することにあります。この講義では、このような位置にある世界経済の<基本構造>の解明をめざします。

講義の内容／授業スケジュール [前期]
 (1・2) 講義のテーマ・趣旨の説明、(3・4) 資本の本源的蓄積と重商主義植民地体制、(5・6) 産業革命と自由貿易植民地体制、(7) 小括、(8・9) 帝国主義植民地体制、(10・11) 第1次世界大戦と世界経済、(12・13) 戦間期の世界経済、(14) 小括、(15) 予備日
 [後期]
 (1・2) 第2次世界大戦と世界経済、(3・4) 「アメリカ中心体制」、(5) 貿易：GATT/WTO、(6) 国際通貨制度：IMF、(7・8) 「援助」、(9・10) 多国籍企業、(11) 小括、(12・13) <南北問題>、(14) 新国際経済秩序、(15) 小括

成績評価の方法 ミニ・レポート(2回予定、各20点)と学年末レポート(60点)で評価します。世界経済の”枝葉”ではなく、”幹”の理解度を重視します。(追試験は行いません。)

教科書／テキスト とくにありません。

履修コード	323401
科目名	国際法
担当者名	王 志安

講義の到達目標(ねらい) 国際法学の基礎知識を修得し、国際関係の現状を法的側面から理解する能力を養う。

講義の内容／授業スケジュール 国際法学の全体を様々な基礎的課題に細分し、毎回の講義においてできるだけ一つの課題を絞り、それぞれ基礎概念、理論体系、そして事例分析の形で解明する。
 前期においては、国際法の史的展開、国際法と国内法との関係、国際法の法的性質といった基礎知識から着手し、国家および国際機構にかかわる様々な法的問題を取り上げていきたい。たとえば、国家の分裂や統合に生じた国家の承認や承継の問題、違憲的な政府変更やクーデターに関する国際的対応の法的性格、国内裁判における未承認政府や国家の地位、そして国連を中心とした国際機構の法的地位や機能の形態などを分析する。
 後期では、前期の基礎知識の修得を踏まえて、領域に関する管轄権、国際的人権保障、条約関係の理論および外交関係の法的仕組みを検証する。具体的には、国家領域の法的地位や取得に関する理論および実行、国際地域、国際海域および宇宙空間といった国際区域の法的地位、外国人の法的地位、人権保障に関する国際制度の展開、条約の締結、形式および効力に関する法規制、外交関係および領事関係における特権および免除などを取り上げる。
 具体的に以下のような講義要綱を実施する。

- 前期
- 1 講義ガイダンス
 - 2 国際法の意義
 - 3 国際法と国内法との関係
 - 4 国際法の法源とその性質構造
 - 5 国際法主体としての国家の要件と類型
 - 6 承認行為の法的機能
 - 7 国家承継
 - 8 国家の基本的権利
 - 9 国家責任
 - 10 国家の管轄権
 - 11 国際連合
 - 12 国際経済機構
 - 13 国家の領域の意義及びその取得
 - 14 まとめ・復習

- 後期
- 1 国際海域
 - 2 国際化地域
 - 3 宇宙空間・天体
 - 4 国際法上の個人
 - 5 領域的主権と個人の権利の対峙
 - 6 人権の国際的保障
 - 7 国際人権保障の実施措置
 - 8 国際関係の処理と外交機関
 - 9 国際法と環境保護
 - 10 国際紛争と平和的解決
 - 11 戦争と国際法
 - 12 集団的安全保障
 - 13 国際裁判
 - 14 まとめ・復習

準備学習 授業前教科書の関連箇所を読むこと。関心のあるテーマについて読書すること。聞きたい問題を用意すること

履修上の留意点 国際関係を法的側面からとらえる視点の養成を常に心構えとする。個々の概念、理論、事例を解明する戦術的な能力がまず重要視されるべきであるが、政治、外交、経済、文化といった様々な形態で展開される国際関係を法という枠内でとらえる戦略的な資質をのばすことも見失われてはならない。そのためには、教科書に取り上げられた学説を理解するだけでなく、講義に取り上げられた課題の視点、問題意思をしっかりと修得する必要もある。配布される参考資料や聴講ノートを参照しながら、教科書の理解を深めてもらいたい。

成績評価の方法 成績は年末の定期試験で決定する。ただし、前期小テストや講義出席の状況も成績を評価する際に考慮される。

教科書／テキスト 王志安・飯田順三『国際法への誘い』(八千代出版 2006年)

参考書 大沼保昭編著『資料で読み解く国際法』第2版(上)(東信堂)2002年 2,800円
 市販されている国際条約集

その他 授業はすべて講義方式で行い、適宜に参考資料を配付し、Power Pointを利用した講義を行います。簡潔な聴講ノートは、YeStudyから入手できる。

履修コード	099001
科目名	国際法
担当者名	橋本 靖明

講義の到達目標(ねらい)	私達は今、国際社会の中で生きています。国際社会の動きとその行動を規律する法体系である国際法を無視しては、世界のさまざまな構成員間の関係を良好に保ち、維持することができません。 本講義では、国際社会の現状と展望を概観しつつ、その社会を規律している国際法とは何なのか、皆さんと共に学んでゆきます。
講義の内容／授業スケジュール	大きく、以下の三つのパートに分けて進めてゆく予定です。 ①国際法の全体像を概観する。(2～5) ②領域(陸域、海洋、空域、宇宙空間、サイバー空間)に関する国際法を考える。(6～25) ③領域を越えるさまざまな今日の問題(人権、環境、テロ、安全保障等)に関する国際法を考える。(26～30)
準備学習	新聞、テレビ、雑誌、インターネット等で日々報道される国際情勢に留意し、その法的背景を探ってみてください。
履修上の留意点	特別な予習を必要としませんが、その分、授業への出席を求めます。出席を取ることがあり、成績評価に反映されます。
成績評価の方法	受講生の出席状況と最終講義において実施する筆記試験の回答内容から総合的に成績評価を行います。
教科書／テキスト	編者：松井 芳郎(編集代表) 書名：『ベーシック条約集』2011年版 出版社：東信堂 価格：2730円(税込み：2010年版参考) ISBN：978-4-88713-975-6(2010年版参考)
参考書	特に指定しません。

履修コード	097051
科目名	コミュニティ・ビジネス論
担当者名	山口 浩平

講義の到達目標(ねらい)	従来の社会システムが有効に解決し得ない多様で個別的な地域の課題に対して、ビジネスの手法を用いてそれらを解決し、得られた利益を構成員に分配するだけでなく、コミュニティへの還元へと使用する組織が近年注目を集めています。この講義ではこのコミュニティ・ビジネス(CB)の概念を整理し、その存在を理解することを目的とします。
講義の内容／授業スケジュール	1. CB登場の背景：歴史と理論的背景、事例紹介(1～6回)、2. CBをどのように立ち上げるか：社会性を持った起業の形態(7～10回)、3. CBを支える仕組みと展望：支援組織、金融システム(11～15回)
準備学習	日常的に各種メディアで社会的企業、社会起業家、ソーシャル・ビジネスなど、関連するキーワードに注目しておいて下さい。
履修上の留意点	非営利組織についての一定の知識を要します。非営利組織論、協同組合論等の受講をお勧めします。
成績評価の方法	学期末試験(及びそれに替わるもの7割)と授業内に提出を求める課題(3割)を中心に、講義への参加も考慮して、総合的に評価します。
教科書／テキスト	風見正三・山口浩平編著(2009)『コミュニティ・ビジネス入門』学芸出版社 ほか、資料も配布します。
参考書	細内信孝(1999)『コミュニティ・ビジネス』中央大学出版部 斎藤慎(2004)『社会起業家』岩波新書 福原宏幸(2007)『社会的排除/包摂と社会政策』法律文化社

履修コード	095501
科目名	コンピュータ会計I
担当者名	鈴木 勝浩

講義の到達目標(ねらい)	今日、コンピュータをはじめとする情報技術の進展及び高度化はめざましく、あらゆる社会活動がその影響を受けている。このような高度情報化の到来に伴って、近年、コンピュータ会計は、企業の規模や業種にかかわらず広く普及している。本講義では、コンピュータを前提とした会計情報システムについて、その現状と問題点を検討したうえで、表計算ソフトを利用して簡単な会計データ処理システムを設計し、そのシステムへのデータ入力の実習を行う。
講義の内容／授業スケジュール	(1) コンピュータ会計概論 (2) 会計情報とデータベース (3) 会計情報とシステム設計 (4) 表計算ソフトによる実習(基礎準備) (5) 表計算ソフトによる実習(勘定科目コード及びその他の会計情報コードの設計) (6) 表計算ソフトによる実習(仕訳データの作成) (7) 表計算ソフトによる実習(試算表の作成) (8) 表計算ソフトによる実習(決算処理) (9) 表計算ソフトによる実習(財務諸表の作成) (10) 表計算ソフトによる実習(取引の入力①) (11) 表計算ソフトによる実習会計(取引の入力②) (12) 表計算ソフトによる実習(財務分析) (13) 表計算ソフトによる実習(補助簿の作成①) (14) 表計算ソフトによる実習(補助簿の作成②) (15) 表計算ソフトによる実習(補助簿の作成③)
準備学習	簿記会計の知識があればより学習効果が向上します。簿記会計の基本原理解や帳簿体系を理解するよう心がけてください。
履修上の留意点	パソコン中級者以上を想定して講義をすすめるため、「基礎情報処理I・II」、「情報・経済ネットワーク論」、「コンピュータ基礎」等を履修済みか、同等の能力を有することが求められる。また特に会計に関する知識を問わないが、簿記会計に関する基礎的な知識を有していればより理解が深まると思われる。
成績評価の方法	出席率及び課題の提出状況・内容等を総合的に評価する。
教科書／テキスト	志村正著『エクセルで学ぶ会計情報の作成と分析』(創成社)
参考書	講義中に適時指示する。
その他	本講義はパソコンのある教室で行うため、履修制限を行うことがありますので、初回講義時には必ず出席してください。初回講義に出席できない人や質問は、以下のアドレス宛にメール連絡してください。 k2szk@komazawa-u.ac.jp また本講義は、総合情報センターに登録しないと受講できません。受講者は4月に4号館2F事務室に行き、登録してください。

履修コード	095601
科目名	コンピュータ会計II
担当者名	鈴木 勝浩

講義の到達目標(ねらい) 今日、高度情報化の到来に伴い、コンピュータ会計は企業の規模及び業種にかかわらず広く普及している。本講義は、従来の手書き会計とコンピュータ会計の相違点を明確にし、リアルタイムで会計情報の入手とその利用が可能である点を解説したうえで、パソコン演習を通じて上記の点を検証していく。まず表計算ソフトを利用して簡単な会計データ処理システムを設計し、その後会計パッケージを利用してその有用性を体感していく。

講義の内容／授業スケジュール (1) コンピュータ会計概論 (2) 表計算ソフトによる実習(製造原価報告書・損益計算書) (3) 表計算ソフトによる実習(貸借対照表・キャッシュフロー計算書) (4) 表計算ソフトによる実習(財務指標) (5) 表計算ソフトによる実習(売上データ) (6) 表計算ソフトによる実習(原価分解法) (7) 表計算ソフトによる実習(損益分岐点分析①) (8) 表計算ソフトによる実習(損益分岐点分析②) (9) 表計算ソフトによる実習(各種シミュレーション技法①) (10) 表計算ソフトによる実習(各種シミュレーション技法②) (11) 表計算ソフトによる実習(プロダクトミックス①) (12) 表計算ソフトによる実習(プロダクトミックス②) (13) 表計算ソフトによる実習(予算シミュレーション) (14) 表計算ソフトによる実習(予算コントロール) (15) 表計算ソフトによる実習(投資プロジェクトの評価法)

準備学習 簿記会計の知識があればより学習効果が向上します。簿記会計の基本原則や帳簿体系を理解するよう心がけてください。

履修上の留意点 パソコン中級者以上を想定して講義をすすめるため、「基礎情報処理I・II」、「情報・経済ネットワーク論」、「コンピュータ基礎」履修済か、同等の能力を有することが求められる。

成績評価の方法 出席率及び課題の提出状況・内容等を総合的に評価する。

教科書／テキスト 志村正著『エクセルで学ぶ会計情報の作成と分析』(創成社)

その他 本講義はパソコンのある教場で行うため、履修制限を行うことがありますので、初回講義には必ず出席してください。初回講義に出席できない人や質問は、以下のアドレス宛にメールしてください。
k2szk@komazawa-u.ac.jp
また本講義は、総合情報センターに登録しないと受講できません。受講者は4月に4号館2F事務室に行き、登録してください。

履修コード	090801
科目名	財政学
担当者名	野村 容康

講義の到達目標(ねらい) 本講義では、財政赤字、税制改革、年金改革、公共事業といったわが国の財政問題を考えていく際の手掛かりとなるように財政学の基礎的事項について概説する。財政の基礎的な制度とその機能について理解を深め、現実の財政問題について自分なりに考える力を身につけることを目標とする。
前期は、どちらかと言えば政府の支出活動面に重点を置きながら、財政の機能とわが国財政の現状、公共支出に関する理論、政府債務の問題、公的年金問題等について解説する。後期は、政府収入の中で最も重要な租税に関する議論(租税理論、制度、税制改革論等)に焦点を絞って授業を進める。

講義の内容／授業スケジュール 前期
1. 財政とは何か 2. 財政学とその変遷 3. 資源配分の調整機能 4. 財政と所得再分配 5. 価格政策と補助金 6. 財政政策の理論① 7. 財政政策の理論② 8. 公共財の理論① 9. 公共財の理論② 10. わが国財政の現状 11. 公債の制度と理論① 12. 公債の制度と理論② 13. 公的高齢年金① 14. 公的高齢年金② 15. まとめ
後期
1. 租税の意義と根拠 2. 租税の基礎的概念 3. 課税の公平性 4. 課税の中立性 5. 租税の転嫁と帰着 6. 包括的所得課税 7. 支出税と最適課税 8. 二元的所得税 9. わが国の租税体系 10. 個人所得課税 11. 法人所得課税 12. 間接消費課税 13. 資産課税 14. グローバル化と税制 15. まとめ

履修上の留意点 受講生には、新聞などを通じてできるだけ財政制度改革、税制改正の動向についてフォローし、わが国の財政に関する問題意識を高めることを期待している。また、受講に際しては、微分とミクロ経済学に関する基礎的知識を習得していることが望ましい。

成績評価の方法 原則として定期試験の成績で評価する。出席は考慮しない。

教科書／テキスト 未定

履修コード	092401
科目名	財務会計論
担当者名	小栗 崇資

講義の到達目標(ねらい) 企業活動の実態を外部の利害関係者や投資家に報告・開示することを目的とするのが財務会計です。財務会計は会社法や金融商品取引法のような制度(法律や規則)によって社会的に規制されています。そのような日本の企業会計制度はこの間、会計ビッグバンと呼ばれる大きな変化の過程をたどり、現在はさらにグローバルスタンダードである国際会計基準との統合の最中にあります。制度変化による経済やビジネスへの影響は大きく、日本の財務会計がどのような変化をとけていくかが、今問われているところです。授業では、企業会計制度の全体像と財務諸表の仕組み、企業会計の新たな変化を理解することを到達目標に、授業の内容とスケジュールに沿って進めます。

講義の内容／授業スケジュール 講義の内容としては、前半で、会計制度の変化を理解するのに必要な、経済社会と会計との関係や会計に関する規制の仕組みについて理解を深めた上で、財務諸表の(貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書)の構成や内容について学習を進めます。後半では、新たに導入された様々な会計基準を取り上げ、その習得をめざします。特に国際会計基準の内容をできるかぎり紹介して検討する予定です。
授業スケジュールとしては、次のような構成で30回の講義を行う予定です。
(1) 会計とは何か、(2) 複式簿記と会計、(3) 経済社会と企業会計、(4) 会計制度の仕組み、(5) 日本の企業会計制度の歴史、(6) 日本とアメリカの会計制度、(7) 現代日本の会計制度、(8) 会計ビッグバンとグローバル化、(9) 貸借対照表の仕組み(資産)、(10) 貸借対照表の仕組み(負債・資本)、(11) 損益計算書の仕組み、(12) キャッシュフロー計算書の仕組み、(13) 株主資本等変動計算書の仕組み、(14) 連結財務諸表の仕組み、(15) 新しい会計基準の特徴、(16) 金融商品会計、(17) 退職給付会計、(18) リース会計、(19) 減損会計、(20) 自己株式会計、(21) 外貨換算会計、(22) 税効果会計、(23) 企業結合会計、(24) 包括利益計算書、(25) 国際会計基準の歴史、(26) 国際会計基準の概要①、(27) 国際会計基準の概要②、(28) 有価証券報告書の見方、(29) 経営分析の基礎、(30) 財務諸表の活用

履修上の留意点 会計学は専門知識を積み重ねていく学習スタイルが重要です。プリントを適時、配布しますので休まずに受講してください。私語は厳禁とします。

成績評価の方法 中間試験および学年末試験の結果により評価します。出席確認を含む小レポートも適時行い成績評価の参考とします。

教科書／テキスト 小栗崇資・谷江武士編著『内部留保の経営分析—過剰蓄積の実態と活用』学習の友社、2100円

参考書 遠藤・小栗・新谷・徳前『新世紀の企業会計論』白桃書房
小栗・熊谷・陣内・村井編著『国際会計基準を考える—変わる会計と経済』大月書店

履修コード	100631
科目名	産業組織論 a
担当者名	館 健太郎

講義の到達目標(ねらい) 本講義では、消費者の行動や企業の戦略を調べるなどを通じて、個別の産業について調査するための方法を身につけることを目指す。そこで、前期の講義では、分析のための概念やモデルを提供するミクロ経済学の基礎を固めたい。また、企業や産業の調査を行う際に使われる指標についても適宜紹介していく予定である。

- 講義の内容／授業スケジュール**
1. 経済と経済学
 2. 市場の均衡とその変化
 3. 価格と所得の価格弾力性
 4. エンゲル曲線と需要の所得弾力性
 5. 企業の技術
 6. 企業の費用
 7. 競争的企業の利潤最大化
 8. 課税の影響
 9. 長期市場均衡
 10. 競争の経済的意義
 11. 独占
 12. 自然独占と価格規制
 13. 価格差別
 14. 独占的競争
 15. 総復習
- ※講義の進度などにより内容を変更することがある。

準備学習 授業後に配布プリントを十分に復習して欲しい。

履修上の留意点 ミクロ経済学とゲーム理論の学習を並行して行うことが望ましい。

成績評価の方法 定期試験（100点）。ただし、授業中に加点方式で課題を出すことがある。

教科書／テキスト 配布資料と板書をもとに講義を行う。

履修コード	100641
科目名	産業組織論 b
担当者名	館 健太郎

講義の到達目標(ねらい) 本講義では、現実の経済で最もよく見られる独占、寡占などの不完全競争市場を中心として、個別の産業における企業の戦略や市場の結果を分析するために必要となる概念やモデルについて説明する。また、企業や産業の調査を行う際に使われる指標についても簡単にふれたい。近年多くの関心が寄せられるようになってきている情報通信産業などの特徴についても紹介したい。

- 講義の内容／授業スケジュール**
1. 最適化問題の解き方
 2. クールノー競争（1）
 3. クールノー競争（2）
 4. シュタッケルベルグ競争
 5. ベルトラン競争
 6. 数量競争と価格競争の比較
 7. ホテリング競争
 8. 参入阻止
 9. 合併と買収
 10. 垂直的取引関係
 11. オークション
 12. 企業の研究開発投資
 13. ネットワーク産業
 14. チェーンストアパラドックス
- ※講義の進度により内容を変更することがある。

準備学習 授業後に配布プリントを十分に復習して欲しい。

履修上の留意点 ミクロ経済学、経済数学、ゲーム理論の学習を並行して行うことが望ましい。

成績評価の方法 定期試験（100点）。ただし、授業中に加点方式で課題を出すことがある。

教科書／テキスト 配布資料と板書をもとに講義を行う。

参考書 芦谷政浩『ミクロ経済学』有斐閣、2009年、3255円、ISBN978-4-641-16350-8

その他 板書を中心にして講義を進めていく。

履修コード	093211 093212
科目名	市民と経済学 a 社会思想史 a
担当者名	阿部 弘

講義の到達目標(ねらい) 私たちが何気なしに用いている「市民」という概念は、私たち自身の現在の「社会」との関わりのなかで用いられている概念である。「市民」・「市民社会」という概念は、実は歴史的に形成されてきたものである。これらの概念の成り立ちと共に、「経済学」もまた形成されてくる。この場合、「経済学」は「国家」的なシステムの構築と共に存在してきた。この講義では「市民」・「市民社会」・「国家」と「経済学」形成の因果関係を明らかにする。まず最初に、この「前期科目a」では、「国家」が最初にあるような「総体的隷属社会」のもとで「国民」的「市民」が形成されてくることを、古代中国や、日本の江戸時代から明治時代にかけての思想を歴史的に考察するなかで明らかにする。

講義の内容／授業スケジュール 「経済学」という科学は人間社会の歴史とともに歩んできた内容を持つ。しかし、その学問としての成立過程は、19世紀に入ってヨーロッパ社会で「近代市民社会」が成立してくる時期と軌道を一つにしている。さて「経済学」の原型は、古代の社会で形成されてきた「帝王学」的な政治・経済の倫理・政策論に求められる。この場合に重要なのは古代中国で培われてきた「経世済民」という考え方であった。近代的な「経済学」の成立は、ヨーロッパ的な「市民社会」の発達との関係なしにはあり得ない。そこで近代ヨーロッパ社会での、フランス革命に象徴される「ブルジョアジー」およびその後登場してくる「プロレタリアート」が「経済学」のこの論の本質・その発展を追っていくことによって現代の「経済学」にもつながるこの論は、資本家的な生産システムが人間それ自体をコスト原則で規定していき、「格差社会」なるもの作り上げて、それをさも「高度な社会」であるかのように吹聴する資本家的な国家体制のなかで、まさにこの非人間的な体制を根本から見直すべきものをもっている。そこでこの講義体系では「経世済民」論の成立過程そしてその本質と現代へつながっていく要素を明らかにして、現代にあつてこの論の持つ意義を観ていく。
講義のスケジュール:
講義は15回であるから、つぎのようなかたちになる:
第1章:「経世済民」思想(01-05回)
第2章:「経世済民論」と経済学(06-12回)
第3章:「経世済民論」と現代(13-15回)

準備学習 1 大学の「授業」は、受講生の皆さんが自ら考え・研究していく、ということをもっともしている。そこでこの「講義」は、皆さん一人一人が全員毎回授業に出席しノートをとって考えるというのが基本なので、もし止むを得なくて「欠席」するようなことがあれば、そのときにはどのような内容の講義がなされたのかなどを調べて自分の考えを身につけていることが必要である。
2 この講義では、講師の著作であるテキストを2冊用いる。他人の思想というのは受講生にとっては、それを吸収するにしても、自分自身の思想ではあり得ない。ましてや、テキストという形で提供されているものは、すでに過去に形成されたものである。受講生は、このテキストを批判的に考察し、現社会的なものと比較していかなければならない。

履修上の留意点 講義開始の日にレポートの課題を提示するのでノートをとっておくこと。
出席の確認(授業中に適宜実施される)

成績評価の方法 この科目は講師からの一方通行的講義によるものではなくて、受講生の社会思想を通じた参加型のカリキュラムを目指している。受講生の積極的参加が重要視される。したがって次のようになる:
3回のレポートの作成
「成績評価」は以上の形で行い、「定期試験」は実施しない。したがってこの「定期試験」に伴う、「追試試験」等は行わないので注意して欲しい。

教科書／テキスト 教科書: 阿部弘『労働と所有』, 八千代出版, 2010
同 『経世済民論と経済学』[新版], 創成社, 2011

その他 受講生との連絡に必要な「研究室」などを次に記しておく。
阿部弘 研究室 第2研究棟 5F 2538研究室
電話: 03-3418-9360
メールアドレス: xupabe@nifty.com
メールでは、基本的に 名前・講義名・用件を記すこと

履修コード	093221 093222
科目名	市民と経済学 b 社会思想史 b
担当者名	阿部 弘

講義の到達目標(ねらい) 「経済学」は私たちが日常生活している「市民社会」と密接な関連をもって形成されてきた。そこでこの過程を概観することをこの講義の目的とする。

講義の内容／授業スケジュール 「市民社会」の発達と「経済学」の形成過程
「経済学」という科学は人間社会の歴史とともに歩んできた内容を持つ。しかし、その学問としての成立過程は、19世紀に入ってヨーロッパ社会で「近代市民社会」が成立してくる時期と軌道を一つにしている。さて「経済学」の原型は、古代の社会で形成されてきた「帝王学」的な政治・経済の倫理・政策論に求められる。この場合に重要なのは古代中国で培われてきた「経世済民」という考え方であった。この論に関しては、この講義の“a”の部分でおこなってきた。
近代的な「経済学」の成立は、ヨーロッパ的な「市民社会」の発達との関係なしにはあり得ない。そこで近代ヨーロッパ社会での、フランス革命に象徴される「ブルジョアジー」およびその後登場してくる「プロレタリアート」が、「経済学」の成立過程にどのような影響を及ぼしたのかを考察する。そのうえで、現代社会で「経済学」は何を問題提起しているのかを受講生諸君と共に考えていく
講義スケジュール
講義は15回であるので、次のスケジュールになる。
第1章：「個人主義」思想の形成と「道徳哲学」の新たな展開(01-05回)
第2章：フランス革命と「経済学」の形成過程(05-12回)
第3章：現代の経済的諸問題(13-15回)

準備学習 1 大学の「授業」は、受講生の皆さんが自ら考え・研究していく、ということをもットーとしている。そこでこの「講義」は、皆さん一人一人が全員毎回授業に出席しノートをとって考えるというのが基本なものでし止むを得なくて「欠席」するようなことがあれば、そのときにはどのような内容の講義がなされたのかなどを調べて自分の考えを身につけていることが必要である。
2 この講義では、講師の著作であるテキストを2冊用いる。他人の思想というのは受講生にとっては、それを吸収するにしても、自分自身の思想ではあり得ない。ましてや、テキストという形で提供されているものは、すでに過去に形成されたものであるため、受講生は、このテキストを批判的に考察し、現社会的なものと比較していかなければならない。

履修上の留意点 講義開始の日にレポートの課題を提示するのでノートをとっておくこと。
出席の確認(授業中に適宜実施される)

成績評価の方法 この科目は講師からの一方通行的講義によるものではなくて、受講生の社会思想を通じた参加型のカリキュラムを目指しているため、受講生の積極的参加が重要視される。したがって次のようになる：
3回のレポートの作成
「成績評価」は以上の形で行い、「定期試験」は実施しない。したがってこの「定期試験」に伴う、「追試験」等は行わないので注意して欲しい。

教科書／テキスト 阿部弘：『労働と所有』、八千代出版、2010
同：『経世済民論と経済学』[新版]、創成社、2011

その他 受講生との連絡に必要な「研究室」などを次に記しておく。
阿部弘 研究室 第2研究棟、5F 2538研究室
電話：03-3418-9360
メールアドレス:xupabe@nifty.com
メールでは、基本的に 名前・講義名・用件を記すこと。

履修コード	097211
科目名	社会経済学 a
担当者名	阿部 弘

講義の到達目標(ねらい) この科目は「現代応用経済学科」の基本的科目の一つである。
 経済学がその形成期より現在に至るまで問題にしてきた「富」を論理的に考察する。人間の生活を反映する「富」(国富)は人間から乖離していき、資本関係の展開の中で、人間生活を否定することもまた「富」であるというような論理がマーケット(市場経済)を中心とする「競争」の中で形成されてくる。社会の中では貧富の格差は広がっていき、ついには「国」レベルから全地球レベルに広がる(グローバル化)。また地球全体では現在でも続いている「帝国主義」の地球全体の破壊行為の結果、「地球の半分は飢えている」という状況が拡大されていっている。このような状況にあって、私たちは何をすべきか、わたしたちが支払っている税金(租税)は一体何に使われているのか、国や公共団体の役割は何かを把握することが課題となってくる。

講義の内容／授業スケジュール 資本主義社会の「富」は貨幣や資本的な形で形成され運動していく。この「資本」という非人間的な、コスト原理で決定される価値＝「富」は人間を格差分断してしまうので、もはや「個人」のレベルでの生活を保障する富の形成は不可能になってしまう。人間、といってもその大半は、常に資本・企業のための労働者およびその「予備軍」として編成されていて、時間や機械(コンピュータやその他の機械)に隷属し、その挙げ句の果てには「過労死」というものが待ち受けている状態にある。更に退職して公認の失業体制に入っても、資本家的な国家の本質・仕組みのために、老人医療や看護、そして年金システムなどは瓦解し、収入のない個人々の負担の増大(税金の二重取り)の中で、人々は強制的に死に追いやられるというのが現状である。このようななかにおいて、このシステムに反映している「公共的なもの」とは何かを追究していくことが、国家・政府(地方自治体を含む)の意義・活動を社会に位置づけていく上で重要になってくる。また私的・個別的な次元では統御不可能な「共通の利益」の観点の形成がどのようにすれば可能なかを考察していく。
 講義のプラン：講義回数は15回なので、次のような形ですめる：
 1. 「富」とは何か(01-05回)
 (1) 「富」の商品的規定 01
 (2) 「商品」 02
 (3) 人間の外部に形成される富 03
 * R1(第1回レポート)に向けての課題とその特徴点の整理 04
 # 自宅学習
 * R1でのレポートの特徴と問題点およびレポート返却 05
 2. 資本家的な生産様式の基本(06-08回)
 (1) 資本と資本的富 06
 (2) 人間の労働力商品の可変資本化 07
 (3) 資本蓄積 08
 3. 取得の体系とその社会化の問題点(09-15回)
 (1) 私的所有とその体系の理論的・歴史的概観 09
 (2) 資本関係と私的所有 10
 (3) 労働者と労働力商品—その所有としての問題点 11
 * R2 に向けた「総括」 12
 * R2に向けての課題とその特徴点の整理 13
 # 自宅学習
 * R2でのレポートの特徴と問題点およびレポート返却 14
 * R3に向けての課題とその特徴点の整理 15
 # 「自宅学習」による講義回数の欠如については極力「補講」をする形で補うが、それでも足りない場合には、「教務部」の手を煩わすことなしに(日曜日など)講師が教場を確保してこれを行うことにする。

準備学習 1 大学の「授業」は、受講生の皆さんが自ら考え・研究していく、ということをもットーとしている。そこでこの「講義」は、皆さん一人一人が全員毎回授業に 出席しノートをとって考えるというのが基本なのでもし止むを得なくて「欠席」 するようなことがあれば、そのときにはどのような内容の講義がなされたのかな どを調べて自分の考えを身につけていることが必要である。
 2 この講義では、講師の著作であるテキストを2冊用いる。他人の思想というのは受講生にとっては、それを吸収するにしても、自分自身の思想ではあり得ない。ましてや、テキストという形で提供されているものは、すでに過去に形成されたものであるため、受講生は、このテキストを批判的に考察し、現社会的なものと比較していかねばならない。

履修上の留意点 この科目は初年次「選択必修」である。皆さん全員にこの科目を履修してもらうために「レポート」を3回おこなうので、出席が重要になる。不定期ではあるが、出席の確認を簡単なレポートで行う。

成績評価の方法 1 レポートによる評価
 (1) 3回の「レポート」(R1など)で評価する。
 (2) レポートは、R1: 5月/ R2: 6月/ R3: 7月である。
 * R1のテーマは講義開始日(4月)に発表する。なおこのテーマを4月中に知ろうとしないものは失格とする。またレポート返却日から次のレポートの1週間前の授業までにレポートを取りにこない場合は失格とする。
 2 その他: 「定期試験」は行なわない。

教科書／テキスト 教科書：阿部弘：『労働と所有』八千代出版、1983。
 阿部弘：『経世済民論と経済学』(新版)、創成社、2011。

その他 その他講師との連絡：講師との連絡が必要になると思われるので、次に記しておく：
 阿部弘：研究室：第2研究棟 5F No.2538室
 TEL:03-3418-9360
 メール・アドレス:xupabe@nifty.com

履修コード	097221
科目名	社会経済学 b
担当者名	阿部 弘

講義の到達目標(ねらい) この科目は「社会経済学a」の発展したものである。講義“a”では、私たちの社会の「富」とは何かをその原理から明らかにしてきて、この「富」を私たち自身がどのようにして管理・享受していったらよいか、問題提起してきた。この後期の講義では、主として人間の「価値観」と「富」の関係について、「生活」という人間的なものから接近・分析していく。この場合に、人間の「価値観」が、その生活の歴史的また「イエ」的な環境によって形成されてくることを把握する。この場合の「イエ」的なイデオロギー化したものは、多分に封建的であり、人間の間に、人種(民族)・性・能力・年齢などで差別・支配を持ち込む。そのような状況を打開するにはどうしたらよいか、わたしたちを取り巻く企業そしてわたしたちが税金(租税)を支払って構築してきた国家・公共団体はこれにどのように対処してきたのかを分析し、わたしたち自身がこれらの権力機構とどのように向きあっていくのか、またわたしたち自身の問題解決策を模索することにある。

講義の内容／授業スケジュール 講義の内容：最初に人間と労働との関係を考察し、労働の社会的性格を観ていくが、その共同体的な「イエ」的な性格から脱却して、社会的関係である「市民」価値観がマーケットを中心とする人間のコミュニン関係(コミュニケーション)の構築によって形成され、そしてこの価値観がさらに企業的なものや、国家的なものへと展開していく貌を明らかにすると同時に、その過程で生じてくるさまざまな矛盾の実態を明らかにする。特に日本社会の場合には、「市民」とか「マーケット」というヨーロッパ的な概念が存在していなかったもので、いまだに朝の朝礼で宮参りを済ませて仕事に入っていくような「慣習」が存在し、上下関係も支配関係として君臨している。このような中で、「ノルマ」・「コスト」的な人間いじめが展開され、人間の労働力は疲弊する。このような人間に対する非人間的な要素を取り払っていくには個々人のバラバラの対応では展望もあり得なく、これら矛盾を解決していくのに「労働」を軸にした組織的対策が必要なのでその方向性を探ると共に、このような社会の矛盾を国家や公共体がいかに措置してきたのかを分析していく。

講義のプラン：講義回数は15回なので、次のような形ですすめる：

1. 社会的価値体系(01-05回)
 - (1) 人間と労働 No. 01
 - (2) 労働と生産 02
 - (3) 生産の有つ社会的性格 03
- * R1(第1回レポート)に向けての課題とその特徴点の整理 04
- # 自宅学習
- * R1でのレポートの特徴と問題点およびレポート返却 05
2. 「市民」価値としての社会的価値(06-08回)
 - (1) 「個人」と「市民」の分裂 06
 - (2) 社会の中での「イエ」の位置 07
 - (3) 「イエ」的価値とマーケット価値 08
3. 矛盾と再生(09-15)
 - (1) マーケットと新たな「個人」の現身としての「企業体(法人)」 09
 - (2) 「企業体」とその連合体 10
 - (3) 国民・民族と国家・地球 11
- * R2に向けた「総括」 12
- * R2に向けての課題とその特徴点の整理 13
- # 自宅学習
- * R2でのレポートの特徴と問題点およびレポート返却 14
- * R3に向けての課題とその特徴点の整理 15
- # 「自宅学習」による講義回数欠如については極力「補講」をする形で補うが、それでも足りない場合には、「教務部」の手を煩わすことなしに(日曜日など)講師が教場を確保してこれを行うことにする。

準備学習 1 大学の「授業」は、受講生の皆さんが自ら考え・研究していく、ということをもットーとしている。そこでこの「講義」は、皆さん一人一人が全員毎回授業に出席しノートをとって考えるというのが基本なのでもし止むを得なくて「欠席」するようなことがあれば、そのときにはどのような内容の講義がなされたのかなどを調べて自分の考えを身につけていることが必要である。
2 この講義では、講師の著作であるテキストを2冊用いる。他人の思想というのは受講生にとっては、それを吸収するにしても、自分自身の思想ではあり得ない。ましてや、テキストという形で提供されているものは、すでに過去に形成されたものであるため、受講生は、このテキストを批判的に考察し、現社会的なものと比較していかねなければならない。

履修上の留意点 この科目は初年次「選択必修」である。皆さん全員にこの科目を履修してもらうために「レポート」を3回行うので、出席が重要になる。不定期ではあるが、出席の確認を簡単なペーパーで行う。

成績評価の方法 1 レポートによる評価
(1) 3回の「レポート」(R1など)で評価する。
(2) レポートは、R1: 10月/ R2: 11-12月/ R3: 12-1月である。
* R1のテーマは講義開始日(9月)に発表する。なおこのテーマを9月-10月中に知ろうとしないものは失格とする。またレポート返却日から次のレポートの1週間前の授業までにレポートを取りにこない場合は失格とする。
2 その他: 「定期試験」は行なわない。

教科書／テキスト 阿部弘：『労働と所有』八千代出版、1983。
阿部弘：『経世済民論と経済学』(新版)、創成社、2011。

その他 その他講師との連絡：講師との連絡が必要になると思われるので、次に記しておく：
阿部弘：研究室：第2研究棟 5F No. 2538室 TEL:03-3418-9360
メール・アドレス:xupabe@nifty.com

履修コード	312611
科目名	社会思想史 a
担当者名	阿部 弘

講義の到達目標(ねらい) 私たちが何気なしに用いている「市民」という概念は、私たち自身の現在の「社会」との関わりのなかで用いられている概念である。「市民」・「市民社会」という概念は、実は歴史的に形成されてきたものである。これらの概念の成り立ちと共に、「経済学」もまた形成されてくる。この場合、「経済学」は「国家」的なシステムの構築と共に存在してきた。この講義では「市民」・「市民社会」・「国家」と「経済学」形成の因果関係を明らかにする。まず最初に、この「前期科目a」では、「国家」が最初にあるような「総体的隷属社会」のもとで「国民」的「市民」が形成されてくることを、古代中国や、日本の江戸時代から明治時代にかけての思想を歴史的に考察するなかで明らかにする。

講義の内容／授業スケジュール 「経済学」という科学は人間社会の歴史とともに歩んできた内容を持つ。しかし、その学問としての成立過程は、19世紀に入ってヨーロッパ社会で「近代市民社会」が成立してくる時期と軌道を一つにしている。さて「経済学」の原型は、古代中国社会で形成されてきた「帝王学」的な政治・経済の倫理・政策論に求められる。この場合に重要なのは古代中国で培われてきた「経世済民」という考え方であった。近代的な「経済学」の成立は、ヨーロッパ的な「市民社会」の発達との関係なしにはあり得ない。そこで近代ヨーロッパ社会での、フランス革命に象徴される「ブルジョアジー」およびその後登場してくる「プロレタリアート」が「経済学」のこの論の本質・その発展を追っていくことによって現代の「経済学」にもつながるこの論は、資本家的な生産システムが人間それ自体をコスト原則で規定していき、「格差社会」なるもの作り上げて、それをさも「高度な社会」であるかのように吹聴する資本家的な国家体制のなかで、まさにこの非人間的な体制を根本から見直すべきものをもっている。そこでこの講義体系では「経世済民」論の成立過程そしてその本質と現代へつながっていく要素を明らかにして、現代にあってこの論の持つ意義を観ていく。
講義のスケジュール:
講義は15回であるから、つぎのようなかたちになる:
第1章:「経世済民」思想(01-05回)
第2章:「経世済民論」と経済学(06-12回)
第3章:「経世済民論」と現代(13-15回)

準備学習 1 大学の「授業」は、受講生の皆さんが自ら考え・研究していく、ということをもットーとしている。そこでこの「講義」は、皆さん一人一人が全員毎回授業に出席しノートをとって考えるというのが基本なのでもし止むを得なくて「欠席」するようなことがあれば、そのときにはどのような内容の講義がなされたのかなどを調べて自分の考えを身につけていることが必要である。
2 この講義では、講師の著作であるテキストを2冊用いる。他人の思想というのは受講生にとっては、それを吸収するにしても、自分自身の思想ではあり得ない。ましてや、テキストという形で提供されているものは、すでに過去に形成されたものであるため、受講生は、このテキストを批判的に考察し、現社会的なものと比較していかなければならない。

履修上の留意点 講義開始の日にレポートの課題を提示するのでノートをとっておくこと。
出席の確認(授業中に適宜実施される)

成績評価の方法 この科目は講師からの一方通行的講義によるものではなくて、受講生の社会思想を通じた参加型のカリキュラムを目指しているため、受講生の積極的参加が重要視される。したがって次のようになる:
3回のレポートの作成
「成績評価」は以上の形で行い、「定期試験」は実施しない。したがってこの「定期試験」に伴う、「追試試験」等は行わないので注意して欲しい。

教科書／テキスト 教科書: 阿部弘『労働と所有』, 八千代出版, 2010
同『経世済民論と経済学』[新版], 創成社, 2011

その他 受講生との連絡に必要な「研究室」などを次に記しておく。
阿部弘 研究室 第2研究棟, 5F 2538研究室
電話: 03-3418-9360
メールアドレス:xupabe@nifty.com
メールでは、基本的に 名前・講義名・用件を記すこと

履修コード	312621
科目名	社会思想史 b
担当者名	阿部 弘

講義の到達目標(ねらい) 「経済学」は私たちが日常生活している「市民社会」と密接な関連をもって形成されてきた。そこでこの過程を概観することをこの講義の目的とする。

講義の内容／授業スケジュール 「市民社会」の発達と「経済学」の形成過程
「経済学」という科学は人間社会の歴史とともに歩んできた内容を持つ。しかし、その学問としての成立過程は、19世紀に入ってヨーロッパ社会で「近代市民社会」が成立してくる時期と軌道を一にしている。さて「経済学」の原型は、古代の社会で形成されてきた「帝王学」的な政治・経済の倫理・政策論に求められる。この場合に重要なのは古代中国で培われてきた「経世済民」という考え方であった。この論に関しては、この講義の“a”の部分でおこなってきた。
近代的な「経済学」の成立は、ヨーロッパ的な「市民社会」の発達との関係なしにはあり得ない。そこで近代ヨーロッパ社会での、フランス革命に象徴される「ブルジョアジー」およびその後登場してくる「プロレタリアート」が、「経済学」の成立過程にどのような影響を及ぼしたのかを考察する。そのうえで、現代社会で「経済学」は何を問題提起しているのかを受講生諸君と共に考えていく
講義スケジュール
講義は15回であるので、次のスケジュールになる。
第1章：「個人主義」思想の形成と「道徳哲学」の新たな展開(01-05回)
第2章：フランス革命と「経済学」の形成過程(05-12回)
第3章：現代の経済的諸問題(13-15回)

準備学習 1 大学の「授業」は、受講生の皆さんが自ら考え・研究していく、ということをもットーとしている。そこでこの「講義」は、皆さん一人一人が全員毎回授業に出席しノートをとって考えるというのが基本なのでもし止むを得なくて「欠席」するようなことがあれば、そのときにはどのような内容の講義がなされたのかなどを調べて自分の考えを身につけていることが必要である。
2 この講義では、講師の著作であるテキストを2冊用いる。他人の思想というのは受講生にとっては、それを吸収することも、自分自身の思想ではあり得ない。ましてや、テキストという形で提供されているものは、すでに過去に形成されたものであるため、受講生は、このテキストを批判的に考察し、現社会的なものと比較していかなければならない。

履修上の留意点 講義開始の日にレポートの課題を提示するのでノートをとっておくこと。
出席の確認(授業中に適宜実施される)

成績評価の方法 この科目は講師からの一方通行的講義によるものではなくて、受講生の社会思想を通じた参加型のカリキュラムを目指しているため、受講生の積極的参加が重要視される。したがって次のようになる：
3回のレポートの作成
「成績評価」は以上の形で行い、「定期試験」は実施しない。したがってこの「定期試験」に伴う、「追試験」等は行わないので注意して欲しい。

教科書／テキスト 阿部弘：『労働と所有』、八千代出版、2010
同：『経世済民論と経済学』[新版]、創成社、2011

その他 受講生との連絡に必要な「研究室」などを次に記しておく。
阿部弘 研究室 第2研究棟、5F、2538研究室
電話：03-3418-9360
メールアドレス:xupabe@nifty.com
メールでは、基本的に 名前・講義名・件名を記すこと。

履修コード	091001
科目名	社会政策
担当者名	光岡 博美

講義の到達目標(ねらい) 社会政策という科目は、経済学のなかでも古い歴史をもっている。その詳細については最初の講義で解説する。この講義計画では、社会政策とは、資本主義社会の各々の時代において発生する社会問題の原因を学問的に究明し、その問題を解決するための政策を多面的に研究することを目的とする学問である、と定義しておきたい。そして、この場合、社会政策という学問のなかで特に重視されてきたのは、労働問題や社会保障・福祉etcといった社会問題である。経済学という研究の分野は、財・サービスの生産・分配・消費に関する研究としてイメージされるが、これにたいして社会政策は労働力と生命の再生産が、どのような社会・経済のシステムとの関連で展開されているのかを研究する学問であるといいたい。
このような大きな領域を全般的に講義することは不可能であるから、この講義では現代の日本社会を念頭に置き、そこで重要と思われるテーマを設定し、各々のテーマについて講義、解説する。

講義の内容／授業スケジュール 年間の具体的な講義スケジュールは、(1)現代日本の労働・雇用問題(5回)、(2)社会政策、労働関係、労働組合の理論(5回)、(3)戦後日本の労使関係史(6回)、(4)福祉国家の歴史と理論(3回)、(5)日本型福祉の現実(3回)、(6)現代日本の女性労働、フェミニズム論、(3回)を予定している。

履修上の留意点 受講者数が多いせいもあり、私語によって、授業が円滑に進行しないことがある。授業に支障が生ずる場合、厳しい措置を取る。

成績評価の方法 期末試験で評価する。具体的な内容は授業時に詳しく説明する。

参考書 講義の内容と関連して参考書を適時指示する。また、毎講義ごとにレジュメを配布する。

履修コード	311801
科目名	社会政策
担当者名	光岡 博美

講義の到達目標(ねらい)	<p>社会政策という科目は、経済学のなかでも古い歴史をもっている。その詳細については最初の講義で解説する。この講義計画では、社会政策とは、資本主義社会の各々の時代において発生する社会問題の原因を学問的に究明し、その問題を解決するための政策を多面的に研究することを目的とする学問である、と定義しておきたい。そして、この場合、社会政策という学問のなかで特に重視されてきたのは、労働問題や社会保障・福祉etcといった社会問題である。経済学という研究の分野は、財・サービスの生産・分配・消費に関する研究としてイメージされるが、これにたいして社会政策は労働力と生命の再生産が、どのような社会・経済のシステムとの関連で展開されているのかを研究する学問であるといつてよい。</p> <p>このような大きな領域を全般的に講義することは不可能であるから、この講義では現代の日本社会を念頭に置き、そこで重要と思われるテーマを設定し、各々のテーマについて講義、解説する。</p>
講義の内容／授業スケジュール	<p>年間の具体的な講義スケジュールは、(1)現代日本の労働・雇用問題(5回)、(2)社会政策、労働関係、労働組合の理論(5回)、(3)戦後日本の労使関係史(6回)、(4)福祉国家の歴史と理論(3回)、(5)日本型福祉の現実(3回)、(6)現代日本の女性労働、フェミニズム論、(3回)を予定している。</p>
履修上の留意点	<p>受講者数が多いせいもあり、私語によって、授業が円滑に進行しないことがある。授業に支障が生ずる場合、厳しい措置を取る。</p>
成績評価の方法	<p>期末試験で評価する。具体的な内容は授業時に詳しく説明する。</p>
参考書	<p>講義の内容と関連して参考書を適時指示する。また、毎講義ごとにレジュメを配布する。</p>

履修コード	325301
科目名	社会保障法
担当者名	原田 啓一郎

講義の到達目標(ねらい)	<p>社会保障法の各分野の基本的な体系、法主体間の権利義務関係及び法解釈上の論点を学習することにより、社会保障に関する法制度を正確に理解し、どこに課題があり、どのような解決が望ましいかを考察する力を養うことを目標とする。</p>
講義の内容／授業スケジュール	<p>第1～3回社会保障の法体系・保障方法、第4～20回社会保険法(医療・年金・介護・労災・雇用)、第21～25回社会福祉法、第26～30回公的扶助法</p>
履修上の留意点	<p>社会保障に関する法政策上の課題については、同担当教員の科目「社会政策」で取り扱うので、同時に履修することが望ましい。「社会保障法」と「社会政策」の両科目を履修することにより、社会保障に関する法制度と政策的課題を立体的に理解することが可能となる。</p>
成績評価の方法	<p>学期末試験による。</p>
教科書／テキスト	<p>教科書は開講時に指定する。受講にあたっては、指定教科書のほかに下記の法令集を毎回持参すること。 ・労働調査会出版局(編)『社会保障法令便覧 2011』(労働調査会、2011年)</p>
参考書	<p>・西村健一郎・岩村正彦【編】『社会保障判例百選【第4版】』(有斐閣、2008年) その他の文献は適宜指示する。</p>

履修コード	450001 450002
科目名	就業力基礎I
担当者名	中濟 光昭 絹川 真哉 長山 宗広 矢野 浩一

講義の到達目標(ねらい) 本科目は、産業界等との連携による実学的専門教育を含む、学生の卒業後の社会的・職業的自立を目的とし、1年次から4年次まで行われる就業力育成科目群の1年次科目です。1年次では、皆さんが大学内外で勉強を始めとする様々な活動を行うことが、社会へ出た時どのような意義を持つかを理解し、充実した大学生活を設計できることを目標としています。

この科目で、皆さんに考えてほしいことは、仕事の面から見た「人生そのもの」といえます。ですからこの科目が目指すものは、単に優れた就職先にみなさんが採用されればいいというものではありません。「人生をどう生きていくのか」「そもそも自分はなぜ生まれてきたのか」「何をすべきなのか」を考え、それに基づいて職業を考えるということなのです。

講義の内容/ 授業スケジュール	<p>① 4/3・5オリエンテーション</p> <p>②・③ 4/14・21 自己紹介(自己ワークシート)・アイスブレイク ポートフォリオ (PDCA)</p> <p>④ 4/28 システムの使い方および大学生活における自分史をつくる GWの課題提示</p> <p>⑤ 5/12 課題を受けてのグループディスカッション</p> <p>⑥ 5/19 キャリア講座に参加</p> <p>⑦ 5/26 キャリア講座を受けて ワークシートを使って</p> <p>⑧ 6/2 図書館を使ってキャリアに関する文献を探す</p> <p>⑨ 6/9 学長特別講座</p> <p>教員と会って話す(コラム掲載の教員等) ワークシートを使って</p> <p>⑩ 6/16 グループディスカッション</p> <p>⑪ 6/23 ケーススタディ①: 駒大生A君とBさんのキャリア 高校の部活動・大学のサークル・バイトを元に。</p> <p>⑫ 6/30 グループディスカッション</p> <p>⑬ 7/7 ケーススタディ②: 駒大生A君とBさんのキャリア 高校の部活動・大学のサークル・バイトを元に。</p> <p>⑭ 7/14 グループディスカッション</p> <p>⑮ 7/21 夏休みの課題提示</p>
----------------------------	--

履修上の留意点 ポートフォリオ(行動計画)は前週の反省を踏まえ毎週行う。

- 1) この科目では、社会人として必要な力を理解し、大学生活からいかにそれを身につけるかを、人材開発会社と共同で開発したテキストを使って学ぶ。積極的に知識を吸収することを期待している。
- 2) この科目はグループ単位で自習形式で課題に取り組む。その際先輩(学生サポーター)がアドバイスをします。学生サポーターの指示に従い、きちんと課題に取り組むこと。
- 3) 課題に取り組むための教室を使って木曜6時限に課題を行う。したがって木曜6時限には他の講義などを入れられないこと。なおこの曜日時限に数回程度科目担当者(先生)が指導を行う。
- 4) 2年次以降の履修はできないので注意すること。
- 5) 定期試験および追試験は行わない。
- 6) この科目は、経済学部は、基礎ゼミ(商・現代応用)や基礎情報処理、情報入門と連携した内容になっています。経済学部の学生はこれらの講義にも必ず出席すること。
- 7) この科目は、GMS学部は、グローバルメディアスタディーズ概論、情報リテラシー、情報リテラシー実習と連携した内容になっています。GMS学部の学生は、これらの講義にも必ず出席すること。
- 8) 授業時間内に就業力を測定するためのテストを行う予定である。
- 9) 講義期間中に学長による講座を実施する予定である。

成績評価の方法	授業時間中の課題、グループで取り組む課題、就職ガイダンス等の課外活動の結果から総合的に評価する。
教科書/テキスト	開講時に配布。
参考書	必要に応じて紹介する。
その他	1年次生のみ対象の科目です。2年次以降は履修できません。

履修コード	450051 450052
科目名	就業力基礎II
担当者名	中済 光昭 絹川 真哉 長山 宗広 矢野 浩一

講義の到達目標(ねらい) 本科目は、産業界等との連携による実学的専門教育を含む、学生の卒業後の社会的・職業的自立を目的とし、1年次から4年次まで行われる就業力育成科目群の1年次科目です。1年次では、皆さんが大学内外で勉強を始めとする様々な活動を行うことが、社会へ出た時どのような意義を持つかを理解し、充実した大学生活を設計できることを目標としています。
この科目では、企業研究、職種についての理解、ケーススタディを通じて仕事に対する心構えや希望する進路に就くために何をすべきかなどについて考え、自ら準備を進められるようにサポートをしていきます。

講義の内容/ 授業スケジュール	<p>① 9/22 夏休みの課題発表</p> <p>② 9/29 企業研究の視点についてと事例紹介 (身近な企業、身近な製品の研究を通じて、業界の生産流通構造・取引関係・競争関係、企業組織の構造・バリューチェーンを理解する)</p> <p>③ 10/6 企業研究(web等で分かる範囲) グループ単位</p> <p>④ 10/13 企業研究(web等で分かる範囲) グループ単位</p> <p>⑤ 10/20 企業研究(web等で分かる範囲)の発表 グループ単位</p> <p>⑥ 10/27 企業研究(web等で分かる範囲)の発表 グループ単位</p> <p>⑦ 11/10 職種について ケーススタディを基に 資格紹介 副読本・教材提示 (総合職・一般職・専門職、〇〇士、起業家、公務員 等)</p> <p>⑧ 11/17 職種について (キャリア講座を受けて)</p> <p>⑨ 11/24 職種について</p> <p>⑩ 12/1 ケーススタディ①: 駒大生A君とBさんのキャリア 職場で活躍する人材のイメージ、必要なスキルを知る</p> <p>⑪ 12/8 グループディスカッション ワークシートを使って</p> <p>⑫ 12/15 ケーススタディ②: 駒大生A君とBさんのキャリア 職場で活躍する人材のイメージ、必要なスキルを知る</p> <p>⑬ 12/22 グループディスカッション ワークシートを使って</p> <p>⑭ 1/12 まとめ</p>
----------------------------	---

履修上の留意点 ポートフォリオ(行動計画)は前週の反省を踏まえ毎週作成します。
1) この科目では、社会人として必要な力を理解し、大学生活からいかにそれを身につけるかを、人材開発会社と共同で開発したテキストを使って学ぶ。積極的に知識を吸収することを期待している。
2) この科目はグループ単位で自習形式で課題に取り組む。その際先輩(学生サポーター)がアドバイスをします。学生サポーターの指示に従い、きちんと課題に取り組むこと。
3) 課題に取り組むための教室を使って木曜6時限に課題を行う。したがって木曜6時限には他の講義などを入れないこと。なおこの曜日時限に数回程度科目担当者(先生)が指導を行う。
4) 2年次以降の履修はできないので注意すること。
5) 定期試験および追試験は行わない。
6) この科目は、経済学部は、基礎ゼミ(商・現代応用)や基礎情報処理、情報入門と連携した内容になっています。経済学部の学生は、これらの講義にも必ず出席すること。
7) この科目は、GMS学部は、グローバルメディアスタディーズ概論、情報リテラシー、情報リテラシー実習と連携した内容になっています。GMS学部の学生は、これらの講義にも必ず出席すること。

成績評価の方法	授業時間中の課題、グループで取り組む課題、就職ガイダンス等の課外活動の結果から総合的に評価する。
教科書/テキスト	開講時に配布。
参考書	必要に応じて紹介する。
その他	1年次生のみ対象の科目です。2年次以降は履修できません。

履修コード	307501
科目名	商学総論
担当者名	大吹 勝男

講義の到達目標(ねらい) 大学で学ぶことは、将来君たちが人間らしく生きるための助けになるものでなければなりません。本学もまた大学である限り、学問の場でなければなりません。いかにいえば、大学においてしか学ぶことのできない、物事の見方、考え方を身につけることです。さらにいうならば、実用的でないもの、すぐには役に立たないもの、これらを学ぶのが大学です。諸君が、悩みに悩み、迷いに迷って、大人になっていくところが、大学という場です。キャリアを積んだビジネスマンから多く聞くことは、学生時代に「学問」をしておくべきであったということです。諸君も、過労死や過労自殺をすることなく、使い捨てのサラリーマンになることのないように、体系的に物事を考える能力を身につけてください。そして、社会人として現実に困難な問題に直面しても、学問をした人間として、大学の卒業生として、きちっと解決のできる人間になってください。本講義では、現代における流通および商業に関する諸現象を科学的に認識するために必要な流通理論および商業資本の理論を講義しますが、それらの知識を習得するとともに、それらを学ぶ過程において体系的な思考方法を習得し、思考能力を高めてください。

講義の内容/ 授業スケジュール	(1~3) 商品、貨幣および資本 (4~7) 商品の生産過程と価値増殖の仕組み (8~16) 資本の流通過程、流通時間、販売および購買費用、商品在庫と保管費用、市場と商品の輸送、倉庫業および輸送業 (17~20) 商業資本の本質と機能、商業資本自立化の利益と根拠 (21~23) 商品買取資本と商業利潤、純粋流通費用および商業的可変資本と商業利潤、純粋流通費用および商業的可変資本の回収・補填 (29~30) 商業的賃労働者・ホワイトカラー労働者と商業利潤
----------------------------	--

成績評価の方法	成績は期末試験により評価します。
教科書/テキスト	大吹勝男著『流通諸費用の理論的研究』梓出版社2100円 大吹勝男著『商業資本の基礎理論』梓出版社1500円

履修コード	091701
科目名	商業政策
担当者名	番場 博之

講義の到達目標(ねらい) 経済活動としての流通活動は、単なる競争ではなくルールにもとづく競争である。そして、このような流通や商業に関わる方針やルール（公共政策）のことを流通政策・商業政策という。本講義では、流通および商業に関わるルールが必要とされた流通問題・商業問題に言及しながら、流通・商業政策の必要性や体系およびその運用について講義する。

講義の内容／授業スケジュール

- (1) 流通・商業問題と流通・商業政策の考え方
- (2～5) 流通・商業の基礎知識
- (6～9) 流通・商業政策の枠組み
- (10～15) 競争政策
- (16～21) 振興政策と調整政策
- (22～27) まちづくり政策
- (28～30) 海外における商業に関わる政策

履修上の留意点 詳細かつ正確なシラバスは開講時に配布する

成績評価の方法 定期試験によって評価する。ただし、若干の平常点等を加味することもある。

教科書／テキスト 加藤義忠・齋藤雅通・佐々木保幸編 『現代流通入門』有斐閣 978-4-641-18351-3

参考書 渡辺達朗『流通政策入門 第2版』中央経済社、2007年。
 若下弘『イギリスと日本の流通政策』大月書店、2007年。
 番場博之『零細小売業の存立構造研究』白桃書房、2003年。

履修コード	309301
科目名	商業政策
担当者名	番場 博之

講義の到達目標(ねらい) 日本の流通とそれに関わるルールについて理解してもらうことを目的としています。できるだけ、現実的な問題を事例として取り上げながら、商業政策の全体像が理解できるように指導していきます。

講義の内容／授業スケジュール

- (1) 流通・商業問題と流通・商業政策の考え方
- (2～5) 流通の基礎知識
- (6～9) 商業の基礎知識
- (10～15) 流通・商業政策の枠組み
- (16～21) 競争政策
- (22～27) 振興政策
- (28～30) まちづくりの事例とまちづくり政策

履修上の留意点 履修者の理解度や関心にあわせて講義内容やスケジュール等を調整します。

成績評価の方法 平常点評価

教科書／テキスト 教員の方で必要に応じて準備します。

参考書 教員の方で必要に応じて準備します。

履修コード	098001
科目名	証券市場論
担当者名	広田 真人

講義の到達目標(ねらい) ファイナンス理論の裏づけなくして証券制度の理解はありえない。そこで講義の大部分はファイナンスの基礎理論の学習のために費やされる。最後に「金融ビックバン」の説明の際、「改革」の前提としての既存制度についても言及する。従って、本講義のキーワードは、「資本コスト」発見の場としての証券市場の役割となる。

講義の内容／授業スケジュール

- ①「出席表-同様な事業内容を持つ日米両企業の株価等を毎週提出-」の説明-1週目
- ②株式市場の存在理由-資本コスト発見機能を中心に-2～4週目
- ③資産価値の評価-NPV・IRR、債券と株式の評価-5～8週目
- ④株式投資におけるリスク- α と β -9～12週目
- ⑤資本コストの計測とEVA-13～16週目
- ⑥デリバティブの初歩-オプションを中心に-17～20週目
- ⑦株価指数とインデックス運用-21～24週目
- ⑧金融ビックバンの評価からみた日本の証券市場の特色-25～28週目

準備学習 “参考書”として挙げた『経営財務入門』の該当箇所を予習しておくことが講義の理解を早めることは言うまでもない。

履修上の留意点 最初の授業で「出席表」の説明を行うので必ず出席すること

成績評価の方法 期末レポート（中間は未定）、ただし、問題数は計算問題を含めて10近く、全て回答すること

教科書／テキスト 特になく、授業中にプリント配布

参考書 井手・高橋『経営財務入門』 ¥3600 ISBN4-532-13312-2・周『証券分析入門』（いずれも日本経済新聞社）2003～2009年 ¥3000 ISBN4-532-13297-5

履修コード	095301
科目名	情報・経済ネットワーク論
担当者名	中 濟 光昭

講義の到達目標(ねらい)	この講義では、情報が経済学でどのように扱われているかについて議論します。具体的には「経済学と情報」「デジタルエコノミーとはなにか」「ICTによって何が変わるのか」「情報ネットワーク経済の基盤となる情報システムとは」「ERPとは」について理解し、事例を通じてインターネット上の電子商取引、ERP(企業のほぼ全ての業務を統合的に処理するシステム)などについて理解を深めていきます。講義では、コンピュータを操作して情報システムについて実習し、また電子掲示板などを活用し教員と皆さんが双方向に意見を交換するようにしていきます。
講義の内容/ 授業スケジュール	(1) 教場のパソコンの使い方、受講上の注意など (2) ~ (10) 情報システム概論 -コンピュータのコスト構造、組織変革論、技術概論 (11) ~ (21) 経営情報システム (SAP ERP) (21) ~ (26) 電子商取引概論 -電子商取引のインパクト、電子決済概論、法制度 (27) ~ (29) インターネットマーケティング概況 -マイクロソフトにみる情報とビジネス戦略、Web2.0やロングテール、googleのビジネスモデル、インターネットビジネスを覆う危機 (30) まとめ
履修上の留意点	ワープロ、表計算、メール、ホームページ検索などの基本的操作ができる前提で講義を行います。課題提出や講義中の議論には、パソコンやインターネットを活用します。パソコン初心者には、まずコンピュータ基礎、基礎情報処理I・IIや情報入門I・IIを履修することをお勧めします。
成績評価の方法	講義時の課題(50%)、夏季休業時に課すレポート(20%)と授業内テスト(30%)によります。卒業年次生においても期限までに課題を提出しないものは、単位不可となります。
教科書/テキスト	初回の講義で指示
参考書	初回の講義で指示
その他	・本講義はパソコンのある教場で行うため、履修制限を行うことがあります。初回の講義で履修許可票を配布することがあるので「必ず」出席すること。卒業年次生についても例外は認めません。 ・KOMAnetに登録している前提で講義を行なうので、KOMAnet未登録者は4月初旬に4号館2F事務室に行き、登録手続きを行なうこと(登録なしに受講することは講義内容上困難です)。 ・講義に関する質問などは、nakasumi@komazawa-u.ac.jpにメールすること。

履修コード	098501
科目名	商法一部
担当者名	川口 幸美

講義の到達目標(ねらい)	本講義では、株式会社の経済活動を経営管理の側面と資金調達の側面について規制する会社法を体系的・基礎的に理解することを目的とする。具体的には法規制の内容と、重要かつ興味深い事例等を随時紹介し、現実社会で会社法が果たしている役割について説明する。
講義の内容/ 授業スケジュール	1. 会社の種類(LLCとLLP) 2. 会社の設立 3. 組織と会計(機関設計と会計参与) 4. 組織と会計(リスク管理と内部統制) 5. 会社の計算(配当・持分変動計算書) 6. 企業の計算(役員賞与の扱い) 7. 企業買収・再編(三角合併) 8. 企業買収・再編(新株予約権の強制償却) 9. 企業買収・再編(黄金株と譲渡制限) 10. その他
履修上の留意点	会社法を体系的により深く理解するために、他の商法科目(商法総則・商行為法)および民法科目(特に民法総則・債権法)を現在履修しているか、既履修であることが望ましい。
成績評価の方法	試験の点数による。出席は原則として取らないので、出席点は考慮しないものと考えてください。つまり、就職活動・部活動および病欠等による欠席者を優遇することはありません。期末試験は12月最後の授業内で行いますので注意してください。
教科書/テキスト	開講時に指定する。
参考書	神田秀樹「会社法(第11版)」(弘文堂) 江頭憲治郎・岩原紳作・藤田友敬/編 別冊ジュリスト「会社法判例百選」
その他	(当然のことですが)授業中の私語・携帯電話の使用を厳しく注意します。場合によっては退室を命じます。

履修コード	325501
科目名	商法総則・商行為法
担当者名	水島 治

講義の到達目標(ねらい)

1. 本講義の目的
 本講義の目的は、商法総則（商法1～31条）及び商行為（商法501～683条）に関する基本的な制度概要と解釈論的問題を解説することにあります。

2. 本講義の到達目標
 本講義の到達目標は、（1）商法の基本的な制度の趣旨や内容を理解してもらうこと、（2）簡単な事例について商法総則又は商行為法の規定を適用して法律関係を説明できるようになること、（3）基本的な判例や学説を具体的に適用することで法令の適用に必要な解釈論的な処理ができるようになること、の3点にあります。
 なお、講義の基本的な水準は、昼間開講の商法総則・商行為法（11710）と基本的に同水準とします。

講義の内容／授業スケジュール

講義で扱う内容は、商法総則の範囲として①から⑥、商取引法の範囲として⑦から⑬となります（講義の進行上、順序は若干入れ替わる可能性があります。）。扱う内容や履修者の理解度等にもよりますが、原則として、各テーマに関して数回に分けて講義を行ない、前期に商法総則の領域、後期に商行為法の領域を主として扱うこととします。

①商法総則総論	②商人・商行為
③商業登記	④商号
⑤商業帳簿	⑥商業使用人・代理商
⑦商事契約・商事売買	⑧交互計算
⑨匿名組合	⑩仲立営業
⑪問屋営業	⑫運送取扱営業・運送営業
⑬寄託	

準備学習

1. 講義の対象となる条文は、事前に六法で確認してきて下さい。
 2. 余力があれば、テキスト等で該当する部分を読んできて下さい。
 3. 民法（財産法）の知識を多用しますので、履修済の場合でも不安のある人はよく復習しておくことを勧めます。

履修上の留意点

1. 履修を必要とする科目
 民法の財産法分野（総則、物権、債権）は、必ずすべて履修しておくことが必要です。当該科目を履修していない場合には、本講義の単位取得は相当難しくなると考えられますので、くれぐれも注意して下さい。

2. 講義は、基本的には商法本法の解説が中心となります。
 このため、不正競争防止法、商業登記法、国際海上物品運送法のような商法以外の付属法令や関連法令に関しては、本講義の対象外となりますので、これらの講義の履修が必要な学生は該当する科目を履修して下さい。

3. 会社法の取扱い
 会社法総則（会社法1～24条）は本講義の範囲と重複する限りにおいて、講義で併せて説明しますが、それ以外の会社法の規定は本講義では扱いません。別途、会社法の講義を履修して下さい。

成績評価の方法

1. 期末試験（筆記試験又はレポート試験）の成績
 2. 出席は取りませんし、小テストも実施しません。

教科書／テキスト

1. 六法
 小型のものがまいませんが、必ず最新版（平成23年版）を用意して下さい。また、判例付きの六法は、期末試験等に持ち込むことを禁止しますので、その点を考慮して六法を選択して下さい。

2. レジュメ
 本講義は基本的にレジュメで進行しますので、必ず持参して下さい。

3. 教科書
 レジュメで講義しますので、教科書を購入して頂く必要はありません。

4. 参考書
 参考書に関しては、第1回講義時に文献リストを配布して説明します。

参考書

第1回講義時に配布する参考文献リストで説明します。

その他

1. 期末試験だけの成績評価ですので、その点十分に了解した上で履修の判断をしてください。
 2. 講義中に私語や携帯電話をすること等、他の学生の履修の妨げになることは厳に謹んで下さい。
 3. 担当者は非常勤講師ですから、質問等に関しては講義終了時に受けることになります。若干不便かもしれませんが、あらかじめ了解した上で履修の判断をして下さい。

履修コード	098601
科目名	商法二部
担当者名	中濱 義章

講義の到達目標(ねらい)	手形小切手法の基本的な原則・制度を理解し、諸問題を検討することを通じて有価証券法理の基礎を習得する。
講義の内容／ 授業スケジュール	講義は以下の順に行い、各項目ごとに1～2回程度の授業時間を割り当てる。講義の内容は、制度の概要を解説し、具体例を通じて問題点の検討をおこなう。 <ol style="list-style-type: none"> 1 手形・小切手の意義(約束手形・為替手形・小切手の異同) 2 手形法・小切手の経済的機能 3 手形行為の意義・性質 4 手形行為の成立時期(手形理論) 5 手形行為と法律行為に関する一般原則 6 代理人・代表者による手形行為 7 無権代理と偽造、変造 8 手形行為と実質関係 9 手形の振出 10 白地手形 11 手形の裏書 12 善意取得の制度 13 手形抗弁、人的抗弁切断(制限)の制度 14 支払、支払拒絶など 15 為替手形・小切手に特有の法制度 16 振込・振替など新たな決済システムに関する諸問題
履修上の留意点	六法は小型のものでかまいませんので最新版を携行して下さい。例えば、『ポケット六法』(有斐閣)、『セレクト六法』(岩波書店)、『デイリー六法』(三省堂)など。 民法(財産法関係科目)および商法科目を履修済み、あるいは履修中であることが望ましい。
成績評価の方法	夏休み前と期末に行う筆記試験での評価を予定していますが、レポートを課す場合もあります。
教科書／テキスト	大塚龍児ほか『商法Ⅲ—手形・小切手(第3版)』(有斐閣Sシリーズ) 落合誠一＝神田秀樹編『別冊ジュリスト 手形小切手判例百選(第6版)』(有斐閣)
参考書	詳細については、開講時に指示します。 山下友信＝神田秀樹編『商法判例集(第4版)』(有斐閣)

履修コード	324901 324902
科目名	有価証券法 商法二部
担当者名	中濱 義章

講義の到達目標(ねらい)	手形小切手法の基本的な原則・制度を理解し、諸問題を検討することを通じて有価証券法理の基礎を習得する。
講義の内容／ 授業スケジュール	講義は以下の順に行い、各項目ごとに1～2回程度の授業時間を割り当てる。講義の内容は、制度の概要を解説し、具体例を通じて問題点の検討をおこなう。 <ol style="list-style-type: none"> 1 手形・小切手の意義(約束手形・為替手形・小切手の異同) 2 手形法・小切手の経済的機能 3 手形行為の意義・性質 4 手形行為の成立時期(手形理論) 5 手形行為と法律行為に関する一般原則 6 代理人・代表者による手形行為 7 無権代理と偽造、変造 8 手形行為と実質関係 9 手形の振出 10 白地手形 11 手形の裏書 12 善意取得の制度 13 手形抗弁、人的抗弁切断(制限)の制度 14 支払、支払拒絶など 15 為替手形・小切手に特有の法制度 16 振込・振替など新たな決済システムに関する諸問題
履修上の留意点	六法は小型のものでかまいませんので最新版を携行して下さい。例えば、『ポケット六法』(有斐閣)、『セレクト六法』(岩波書店)、『デイリー六法』(三省堂)など。 民法(財産法関係科目)および商法科目を履修済み、あるいは履修中であることが望ましい。
成績評価の方法	夏休み前と期末に行う筆記試験での評価を予定していますが、レポートを課す場合もあります。
教科書／テキスト	大塚龍児ほか『商法Ⅲ—手形・小切手(第3版)』(有斐閣Sシリーズ) 落合誠一＝神田秀樹編『別冊ジュリスト 手形小切手判例百選(第6版)』(有斐閣)
参考書	詳細については、開講時に指示します。 山下友信＝神田秀樹編『商法判例集(第4版)』(有斐閣)

履修コード	095421
科目名	情報入門I
担当者名	井川 俊実

講義の到達目標(ねらい)	<p>コンピュータを活用して情報収集やレポート作成、プレゼンテーションを行うことは、大学で学ぶ上で欠かせない要素となってきた。さらにこうした能力は社会においても必須である。</p> <p>本講義では、基礎ゼミと連携して商学を学ぶ上で必要な「ツールとしてのパソコンの扱い方・ソフトウェアの使い方」の習得を目指す。コンピュータの扱いに慣れることとインターネット（電子メールやWWW）を利用できるようになること、さらにはPower Pointによる発表資料作成法、WORDの基本機能を習得することを目的とする。</p>
講義の内容／授業スケジュール	<p>(1) 教場の使い方、コンピュータの起動・終了方法、受講上の注意など</p> <p>(2~4) パソコンの仕組み、Windowsの基本的な使い方、タイピング練習、インターネットとネチケット、インターネット用語の説明、検索の方法、電子メールの使い方</p> <p>(5~9) Power Pointの基本操作、スライドの作成、スライドショー、文字修飾、図の挿入、アニメーション機能</p> <p>(10~14) Wordの基本操作、Word文書の作成・印刷、表の作成</p> <p>(15) テスト</p>
履修上の留意点	<p>1) この講義では、より実践的な技術の習得を目指し、研修会社で経験を積んだ講師の指導のもと実習を行う。積極的に知識を吸収することを期待している。</p> <p>2) コンピュータ使用経験の少ない初心者を対象とした講義を行う。経験者には高度な課題を与えるなどの工夫を行う予定であるので講師に申告すること。</p> <p>3) 実習を中心に進めるので欠席・遅刻をしないようにすること。</p> <p>4) 商学科1年次は原則としてこの講義を履修登録すること。</p> <p>5) 2年次以降の履修はできないので注意すること。</p> <p>6) 評価に関わる各試験の追試験は行わない。合理的な事由を文書によって申告した時のみ考慮する。</p> <p>7) 後期の情報入門IIの履修登録ミスが目立っています。後期の情報入門IIも忘れずに履修登録すること。</p> <p>8) この科目は基礎ゼミのレポート課題や発表と連携した内容になっています。基礎ゼミにも必ず出席すること。</p>
成績評価の方法	各カテゴリー終了時に行う授業時間中の小テスト、提出物、そして最終講義に行う総合テストの結果から総合的に評価する。高度な課題を提出した者は別途加点する。
教科書／テキスト	中済光昭監修『情報リテラシー基礎演習』FOM出版4,200円
参考書	必要に応じて紹介する。
その他	<p>1) YeStudyを利用した講義なので、前もってユーザIDを取得する必要があります。</p> <p>2) 1年次生のみ対象の科目です。2年次以降は【原則として】履修できません。</p> <p>3) 就業力基礎I、IIと連携した内容がありますので、就業力基礎I、IIを履修する学生は本科目も履修ください。</p>

履修コード	095411
科目名	情報入門I
担当者名	谷口 裕子

講義の到達目標(ねらい)	<p>コンピュータを活用して情報収集やレポート作成、プレゼンテーションを行うことは、大学で学ぶ上で欠かせない要素となってきた。さらにこうした能力は社会においても必須である。</p> <p>本講義では、基礎ゼミと連携して商学を学ぶ上で必要な「ツールとしてのパソコンの扱い方・ソフトウェアの使い方」の習得を目指す。コンピュータの扱いに慣れることとインターネット（電子メールやWWW）を利用できるようになること、さらにはPower Pointによる発表資料作成法、WORDの基本機能を習得することを目的とする。</p>
講義の内容／授業スケジュール	<p>(1) 教場の使い方、コンピュータの起動・終了方法、受講上の注意など</p> <p>(2~4) パソコンの仕組み、Windowsの基本的な使い方、タイピング練習、インターネットとネチケット、インターネット用語の説明、検索の方法、電子メールの使い方</p> <p>(5~9) Power Pointの基本操作、スライドの作成、スライドショー、文字修飾、図の挿入、アニメーション機能</p> <p>(10~14) Wordの基本操作、Word文書の作成・印刷、表の作成</p> <p>(15) テスト</p>
履修上の留意点	<p>1) この講義では、より実践的な技術の習得を目指し、研修会社で経験を積んだ講師の指導のもと実習を行う。積極的に知識を吸収することを期待している。</p> <p>2) コンピュータ使用経験の少ない初心者を対象とした講義を行う。経験者には高度な課題を与えるなどの工夫を行う予定であるので講師に申告すること。</p> <p>3) 実習を中心に進めるので欠席・遅刻をしないようにすること。</p> <p>4) 商学科1年次は原則としてこの講義を履修登録すること。</p> <p>5) 2年次以降の履修はできないので注意すること。</p> <p>6) 評価に関わる各試験の追試験は行わない。合理的な事由を文書によって申告した時のみ考慮する。</p> <p>7) 後期の情報入門IIの履修登録ミスが目立っています。後期の情報入門IIも忘れずに履修登録すること。</p> <p>8) この科目は基礎ゼミのレポート課題や発表と連携した内容になっています。基礎ゼミにも必ず出席すること。</p>
成績評価の方法	各カテゴリー終了時に行う授業時間中の小テスト、提出物、そして最終講義に行う総合テストの結果から総合的に評価する。高度な課題を提出した者は別途加点する。
教科書／テキスト	開講時に指定。
参考書	必要に応じて紹介する。
その他	<p>その他</p> <p>1) 1年次生のみ対象の科目です。2年次以降は【原則として】履修できません。</p> <p>2) 就業力基礎I、IIと連携した内容がありますので、就業力基礎I、IIを履修する学生は本科目も履修ください。</p>

履修コード	095451
科目名	情報入門I
担当者名	山邊 茂之

講義の到達目標(ねらい) コンピュータを活用した情報収集やレポート作成、プレゼンテーションを行うことは、大学で学んでいく上で欠かせないスキルとなっている。また、コンピュータの知識・スキルは、社会においても必須である。本講義では、商学を学ぶ上で必要な「ツールとしてのパソコンの扱い方・ソフトウェアの使い方」を予備知識のない段階から習得を目指す。コンピュータの扱いに慣れること、インターネット（電子メール含む）を利用できるようになること、さらにはMicrosoft Office Wordによる文書作成技法の習得を目的とする。

講義の内容／授業スケジュール ガイダンス：教場の使い方、受講上の注意、パソコンの起動・終了方法。
情報リテラシー(1)～(5)：パソコンの仕組み・用語。Windowsの基本操作。マウス操作。YeStudyの使い方。日本語入力(IME)の説明。タイピング。Windowsのトラブル回避方法。インターネット・ネチケットについて。ActiveMailの使い方。ファイルとフォルダ。ネットワークドライブの活用。
小テスト：情報リテラシー後
Office Word(1)～(6)：Microsoft Office Word(2007)の基本操作、文書の作成。フォントの変更、文字の大きさ・色の変更。箇条書き。印刷、図・クリップアート・図形の挿入。表の作成、ワードアートの挿入、文章の校正、検索、置換。レイアウト（ページ番号、改ページ、段組みなど）。
Office Word(7)：Microsoft Office Word(2007)実機テスト
前期最終講義：期末総合テスト

履修上の留意点 1)この講義では、より実践的な技術の習得を目指し、講師の指導のもと実習を行う。積極的に知識を吸収することを期待している。
2)コンピュータ使用経験の少ない初心者を対象とした講義を行う。経験者には高度な課題を与えるなどの工夫を行う予定であるので講師に申告すること。
3)実習を中心に進めるので欠席・遅刻をしないようにすること。
4)現代応用経済学科1年次は原則としてこの講義を履修登録すること。
5)2年次以降の履修は出来ないで注意すること。
6)後期の情報入門IIの履修登録ミスが目立っています。後期の情報入門IIも忘れずに履修登録すること。

成績評価の方法 各カテゴリー終了時に行う授業時間中の小テストと実機試験及び最終講義に実施する総合試験の結果から総合的に評価する。高度な課題を提出した者は、別途加点する。

教科書／テキスト 開講時に指定する。

参考書 必要に応じて紹介します。

その他 1)1年次生のみ対象の科目です。2年次以降は【原則として】履修できません。
2)就業力基礎I、IIと連携した内容がありますので、就業力基礎I、IIを履修する学生は本科目も履修ください。

履修コード	095441
科目名	情報入門II
担当者名	井川 俊実

講義の到達目標(ねらい) 本講義は「情報入門I」の単位取得者を対象とした講義に位置づけられる。コンピュータの基本的操作を習得していることを前提として、前期に続きWordによる文書作成技法および表計算ソフト(Excel)の基本操作・データ処理法を習得することを目的とする。また、基礎ゼミと連携して、大学で学ぶ上で必要な技法の習得を目指す。

講義の内容／授業スケジュール (1～6) Wordの文書レイアウト、図の作成、図の挿入
(7～11)表計算 Excelの基本操作、データ集計、関数の利用、表の書式(罫線・列幅の変更など)・印刷
(12～14) WordとExcelの要点の復習、グラフの作成、Wordとの連携
(15) 総合テスト、基礎ゼミレポート課題提出

履修上の留意点 1)この講義では、より実践的な技術の習得を目指し、研修会社で経験を積んだ講師の指導のもと実習を行う。積極的に知識を吸収することを期待している。
2)「情報入門I」の単位取得者を前提に講義を進める。経験者には高度な課題を与えるなどの工夫を行う予定であるので講師に申告すること。
3)実習を中心に進めるので欠席・遅刻をしないようにすること。
4)商学科1年次は原則としてこの講義を履修登録すること。
5)2年次以降の履修は出来ないで注意すること。
6)評価に関わる各試験の追試験は行わない。合理的な事由を文書によって申告した時のみ考慮する。
7)4月の履修登録時、当科目の履修登録ミスが目立っています。後期の情報入門IIも忘れずに登録すること。
8)この科目は基礎ゼミのレポート課題や発表と連携した内容になっています。基礎ゼミにも必ず出席すること。

成績評価の方法 各カテゴリー終了時に行う授業時間中の小テスト、提出物、基礎ゼミレポート課題及び最終講義に実施する総合テストの結果から総合的に評価する。高度な課題を提出した者は別途加点する。

教科書／テキスト 中済光昭監修『情報リテラシー基礎演習』FOM出版4,200円

参考書 必要に応じて紹介します。

その他 1)YeStudyを利用した講義になります。
2)1年次生のみ対象の科目です。2年次以降は【原則として】履修できません。
3)就業力基礎I、IIと連携した内容がありますので、就業力基礎I、IIを履修する学生は本科目も履修ください。

履修コード	095431
科目名	情報入門II
担当者名	谷口 裕子

講義の到達目標(ねらい)	本講義は「情報入門I」の単位取得者を対象とした講義に位置づけられる。コンピュータの基本的操作を習得していることを前提として、前期に続きWordによる文書作成技法および表計算ソフト(Excel)の基本操作・データ処理法を習得することを目的とする。また、基礎ゼミと連携して、大学で学ぶ上で必要な技法の習得を目指す。
講義の内容／ 授業スケジュール	(1~6) Wordの文書レイアウト、図の作成、図の挿入 (7~11) 表計算 Excelの基本操作、データ集計、関数の利用、表の書式(罫線・列幅の変更など)・印刷 (12~14) WordとExcelの要点の復習、グラフの作成、Wordとの連携 (15) 総合テスト、基礎ゼミレポート課題提出
履修上の留意点	1) この講義では、より実践的な技術の習得を目指し、研修会社で経験を積んだ講師の指導のもと実習を行う。積極的に知識を吸収することを期待している。 2) 「情報入門I」の単位取得者を前提に講義を進める。経験者には高度な課題を与えるなどの工夫を行う予定であるので講師に申告すること。 3) 実習を中心に進めるので欠席・遅刻をしないようにすること。 4) 商学科1年次は原則としてこの講義を履修登録すること。 5) 2年次以降の履修は出来ないで注意すること。 6) 評価に関わる各試験の追試験は行わない。合理的な事由を文書によって申告した時のみ考慮する。 7) 4月の履修登録時、当科目の履修登録ミスが目立っています。後期の情報入門IIも忘れずに登録すること。 8) この科目は基礎ゼミのレポート課題や発表と連携した内容になっています。基礎ゼミにも必ず出席すること。
成績評価の方法	各カテゴリー終了時に行う授業時間中の小テスト、提出物、基礎ゼミレポート課題及び最終講義に実施する総合テストの結果から総合的に評価する。高度な課題を提出した者は別途加点する。
教科書／テキスト	開講時に指定。
参考書	必要に応じて紹介します。
その他	その他 1) 1年次生のみ対象の科目です。2年次以降は【原則として】履修できません。 2) 就業力基礎I、IIと連携した内容がありますので、就業力基礎I、IIを履修する学生は本科目も履修ください。

履修コード	095461
科目名	情報入門II
担当者名	山邊 茂之

講義の到達目標(ねらい)	本講義は「情報入門I」の単位取得者を対象とした講義に位置づけられる。コンピュータの基本的操作を習得していることを前提として、Microsoft Office Excelによる表計算・グラフ作成法、Microsoft Office PowerPointによるプレゼンテーション技法の習得を目的とする。
講義の内容／ 授業スケジュール	ガイダンス：教場の使い方、受講上の注意 Office Excel(1)~(7)：Microsoft Office Excel(2007)の基本操作。表計算、相対参照・絶対参照。シート間計算、関数、ユーザー定義。グラフの作成。複合グラフ。データの並べ替え。 Office Excel(8)：Office Excel実機テスト Office PowerPoint(1)~(5)：Microsoft Office PowerPoint(2007)の基本操作。スライドマスタ。アニメーション。プレゼンテーション資料作成、個人発表。 後期最終講義：期末総合テスト
履修上の留意点	1) この講義では、より実践的な技術の習得を目指し、講師の指導のもと実習を行う。積極的に知識を吸収することを期待している。 2) コンピュータ使用経験の少ない初心者を対象とした講義を行う。経験者には高度な課題を与えるなどの工夫を行う予定であるので講師に申告すること。 3) 実習を中心に進めるので欠席・遅刻をしないようにすること。 4) 現代応用経済学科1年次は原則としてこの講義を履修登録すること。 5) 2年次以降の履修は出来ないで注意すること。
成績評価の方法	各カテゴリー終了時に行う授業時間中の実機試験、プレゼンテーション資料及び個人発表の結果、そして最終講義に行う総合試験結果から総合的に評価する。高度な課題を提出した者は別途加点する。
教科書／テキスト	開講時に指定する。
参考書	必要に応じて紹介します。
その他	1) 1年次生のみ対象の科目です。2年次以降は【原則として】履修できません。 2) 就業力基礎I、IIと連携した内容がありますので、就業力基礎I、IIを履修する学生は本科目も履修ください。

履修コード	095321
科目名	情報の経済学
担当者名	館 健太郎

講義の到達目標(ねらい) 入門レベルでのミクロ経済学では、人々が行動を選択するために必要な情報はすべて容易に入手できると想定していた。しかし、現代社会において我々はしばしば先の見えない不確実な状況（リスクのある状況）に直面し、また人によって保有する情報は大きく異なっている。このような状況にあるとき、人々の行動はどのように変化するだろうか？また、情報不足に起因する問題に対してどのような対処が考えられるだろうか？本講義では日常生活やビジネスの現場でのリスクと情報に関連する経済現象・経済問題を検討する。この授業を通じて、リスクと情報の側面から見た現代経済社会についての視点を身につけてもらいたい。

講義の内容／授業スケジュール 全体として5部構成で説明する予定である。
 第1部 市場と情報
 1. 市場の情報効率性
 2. 不確実性と情報
 第2部 リスク：不確実性下の意思決定
 3. リスクと期待値
 4. 期待効用
 5. リスクプレミアム
 6. 保険の役割
 第3部 情報の非対称性：逆選択
 7. 逆選択
 8. シグナリング
 9. スクリーニング
 第4部 情報の非対称性：モラルハザード
 10. モラルハザード
 11. モラルハザードと賃金体系
 12. 固定給と業績給
 第5部 ホールドアップ問題
 13. コースの定理
 14. ホールドアップ問題
 ※講義の進度などにより内容を変更することがある。

準備学習 授業後に配布プリントと板書を十分に復習してほしい。
履修上の留意点 ミクロ経済学とゲーム理論を並行して学習することが望ましい。また、契約理論は本講義の内容を前提とした講義であるため、本講義を履修した後に学習することが望ましい。
成績評価の方法 定期試験（100点）。ただし、授業中に加点方式で課題を出すことがある。
教科書／テキスト 配布資料と板書をもとに講義を行う。
参考書 テーマに応じて講義内で参考文献を示す。

履修コード	094301
科目名	人口論 ◎
担当者名	森岡 仁

講義の到達目標(ねらい) 本講義は経済人口学の立場から、経済と人口の相互依存関係を理論的、実証的に論ずる。マルサスの人口波動理論に始まり、出生力の経済学に至る理論篇から、現在わが国に進行する少子高齢化人口減少の実状とその経済に及ぼす影響を追及する実証篇まで、人口がいかにわれわれにとって身近な問題を提起しているかを明らかにする。

講義の内容／授業スケジュール (1～8) 経済人口学とは何か、A. スミスの人口論、T. R. マルサスの人口波動理論、K. マルクスの相対的過剰人口論、J. S. ミルの人口論、E. キヤナンの適度人口論、J. M. ケインズの過少人口論、発展途上国の過剰人口問題、(9～13) 人口転換論、出生力の経済学の先駆者H. ライベンシュタイン、G. S. ベッカーの出生力の経済学、R. イースターリンの出生力理論、出生力理論の統合、(14～16) 第2次大戦直後の日本の過剰人口問題、経済の高度成長と人口要因、人口移動、(17～25) 人口高齢化とは何か、人口高齢化の諸指標、日本の人口高齢化、人口高齢化と従属負担、人口高齢化と貯蓄行動、人口高齢化と労働力、人口高齢化と社会保障、人口高齢化と所得再分配、所得再分配の世代間摩擦、(26～29) 少子化とは何か、家族政策、人口減少と技術進歩、人口減少と資源・環境、(30) 人口政策。

履修上の留意点 近年大きな関心ごとになっている人口高齢化や少子化、それに人口減少に関する知識をどのような手段を通じてでも良いから得ておくことが望ましい。
成績評価の方法 学年末の定期試験。追試験も実施する。
教科書／テキスト 大淵寛・森岡仁『経済人口学』（新評論）1981年、2800円。1033-330172-3177。大淵寛・森岡仁編『人口減少時代の日本経済』（原書房）2006年、2800円。4-562-09112-6
参考書 人口学研究会編『現代人口辞典』（原書房）2010年、3000円
その他 授業方法：講義

履修コード	311701
科目名	人口論
担当者名	森岡 仁

講義の到達目標(ねらい) 本講義は経済人口学の立場から、経済と人口の相互依存関係を理論的、実証的に論ずる。マルサスの人口波動理論に始まり、出生力の経済学に至る理論篇から、現在わが国に進行する少子高齢化人口減少の実状とその経済に及ぼす影響を追及する実証篇まで、人口がいかにわれわれにとって身近な問題を提起しているかを明らかにする。

講義の内容／授業スケジュール (1～8) 経済人口学とは何か、A. スミスの人口論、T. R. マルサスの人口波動理論、K. マルクスの相対的過剰人口論、J. S. ミルの人口論、E. キヤナンの適度人口論、J. M. ケインズの過剰人口論、発展途上国の過剰人口問題、(9～13) 人口転換論、出生力の経済学の先駆者H. ライベンシュタイン、G. S. ベッカーの出生力の経済学、R. イースターリンの出生力理論、出生力理論の統合、(14～16) 第2次大戦直後の日本の過剰人口問題、経済の高度成長と人口要因、人口移動、(17～25) 人口高齢化とは何か、人口高齢化の諸指標、日本の人口高齢化、人口高齢化と従属負担、人口高齢化と貯蓄行動、人口高齢化と労働力、人口高齢化と社会保障、人口高齢化と所得再分配、所得再分配の世代間摩擦、(26～29) 少子化とは何か、家族政策、人口減少と技術進歩、人口減少と資源・環境、(30) 人口政策。

履修上の留意点 近年大きな関心ごとになっている人口高齢化や少子化、それに人口減少に関する知識をどのような手段を通じてでも良いから得ておくことが望ましい。

成績評価の方法 学年末の定期試験。追試験も実施する。

教科書／テキスト 大淵寛・森岡仁『経済人口学』(新評論) 1981年、2800円。1033-330172-3177。大淵寛・森岡仁編『人口減少時代の日本経済』(原書房)2006年、2800円。4-562-09112-6

参考書 人口学研究会編『現代人口辞典』(原書房) 2010年、3000円

その他 授業方法：講義

履修コード	092011
科目名	人的資源管理論 a
担当者名	堀 龍二

講義の到達目標(ねらい) 人的資源管理とは、企業が従業員を人的資源とみなして、その有効活用を図る施策のことです。端的に言えば、どのような人をどのような形態で雇い、どのように動機づけて働いてもらうのか、その働きに対してどのように処遇するのか、そして、どのように人材として育てるのか、といった課題を扱います。
a (前期) では、主に、「働く人をいかに募集・採用するのか」、「働く人をいかに動機づけるのか」、というテーマを取り上げます。近年、グローバル化、IT革命、新自由主義に基づく規制緩和といった企業を取り巻く環境が変化するなかで、わが国企業が求める人材像も人的資源管理の考え方も大きく変化してきました。また、働く人たちの勤労意識や働き方も多様化し、企業もそれに対応することが求められています。こうした背景を踏まえながら、企業の人的資源管理のあり方や働き方の変化の内容と問題点を把握することが本講義のねらいです。

講義の内容／授業スケジュール 教科書の順序にそって進める予定ですが、変更することもあります。
(1) 講義概要の紹介とガイダンス、(2) 人事労務管理論から人的資源管理論へ、(3～5) 多様な働き方と求められる人材像の変化、(6～8) モチベーション論の検討、(9～10) 多様性の重視と働き方の変化、(11～12) 自立性・社会性の重視と人的資源管理の変化、(13～15) 経済グローバル化に対応する人的資源管理の動向

準備学習 講義では最近の動向や傾向を取り扱うので、その具体的イメージをつかむために、新聞や雑誌等で人事労務管理関連の記事を点検しておくことが有益であろう。また、インターネットや統計資料でわが国の雇用や賃金の趨勢にも目配りしておくことが望ましい。

履修上の留意点 原則として、a (前期) とb (後期) を合わせて同一年度に履修してください。

成績評価の方法 テキスト各章ごとの課題レポート (35%)、前期レポート (15%)、定期試験 (50%) の比重で総合評価します。追試験を実施します。

教科書／テキスト 伊藤健市・齊藤毅憲・渡辺 峻著『はじめて学ぶ人のための人材マネジメント論入門』文真堂、2010年、1800円 (+税)、ISBN 978-4-8309-4688-2 C3034。なお、教科書に載っていない資料などは、プリントして配布します。

参考書 前期レポートの課題図書は、伊藤・中川・堀編著『アメリカの経営・日本の経営』ミネルヴァ書房、2010年、2800円 (+税)、ISBN 978-4-623-05758-0です。他の参考書は、適宜紹介します。

履修コード	312211
科目名	人的資源管理論 a
担当者名	堀 龍二

講義の到達目標(ねらい) 人的資源管理とは、企業が従業員を人的資源とみなして、その有効活用を図る施策のことです。端的に言えば、どのような人をどのような形態で雇い、どのように動機づけて働いてもらうのか、その働きに対してどのように処遇するのか、そして、どのように人材として育てるのか、といった課題を扱います。
a (前期) では、主に、「働く人をいかに募集・採用するのか」、「働く人をいかに動機づけるのか」、というテーマを取り上げます。近年、グローバル化、IT革命、新自由主義に基づく規制緩和といった企業を取り巻く環境が変化するなかで、わが国企業が求める人材像も人的資源管理の考え方も大きく変化してきました。また、働く人たちの勤労意識や働き方も多様化し、企業もそれに対応することが求められています。こうした背景を踏まえながら、企業の人的資源管理のあり方や働き方の変化の内容と問題点を把握することが本講義のねらいです。

講義の内容／授業スケジュール 教科書の順序にそって進める予定ですが、変更することもあります。
(1) 講義概要の紹介とガイダンス、(2) 人事労務管理論から人的資源管理論へ、(3～5) 多様な働き方と求められる人材像の変化、(6～8) モチベーション論の検討、(9～10) 多様性の重視と働き方の変化、(11～12) 自立性・社会性の重視と人的資源管理の変化、(13～15) 経済グローバル化に対応する人的資源管理の動向

準備学習 講義では最近の動向や傾向を取り扱うので、その具体的イメージをつかむために、新聞や雑誌等で人事労務管理関連の記事を点検しておくことが有益であろう。また、インターネットや統計資料でわが国の雇用や賃金の趨勢にも目配りしておくことが望ましい。

履修上の留意点 原則として、a (前期) とb (後期) を合わせて同一年度に履修してください。

成績評価の方法 テキスト各章ごとの課題レポート (85%)、前期レポート (15%) の比重で総合評価します。定期試験は実施しません。

教科書／テキスト 伊藤健市・齊藤毅憲・渡辺 峻著『はじめて学ぶ人のための人材マネジメント論入門』文真堂、2010年、1800円 (+税)、ISBN 978-4-8309-4688-2 C3034。なお、教科書に載っていない資料などは、プリントして配布します。

参考書 前期レポートの課題図書は、伊藤・中川・堀編著『アメリカの経営・日本の経営』ミネルヴァ書房、2010年、2800円 (+税)、ISBN 978-4-623-05758-0です。他の参考書は、適宜紹介します。

履修コード	092021
科目名	人的資源管理論 b
担当者名	堀 龍二

講義の到達目標(ねらい) 人的資源管理とは、企業が従業員を人的資源とみなして、その有効活用を図る施策のことです。端的にいえば、どのような人をどのような形態で雇い、どのように動機づけて働いてもらうのか、その働きに対してどのように処遇するのか、そして、どのように人材として育てるのか、といった課題を扱います。
b(後期)では、主に、「働く人にいかなる態度で接するのか」、「能力をいかに開発するのか」、「働く人をいかに評価し報いるのか」といったテーマを取り上げます。具体的には、リーダーシップの取り方、キャリア開発、人事評価や賃金システムのあり方が、働く人の意識変化や働き方の多様化に応じて、どのように変化してきているかという問題を考察します。また、そうした多様化に向かう変化のなかで、従業員の意見を汲み上げて調整しながら労使の協調を確保していくのか、労使間のコミュニケーションが今まで以上に重要になってきています。いま、わが国企業は激しい国際競争を勝ち抜くために競争力強化を求められており、そのなかで競争優位の源泉とされる人的資源の有効かつ円滑な活用について新たな方法を模索しています。

講義の内容／授業スケジュール テキストに沿って以下の構成で進める予定ですが、変更することもあります。
(1) 講義概要の紹介とガイダンス、(2～4) 現代のリーダーシップ論の検討(5～7) 能力開発プログラムの変化とキャリア開発支援、(8～9) 従来の人事評価の背景・傾向・特徴、(10～11) 成果主義と目標管理制度の利用、(12～13) 年功主義と能力主義における賃金制度、(14) 成果主義における賃金制度、(15) 人的資源管理と労働組合との関係

準備学習 講義では最近の動向や傾向を取り扱うので、その具体的イメージをつかむために、新聞や雑誌等で人事労務管理関連の記事を点検しておくことが有益であろう。また、インターネットや統計資料でわが国の雇用や賃金の趨勢にも目配りしておくことが望ましい。

履修上の留意点 原則として、a(前期)とb(後期)を合わせて同一年度に履修してください。

成績評価の方法 テキスト各章ごとの課題レポート(35%)、後期レポート(15%)、定期試験(50%)の比重で総合評価します。追試験を実施します。

教科書／テキスト 伊藤健市・齊藤毅憲・渡辺 峻著『はじめて学ぶ人のための人材マネジメント論入門』文真堂、2010年、1800円(＋税)、ISBN 978-4-8309-4688-2 C3034。なお、教科書に載っていない資料などは、プリントして配布します。

参考書 後期レポートの課題図書は、伊藤・中川・堀編著『アメリカの経営・日本の経営』ミネルヴァ書房、2010年、2800円(＋税)、ISBN 978-4-623-05758-0です。他の参考書は、適宜紹介します。

履修コード	312221
科目名	人的資源管理論 b
担当者名	堀 龍二

講義の到達目標(ねらい) 人的資源管理とは、企業が従業員を人的資源とみなして、その有効活用を図る施策のことです。端的にいえば、どのような人をどのような形態で雇い、どのように動機づけて働いてもらうのか、その働きに対してどのように処遇するのか、そして、どのように人材として育てるのか、といった課題を扱います。
b(後期)では、主に、「働く人にいかなる態度で接するのか」、「能力をいかに開発するのか」、「働く人をいかに評価し報いるのか」といったテーマを取り上げます。具体的には、リーダーシップの取り方、キャリア開発、人事評価や賃金システムのあり方が、働く人の意識変化や働き方の多様化に応じて、どのように変化してきているかという問題を考察します。いま、わが国企業は激しい国際競争を勝ち抜くために競争力強化を求められており、そのなかで競争優位の源泉とされる人的資源の有効活用の新たな方法を模索しています。

講義の内容／授業スケジュール テキストに沿って以下の構成で進める予定ですが、変更することもあります。
(1) 講義概要の紹介とガイダンス、(2～4) 現代のリーダーシップ論の検討(5～7) 能力開発プログラムの変化とキャリア開発支援、(8～9) 従来の人事評価の背景・傾向・特徴、(10～11) 成果主義と目標管理制度の利用、(12～13) 年功主義と能力主義における賃金制度、(14) 成果主義における賃金制度、(15) 人的資源管理と労働組合との関係

準備学習 講義では最近の動向や傾向を取り扱うので、その具体的イメージをつかむために、新聞や雑誌等で人事労務管理関連の記事を点検しておくことが有益であろう。また、インターネットや統計資料でわが国の雇用や賃金の趨勢にも目配りしておくことが望ましい。

履修上の留意点 原則として、a(前期)とb(後期)を合わせて同一年度に履修してください。

成績評価の方法 テキスト各章ごとの課題レポート(85%)、後期レポート(15%)の比重で総合評価します。定期試験は実施しません。

教科書／テキスト 伊藤健市・齊藤毅憲・渡辺 峻著『はじめて学ぶ人のための人材マネジメント論入門』文真堂、2010年、1800円(＋税)、ISBN 978-4-8309-4688-2 C3034。なお、教科書に載っていない資料などは、プリントして配布します。

参考書 後期レポートの課題図書は、伊藤・中川・堀編著『アメリカの経営・日本の経営』ミネルヴァ書房、2010年、2800円(＋税)、ISBN 978-4-623-05758-0です。他の参考書は、適宜紹介します。

履修コード	098191
科目名	制度の経済学
担当者名	村松 幹二

講義の到達目標(ねらい) 市場、企業組織と企業を取りまく制度は相互に関連しながら経済システムを作り上げており、企業間競争、産業構造、雇用形態などを通じて消費者・労働者としての我々の日々の生活に大きな影響をもたらす。また1990年代以降、企業の雇用形態や資本市場との関係などは大きく変化しており、そのなかで企業の不祥事が頻発するなど、企業組織のあり方やコーポレート・ガバナンスのあり方が問われている。受講する学生には、この授業を通じて、システムとしての市場・企業組織、経済における法・制度の役割と政策の意義を考えることで経済社会に対する視点を身につけてもらいたい。

講義では、ミクロ経済学、なかでも「法と経済学」、「情報の経済学」、「比較制度分析」などの手法を用いて市場と企業組織に関する諸制度とその相互の関連としての経済システムについて論じる。講義の前半では、取引のシステムとしての市場の円滑化のための法制度として競争政策と独占禁止法、知的財産法について、後半では、取引のシステムとしての企業組織とコーポレート・ガバナンスについて論じる。

**講義の内容／
授業スケジュール**

- 第1回：イントロダクション市場・企業システムと法・制度
 - 第2回：競争政策と独占禁止法(1) 独占の弊害と規制
 - 第3回：競争政策と独占禁止法(2) 寡占市場における競争
 - 第4回：競争政策と独占禁止法(3) カルテルとその規制
 - 第5回：競争政策と独占禁止法(4) 参入と参入阻止
 - 第6回：競争政策と独占禁止法(5) 競争制限行為
 - 第7回：知的財産の経済分析(1) 知的財産の経済学的特徴
 - 第8回：知的財産の経済分析(2) 特許権
 - 第9回：知的財産の経済分析(3) 著作権
 - 第10回：雇用システム(1)
 - 第11回：雇用システム(2)
 - 第12回：企業間関係：サプライヤー・流通システム
 - 第13回：コーポレート・ガバナンスと会社法(1) 株式会社のガバナンス
 - 第14回：コーポレート・ガバナンスと会社法(2) 合併と買収
 - 第15回：コーポレート・ガバナンスと会社法(3) 倒産
- 定期試験

履修上の留意点 講義ではミクロ経済学、法と経済学、情報の経済学の知識を前提とするため、「ミクロ経済学」、「法と経済学」、「企業経済学」、「ゲーム理論」、「情報の経済学」のいずれかに関連する授業を履修した学生を対象とす

成績評価の方法 成績評価は、定期試験による。ただし必要に応じてレポート課題を出し、成績評価に加算することがある。

教科書／テキスト テーマが多岐にわたるため特定のテキストは指定せず、配布するレジュメをもとに講義を行う。

参考書 テーマに応じて講義内で参考文献を示す。

履修コード	100451
科目名	税法I
担当者名	奥村 正郎

講義の到達目標(ねらい) 租税は、我々納税者が、税法の定めるところにしたがって、国や地方公共団体（都道府県及び市町村）に納付すべきものであり、それは公共サービスの資金となり、我々の生活に影響する。しかしながら税法は、多数の法律とそれを施行するための政令、省令で成り立ち、さらに多くの通達があり、しかも法律の解釈や手続きは難解で、改正も毎年ある。このような事情からその重要性は認識していても、将来その専門家になりたいという人以外、積極的に税法の知識を身につけようとする人は少ないように思われる。このようなことから本講義により、我々の身近な法律である税法に、関心をもち、具体的事例、計算を通じてその基本的知識を習得してもらいたい。

また将来、税理士試験を目指すものにとっても有用な知識が提供できるような内容にしたい。本年度、税法I（前期）では個人を納税義務者とする相続税を中心に講義、計算演習を行う。相続税は、平成15年にシャープ勧告以来の大きな改正があり、平成21年度改正においても課税方式の検討が行われた。今後どのように推移していくのか関心が寄せられている。

**講義の内容／
授業スケジュール**

- 1. 租税のあらまし
- 2. 税法の基本原則
- 3. 租税の種類と分類
- 4. 民法の相続制度(1)
- 5. 民法の相続制度(2)
- 6. 相続税の納税義務者
- 7. 相続税の課税財産
- 8. みなし相続財産
- 9. 相続税の財産評価(1)
- 10. 相続税の財産評価(2)
- 11. 相続税の計算(1)
- 12. 相続税の計算(2)
- 13. 贈与税
- 14. 贈与税と相続時精算課税制度
- 15. まとめ

準備学習 テキスト、配布プリント等を事前に読んでおくこと授業の理解に効果的です。

履修上の留意点 簿記の知識は必須ではないが、なければ簿記（3級レベル）の講義も履修することを勧める。

成績評価の方法 学期末試験 80%、平常点 20%、出席状況も勘案して評価する。

教科書／テキスト 『公共経済と租税』 速水昇他編著（学文社）

参考書 授業を進める中で適宜紹介する。

その他 計算演習等プリントを随時配布する。電卓を使用するので持参すること。

関連リンク <http://www.nta.go.jp/>

履修コード	100461
科目名	税法II
担当者名	奥村 正郎

講義の到達目標(ねらい) 租税は、我々納税者が、税法の定めるところにしたがって、国や地方公共団体（都道府県及び市町村）に納付すべきものであり、それは公共サービスの資金となり、我々の生活に影響する。しかしながら税法は、多数の法律とそれを施行するための政令、省令で成り立ち、さらに多くの通達があり、しかも法律の解釈や手続きは難解で、改正も毎年ある。このような事情からその重要性は認識していても、将来その専門家になりたいという人以外、積極的に税法の知識を身につけようとする人は少ないように思われる。このようなことから本講義により、我々の身近な法律である税法に、関心をもち、具体的事例、計算を通じてその基本的知識を習得してもらいたい。また将来、税理士試験を目指すものにとっても有用な知識が提供できるような内容にしたい。本年度、税法Ⅱでは所得控除の改正等、抜本的見直しが予定されている個人を納税義務者とする所得税を中心に講義、計算演習を行う。

講義の内容／ 授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 所得の概念 2. 納税義務者 3. 課税所得の範囲等 4. 各種所得の種類 5. 各種所得金額の計算（1） 6. 各種所得金額の計算（2） 7. 各種所得金額の計算（3） 8. 各種所得金額の計算（4） 9. 所得控除及び税額の計算（1） 10. 所得控除及び税額の計算（2） 11. 申告・納付、源泉徴収、その他 12. その他の税法（法人税法） 13. その他の税法（消費税法1） 14. その他の税法（消費税法2） 15. まとめ
----------------------------	---

準備学習 テキスト、配布プリント等を事前に読んでおくことと授業の理解に効果的です。

履修上の留意点 簿記の知識は必須ではないが、簿記（3級レベル）の講義も履修することを勧める。

成績評価の方法 学期末試験80%、平常点20%、出席状況も勘案して評価する。

教科書／テキスト 『公共経済と租税』速水昇他編著（学文社）

参考書 授業を進める中で適時紹介する。

その他 計算演習等プリントを随時配布する。電卓を使用するので持参すること。

関連リンク <http://www.nta.go.jp/>

履修コード	097401
科目名	税務会計論
担当者名	北口 りえ

講義の到達目標(ねらい) 税務会計は、法人税法における課税所得計算に関する学問です。法人の所得に対して課される法人税は、企業にとって避けられないものであり、企業行動を左右する重要な要素のひとつとなっています。本講義では、税務計算技術の習得や課税所得計算構造への理解を深めることに重点をおき、企業会計を基礎として課税所得および税額を計算し、申告・納税するという企業会計と税務の一連の手続きについて学習します。まず税務会計の基礎的な概念や考え方などについて学んだ上で、個別具体的な税務会計処理について学んでいきます。本講義をきっかけに、なぜ課税所得は企業利益に調整を加えて算出されるのか、公平な課税はどのようにしたら実現できるのかということについて考えてもらえればと思います。

講義の内容／ 授業スケジュール	<p>第1回：ガイダンス 第2～4回：税務会計の制度的基礎 第5～7回：法人税の基礎 第8～10回：課税所得計算の基礎 第11～15回：益金の会計 第16～24回：損金の会計 第25～27回：課税所得・税額の計算 第28回：申告・納付等 第29・30回：企業組織再編税制、連結納税制度</p>
----------------------------	--

履修上の留意点 会計学の基礎知識を前提として授業を行いますので、なるべく「簿記論」および「会計学基礎（会計学総論）」を履修した上で受講してください。計算演習を行いますので、電卓を持参してください（講義内で指示します）。

成績評価の方法 成績評価は、授業内試験、定期試験の総合評価により行います。

教科書／テキスト 柳裕治他『税務会計論』（創世社）

履修コード	330151
科目名	税務会計論
担当者名	北口 りえ

講義の到達目標(ねらい) 税務会計は、法人税法における課税所得計算に関する学問です。法人の所得に対して課される法人税は、企業にとって避けられないものであり、企業行動を左右する重要な要素のひとつとなっています。本講義では、税務計算技術の習得や課税所得計算構造への理解を深めることに重点をおき、企業会計を基礎として課税所得および税額を計算し、申告・納税するという企業会計と税務の一連の手続きについて学習します。まず税務会計の基礎的な概念や考え方などについて学んだ上で、個別具体的な税務会計処理について学んでいきます。本講義をきっかけに、なぜ課税所得は企業利益に調整を加えて算出されるのか、公平な課税はどのようにしたら実現できるのかということについて考えてもらえればと思います。

講義の内容／ 授業スケジュール	<p>第1回：ガイダンス 第2～4回：税務会計の制度的基礎 第5～7回：法人税の基礎 第8～10回：課税所得計算の基礎 第11～15回：益金の会計 第16～24回：損金の会計 第25～27回：課税所得・税額の計算 第28回：申告・納付等 第29・30回：企業組織再編税制、連結納税制度</p>
----------------------------	--

履修上の留意点 会計学の基礎知識を前提として授業を行いますので、なるべく「簿記論」および「会計学基礎（会計学総論）」を履修した上で受講してください。計算演習を行いますので、電卓を持参してください（講義内で指示します）。

成績評価の方法 成績評価は、授業内試験、定期試験の総合評価により行います。

教科書／テキスト 柳裕治他『税務会計論』（創世社）

履修コード	332301
科目名	税務会計論
担当者名	高木 克己

講義の到達目標(ねらい) 今日、租税は我々個人にとっては、所得税、相続税等の問題として、また、企業にとっては、法人税の問題が大きな関心事として存在している。ここ数年、法人税も税率の引き下げをはじめ、多くの改正が行われている。本講義では、普通法人(株式会社等)を前提とした法人税の算定過程を中心に講義を進めていく。
 税務会計とは、一般に企業における課税所得の算定過程を研究する分野をいう。この課税所得は、会社法あるいは企業会計原則等によって算出された利益にもとづいて算定される。そこでは、法人税法固有の規定(いわゆる別段の定め)が適用され、負担の公平、簡便性、あるいは政策的配慮等さまざまな考え方が反映されている。講義では、こうした税法固有の考え方の根拠、背景等を出来るだけやさしく説明しながら、今日、法人税法の抱えている問題点を明らかにしていきたいと考える。

講義の内容／授業スケジュール 講義内容の概要は次のとおりである。
 (1~2) 税務会計の制度的基礎、(3~5) 法人税の意義、性格、納税義務者等、(6~8) 事業年度、同族会社、(9~12) 課税所得計算の基礎、(13~16) 販売収益、請負収益、有価証券譲渡益等、(17~21) 売上原価、減価償却、寄付金、交際費等、(22~24) 税額の計算、申告、納付等、(25~28) 企業組織再編税制、連結納税制度等、(29~30) 国際課税、不服申立・訴訟等

履修上の留意点 「簿記学」「会計学」等の基礎的な会計科目を修得した上で履修した方がより理解が深まると思われる。
成績評価の方法 原則として、前期末及び後期末のレポート試験によって評価する。
教科書／テキスト 開講時に指示する。
参考書 開講時に指示する。

履修コード	093401
科目名	西洋経済史
担当者名	友松 憲彦

講義の到達目標(ねらい) この講義は近代ヨーロッパと北アメリカの経済発展の歴史を説明しますが、中心は18世紀末から19世紀にかけての工業化(産業革命)の諸問題です。
 現在、世界経済の3つの中心は、EUとして政治経済的統合を進める「ヨーロッパ」、アメリカ合衆国を中心とする「北アメリカ」、そして日本や近年成長著しい「アジア」です。これらの地域は、いずれも工業化に成功したか、成功しつつあるという共通の歴史的経験をもっています。
 工業化はどのようにして起こり、経済や社会をいかに変化させたのか。また、工業化が引き起こした社会問題に対して、どのような改革が進められたのか。
 講義では世界最初の工業化に成功したヨーロッパ(とりわけイギリス)の事例を中心に説明します。さらに、ヨーロッパの工業化が他の地域にどのような影響を与え、世界経済をどう変容させたのか、工業化がもたらした光だけでなく影にも注目します。
 近代西洋経済の歴史を学び、現在の世界経済の成立過程と、それが抱える諸問題を理解するための手がかりを得ることをめざします。

講義の内容／授業スケジュール

1. 講義のねらい
 - (1) 資本主義市場経済(第1回)
2. 前近代の経済—封建制—
 - (1) 農村と農業(第2回)
 - (2) 都市と商工業(第3回)
3. 資本主義の成長
 - (1) 「封建制の危機」と資本主義の誕生(第3・4回)
 - (2) 農村工業の発達(第5・6回)
 - (3) 農業の発展(第7回)
 - (4) 海外市場の発達(第8・9回)
 - (5) 国内市場の発達(第10・11回)
 - (6) 産業革命の展望(第12回)
4. 資本主義の確立—イギリス産業革命(工業化)
 - (1) 産業革命の原因(第13回)
 - (2) 産業革命の過程(第14・15回)
 - (3) 産業革命の結果(第16・17回)
 - (4) 経済・社会問題の改革(第18回)
5. 世界資本主義の形成
 - (1) イギリス経済と世界経済(第19回)
 - (2) 後発国の産業革命—フランス・ドイツ(第20回)
 - (3) 後発国の産業革命—アメリカ(第21・22回)
 - (4) 脱工業化—インド(第23回)
6. 資本主義の変質
 - (1) 「大不況」と資本主義の構造変化(第24・25回)
 - (2) 国際経済(第26回)
 - (3) 帝国主義と植民地(第27・28回)
7. まとめ
 - (1) 現代への展望(第29・30回)

成績評価の方法 定期試験(年度末)と授業中に行う小レポートにより評価します。
教科書／テキスト 岡田泰男編著『西洋経済史』八千代出版、1996年
 毎回資料を配布します。講義の理解にとって重要なものですから必ずファイルしてください。
参考書 長岡・太田・宮本編著『世界経済史入門』ミネルヴァ書房、1992年
 原輝史・工藤章『現代ヨーロッパ経済史』有斐閣、1996年
 岡田泰男著『アメリカ経済史』慶応義塾大学出版会、2000年
 楠井他著『エレメンタル西洋経済史』英創社、2006年
 三谷・並木・月脚編『大人のための近現代史：19世紀編』東京大学出版会、2009年

履修コード	307401
科目名	西洋経済史
担当者名	友松 憲彦

講義の到達目標(ねらい) この講義は近代ヨーロッパと北アメリカの経済発展の歴史を説明しますが、中心は18世紀末から19世紀にかけての工業化(産業革命)の諸問題です。現在、世界経済の3つの中心は、EUとして政治経済的統合を進める「ヨーロッパ」、アメリカ合衆国を中心とする「北アメリカ」、そして日本や近年成長著しい「アジア」です。これらの地域は、いずれも工業化に成功したか、成功しつつあるという共通の歴史的経験をもっています。工業化はどのようにしておこり、経済や社会をいかに変化させたのか。また、工業化が引き起こした社会問題に対して、どのような改革が進められたのか。講義では世界最初の工業化に成功したヨーロッパ(とりわけイギリス)の事例を中心に説明します。さらに、ヨーロッパの工業化が他の地域にどのような影響を与え、世界経済をどう変容させたのか、工業化がもたらした光だけでなく影にも注目します。近代西洋経済の歴史を学び、現在の世界経済の成立過程と、それが抱える諸問題を理解するための手がかりを得ることをめざします。

- 講義の内容／授業スケジュール**
1. 講義のねらい
 - (1) 資本主義市場経済(第1回)
 2. 前近代の経済—封建制—
 - (1) 農村と農業(第2回)
 - (2) 都市と商工業(第3回)
 3. 資本主義の成長
 - (1) 「封建制の危機」と資本主義の誕生(第3・4回)
 - (2) 農村工業の発達(第5・6回)
 - (3) 農業の発展(第7回)
 - (4) 海外市場の発達(第8・9回)
 - (5) 国内市場の発達(第10・11回)
 - (6) 産業革命の展望(第12回)
 4. 資本主義の確立—イギリス産業革命(工業化)
 - (1) 産業革命の原因(第13回)
 - (2) 産業革命の過程(第14・15回)
 - (3) 産業革命の結果(第16・17回)
 - (4) 経済・社会問題の改革(第18回)
 5. 世界資本主義の形成
 - (1) イギリス経済と世界経済(第19回)
 - (2) 後発国の産業革命—フランス・ドイツ(第20回)
 - (3) 後発国の産業革命—アメリカ(第21・22回)
 - (4) 脱工業化—インド(第23回)
 6. 資本主義の変質
 - (1) 「大不況」と資本主義の構造変化(第24・25回)
 - (2) 国際経済(第26回)
 - (3) 帝国主義と植民地(第27・28回)
 7. まとめ
 - (1) 現代への展望(第29・30回) 1

成績評価の方法 定期試験(年度末)と授業中に行う小レポートで評価します。

教科書／テキスト 岡田泰男編著『西洋経済史』八千代出版、1996年
毎回資料を配布します。講義の理解にとって重要なものですから必ずファイルしてください。

参考書 長岡・太田・宮本編著『世界経済史入門』ミネルヴァ書房、1992年
原輝史・工藤章『現代ヨーロッパ経済史』有斐閣、1996年
岡田泰男著『アメリカ経済史』慶応義塾大学出版会、2000年
楠井他著『エレメンタル西洋経済史』英創社、2006年
三谷・並木・月脚編『大人のための近現代史：19世紀編』東京大学出版会、2009年

履修コード	097251
科目名	地域経済論 a
担当者名	長山 宗広

講義の到達目標(ねらい) グローバリゼーションの進展下、現代経済における「地域」という存在を再評価し、その活性化を図るための理論の理解と実践的な課題解決について考えていく。地域経済および産業集積の構造的把握とともに、企業間関係・企業家ネットワーク・スピノフ連鎖・産学官連携などの実態把握を目指す。特に、地域経済の活性化を図る上で地域イノベーションシステム、新産業集積の形成と既存産業集積の再生を一体的に進めるメカニズムを明らかにしていく。本講義では、その上で前提となる地域経済論の基礎的な諸理論・概念を学んでいく。

- 講義の内容／授業スケジュール**
- (1) 今、地域の現場に何が起きているのか(ガイダンス)
 - (2) 地域、地域経済とは
 - (3) 古典的な立地論
 - (4) 日本の地場産業・産地研究
 - (5) フレキシビリティ論と新経済地理学
 - (6) 産業クラスター論
 - (7) 日本と海外の産業クラスター政策
 - (8) ケーススタディ：産業クラスター分析
 - (9) 地域産業システム論(シリコンバレーの事例)
 - (10) 学習地域・ミリュウ・地域イノベーションシステム論
 - (11) 新産業集積の新理論(IT・光電子集積の事例)
 - (12) 都市と中心地の理論、商店街の実態
 - (13) まちづくりと地域活性化
 - (14) ケーススタディ：地域活性化プランの策定
 - (15) まとめ

履修上の留意点 地域経済論a、bを一括履修することががのぞましい。

成績評価の方法 期末試験による評価：50%
講義中のレポートおよび出席状況など平常点評価：50%

教科書／テキスト 教科書は特に指定しない。都度、プリント等を配付する。

参考書 吉田敬一・井内尚樹編『地域振興と中小企業』ミネルヴァ書房 2009年
岡田・川瀬・鈴木・富樫『地域経済学』有斐閣アルマ 1997年
中村剛治郎編『基本ケースで学ぶ地域経済学』有斐閣 2007年
松原宏『経済地理学』東京大学出版会 2006年
M.ポーター『競争戦略論II』ダイヤモンド社 1999年
浜松信金・信金中金総研編『産業クラスターと地域活性化』同友館 2004年

履修コード	097261
科目名	地域経済論b
担当者名	長山 宗広

講義の到達目標(ねらい) 本講義の基本的な狙いは、地域経済論aと同じであるので、そちらを参照のこと。
本講義では、地域経済論aで学んだ理論を踏まえて、日本および欧米の地域経済事例へと接近し、現代経済における地域的視点をより一層養っていく。具体的には、各種統計データを用いた地域経済分析、地域産業集積の実態把握、地域活性化プランの策定、といった実践的手法・方法論についてケーススタディ等を通じて学んでいく。

講義の内容／授業スケジュール

- (1) 地域経済論 a (前期) の試験サマリー、後期のガイダンス
- (2) 地域経済の統計分析
- (3) 地域産業の統計分析
- (4) ~ (5) 地域の工業
- (6) ~ (7) 地域の商業
- (8) ~ (9) 地域の観光
- (10) 地域の一次産業 (主に農業)
- (11) 地域のハイテク産業 (IT、バイオなど)
- (12) 地域の新たな産業 (アニメ、健康、環境など)
- (13) ケーススタディ: 地域の現状と課題
- (14) ケーススタディ: 地域における新産業の創出プラン
- (15) まとめ

履修上の留意点 地域経済論a、bを一括履修することがのぞましい。

成績評価の方法 期末試験による評価: 50%
講義中のレポートおよび出席状況など平常点評価: 50%

教科書／テキスト 教科書は特に指定しない。都度、プリント等を配付する。

参考書 地域経済論aと同じ

履修コード	094701
科目名	中国経済論
担当者名	小杉 修二

講義の到達目標(ねらい) 前期は中華人民共和国の経済を歴史的に学ぶ。その開発目標に着目して、中ソ同盟下の大国志向としての「ソ連モデル」、独自の超大国を志向して米ソと対立した「毛沢東モデル」について学ぶ。後期は現在につながる鄧小平モデルの経済発展と問題点について学ぶ。

講義の内容／授業スケジュール

第1週-3週: キーワードの解説を中心に基礎知識にふれる。
第4週-10週: ソ連モデル期に中国は発展途上国の特徴である機械の生産能力を欠いているという弱点を克服し、現在の中国の知的財産権侵害が問題にもされているが、発展途上国が発展していくとき良かれ悪しかれ、先進的な技術をまねることになる。しかし、世界中のどの国でもまねができるかといえば必ずしもそうではない。まねることも偉大な能力であることはわが日本が示してきた能力である。まねができるだけの基礎的能力のかなりの部分がこの時期に培われたと考えられる。また、年9%近い高度経済成長、国民生活の一定の改善もこの時期に達成された。さらに一定の兵器の自給も達成された。
第11週-15週: 毛沢東モデル時期には国家目標は独自の超大国に切り替えられた。この時期中国は一見すると経済発展に背を向けて「革命」を目指していたなどといわれることもある。しかし、この時期に6%程度の経済成長があった。しかし、その成果は国民生活のためには使われず、核ミサイルの開発や米ソとの覇権争いのため、また、後にはソ連との戦争に備える臨戦態勢づくりに消費されてしまった。そしてこの開発戦略のため、中国経済の効率は低下し、行き詰った。これら二つの時期の中国の行き方は良くも悪くも今日にまで続く影を落としている面がある。
後期は鄧小平モデル期(1978年-)の中国を考える。この時期の中国は、平和共存の戦略の下でもうひとつの超大国を目指すべく目覚ましい経済発展を遂げるにいたった。平和共存への転換は臨戦態勢からの脱却を可能にした。資本が乏しいというのが発展途上国の特徴だが、中国は毛沢東式の共産主義の下に「我慢することが共産主義」だとして、さまざまなキャンペーンを通じて消費を抑制し、工場や核ミサイルの開発をしてきた。毛沢東の後継者たちは「4人組」が敗退したということは、新しい国際条件の下では、国民生活の抑制による経済運営ではなく経済成長による国民生活の向上が新しい経済発展の道として選ばれたということであり、この流れは不可逆的なものである。
第16週-25週: 新しい発展戦略は外国の技術・資本を積極的に導入することによって可能になった。中国の低賃金労働力もそれを後押しする要因だった。電機産業にみられる「組み合わせ型」の技術による産業分野では中国はテレビ、パソコン、電子レンジ、洗濯機、冷蔵庫等で世界有数の生産国になった。1人あたりの所得も4000ドルを超えるにいたった。こうした中国の発展を可能にした要因を考えていく。
第26週-30週: 産業構造の特徴、地域的な産業集積、産業高度化の課題、日中関係、地域格差、階層格差等について考えていく。

履修上の留意点 私語、飲食、携帯電話禁止(授業に集中できない人は出席不可)。

成績評価の方法 前期レポート、後期試験(30%、70%)。

教科書／テキスト 前期 小杉修二『増補 現代中国の国家目的と経済開発』(龍溪書舎 1997年)4000円

参考書 加藤弘之・上原一慶編著『中国経済論』ミネルヴァ書房 2004年、馬成三『中国経済の読み方』ジェトロ、2002年、周牧之『中国経済論』日本経済評論社、2007年

履修コード	309901
科目名	中国経済論
担当者名	小杉 修二

講義の到達目標(ねらい) 前期は中華人民共和国の経済を歴史的に学ぶ。その開発目標に着目して、中ソ同盟下の大国志向としての「ソ連モデル」、独自の超大国を志向して米ソと対立した「毛沢東モデル」について学ぶ。後期は現在につながる鄧小平モデルの経済発展と問題点について学ぶ。

講義の内容／授業スケジュール 第1週-3週：キーワードの解説を中心に基礎知識にふれる。
 第4週-10週：ソ連モデル期に中国は発展途上国の特徴である機械の生産能力を欠いているという弱点を克服した。現在、中国の知的財産権侵害が問題にもされているが、発展途上国が発展していくとき良かれ悪しかれ、先進的な技術をまねることになる。しかし、世界中のどの国でもまねができるかといえば必ずしもそうではない。まねることも偉大な能力であることはわが日本が示してきた能力である。まねができるだけ基礎的能力のかなりの部分がこの時期に培われたと考えられる。また、年9%近い高度経済成長、国民生活の一定の改善もこの時期に達成された。さらに一定の兵器の自給も達成された。
 第11週-15週：毛沢東モデル時期には国家目標は独自の超大国に切り替えられた。この時期中国は一見すると経済発展に背を向けて「革命」を目指していたなどといわれることもある。しかし、この時期に6%程度の経済成長があった。しかし、その成果は国民生活のためには使われず、核ミサイルの開発や米ソとの覇権争いのため、また、後にはソ連との戦争に備える臨戦態勢づくりに消費されてしまった。そしてこの開発戦略のため、中国経済の効率は低下し、行き詰った。これら二つの時期の中国の行き方は良くも悪くも今日にまで続く影を落としている面がある。
 後期は鄧小平モデル期（1978年-）の中国を考える。この時期の中国は、平和共存の戦略の下でもうひとつの超大国を目指すべく目覚ましい経済発展を遂げるにいたった。平和共存への転換は臨戦態勢からの脱却を可能にした。資本が乏しいというのが発展途上国の特徴だが、中国は毛沢東式の共産主義の下に「我慢することが共産主義」だとして、さまざまなキャンペーンを通じて消費を抑制し、工場や核ミサイルの開発をしてきた。毛沢東の後継者たち「4人組」が敗退したということは、新しい国際条件の下では、国民生活の抑制による経済運営ではなく経済成長による国民生活の向上が新しい経済発展の道として選ばれたということであり、この流れは不可逆的なものである。
 第16週-25週：新しい発展戦略は外国の技術・資本を積極的に導入することによって可能になった。中国の低賃金労働力もそれを後押しする要因だった。電機産業にみられる「組み合わせ型」の技術による産業分野では中国はテレビ、パソコン、電子レンジ、洗濯機、冷蔵庫等で世界有数の生産国になった。1人あたりの所得も4000ドルを超えるにいたった。こうした中国の発展を可能にした要因を考えていく。
 第26週-30週：産業構造の特徴、地域的な産業集積、産業高度化の課題、日中関係、地域格差、階層格差等について考えていく。

履修上の留意点 私語、飲食、携帯電話禁止（授業に集中できない人は出席不可）。

成績評価の方法 前期レポート、後期試験（30%、70%）。

教科書／テキスト 前期 小杉修二『増補 現代中国の国家目的と経済開発』（龍溪書舎 1997年）4000円

参考書 加藤弘之・上原一慶編著『中国経済論』ミネルヴァ書房 2004年、馬成三『中国経済の読み方』ジェトロ、2002年、周牧之『中国経済論』日本経済評論社、2007年

履修コード	093821
科目名	中小企業政策論
担当者名	太田 志乃

講義の到達目標(ねらい) この講義は中小企業論の内容を前提として進めます。戦後日本の高度成長を支えた中小企業の革新過程を支援した中小企業政策の特徴を学ぶこと、さらに下請問題・金融問題を取り上げ、中小企業のおかれている立場・条件の劣悪性を明らかにし、経済大国にとどまらず、生活大国を建設するための重要課題としての日本の中小企業問題の解決の方向と展望を考えることを主要課題とします。

講義の内容／授業スケジュール 講義ガイダンス（1）
 1 復興期の中小企業政策（2～4）
 2 高度成長と中小企業近代化政策（5～8）
 3 中小企業政策の大転換（9～11）
 4 経済のグローバル化と中小企業政策（12～13）
 5 中小企業と不公正取引問題（14）
 講義のまとめ（15）

履修上の留意点 中小企業問題は国際経済・日本経済の動向と密接に絡み合っているため、毎日の新聞に目を通しておくことが望ましい。

成績評価の方法 成績評価は、原則として、定期試験（後期末：80点）とレポート（最終授業日提出：20点）を基準として行ないます。詳細は最初の授業時に説明します。追試験は実施します。

教科書／テキスト 教科書は使用せず、ノート講義の形式で授業を行ないます。

参考書 『中小企業白書』
 吉田敬一・井内尚樹編著『地域振興と中小企業』ミネルヴァ書房
 吉田敬一・永山利和・森本隆男編著『産業構造転換と中小企業』ミネルヴァ書房
 松丸和夫監修・労働運動総合研究所編『グローバル化のなかの中小企業問題』新日本出版
 小川正博・西岡正・北嶋守編著『日本企業のものづくり革新』同友館
 渡辺幸男『21世紀中小企業論』有斐閣
 黒崎誠『世界を制した中小企業』講談社現代新書

履修コード	093811
科目名	中小企業論
担当者名	太田 志乃

講義の到達目標(ねらい) 商店街のパン屋さんも中小企業、ハイテク製品を造るベンチャーも中小企業。中小企業は異質で多様な形で存在しています。しかも戦後日本の経済発展において中小企業は意外に大きな役割を果たしてきました。この点に関して自動車工業を事例として明らかにし、中小企業の実態を考えることが、この講義の目的です。

講義の内容／授業スケジュール 講義ガイダンス (1)
 I 中小企業の基礎理論
 I-1 中小企業の法的規定 (2)
 I-2 中小企業の経営類型 (3)
 I-3 中小企業の企業形態 (4)
 I-4 日本型下請構造の特質 (5~6)
 II 日本型下請システムの形成過程、
 II-1 日本経済復活期の生産分業構造 (7~8)
 II-2 高度経済成長期の下請管理の合理化 (9~10)
 II-3 自動車工業の急成長と日本型下請構造の確立 (11~12)
 II-4 グローバル化と日本型下請構造の改変 (13~14)
 講義のまとめ (15)

履修上の留意点 中小企業問題は国際経済・日本経済の動向と密接に絡み合っているため、毎日の新聞に目を通しておくことが望ましい。

成績評価の方法 成績評価は、原則として、定期試験（前期末：80点）とレポート（最終授業日提出：20点）を基準として行ないます。詳細は最初の授業で説明します。追試験は実施しません。

教科書／テキスト 教科書は使用せず、ノート講義の形式で授業を行ないます。

参考書 『中小企業白書』
 吉田敬一・井内尚樹編著『地域振興と中小企業』ミネルヴァ書房
 吉田敬一・永山利和・森本隆男編著『産業構造転換と中小企業』ミネルヴァ書房
 松丸和夫監修・労働運動総合研究所編『グローバル化のなかの中小企業問題』新日本出版
 小川正博・西岡正・北嶋守編著『日本企業のものづくり革新』同友館
 渡辺幸男『21世紀中小企業論』有斐閣
 黒崎誠『世界を制した中小企業』講談社現代新書

履修コード	100321
科目名	通関実務
担当者名	荒畑 治雄

講義の到達目標(ねらい) 貿易取引における輸出とは、内国貨物を外国に向けられた船舶・航空機・鉄道・トラック等に積み込んで送り出すことをいう。そして輸入とは、外国から到着した貨物または輸出許可を受けた貨物を輸入通関手続きを行って国内に引き取ることをいう。企業が商品を輸出または輸入する場合には、税関に申告して、当該税関長の許可を得る必要がある。

本講義において、税関手続きに関する総合的な知識を持ち、通関についての体系的な知識を修得して各自の能力を発揮することで実社会に役立つよう指導する。

講義の内容／授業スケジュール 1. 課税物件の確定の時期
 2. 納税義務者・税額の確定
 3. 修正申告、更正の請求
 4. 納付と法定納期限・納期限
 5. 輸出入申告の時期
 6. 保税地域・保税運送
 7. 課税価格
 8. 税率の種類
 9. 減免税制度 (Aグループ・・・加工・修繕のために輸出された貨物の減免、再輸入免税、際輸出免税その他)
 10. 減免税制度 (Bグループ・・・製造用原料品の減免税、外国で採掘された水産物の減免税・戻し税)
 11. 特恵関税
 12. 電子情報処理組織による税関手続の特例
 13. 外国為替および外国貿易法

準備学習 我が国において、通関に関する各種手続きを迅速に行うため、「電子情報処理組織による関税手続の特例等に関する法律」が制定され、こうしたシステムによって輸出入通関手続きが実施されている。そこでコンピュータを使用した貿易取引および米国・EU・日本・アジアをはじめとするグローバル・ビジネスに関心を深めておくことが望ましい。

履修上の留意点 本講義を受講するにあたり、日頃から、国際商取引の動きについて各種のメディアを通じて学習するように心がけておくこと。

成績評価の方法 出席状況、授業態度を勘案し、学期末試験 (80%) により総合的に判定する。

教科書／テキスト プリントを配布する。

参考書 授業に使用する参考書は講義日に指示する。

履修コード	092901
科目名	統計原論
担当者名	矢野 浩一

講義の到達目標(ねらい) この講義では、はじめて統計学を学ぶ学部生向けに初歩から統計学を講義する。授業の目標は(1)統計学の基礎を学び、(2)ビジネスや経済におけるデータ分析を学び、(3)Excelなどのソフトウェアを用いて実際にデータ分析する方法を合わせて学ぶことにある。それらを通じてビジネスや社会において統計学をどのように応用すればよいか学び、実践的な能力を身につけることができる。

- 講義の内容／授業スケジュール**
1. 統計学とは何か：データ分析と現代社会
 2. グラフとは何か(1)：ヒストグラム、折れ線グラフ、累積度数分布
 3. グラフとは何か(2)：Excel実習
 4. データを一言で表す(1)：平均と中央値
 5. データを一言で表す(2)：Excel実習
 6. ばらつきとリスクを追いかける(1)：四分位数と分散・標準偏差、変動係数
 7. ばらつきとリスクを追いかける(2)：Excel実習
 8. 相関を考える(1)：相関、相関係数
 9. 相関を考える(2)：Excel実習
 10. 単回帰分析(1)：アイスクリーム屋さんの売上、単回帰分析、最小二乗法
 11. 単回帰分析(2)：Excel実習
 12. 単回帰分析(3)：決定係数と誤差、予測
 13. 重回帰分析(1)：平均寿命と豊かさ、重回帰分析
 14. 重回帰分析(2)：Excel実習
 15. 前期の総復習と夏休みの課題の発表
 16. 重回帰分析(3)：前期の復習、決定係数と誤差、予測
 17. 標本を作る(1)：無作為抽出とアンケート調査、サンプルの平均と標準偏差
 18. 標本を作る(2)：Excel実習(アンケート調査のまとめ方、サンプル平均の計算)
 19. 確率の基礎(1)：確率とは何か、ベン図、和事象・積事象
 20. 確率の基礎(2)：加法定理、乗法定理、条件付き確率
 21. 確率の基礎(3)：期待値、分散[確率版]
 22. 分布とは何か(1)：様々な離散分布
 23. 分布とは何か(2)：正規分布
 24. 分布とは何か(3)：二項分布
 25. 推定(1)：点推定、区間推定
 26. 推定(2)：Excel実習(点推定、区間推定)
 27. 仮説検定(1)：統計的仮説、有意水準
 28. 仮説検定(2)：Excel実習(t検定)
 29. 一年間の総復習
 30. テスト直前対策

準備学習 教科書と事前に配布する講義資料をよく読んでおくこと。

履修上の留意点 数学上の前提知識は特に必要としないが、講義の中である程度は使用せざるを得ないため、必要な知識は講義の中で教える。講義には積極的に参加すること。また、私語は厳しく禁じる。携帯電話の電源は切るか、マナーモードすること。これらの常識が守れない者は退出させることがある。

成績評価の方法 基本的には期末試験による。ただし、夏季休暇中の課題と学期中に実施する小テストも成績評価の考慮に入れるため、それらは必ず提出すること。

教科書／テキスト ポール G. ホーエル 「初等統計学」(培風館)、1838円、ISBN-10: 4563008397

参考書 適宜指定する。

履修コード	307701
科目名	統計原論
担当者名	矢野 浩一

講義の到達目標(ねらい) この講義では、はじめて統計学を学ぶ学部生向けに初歩から統計学を講義する。授業の目標は(1)統計学の基礎を学び、(2)ビジネスや経済におけるデータ分析を学び、(3)Excelなどのソフトウェアを用いて実際にデータ分析する方法を合わせて学ぶことにある。それらを通じてビジネスや社会において統計学をどのように応用すればよいか学び、実践的な能力を身につけることができる。

- 講義の内容／授業スケジュール**
1. 統計学とは何か：データ分析と現代社会
 2. グラフとは何か(1)：ヒストグラム、折れ線グラフ、累積度数分布
 3. グラフとは何か(2)：Excel実習
 4. データを一言で表す(1)：平均と中央値
 5. データを一言で表す(2)：Excel実習
 6. ばらつきとリスクを追いかける(1)：四分位数と分散・標準偏差、変動係数
 7. ばらつきとリスクを追いかける(2)：Excel実習
 8. 相関を考える(1)：相関、相関係数
 9. 相関を考える(2)：Excel実習
 10. 単回帰分析(1)：アイスクリーム屋さんの売上、単回帰分析、最小二乗法
 11. 単回帰分析(2)：Excel実習
 12. 単回帰分析(3)：決定係数と誤差、予測
 13. 重回帰分析(1)：平均寿命と豊かさ、重回帰分析
 14. 重回帰分析(2)：Excel実習
 15. 前期の総復習と夏休みの課題の発表
 16. 重回帰分析(3)：前期の復習、決定係数と誤差、予測
 17. 標本を作る(1)：無作為抽出とアンケート調査、サンプルの平均と標準偏差
 18. 標本を作る(2)：Excel実習(アンケート調査のまとめ方、サンプル平均の計算)
 19. 確率の基礎(1)：確率とは何か、ベン図、和事象・積事象
 20. 確率の基礎(2)：加法定理、乗法定理、条件付き確率
 21. 確率の基礎(3)：期待値、分散[確率版]
 22. 分布とは何か(1)：様々な離散分布
 23. 分布とは何か(2)：正規分布
 24. 分布とは何か(3)：二項分布
 25. 推定(1)：点推定、区間推定
 26. 推定(2)：Excel実習(点推定、区間推定)
 27. 仮説検定(1)：統計的仮説、有意水準
 28. 仮説検定(2)：Excel実習(t検定)
 29. 一年間の総復習
 30. テスト直前対策

準備学習 教科書と事前に配布する講義資料をよく読んでおくこと

履修上の留意点 数学上の前提知識は特に必要としないが、講義の中である程度は使用せざるを得ないため、必要な知識は講義の中で教える。講義には積極的に参加すること。また、私語は厳しく禁じる。携帯電話の電源は切るか、マナーモードすること。これらの常識が守れない者は退出させることがある。Excelによる実習があるため、初回の講義に必ず出席すること

成績評価の方法 基本的には期末試験による。ただし、夏季休暇中の課題と学期中に実施する小テストも成績評価の考慮に入れるため、それらは必ず提出すること。

教科書／テキスト ポール G. ホーエル「初等統計学」(培風館)、1838円、ISBN-10: 4563008397

参考書 適宜指定する。

履修コード	093301
科目名	日本経済史
担当者名	渡邊 恵一

講義の到達目標(ねらい) 経済学は現状分析あるいは将来予測に関心を置く学問であり、歴史的アプローチとはいささか縁遠いものと思われがちである。しかし、われわれの目の前にあるすべての経済的現象は、あるどこかの時点で発生し、その後発展あるいは変容を遂げてきたものであって、その歴史的経緯を理解することは、一見遠回りのように見えるが、きわめて重要な作業であるといえよう。本講義では、研究史上の論争や最新の研究成果などをわかりやすく紹介しつつ、現代日本経済の形成過程をたどっていくこととしたい。

講義の内容／授業スケジュール (1)課題と方法、(2)～(6)幕藩制下の経済発展、(7)～(9)幕末開港の歴史的意義、(10)～(12)明治前期の経済政策、(13)～(18)日本産業革命の展開、(19)～(23)第一次大戦期の日本経済、(24)～(27)恐慌の時代、(28)～(29)戦時経済の展開と崩壊、(30)総括と展望

準備学習 講義の内容およびテキストのページ範囲は、前回講義の最後の時間に指示する。講義は、受講生がテキストにあらかじめ目を通していることを前提に行う。

履修上の留意点 毎回の講義は連続した内容となっている。欠席もしくは遅刻は、その分だけ話の前後関係がなくなることの意味するので、くれぐれも注意されたい。

成績評価の方法 定期試験(年度末)の成績をベースとして、授業中に随時配布する「リアクション・ペーパー」の提出状況、記載内容などを平常点として加味し、総合的に判断して評価する。

教科書／テキスト 老川慶喜・仁木良和・渡邊恵一『日本経済史-太閤検地から戦後復興まで-』(税務経理協会、2940円、ISBN4-419-04025-4)。
補助教材として、資料・図表をまとめたプリントを講義時に配布する。後日になって再び参照する資料もあるので、各自ファイルして毎回持参すること。

参考書 上記教科書の巻末に掲載。個別の問題に関する文献は、講義の中でその都度紹介する。

その他 日本史の知識不問(挫折者歓迎!)。「経済学」を遠巻きに見ている他学部の方も、ぜひ受講してみてください。

履修コード	308201
科目名	日本経済史
担当者名	渡邊 恵一

講義の到達目標(ねらい)	経済学は現状分析あるいは将来予測に関心を置く学問であり、歴史的アプローチとはいささか縁遠いものと思われがちである。しかし、われわれの目の前にあるすべての経済的現象は、あるどこかの時点で発生し、その後発展あるいは変容を遂げてきたものであって、その歴史的経緯を理解することは、一見遠回りのように見えるが、きわめて重要な作業であるといえよう。本講義では、研究上の論争や最新の研究成果などをわかりやすく紹介しつつ、現代日本経済の形成過程をたどっていくこととしたい。
講義の内容／授業スケジュール	(1)課題と方法、(2)～(6)幕藩制下の経済発展、(7)～(9)幕末開港の歴史的意義、(10)～(12)明治前期の経済政策、(13)～(18)日本産業革命の展開、(19)～(23)第一次大戦期の日本経済、(24)～(27)恐慌の時代、(28)～(29)戦時経済の展開と崩壊、(30)総括と展望
準備学習	講義の内容およびテキストのページ範囲は、前回講義の最後の時間に指示する。講義は、受講生がテキストにあらかじめ目を通していただくことを前提に行う。
履修上の留意点	毎回の講義は連続した内容となっている。欠席もしくは遅刻は、その分だけ話の前後関係がなくなることの意味するので、くれぐれも注意されたい。
成績評価の方法	定期試験(年度末)の成績をベースとして、授業中に随時配布する「リアクション・ペーパー」の提出状況、記載内容などを平常点として加味し、総合的に判断して評価する。
教科書／テキスト	老川慶喜・仁木良和・渡邊恵一『日本経済史-太閤検地から戦後復興まで-』（税務経理協会、2940円、ISBN4-419-04025-4）。 補助教材として、資料・図表をまとめたプリントを講義時に配布する。後日になって再び参照する資料もあるので、各自ファイルして毎回持参すること。
参考書	上記教科書の巻末に掲載。個別の問題に関する文献は、講義の中でその都度紹介する。
その他	日本史の知識不問(挫折者歓迎!)。「経済学」を遠巻きに見ている他学部の方も、ぜひ受講してみてください。

履修コード	091101
科目名	日本経済論
担当者名	小林 正人

講義の到達目標(ねらい)	日本経済の(第二次世界大)戦後の歴史について基本的な知識を講義するとともに、経済発展と産業発展を構造的に理解するための視点を提示する。日本は高度経済成長により「経済大国」になり、1970年代の石油ショックを乗り越えてきたが、1990年代初頭のバブル経済の崩壊のあとには長い不況と「産業空洞化」におちいった。2000年代初頭には長期の好況と雇用劣化の同時進行となり、2008年リーマン・ショックによって「産業空洞化」の新局面を迎えつつある。 このような経済発展や構造変化の意味をリアルにつかむために、産業や企業のレベルにまで立ち入り、技術発展や企業間競争の実態について講義する。
講義の内容／授業スケジュール	1. 日本経済の戦後史 (1～3)戦後史の時期区分と概要、(4～5)景気の現状と雇用情勢、(6)戦後改革、(7～10)日本の高度経済成長の国内原因と海外要因、(11)産業政策と経済成長、(12)石油ショックの展開、(13～15)円高、バブル経済、平成不況 2. 日本の経済発展とイノベーション (16～17)イノベーションと産業構造、(18～19)産業分類と製造業、(20～22)自動車産業の発展と生産システム、(23～24)半導体産業の発展と国際的特質、(25～26)鉄鋼、電機、工作機械等の産業の発展過程 3. 戦後日本の景気循環(27～29) 4. 日本の経済発展と日本型経済システムの展望(30)
準備学習	世界史と日本史の基礎知識が必要。下記の「履修上の留意点」と「参考書」を参照。
履修上の留意点	講義資料をひんばんに配付する。一度しか配付しないので確実に収集し、授業に持参して保管し、定期試験にそなえることが必要である。教場の前面のスクリーンに講義資料を表示しながら講義をすすめるので、見やすい位置に着席すること。プレゼンテーション中心で板書が少ない講義である。なお、ほとんどの講義資料は「小林研究室」のウェブサイト{ http://www.komazawa-u.ac.jp/~kobamasa/ }の「講義」の「日本経済論」のサイトにもできるだけ載せるようにしている。
成績評価の方法	定期試験の成績と、講義の節目に出題する数回の小論文またはレポートの達成度とを総合して評価する。
教科書／テキスト	なし。
参考書	適時紹介する。なお、経済学概念や経済用語を調べるための辞典ないし事典を一つは常備してもらいたい(有斐閣、岩波書店、東洋経済新報社などが出版している)。
その他	講義についての質問を歓迎します。ただしそのときは、関連する講義資料を持参することが重要です(有意義な回答のため)。

履修コード	309801
科目名	日本経済論
担当者名	小林 正人

講義の到達目標(ねらい) 日本経済の(第二次世界大)戦後の歴史について基本的な知識を講義するとともに、経済発展と産業発展を構造的に理解するための視点を提示する。日本は高度経済成長により「経済大国」になり、1970年代の石油ショックを乗り越えてきたが、1990年代初頭のバブル経済の崩壊のあとは長い不況と「産業空洞化」におちいった。2000年代初頭には長期の好況と雇用劣化の同時進行となり、2008年リーマン・ショックによって「産業空洞化」の新局面を迎えつつある。
このような経済発展や構造変化の意味をリアルにつかむために、産業や企業のレベルにまで立ち入り、技術発展や企業間競争の実態について講義する。

講義の内容／授業スケジュール

1. 日本経済の戦後史
(1~3)戦後史の時期区分と概要、(4~5)景気の現状と雇用情勢、(6)戦後改革、(7~10)日本の高度経済成長の国内原因と海外要因、(11)産業政策と経済成長、(12)石油ショックの展開、(13~15)円高、バブル経済、平成不況
2. 日本の経済発展とイノベーション
(16~17)イノベーションと産業構造、(18~19)産業分類と製造業、(20~22)自動車産業の発展と生産システム、(23~24)半導体産業の発展と国際的特質、(25~26)鉄鋼、電機、工作機械等の産業の発展過程
3. 戦後日本の景気循環 (27~29)
4. 日本の経済発展と日本型経済システムの展望 (30)

準備学習 世界史と日本史の基礎知識が必要。下記の「履修上の留意点」と「参考書」を参照。

履修上の留意点 講義資料をひんばんに配付する。一度しか配付しないので確実に収集し、授業に持参して保管し、定期試験にそなえることが必要である。教場の前面のスクリーンに講義資料を表示しながら講義をすすめるので、見やすい位置に着席すること。プレゼンテーション中心で板書が少ない講義である。なお、ほとんどの講義資料は「小林研究室」のウェブサイト{<http://www.komazawa-u.ac.jp/~kobamasa/>}の「講義」の「日本経済論」のサイトにもできるだけ載せるようにしている。

成績評価の方法 定期試験の成績と、講義の節目に出題する数回の小論文またはレポートの達成度とを総合して評価する。

教科書／テキスト なし。

参考書 適時紹介する。なお、経済学の概念や経済用語を調べるための辞典ないし事典を一つは常備してもらいたい(有斐閣、岩波書店、東洋経済新報社などが出版している)。

その他 講義についての質問を歓迎します。ただしそのときは、関連する講義資料を持参することが重要です(有意義な回答のため)。

履修コード	095811
科目名	ネットワーク組織論 a
担当者名	梅木 眞

講義の到達目標(ねらい) 20世紀は「(巨大)組織の時代」であった。しかし、21世紀を迎えた今、そうした潮流は大きく変わりつつある。これまで支配的であった巨大組織に代わり、「組織のネットワーク」が重要な存在となってきた。本講義では組織のネットワークの形成・発展のメカニズムと、そのマネジメントについて学んでいくこととする。

講義の内容／授業スケジュール

1. はじめに
2. 市場と組織
3. ピラミッド型組織
4. 分権型組織
5. 組織間ネットワーク
6. 組織間ネットワークのマネジメント (1)-資源依存の観点
7. 組織間ネットワークのマネジメント (2)-組織学習の観点
8. 組織間ネットワークのマネジメント (3)-外部経済の観点
9. 戦略的提携とアウトソーシング (1)
10. 戦略的提携とアウトソーシング (2)
11. M&A (1)
12. M&A (2)
13. グループ経営
14. バーチャル組織とインターネット
15. まとめ

履修上の留意点 私語を繰り返す学生は、履修を取り消す。

成績評価の方法 期末試験による評価(100%)を行う。出席はとらないが、質問に対して挙手で答えた学生に対しては1回につき5~10点を試験成績に上乘せする。

教科書／テキスト (使用しない)

参考書 山倉健嗣『新しい戦略マネジメント-戦略・組織・組織間関係』同文館出版、2940円 ISBN:978-4-495-37701-4

履修コード	095821
科目名	ネットワーク組織論 b
担当者名	梅木 眞

講義の到達目標(ねらい) 現代は巨大企業中心の社会から中小企業・地域企業・コミュニティビジネス・NPOなど多様な組織から成る社会へと移行しつつある。また、インターネットの普及は従来型のビジネスモデルを大きく変えてしまった。本講義ではそれらの組織が織り成すネットワークと、その社会に対する影響について学んでいくこととする。

講義の内容／授業スケジュール

1. はじめに
2. 均質化社会から多様性社会への移行
3. 中堅・中小企業の台頭とネットワーク
4. クラスタ (1) 概論
5. クラスタ (2) 事例分析①
6. クラスタ (3) 事例分析②
7. 産学官のネットワーク (1) 概論
8. 産学官のネットワーク (2) 事例分析①
9. 産学官のネットワーク (3) 事例分析②
10. コミュニティビジネス (1) 概論
11. コミュニティビジネス (2) 事例分析
12. NPO (1) 概論
13. NPO (2) 事例分析
14. ネットワーク組織におけるメディアと情報
15. まとめ

履修上の留意点 私語を繰り返す学生は、履修を取り消す。

成績評価の方法 期末試験による評価 (100%) を行う。出席はとらないが、質問に対して挙手で答えた学生に対しては1回につき5～10点を試験成績に上乘せする。

教科書／テキスト 使用しない。

参考書 中小企業総合研究機構『産業集積の新たな胎動』同友館、2730円、ISBN：4-496-03702-5
五十嵐敬喜・天野礼子『市民事業』中公新書 ラクレ、ISBN：4-12-150085-7

履修コード	093501
科目名	農業政策
担当者名	溝手 芳計

講義の到達目標(ねらい) 「現代農業と食料・農業政策の展開」を基本テーマとする。
 ①農業の産業的特質と現下の農業の急激な変化を理解する。②WTO農業協定における世界的な農業政策ルールの変化の特徴と意義を知る。③市場経済における価格メカニズムの機能との関連で、価格政策の縮小=直接支払いへの移行という政策ツールの変化について考察する。④これらを念頭に置きつつ、日本の農業問題の特質と食料・農業・農村政策の歩み・現状について考察する。⑤あわせて、日本及び世界の食料問題と対策について検討する。以上5項目について、基礎的な知識を伝授することを目標とする。

講義の内容／授業スケジュール

第1回：農業政策とは？
 第2回：食料問題と食料政策(1)食料問題とは何か(需要・供給・分配)
 第3回：食料問題と食料政策(2)食料自給率低下と需要サイドの要因(需要の所得弾力性、食生活の近代化)
 第4回：食料問題と食料政策(3)食料自給率低下と供給サイドの要因(市場開放、外国為替レート)
 第5回：食料問題と食料政策(4)市場経済下における食の外部化・サービス化とフードシステム
 第6回：食料問題と食料政策(5)フードシステムの発展とアグリビジネスの影響力拡大
 第7回：食料問題と食料政策(6)グローバル化と食料・食品安全問題
 第8回：農業の特質と現代農業(1)農業の産業的特質(生物資源培養産業、環境関連産業)
 第9回：農業の特質と現代農業(2)農業の産業的特質(土地利用産業)
 第10回：農業の特質と現代農業(3)現代農業革命と農業・食の工業化
 第11回：農業の特質と現代農業(4)農業・食の工業化とアグリビジネスの浸透(契約生産を中心に)
 第12回：日本の農業問題と農業政策(1)日本の農業政策を見る目(零細農耕、資本蓄積、農村振興)
 第13回：日本の農業問題と農業政策(2)零細農耕の形成と温存(自然的要因、地租改正・農地改革)
 第14回：日本の農業問題と農業政策(3)高度成長と農業基本法(構造改善、選択的拡大、所得均衡)
 第15回：日本の農業問題と農業政策(4)低成長への移行と地域農政(財政危機、米過剰、地域農政)
 第16回：日本の農業問題と農業政策(5)ブラザ合意=円高、日米経済摩擦=市場開放と日本農業
 第17回：日本の農業問題と農業政策(6)WTO農業協定と日本の農政改革
 第18回：日本の農業問題と農業政策(7)食料・農業・農村基本法
 第19回：日本の農業問題と農業政策(8)政権交代と農業政策
 第20回：農産物価格と価格・所得政策(1)市場経済における価格の役割と農産物価格問題
 第21回：農産物価格と価格・所得政策(2)農産物価格形成の特殊性(土地利用産業と差額地代)
 第22回：農産物価格と価格・所得政策(3)農産物価格形成の特殊性(家族経営、寡占と不等価交換)
 第23回：農産物価格と価格・所得政策(4)農産物価格政策の2類型(価格支持と不足払い)
 第24回：農産物価格と価格・所得政策(5)戦後日本の価格政策(米価政策を中心に)
 第25回：農産物価格と価格・所得政策(6)価格政策から直接支払いへ(市場を経由しない農家支援へ)
 第26回：世界の農業・農業政策(1)アメリカの農産物貿易と世界市場戦略
 第27回：世界の農業・農業政策(2)EUにおける農業・食品関連産業の動向と共通農業政策改革
 第28回：世界の農業・農業政策(3)グローバル化と新興農業国チリの農業
 第29回：世界の農業・農業政策(4)グローバル化で苦しむ後発途上国農業
 第30回：新しい食料・農業・農村政策をめざして(農業・食料における市場の意義と限界)

準備学習 教科書を予習して授業を受けるよう、希望します。

履修上の留意点 充実した授業は、教員の努力だけでできるものではありません。授業中に「コミュニケーション・カード」を配布しますので、授業の感想や質問、意見を書いてください。授業改善の参考にします。

成績評価の方法 成績評価は、定期試験を基本としますが、授業中の小テストの結果を加味します(総点の20%以下)。追試験有り。

教科書／テキスト 田代洋一『新版農業問題入門』、大月書店、3150円、ISBN978-4-272-14046-6
 中野一新・岡田知弘編『グローバル化と世界の農業』、大月書店、3150円、ISBN978-4-272-14055-8
 ※ どちらも、授業中には使いませんが、予復習してください。

参考書 大塚茂・松原豊彦編『現代の食とアグリビジネス』、有斐閣、2100円、ISBN4-641-28094-0
 加瀬良明編著『グローバル資本主義と農業』、筑波書房、2940円、ISBN978-4-8119-0332-3 C3033

履修コード	097071
科目名	非営利組織論 a
担当者名	松本 典子

講義の到達目標(ねらい) 非営利組織（非営利セクターに属する組織）には、営利セクター・行政セクターに含まれないNPO法人、社会福祉法人、学校法人、医療法人、公益法人、協同組合など多種多様な組織が包含されます。非営利組織は、政府・行政や企業活動の行き詰まりが顕在化する中で、介護分野、まちづくり分野、環境分野、国際協力分野などにおいて活躍の場を着実に拡大し、雇用創出面における期待も増大し、経済活動の主体としてその役割が無視できない存在に発展しています。また、行政や企業と非営利組織との協働（コラボレーション）も活性化しています。
本講義では、非営利組織の現実を踏まえて、営利／非営利組織の共通性／差異性を明確化し国際比較を行うことによって、非営利組織とは何か、とくに非営利事業体を含めてその発展の課題や社会的な存在意義に関する理解が深められる授業を行います。

講義の内容／授業スケジュール

- ・非営利組織の定義と範囲（1～3）
- ・非営利組織に関する法、税制度および経済規模（4～5）
- ・非営利組織の活動分野【福祉、まちづくり、環境等】（6～9）
- ・非営利事業体、コミュニティ・ビジネス、社会的企業（10～12）
- ・非営利組織の国際比較（13～14）
- ・非営利組織論 a のまとめ（15）
- ・定期試験

準備学習 インターネットで自分の住む地域の「NPO法人」を検索してください。

履修上の留意点 講義に主体的・積極的に参加する学生の履修を望みます。駒澤大学E-Learningシステム「YesStudy」に必ず登録してください。レポート提出などに利用します。

成績評価の方法 成績は、定期試験70%、出席率・授業態度・レポート等30%で、総合的に評価します。

教科書／テキスト 特に指定しません。

参考書

- ・雨森孝悦『テキストブックNPO』東洋経済新報社、2007年。
- ・川口清史・田尾雅夫・新川達郎編『よくわかるNPO・ボランティア』ミネルヴァ書房、2005年。
- ・田尾雅夫・吉田忠彦『非営利組織論』有斐閣、2009年。
- ・山岡義典編著『NPO基礎講座・新版』ぎょうせい、2005年。

その他 講義形式で行います。適宜、レジュメを配布し、参考文献や関連HPを紹介しします。また、画像、映像等の利用や現場で活動する人の講演なども交えることによって、できるだけ非営利組織の現実を実感できるように講義を進めています。

履修コード	314371
科目名	非営利組織論 a
担当者名	松本 典子

講義の到達目標(ねらい) 非営利組織（非営利セクターに属する組織）には、営利セクター・行政セクターに含まれないNPO法人、社会福祉法人、学校法人、医療法人、公益法人、協同組合など多種多様な組織が包含されます。非営利組織は、政府・行政や企業活動の行き詰まりが顕在化する中で、介護分野、まちづくり分野、環境分野、国際協力分野などにおいて活躍の場を着実に拡大し、雇用創出面における期待も増大し、経済活動の主体としてその役割が無視できない存在に発展しています。また、行政や企業と非営利組織との協働（コラボレーション）も活性化しています。
本講義では、非営利組織の現実を踏まえて、営利／非営利組織の共通性／差異性を明確化し国際比較を行うことによって、非営利組織とは何か、とくに非営利事業体を含めてその発展の課題や社会的な存在意義に関する理解が深められる授業を行います。

講義の内容／授業スケジュール

- ・非営利組織の定義と範囲（1～3）
- ・非営利組織に関する法、税制度および経済規模（4～5）
- ・非営利組織の活動分野【福祉、まちづくり、環境等】（6～9）
- ・非営利事業体、コミュニティ・ビジネス、社会的企業（10～12）
- ・非営利組織の国際比較（13～14）
- ・非営利組織論 a のまとめ（15）
- ・定期試験

準備学習 インターネットで自分の住む地域の「NPO法人」を検索してください。

履修上の留意点 講義に主体的・積極的に参加する学生の履修を望みます。

成績評価の方法 成績は、定期試験70%、出席率・授業態度・レポート等30%で、総合的に評価します。

教科書／テキスト 最初の講義で指定します。

参考書

- ・雨森孝悦『テキストブックNPO』東洋経済新報社、2007年。
- ・川口清史・田尾雅夫・新川達郎編『よくわかるNPO・ボランティア』ミネルヴァ書房、2005年。
- ・田尾雅夫・吉田忠彦『非営利組織論』有斐閣、2009年。
- ・山岡義典編著『NPO基礎講座・新版』ぎょうせい、2005年。

履修コード	097081
科目名	非営利組織論 b
担当者名	松本 典子

講義の到達目標(ねらい) 非営利組織（非営利セクターに属する組織）には、営利セクター・行政セクターに含まれないNPO法人、社会福祉法人、学校法人、医療法人、公益法人、協同組合など多種多様な組織が含まれます。非営利組織は、政府・行政や企業活動の行き詰まりが顕在化する中で、介護分野、まちづくり分野、環境分野、国際協力分野などにおいて活躍の場を着実に拡大し、雇用創出面における期待も増大し、経済活動の主体としてその役割が無視できない存在に発展しています。また、行政や企業と非営利組織との協働（コラボレーション）も活性化しています。本講義では、非営利組織論aで学習した内容に基づき、「営利／非営利」、「社会的企業」、「社会起業家」、「コミュニティ・ビジネス」、「ソーシャル・キャピタル」等をキーワードに、非営利組織の経営学を学びます。

講義の内容／授業スケジュール

- ・非営利組織の存在理由（1～2）
- ・非営利組織の法制・税制（3～4）
- ・社会起業家とは何か（5～6）
- ・非営利組織のガバナンス、マネジメントの基本的特徴、経営戦略、資金調達など（7～11）
- ・非営利組織のネットワーク、行政・企業との協働（12～14）
- ・非営利組織論bのまとめ（15）
- ・定期試験

準備学習 非営利組織論aの内容を復習してください。

履修上の留意点 講義に主体的・積極的に参加する学生の履修をのぞみます。講義内容は、非営利組織論aを履修していることを前提とします。駒澤大学E-Learningシステム「YeStudy」に必ず登録してください。レポート提出などに利用します。

成績評価の方法 成績は、定期試験70%、出席率・授業態度・レポート等30%で、総合的に評価します。

教科書／テキスト 特に指定しません。

参考書

- ・風見正三・山口浩平編著『コミュニティビジネス入門』学芸出版社、2009年。
- ・川口清史・田尾雅夫・新川達郎編『よくわかるNPO・ボランティア』ミネルヴァ書房、2005年。
- ・塚本一郎・山岸秀雄編著『ソーシャル・エンタープライズ』丸善、2008年。
- ・パブリックリソースセンター編『NPO実践マネジメント入門』東信堂、2009年。
- ・山岡義典・雨宮孝子編著『NPO実践講座・新版』ぎょうせい、2008年。

その他 講義形式で行います。適宜、レジュメを配布し、参考文献や関連HPを紹介し、また、画像、映像等の利用や現場で活動する人の講演なども交えることによって、できるだけ非営利組織の現実を実感できるように講義を進めています。

履修コード	314381
科目名	非営利組織論 b
担当者名	松本 典子

講義の到達目標(ねらい) 非営利組織（非営利セクターに属する組織）には、営利セクター・行政セクターに含まれないNPO法人、社会福祉法人、学校法人、医療法人、公益法人、協同組合など多種多様な組織が含まれます。非営利組織は、政府・行政や企業活動の行き詰まりが顕在化する中で、介護分野、まちづくり分野、環境分野、国際協力分野などにおいて活躍の場を着実に拡大し、雇用創出面における期待も増大し、経済活動の主体としてその役割が無視できない存在に発展しています。また、行政や企業と非営利組織との協働（コラボレーション）も活性化しています。本講義では、非営利組織論aで学習した内容に基づき、「営利／非営利」、「社会的企業」、「社会起業家」、「コミュニティ・ビジネス」、「ソーシャル・キャピタル」等をキーワードに、非営利組織の経営学を学びます。

講義の内容／授業スケジュール

- ・非営利組織の存在理由（1～2）
- ・非営利組織の法制・税制（3～4）
- ・社会起業家とは何か（5～6）
- ・非営利組織のガバナンス、マネジメントの基本的特徴、経営戦略、資金調達など（7～11）
- ・非営利組織のネットワーク、行政・企業との協働（12～14）
- ・非営利組織論bのまとめ（15）
- ・定期試験

準備学習 非営利組織論aの内容を復習してください。

履修上の留意点 講義に主体的・積極的に参加する学生の履修をのぞみます。講義内容は、非営利組織論aを履修していることを前提とします。

成績評価の方法 成績は、定期試験70%、出席率・授業態度・レポート等30%で、総合的に評価します。

教科書／テキスト 最初の講義で指定します。

参考書

- ・風見正三・山口浩平編著『コミュニティビジネス入門』学芸出版社、2009年。
- ・川口清史・田尾雅夫・新川達郎編『よくわかるNPO・ボランティア』ミネルヴァ書房、2005年。
- ・塚本一郎・山岸秀雄編著『ソーシャル・エンタープライズ』丸善、2008年。
- ・パブリックリソースセンター編『NPO実践マネジメント入門』東信堂、2009年。
- ・山岡義典・雨宮孝子編著『NPO実践講座・新版』ぎょうせい、2008年。

履修コード	099311
科目名	ビジネス・インターンシップ a
担当者名	小栗 崇資 北口 りえ

講義の到達目標(ねらい)	「ビジネス・インターンシップ a」は、皆さんが企業や団体での現場研修を受けるために必要な社会的常識や作法・知識を身につけるための科目です。 また現場研修に関わる「ビジネス・インターンシップ b」を受講するためには、この科目の単位の修得が条件となりますので、真剣に受講することが求められます。
講義の内容／ 授業スケジュール	「ビジネス・インターンシップ a」では、教室での授業を通じて、企業に入ってから現場研修で最低限必要な社会人としての素養や基礎知識を修得するために必要な準備トレーニングを行います。経営者・団体役員・専門家を招聘し、次のような点を目標にして授業を進めます。 ・ 講義ガイダンス (1) ・ インターンシップの目標とプログラムについての理解 (2～3) ・ 仕事のルールとビジネスマナーの修得 (4～8) ・ 自己分析トレーニングと各自の目標・計画の設定 (9～10) ・ インターンシップ先についての研究 (11～12) ・ インターンシップ先の確定と研修計画の相談 (13～15)
履修上の留意点	(1) この科目はa(前期)とb(後期)に分かれています。登録時は必ずab2つセットで登録してください。aのみ、あるいはbのみの登録および履修は認めません。 (2) 単位認定は、a、bそれぞれに2単位を認めますが、a(前期)の2単位を修得できなかった場合は、b(後期)の履修と単位は認められません。 (3) ビジネス・インターンシップ a(前期)を登録・履修できる商学科・現代応用経済学科の学生は、演習Ⅱに所属している3年生だけです。 (4) 受講希望者は、最初の授業に必ず出席してください。
成績評価の方法	出席と授業中の課題とレポートおよび受講態度で総合的に評価します。授業に対する取り組み方自体も、インターンシップに対する心構えの一環となりますので、安易な考えで受講しないようにしてください。
教科書／テキスト	教科書は使用しません。必要に応じてプリントを配布します。 社会に出ると、メモの取り方も重要なポイントとなりますので、5W1Hの観点からメモを取る方法を身につけるように努力してください。

履修コード	100951
科目名	ビジネス・インターンシップ a
担当者名	溝手 芳計 谷敷 正光

講義の到達目標(ねらい)	「ビジネス・インターンシップ a」は、皆さんが企業や団体で現場の実習を受けるために必要な社会的常識や作法・知識を身につけるための科目です。 実習科目である「ビジネス・インターンシップ b」を受講するには、この科目の単位を修得することが条件となります。事故なく、実りある実習にするため、真剣に受講することが求められます。
講義の内容／ 授業スケジュール	「ビジネス・インターンシップ a」では、教室での授業を通じて、企業等の現場における実習で最低限必要な、社会人としての素養や基礎知識を習得するための準備トレーニングを行います。ビジネス研修の専門家・団体役員等を招聘し、次のような点を目標にして授業を進めます。 ・ 講義ガイダンス (1) ・ インターンシップの目標とプログラムについて (2～3) ・ 仕事のルールとビジネスマナー (4～6) ・ 自己分析トレーニングと各自の目標・計画 (7～8) ・ インターンシップ先の確定作業とその研究 (9～12) (各ゼミで、ゼミ担当教員の指導のもとに進める) ・ 実習先企業・団体に関する資料作成 (13～14) ・ インターンシップ実習先の確定と研修計画の相談 (15) (各ゼミで、ゼミ担当教員の指導のもとに進める) * 授業計画は事情により多少変わる場合があります。
準備学習	授業中の指示に従ってください。
履修上の留意点	①この科目は、経済学科の3年次生のみを対象として開講されている専門・選択科目です。実習科目である「ビジネス・インターンシップ b」(後期)を履修するためには、この「ビジネス・インターンシップ a」(前期)を履修し、単位を修得することが必要となります。受講希望者は、第1回目の講義時間に必ず出席してください。 ②「ビジネス・インターンシップ b」(実習科目、後期)は、演習Ⅱの担当者がこの科目を開講しているゼミの学生のみ履修が可能です。履修登録前に、開講されているかどうかを必ず確認してください。 ③履修登録のさいには、必ず「a」「b」の2科目をセットで登録してください。 ④現場実習の事前学習として、時間厳守等を社会人マナーを重視します。
成績評価の方法	授業中の課題とレポートおよび受講態度で総合的に評価します。授業に対する取り組み方自体も、インターンシップに対する心構えの一環となりますので、安易な考えで受講しないようにしてください。
教科書／テキスト	教科書は使用しません。必要に応じてプリントを配布します。 社会に出ると、メモの取り方も重要なポイントとなりますので、5W1Hを絶えず考えてメモをとるという方法を身につけるよう努力してください。

履修コード	113171
科目名	ビジネス・インターンシップ b
担当者名	阿部 弘

講義の到達目標(ねらい)	この演習では、企業社会の現実・内容などについて、演習を通じて体現していくことが要求される。
講義の内容／ 授業スケジュール	演習は次の3つの過程を経る。 (1)：前期中に希望する職種の決定と実習先の選定。関連する授業等の履修。 (2)：夏季(8月)に実習をする。 (3)：後期に、実習のまとめと報告書の作成。
成績評価の方法	定期試験などはしない。評価は「スケジュール」の総合的評価とする。
その他	この演習講義は、阿部弘ゼミナール(演習Ⅱ)生にのみ履修が許可される。なお、参考文献などはその都度指定する。

履修コード	113011
科目名	ビジネス・インターンシップ b
担当者名	石川 純治

講義の到達目標(ねらい)	インターンシップのねらいは、企業や団体での現場実習を通して専門的な就業体験をすることにあります。受講生の自覚と責任がきびしく要求される科目です。
講義の内容／授業スケジュール	ゼミにて説明します。
履修上の留意点	このインターンシップは私の演習IIに所属する経済学科の学生しか取れません。演習の中で希望者と相談したいと思います。
成績評価の方法	事前の講義への出席点とインターンシップ研修および事後のレポートで評価します。
教科書／テキスト	講義の際に必要な資料を配布します。
その他	3年次生のみ履修可能な科目です。

履修コード	113021
科目名	ビジネス・インターンシップ b
担当者名	石川 祐二

講義の到達目標(ねらい)	インターンシップは、学生が企業等で実習する体験を通じて、働くことの意味を考えることを目的としています。
講義の内容／授業スケジュール	7月：インターンシップ先の決定 8月～9月上旬：インターンシップ研修 9月～10月：研修についてのレポート作成
履修上の留意点	インターンシップは、演習IIに所属する学生のうち、経済学科の学生に履修が限定されます。また、企業等にお世話になるため、自らの責任を自覚して下さい。
成績評価の方法	研修内容とレポートを中心に評価します。
教科書／テキスト	適宜指示します。
その他	3年次生のみ履修可能です。

履修コード	113031
科目名	ビジネス・インターンシップ b
担当者名	岩波 文孝

講義の到達目標(ねらい)	ビジネス・インターンシップは、企業や団体の現場実習を通じて就業体験をすることにより、自分の適性を発見し、就業することや社会について認識を深め、人生設計など自らの将来像を描くための授業です。
講義の内容／授業スケジュール	研修に関する自己評価(1～5)、研修に関するレポート作成(6～10)、レポートに基づく発表(11～13)、各受講生における今後の課題に関するレポートの作成(14～15)
履修上の留意点	現場実習を行なうので、受講生の自覚と責任がきびしく要求されます。この科目は、演習II(岩波ゼミ)を受講する経済学科の学生のみが履修できます。受け入れ先や研修の調整作業が必要となるとともに、受け入れ先の都合で、時期・期間が変更になることもあります。 次の点を必ず確認して履修してください。 1. 無責任な受講はやめましょう。インターンシップbは多くの企業・団体のご協力によって行われます。無責任な受講は、研修先に多大なご迷惑をかけることとなりますので、注意してください。 2. 研修の際の経費(交通費や被服費等)は受講生の自己負担となりますので、了解しておいてください。あくまで研修ですので、勤務報酬も出ません。
成績評価の方法	インターンシップ事前準備、インターンシップ受け入れ先からの報告、および事後研修レポートにより評価します。
その他	演習II(岩波ゼミ)を履修する3年次生のみ履修可能な科目です。

履修コード	113151
科目名	ビジネス・インターンシップ b
担当者名	大石 雄爾

講義の到達目標(ねらい)	インターンシップのねらいは、学生が企業等の実習を通して就業体験をし、働くことの意味を考えることにあります。
講義の内容／授業スケジュール	第1回目のゼミで説明します。
履修上の留意点	このインターンシップは、私の演習IIに所属する経済学科の学生のみ履修することができます。希望する学生は、前期科目「ビジネス・インターンシップa」を履修する必要があります。
成績評価の方法	インターンシップ実習報告書および事後のレポートで評価します。

履修コード	112961
科目名	ビジネス・インターンシップb
担当者名	小栗 崇資

講義の到達目標(ねらい) 「ビジネス・インターンシップb」は皆さんに企業や団体での現場研修を受けてもらい、そうした就業体験を通じて、活きた経済・経営の動向を理解し、より高度な専門学習への意欲を高めることをねらいとしたユニークな科目です。受講生の自覚と責任がきびしく要求されますが、そうしたハードルを越えることで貴重な体験学習をすることができます。研修先は、中小企業が中心ですが、そのほかにも商店、生協、NGO・NPO、自治体など多様な体験のできる場を予定しています。

講義の内容／授業スケジュール (1) 実際の研修は夏休み期間に実施されます。原則として、8月上旬から9月上旬に約1～2週間の研修を行います。
(2) 後期は、研修についてのレポート作成を行います。また「インターンシップ報告書」の刊行も予定しています。

履修上の留意点 これは私の演習Ⅱに所属する経済学科3年生のみが履修できる科目です。研修先の企業についてや履修上の心得や注意事項についてはゼミで指導します。

成績評価の方法 研修先の評価を参考に、研修後のレポートによって評価します。

履修コード	099321
科目名	ビジネス・インターンシップb
担当者名	小栗 崇資 北口 りえ

講義の到達目標(ねらい) 「ビジネス・インターンシップb」は皆さんに企業や団体での現場研修を受けてもらい、そうした就業体験を通じて、活きた経済・経営の動向を理解し、より高度な専門学習への意欲を高めることをねらいとしたユニークな科目です。受講生の自覚と責任がきびしく要求されますが、そうしたハードルを越えることで貴重な体験学習をすることができます。研修先は、中小企業が中心ですが、そのほかにも商店、生協、NGO・NPO、自治体など多様な体験のできる場を予定しています。

講義の内容／授業スケジュール (1) 実際の研修は夏休み期間に実施されます。原則として、8月上旬から9月上旬に約2週間の研修を行います。
(2) 後期は、研修についてのレポート作成を行います。また「インターンシップ報告書」の刊行も予定しています。

履修上の留意点 次の点を必ず確認して履修してください。
1. 無責任な受講はやめましょう。インターンシップbは多くの企業・団体のご協力によって行われます。無責任な受講は、研修先に多大なご迷惑をかけることになりますので、注意してください。
2. ビジネス・インターンシップaの単位を修得していないと、現場研修を内容とするビジネス・インターンシップbを受けることはできません。
3. 研修の際の経費(交通費や被服費等)は受講生の自己負担となりますので、了解しておいてください。あくまで研修ですので、勤務報酬も出ません。
4. ビジネス・インターンシップbを受講できる学生は、演習Ⅱに所属している3年生に限定されます。

成績評価の方法 基本的には研修後のレポートによって成績評価しますが、研修先の評価なども参考に判断します。

履修コード	113181
科目名	ビジネス・インターンシップb
担当者名	北口 りえ

講義の到達目標(ねらい) ビジネス・インターンシップbは、企業など実際の職場で就業体験をすることにより、働くということがどういうことなのか、自分の適性にあった仕事はどのような仕事なのかということについて考え、就職活動において自己の適性にあった就職先を主体的に選択することができるようになることを目的としています。

講義の内容／授業スケジュール ゼミにて説明します。

履修上の留意点 私の演習Ⅱに所属する経済学科の学生のみ履修できます。

成績評価の方法 インターンシップの研修状況や研修後の報告書等により評価します。

教科書／テキスト 3年次生のみ履修可能な科目です。
「ビジネス・インターンシップa」の単位を修得していないと、「ビジネス・インターンシップb」を履修することはできません。

履修コード	112941
科目名	ビジネス・インターンシップb
担当者名	小西 宏美

講義の到達目標(ねらい) インターンシップに参加することで、「働くこと」の意味を考え、社会人としてのマナーを身につける。

講義の内容／授業スケジュール 夏季休暇中にインターンシップを行う。
インターンシップ先は学生自身が見つかること。

履修上の留意点 この科目は、小西ゼミの演習Ⅱを受講している経済学科学生しか登録できません。ビジネス・インターンシップaとセットで登録して下さい。

成績評価の方法 インターンシップ後に提出する報告書に基づいて評価します。

履修コード	113061
科目名	ビジネス・インターンシップ b
担当者名	清水 卓

講義の到達目標(ねらい) インターンシップという科目が設けられたのは比較的最近のことです。その背景には、大学卒業生の3割が新規就職して3年以内に転職するという現象に現れているように、自己の適性にあった安定的な就職先を見つけることが困難となってきたことがあります。企業や団体その他公的機関等に就職しようと思っても、テレビ・新聞・就職サイトなどの一般向PR情報だけでは、職場の実際の姿を知ることができません。学生時代に企業や団体の現場を直接経験することで、自分を活かせる産業や企業など、就職先の選択を確かなものとすることができます。そして現場に立つことによって、今まで気が付かなかった自分の本当の姿を発見することもできるでしょう。

講義の内容／授業スケジュール 前期は講義形式での授業、夏休みに企業研修体験、後期に報告書をさまざまな資料を参考にして報告文書を作成します。

準備学習 各授業には事前に疑問や質問を用意して出席することが大切で、それは就職活動での説明会や面接に立ち向かうときと同じことです。

履修上の留意点 このインターンシップは私の演習II参加者のみ受講可能です。履修登録する人は、可能な限り至急私と連絡を取ってください。

成績評価の方法 事前の準備の質と量、事後のレポートで評価します。

教科書／テキスト 適宜指示します。

履修コード	113071
科目名	ビジネス・インターンシップ b
担当者名	代田 純

講義の内容／授業スケジュール 相手先の都合により変更となる可能性があるものの、岡三証券本社において夏休み中に3～4日間のインターンシップを予定している。

履修上の留意点 インターン期間中は岡三証券の社員と一緒にになります。このため男子の場合、茶髪、ひげ、長髪等は禁止されます。女子もこれに準じます。スーツ着用になります。

成績評価の方法 成績評価については、インターンの出席と相手先からの評価、事後のレポートで決定する。

その他 希望者多数の場合は、選抜となる。また留学生は日本語水準が高いことが必要です。

履修コード	113081
科目名	ビジネス・インターンシップ b
担当者名	瀬戸岡 紘

講義の到達目標(ねらい) 企業、商店、NGO、芸術団体、自治体など実際に経済活動や社会活動をおこなっている現場に出向いて作業や労働を経験してもらうことが目標です。相応の責任感が要求されますが、大学のキャンパス内では学べない多くのことを体験学習することができます。本学の構内は決して広くはありませんが、学外の広い世界をいわば広義の学園と見立てて大学生活にふくらみをもたせてみることをお勧めします。

講義の内容／授業スケジュール この科目のスケジュールは、大きく三つの時期にわけられます。前期は、学内の教室でおこなわれる授業をとおして、インターンシップをおこなうための基礎的知識の習得や最小限の基礎的訓練をおこないます。夏休みには、現場での実際の研修をおこないます。後期は、現場での研修について、レポートの作成と発表会をおこないます。

履修上の留意点 現場の作業や労働の迷惑にならないよう、責任を自覚できる学生に受講してもらいます。研修先を自分で探してくる学生は歓迎します。インターンシップに必要な交通費や衣服などの諸経費は自己負担になります。また、あくまで研修というたてまえから、報酬は支給されないことを了解しておいてください。

成績評価の方法 学内での授業、研修先からの評価、レポートや発表などを総合的に評価します。

教科書／テキスト とくにありません。ただし、随時、必要と思われるプリント等の配布はいたします。

履修コード	113161
科目名	ビジネス・インターンシップ b
担当者名	中濟 光昭

講義の到達目標(ねらい) 企業の現場に出向いて、どのような仕事をするのかを経験してもらうことがこの講義の狙いです。企業ではどのような仕事があるか、その仕事にどのような意味があるかがわかるようになることが目標です。

講義の内容／授業スケジュール ビジネス・インターンシップaやゼミにおいてインターンシップをおこなうための基礎的知識の習得や最小限の基礎的訓練をおこないます。夏休み等長期休暇を中心に1～2週間程度、現場での実際の研修をおこないます。終了時にインターンシップについて、レポートの作成と発表会をおこないます。

準備学習 ビジネス・インターンシップaの内容を理解することが前提となります。

履修上の留意点 ・就業体験受け入れ先を自力で探すことを前提に履修してもらいます。5月までにインターネットなどを通じて自分でインターンシップ先を探すことが必要です。
・会社の迷惑にならないよう、責任を自覚できる学生に受講してもらいます。無断遅刻・欠席があった場合、インターンシップを打ち切ります。
・インターンシップでは、報酬などが支給されませんので、あらかじめ了解ください。

成績評価の方法 ゼミでのビジネスマナー等に関する評価、研修先の評価、レポートや発表などを総合的に評価します。

教科書／テキスト とくにありません。必要と思われるプリント等の配布はいたします。

参考書 とくにありません。必要と思われるプリント等の配布はいたします。

その他 * 次の条件を満たさない場合受講できません。確認してから履修してください。
・中濟ゼミの演習IIを受講している3年生のみが登録できます。
・ビジネス・インターンシップaの単位を修得していないと、現場研修を内容とするビジネス・インターンシップbを受けることはできません。

履修コード	113091
科目名	ビジネス・インターンシップ b
担当者名	百田 義治

講義の到達目標(ねらい)	本科目は学生が企業や各種団体において現場研修を受け、その就業体験を通じて企業経営や団体活動の実際・動向を理解し、大学における専門科目の学習意欲を高めることを目指しています。
講義の内容／ 授業スケジュール	本科目では、講義にあたるものは、インターンシップ先における実際の研修です。研修期間は、原則として、夏休み期間です。通常は、約2週間～1ヶ月の研修が実施されます。
履修上の留意点	本科目は、百田ゼミの演習IIの受講生のみが登録できます。また、「ビジネス・インターンシップa」の単位を修得していない学生は「ビジネス・インターンシップb」を受けることはできません。
成績評価の方法	研修後のレポートおよび研修先の評価によって成績評価します。

履修コード	113041
科目名	ビジネス・インターンシップ b
担当者名	松本 典子

講義の到達目標(ねらい)	ビジネス・インターンシップは、企業やNPO等での就業体験を通じて「働く意味」を考えます。
講義の内容／ 授業スケジュール	4月：履修登録後、履修生の希望を受けて、受け入れ先との調整を行います。 主にNPO法人、財団法人、社会福祉法人をインターンシップ先として検討します。 7月：事前研修 8月～9月：1～2週間程度の就業体験 10月～12月：事後研修、レポートの作成
履修上の留意点	経済学部松本ゼミの演習IIの受講生のみが登録できます。 ビジネス・インターンシップaを必ず履修してください。
成績評価の方法	研修後のレポートおよび研修先の評価によって総合的に評価します。

履修コード	113191
科目名	ビジネス・インターンシップ b
担当者名	溝手 芳計

講義の到達目標(ねらい)	ビジネス・インターンシップbは、企業や団体での就業体験をとおり、働くことの意味や職業人としての基本姿勢を身につけ、あわせて大学での専門科目の学習意欲を高めることを目的とする科目です。
講義の内容／ 授業スケジュール	研修期間は、原則として夏休みですが、研修先探しや受け入れ先との打ち合わせ等のため、前期からの取り組みが必要です。詳しくは、4月最初の演習IIの時間に説明します。
履修上の留意点	(1) この科目は、経済学科、同FAの学生で溝手担当の「演習II」の受講生しか履修できません。 (2) 「ビジネス・インターンシップa」(経済学科向け)をきちんと履修してください。 (3) 研修先は、原則として受講生の責任で探してください。 (4) インターンシップの研修は、受け入れ先の企業・団体のご協力を頼って行われます。無責任な行為は、ご好意をアタで返すこととなりますので、安易な気持ちでの履修は謹んでください。 (5) 研修に要する費用(交通費等)は受講者の自己負担となります。あくまで研修ですので、報酬はありません。
成績評価の方法	研修先による評価、事後レポートで評価します。

履修コード	112931
科目名	ビジネス・インターンシップ b
担当者名	村松 幹二

講義の到達目標(ねらい)	企業や団体、自治体の現場で就業体験してもらい、「仕事」の現場を見ることで、活きた経済を学ぶことが目標です。それにより自らの進路選択と学習・研究目標の策定に役立てることをねらいとしています。
講義の内容／ 授業スケジュール	夏休みに、現場で実際の研修を行います。 後期は、現場での研修についてレポートの作成と発表会を行います。
履修上の留意点	ビジネス・インターンシップaの単位を修得しており、かつ、村松幹二ゼミ演習IIを履修しているものに限りません。 研修の際の交通費等の経費は自己負担であり、報酬は支給されないことを了解しておいてください。 現場の迷惑にならないよう、自覚を持って責任ある行動をとってください。
成績評価の方法	研修後のレポートや発表、研修先の評価などを総合的に評価します。
教科書／テキスト	とくにありません。研修先・研修目的等にあわせて適宜指示します。

履修コード	113131
科目名	ビジネス・インターンシップ b
担当者名	谷敷 正光

講義の到達目標(ねらい) インターンシップとは、学生が在学中に、企業、学校、教育委員会その他公共施設、各種団体などで研修生として「就業(職場)体験」を積むための制度です。
 インターンシップによって、実社会＝職場の実態を知り、自らの専攻分野や関心分野について大学の講義では学べない具体的な知識を得、「自己の適性」を的確に判断しながら、進路の選択や人生設計における主体性と問題解決能力の強化を図ろうとするものです。
 大学での普段の学習方式とは異なり、仕事の大変さや厳しさ、責任の重さややりがい(生きがい)など「就業(職場)体験」で得たものは、きっと貴重な生きた知識になるとともに就職活動の「自己啓発」にも大いに役立ちます。受け入れ先によっては企業経営に参加させてくれるなど、思わぬ貴重な体験をすることがあります。

講義の内容／授業スケジュール 前期 「インターンシップ a」履修
 後期 「インターンシップ b」履修
 ①前期5～7月頃、就業体験ができる受け入れ先を探す。
 ②【受け入れ先】
 ・ 各自で探す(インターンシップ紹介サイトなどで探す。サイトは授業中に紹介する。)
 ・ 経済学科で紹介する企業から探す。
 ・ キャリアセンターが実施するインターンシップを利用する。
 ③就業体験受け入れ先が決定したら「受け入れ先決定報告書」を演習(II)担当教員に提出。
 ④就業体験前に受け入れ先への挨拶と書類持参、受け入れ先との打ち合わせを行う。
 ⑤夏休みなどを利用して3日～1週間程度就業体験＝実践。
 ⑥10～11月頃レポート「インターンシップ報告」作成し、演習(II)担当教員に提出。
 ⑦「インターンシップ報告書」作成＝「インターンシップ報告」をインターンシップ担当教員に提出(④と同じもの)。

準備学習 日頃より新聞や雑誌を読み、産業や企業の動向と就職状況などに関心を持つこと。

履修上の留意点 (1) インターンシップは目的意識を持って参加すること。
 (2) インターンシップでは、受け入れ先との信頼関係の構築が大切です。
 (3) スケジュールは、受け入れ先の都合で時期・期間はいろいろです。

成績評価の方法 受け入れ先からの「就業報告」とレポート「インターンシップ報告」などで評価します。

教科書／テキスト その都度、必要な資料を配布する。
 受け入れ先に関する資料を配布する。

参考書 各自、必要に応じて読んで下さい。
 スピーキングエッセイ編『図解でよくわかる上手な話し方が身につく法』アスカ680円。
 渡部昌平『進路指導・就職支援マニュアル』大学教育出版1800円。
 山口憲二『キャリアデザインの多元化的探求』現代図書2667。
 『さ ビジネスマナー』NECユニバーシティ。
 安田佳生『仕事の選び方・人生の選び方』サンマーク出版1300円。
 門脇厚史『社会力を問う 大人の条件』岩波出版660円。
 安田雪『大学生の就職活動』中公新書660円。
 安河内哲也『それでいいのか大学生』ナガセブックス900円。
 香山リカ『就職がこわい』講談社1300円。
 小島貴子『就職迷子の若者たち』集英社660円。
 檜倉芳彦著『大学3年生になったらすぐ読む本』大和書房619円。
 『高感度をアップさせる「モノの言いよう」』PHP新書514円。
 武田哲男著『「顧客満足」の常識』PHPビジネス新書800円。
 高井伸夫著『3分以内に話はまとめなさい』かんき出版1300円。
 梅沢正著『職業とキャリア』学文社2415円。
 古閑博美著『インターンシップ』学文社2100円。
 高良和武著『インターンシップとキャリア』学文社2520円。
 野田・浜田著『会社のしくみが分かる本』日系ビジネス新書 667円。
 川合雅子著『キャリア発掘わたしの適性・適職発見』学文社1575円。

その他 ゼミ3年次生のみ履修が可能な科目です。「インターンシップ a」の履修を済ませることが必要です。

履修コード	112991
科目名	ビジネス・インターンシップ b
担当者名	矢野 浩一

講義の到達目標(ねらい) 「ビジネス・インターンシップb」は皆さんに企業や団体での現場研修を受けてもらい、そうした就業体験を通じて、活きた経済・経営の動向を理解し、より高度な専門学習への意欲を高めることがねらいである。

講義の内容／授業スケジュール (1) 実際の研修は夏休み期間に実施される。原則として、8月上旬から9月上旬に約2週間の研修を行う。
 (2) 後期は、研修についてのレポート作成を行う。

履修上の留意点 ビジネス・インターンシップaの単位を修得していないと、現場研修を内容とするビジネス・インターンシップbを受けることはできない。また、ビジネス・インターンシップbを受講できる学生は、矢野ゼミの演習IIに所属している3年生に限定される。受け入れ先企業・団体の迷惑に迷惑があってはならないため、社会人としての責任をしっかりと自覚できる学生のみを受講してもらう。

成績評価の方法 基本的には研修後のレポートによって成績評価するが、研修先の評価なども参考にして判断する。

履修コード	112971
科目名	ビジネス・インターンシップ b
担当者名	山縣 弘志

講義の到達目標(ねらい) ビジネス・インターンシップは、学生が企業やNPOなどでの就業体験を通じて、働くことの意味を考えることを目的としています。

講義の内容／授業スケジュール 4月：履修登録後、受け入れ先との調整を行います。
 7月：事前研修
 8月～9月：1～2週間程度の就業体験
 10月～12月：事後研修、レポートの作成

履修上の留意点 山縣ゼミの演習IIの受講生のみが登録できます。

成績評価の方法 研修後のレポートおよび研修先の評価によって総合的に評価します。

履修コード	112981
科目名	ビジネス・インターンシップ b
担当者名	吉田 真広

講義の到達目標(ねらい) 企業や団体での就業体験を通じて、社会人・職業人として必要な基本的な心構えや姿勢を身につけ、さらにその体験をレポートやプレゼンテーションの形で報告する能力も身につけることを目的としています。

講義の内容／授業スケジュール

- 1 夏季休業中に一定期間にわたって、企業において就業体験を行います。
- 2 インターンシップ体験のレポート作成と報告を行います。

履修上の留意点

- 1 実地研修をを必須条件とするため、何らかの理由から研修に参加できなかった場合、単位は認められません。
- 2 ビジネス・インターンシップ a の単位を修得していないと、ビジネス・インターンシップ b は受けられません。
- 3 研修の際の交通費、被服などの経費は自己負担です。
- 4 研修なので勤務報酬は出ません。

成績評価の方法 研修先による評価、レポート、報告によって総合的に判断します。

履修コード	112951
科目名	ビジネス・インターンシップ b
担当者名	渡邊 恵一

講義の到達目標(ねらい) 3年次の夏季休暇中、企業や各種団体で一定期間研修に従事し、その職場経験を大学における専門学習、あるいは自分の進路選択に生かす。

講義の内容／授業スケジュール (1)前期にビジネス・インターンシップ a を受講するとともに、各自で研修先を確定、(2)夏季休暇中、企業や各種団体で研修に従事、(3)研修の成果を報告書として作成・提出

履修上の留意点 対象は担当者の演習 II を受講する3年生のみ。前期開講のビジネス・インターンシップ a の単位修得ができなかった場合、この科目の履修は認められない。

成績評価の方法 研修報告書および受講生との面談から総合的に判断する。

履修コード	097141
科目名	ビジネス英会話 a
担当者名	井上 愛子

講義の到達目標(ねらい) 本講義の目的はビジネス英会話の基礎を学び応用練習をすることです。英語を使ってビジネスをする状況は異文化コミュニケーションの場ですので、ビジネスマナーのみならず文化背景の違う相手に対する配慮を学ぶことも重要です。授業では、語彙や英語表現をはじめとする言語コミュニケーションと同時にアイコンタクト、ジェスチャーなどの非言語コミュニケーションについても学習し、多様なビジネスの状況に役立つスキルを学習していきます。

講義の内容／授業スケジュール

講義

- 1 回目 インTRODakシヨン
- 2-4 回目 異文化コミュニケーションの学習とテキストに沿ったロールプレイ
- 5-6 回目 プレゼンテーション
- 7-10 回目 ビジネスマナー学習とグループプレゼンテーションの準備
- 11-12 回目 プレゼンテーション
- 13-15 回目 総合演習

履修上の留意点 社会人としてのマナーの練習だと思って授業に臨んでください。履修希望者は初回講義に必ず出席してください。

成績評価の方法 出席、プレゼンテーション、小テスト、課題提出物、テストなどを総合的に評価します。

教科書／テキスト ディビッド・ワグナー ビジネス英語速攻ハンドブック ワグナー・メソッド エクセレント・マニュアル「電話」コミュニケーション編 朝日出版社 1400円 ISBN4-255-99045-X

参考書 適宜授業中に案内します。

その他 英会話はスポーツのようなもので、お手本を真似して練習しながら自分のスタイルを体得していくものです。アウトプット重視の授業ですが、失敗はありません。フィードバックがあるのみです。どんどんトライしましょう。

履修コード	097151
科目名	ビジネス英会話 b
担当者名	井上 愛子

講義の到達目標(ねらい) 本講義の目的はビジネス英会話の基礎を学び応用練習をすることです。英語を使ってビジネスをする状況は異文化コミュニケーションの場ですので、ビジネスマナーのみならず文化背景の違う相手に対する配慮を学ぶことも重要です。授業では、語彙や英語表現をはじめとする言語コミュニケーションと同時にアイコンタクト、ジェスチャーなどの非言語コミュニケーションについても学習し、多様なビジネスの状況に役立つスキルを学習していきます。

講義の内容／授業スケジュール

講義

- 1 回目 インTRODakシヨン
- 2-4 回目 異文化コミュニケーションの学習とテキストに沿ったロールプレイ
- 5-6 回目 プレゼンテーション
- 7-10 回目 ビジネスマナー学習とグループプレゼンテーションの準備
- 11-12 回目 プレゼンテーション
- 13-15 回目 総合演習

履修上の留意点 社会人としてのマナーの練習だと思って授業に臨んでください。履修希望者は初回講義に必ず出席してください。

成績評価の方法 出席、プレゼンテーション、小テスト、課題提出物、テストなどを総合的に評価します。

教科書／テキスト ディビッド・ワグナー ビジネス英語速攻ハンドブック ワグナー・メソッド エクセレント・マニュアル「ミーティング」マネージメント編 朝日出版社 1400円 ISBN-255-99044-1

参考書 適宜授業中に案内します。

その他 英会話はスポーツのようなもので、お手本を真似して練習しながら自分のスタイルを体得していくものです。アウトプット重視の授業ですが、失敗はありません。フィードバックがあるのみです。どんどんトライしましょう。

履修コード	096921
科目名	ビジネスの歴史（欧米）
担当者名	宇田 理

講義の到達目標(ねらい) 国際間で色々な経済摩擦が起きるが、そのなかの1つは、商習慣や各国企業の経営システム（ビジネスのやり方）から派生している。そのため、各国企業の発展史を学び、比較検討することは、グローバルなビジネス環境の理解を深める上で重要である。この経済摩擦の原因を理解するのにかかせないのが、各国企業がどのような環境の下、どのようにして発展してきたのかという「各国企業の経営史」を学ぶことである。

今年度は、日米のIT(情報通信)産業が辿った歴史を振り返ることにより、以下の2つの問題を考えることをネライとする。

- ①なぜ、IT企業はいつもアメリカ発なのか。
- ②なぜ、日本のIT企業は世界で伍していく競争力がないのか。

これらの問いに、日米のIT産業の歴史を振り返ることを通じて、答えていく。

講義の内容／授業スケジュール 最初の講義で講義計画のプリントを配布するが、だいたい以下のトピックに沿って講義を進めていく。各トピックは2～3回の講義から構成されている。また、理解を深めるために映像教材を使う場合もある。なお、取り上げるトピックは変更される場合がある。講義の最初と最後に「ビジネスの歴史を学ぶ意義」と「まとめ」の単元を用意している。

1. コンピュータ産業はどのように誕生し、発展してきたのか(1)
2. コンピュータ産業はどのように誕生し、発展してきたのか(2)
3. コンピュータと通信の融合とは何か(1)
4. コンピュータと通信の融合とは何か(2)
5. クラウド・コンピューティングの功罪

準備学習 とくになし。

履修上の留意点 技術の細かい話もするが、ITマニアの学生よりも、IT社会のあり方を考えたい学生に受講して頂きたい。

成績評価の方法 期末テスト(80%)＋平常点[講義の感想・ミニテスト](20%)

教科書／テキスト 武田晴人編『日本の情報通信産業史』有斐閣、2011年。

参考書 ポール・セルージ著『モダン・コンピューティングの歴史』未来社、2008年。ニコラス・カー著『クラウド化する世界』翔泳社、2008年。

履修コード	096911
科目名	ビジネスの歴史（日本）
担当者名	宇田 理

講義の到達目標(ねらい) 本講義は、独自の企業システムを構築することによって高い競争力を誇っている日本企業の発展史を振り返ることで、そうした企業独自のシステムがいかに形成されたのか、また、発展に伴い、それらが(良くも悪くも)どのように変貌を遂げていったのかを探ることにある。さらに、そうしたシステム変貌の結果として、企業が以降うまく成長できたり、逆に、衰退への道筋を招いてしまったりする要因についても合わせて探る。これらを通じて、企業にとっての「変化」とは何なのか、についての理解を深めることが本講義のネライとなる。

講義の内容／授業スケジュール 最初の講義で講義計画のプリントを配布するが、だいたい以下のトピックに沿って講義を進めていく。各トピックは2～3回の講義から構成されている。また、理解を深めるために映像教材を使う場合もある。なお、取り上げるトピックは変更される場合がある。講義の最初と最後に「ビジネスの歴史を学ぶ意義」と「まとめ」の単元を用意している。

1. 無から有を創り出す：松下幸之助と松下電器産業
2. ニーズの多様化に対峙する：鈴木敏文とイトーヨーカ堂
3. 大量生産システムの超克：大野耐一とトヨタ生産システム
4. 規制に真っ向から立ち向かう：小倉正男とヤマト運輸
5. 後発企業の成長戦略とは：山本卓真と富士通

準備学習 とくになし。

履修上の留意点 基本的な経営、マーケティングの知識が必要である。3年次からの履修をお勧めする。

成績評価の方法 期末試験[持ち込みは可](80%)、平常点[授業中の感想・ミニテスト](20%)

教科書／テキスト 基本的にプリントでフォローする(YeStudyから各自ダウンロード)。理解を促進させるために、参考図書などを逐次指示する場合がある。

履修コード	092421
科目名	ファイナンス基礎 ◎
担当者名	須藤 時仁

講義の到達目標(ねらい) この講義では、企業ファイナンスの基礎を、市場の性格とメカニズムを知ることによって理解することを目的としています。企業が資金調達する場合、大別して銀行からの融資と、株式市場および債券市場を通じて調達する方法とがあります。前者を間接金融、後者を直接金融と言います。わが国では間接金融による資金調達が中心と言われていますが、80年代からは株式市場を通じた、90年代からは債券市場を通じた資金調達が増えてきています。前期は、間接金融と直接金融との相違および両者の関係を理解することを主目的とします。後期は、資金調達を行なう中心的な市場である株式市場と債券市場の性格とメカニズムについて詳細に考察します。

講義の内容／授業スケジュール (前期) (1-5) 金融制度と金融機関 (6-10) 金融システムの形成とその変遷 (11-15) 金融機関の資金調整 (短期金融市場での資金調達)
(後期) (16-20) 債券市場を用いた資金調達 (21-25) 株式市場を用いた資金調達 (26-30) まとめと今後の展望

履修上の留意点 できる限り新聞や雑誌に目を通して、現実の経済・金融の動きを理解するように努めてください。

成績評価の方法 講義中に出欠は取りません。評価は基本的に学年末の定期試験で行います。なお、夏休みに提出自由形式でレポートを課すことを考えていますが、その場合には提出されたレポートを20点満点で評価し、その成績を加味します。

教科書／テキスト この講義は金融・証券市場といった幅広いテーマを扱うため、講義内容のすべてを1冊の教科書でカバーすることは困難です。したがって、特定の教科書は指定しません。

参考書 講義の内容を理解するために有用な参考書を第1回目の講義のときに示します。また、細かい論点をさらに理解するために必要な参考文献は講義中に適宜指示します。

履修コード	096811 096812
科目名	ファイナンス論 a 財務管理 a
担当者名	坂本 恒夫

講義の到達目標(ねらい) サプライズローン問題など不安定な経営・財務環境の中で、大企業がどのような戦略で財務政策を展開しているか、項目に分けて平易に解説します。資本の運用・調達、株式資本、株式会社、銀行との関係、そして財務制度など重要なトピックスを今日的な金融・証券などと関連付けて取り上げます。

講義の内容／授業スケジュール <財務管理論とは何か> 1. 財務管理論概説 2. 機関投資家支配の時代 3. コーポレート・ガバナンス 4. キャッシュフロー管理 5. EVAと資本コスト管理
<財務計画と財務管理> 6. 経営計画 7. 財務計画 8. 設備資本管理 9. 運転資本管理 10. 利益管理
<株式資本とは何か> 11. 増資の方法 12. 株式の多様化 13. 株式所有 14. 配当政策 15. 自己金融

履修上の留意点 出席を重視します。

成績評価の方法 定期試験を基本に出席状況を加味して評価します。

教科書／テキスト 4月授業開始時に指示します。

参考書 4月授業開始時に指示します。

履修コード	096821 096822
科目名	ファイナンス論 b 財務管理 b
担当者名	坂本 恒夫

講義の到達目標(ねらい) サプライズローン問題など不安定な経営・財務環境の中で、大企業がどのような戦略で財務政策を展開しているか、項目に分けて平易に解説します。資本の運用・調達、株式資本、株式会社、銀行との関係、そして財務制度など重要なトピックスを今日的な金融・証券などと関連付けて取り上げます。

講義の内容／授業スケジュール <株式会社> 1. 株式会社と企業形態 2. 株式会社とLLP、NPO 3. 株式会社とベンチャービジネス 4. 株式会社と中小企業 5. 株式会社とM&A
<債務資本とは何か> 6. 企業間信用 7. CPとMTN 8. 借入金 9. 金利 10. 社債
<現代の財務管理> 11. 企業と銀行 12. 証券化 13. デリバティブ 14. ディスクロージャー
15. 明日の財務管理

履修上の留意点 出席を重視します。

成績評価の方法 定期試験を基本に出席状況を加味して評価します。

教科書／テキスト 4月授業開始時に指示します。

参考書 4月授業開始時に指示します。

履修コード	093831
科目名	福祉経済論
担当者名	河野 敏鑑

講義の到達目標(ねらい) 主としてマクロ経済理論、公共経済学の視点から、社会保障制度のうち、年金、介護、子育て支援に焦点をあて、日本の各制度の現状の概説のみならず、理論的考察を加える。(医療については、後期の医療経済論で解説する。)

講義の内容／授業スケジュール 1. イントロダクション 2. 社会保障とは 3. マクロ経済と社会保障 4-7 年金 8-10 介護 11-12 少子化対策と子育て支援 13-14 社会保障と経済成長 15 期末試験

成績評価の方法 中間レポート(30%程度)と定期試験(70%程度)により評価。出席状況は問わない。

教科書／テキスト なし。必要に応じて講義内容をまとめたプリントを配布。

参考書 第一回目の講義で紹介しますが、初心者向けの書籍としては、鈴木亘『だまされないための年金・医療・介護入門』東洋経済新報社 1900円+税 4-492-70123-2
村上雅子『社会保障の経済学 第2版』東洋経済新報社 2300円 4-492-81456-6を推薦します。

関連リンク <http://home.e01.itscom.net/tkouno>

履修コード	095401
科目名	プログラミング論
担当者名	濱本 和彦

講義の到達目標(ねらい) 現在の社会においてコンピュータはあらゆる分野で使用されており、その重要性は非常に高い。それに伴いソフトウェアの機能強化が必要とされており、ソフトウェアの開発におけるプログラミング技術の重要性はますます高くなってきている。またコンピュータの使用環境もスタンドアロンからインターネットなどのネットワーク上での利用へと変化し、それに伴って供給されるソフトウェアを記述するプログラミング言語も変化している。
本講義ではまず、ソフトウェア開発におけるプログラミング技術の位置づけを明らかにするために、ソフトウェア工学の基礎について講義する。次にプログラミング技法とプログラミング言語について講義する。プログラミング言語としては主にC言語を扱い、実際にソフトウェアを作成しながら包括的なプログラミング技術、ソフトウェア開発について講義する。

講義の内容／授業スケジュール (1~3)ソフトウェア工学の基礎とプログラミング技法(構造化やオブジェクト指向) (4~5)実習のためのコンピュータ操作方法の習得 (6~8)言語学習してのプログラム学習とCプログラムの構成 (9~10)画面への文字列の表示 (11~13)各種データとデータ構造 (14~17)変数の計算と数値の入出力 (18)中間テスト (19~22)条件付き分岐構造 (23~26)繰り返し構造 (27~29)関数 (30)総復習とまとめ

履修上の留意点 できるだけコンピュータの初心者に対しても理解しやすいように講義を行うが、各自の予習復習が理解のためには必要である。なお、メール(大学のメールアドレスを利用)による出席調査、課題提出を行うため、履修予定学生はメール送受信などの基本的なコンピュータ操作についてのリテラシーが必要である。なお、最初の数回の講義においてプログラミングの実習のためのコンピュータの操作方法について説明するので、必ず出席すること。

成績評価の方法 講義中に出す課題、長期休暇中に課すレポート、および中間試験、期末試験により評価する。出席状況も考慮する。

教科書／テキスト 特に指定しない。授業で利用するパワーポイント、プログラムリストはweb上で公開する。必要に応じてプリントを配布する。

参考書 新訂新C言語入門{スーパービギナー編、ビギナー編、シニア編}、林晴比古著、ソフトバンクパブリッシング

その他 講義は実際にコンピュータの画面をプロジェクタで見せながら行い、実習中心に行う。出席、レポート提出はe-mailを用いる。よって、受講学生は、コンピュータの基本的な操作を習得している必要がある。

関連リンク <http://www.dm.u-tokai.ac.jp/~hama>

履修コード	097031
科目名	ベンチャー論
担当者名	長山 宗広

講義の到達目標(ねらい) 日本は、大量生産体制・キャッチアップ型経済から、知識集約化・フロントランナー型経済へとパラダイムの大転換を果たした。こうした時代環境の中、ミクロレベルでは、プロダクト・イノベーション創出の担い手として、ベンチャービジネスに期待が高まっている。本講義では、ベンチャービジネスに関する正確な理解を深めるとともに、ベンチャービジネスの担い手である起業家を養成していく。そのため、学術的研究を概説するとともに、ケーススタディなどを交えた実践的学習をすすめていく。

講義の内容／授業スケジュール

- (1) ベンチャービジネスとは(ガイダンス)
- (2) ベンチャービジネスのフォームとベンチャー企業「観」
- (3) 中小企業、中堅企業、ベンチャー企業
- (4) ベンチャー企業の成長ステージ別マネジメント
- (5) ベンチャー企業とイノベーション
- (6) イノベーションの発見
- (7) ケーススタディ: SWOT分析
- (8) ケーススタディ: ポジショニング・マップ分析
- (9) ベンチャー企業のマーケティング戦略
- (10) 大学発ベンチャー、産学連携の実態
- (11) スピンオフ・ベンチャー
- (12) ベンチャー金融(ベンチャーキャピタル、エンジェル、株式公開)
- (13) ベンチャー支援施策とインキュベーション
- (14) ベンチャービジネスと地域活性化
- (15) まとめ

履修上の留意点 起業論、ベンチャー論を一括履修することがのぞましい。

成績評価の方法 期末試験による評価: 50%
講義中のレポートおよび出席状況など平常点評価: 50%

教科書／テキスト 教科書は特に指定しない。都度、プリント等を配布する。

参考書 植田・桑原・本多・義永『中小企業・ベンチャー企業論』有斐閣コンパクト、2006年
金井・角田編『ベンチャー企業経営論』有斐閣、2002年
松田修一『ベンチャー企業』日本経済新聞社、1998年
ジェフリー・A・ティモンズ『ベンチャー創出の理論と戦略』ダイヤモンド社、1997年

履修コード	100311
科目名	貿易実務
担当者名	荒畑 治雄

講義の到達目標(ねらい) 第二次世界大戦後、世界の貿易取引が急速に増大した。貿易取引は、お互いに国境を異にする企業と企業との物品売買である。通常、貿易取引は、売買当事者間で長期的・継続的に取引関係を形成させて遂行されるが、このような取引がどのように履行されていくのかという観点から、本講義においては海外市場調査から売買契約の成立、外国為替相場変動のもとにおける取引当事者の対応、海上および航空運送、海上保険、代金決済に至る取引の流れを把握する。さらに近年著しく普及してきた国際電子商取引についても詳細に検討を行い、履修生が実社会で活躍する場合に備えて実際に役立つ講義を行う。

- 講義の内容／授業スケジュール**
1. 海外市場調査
 2. 取引関係の形成
 - (1) 見本と価格表の送付 (2) 一般的取引条件の協定
 3. 取引の基本5条件
 - (1) 品質条件 (2) 数量条件 (3) 価格条件・・・Trade Terms(EXW, FAS, FOB.)
 4. 価格条件(CIF, CPT, CIP, DDU, DDPその他)
 5. 受渡し条件
 - (1) 決済条件・・・送金為替、荷為替手形方式
 6. 輸出入貿易管理と規制
 - (1) 輸出の許可・承認 (2) 輸入承認
 7. 売買契約成立に伴う実務
 - (1) 為替手形の作成 (2) 信用状の内容
 8. 先物為替の予約
 9. 国際運送
 - (1) 海上運送 (a) 在来船による運送 (b) コンテナ運送 船荷証券・海上運送状
 - (2) 航空運送
 10. 海上保険契約
 - (1) 海上保険の契約当事者 (2) 予定保険契約 (3) 被保険利益 (4) 危険の種類と損害の程度 (5) 保険条件
 11. 輸出通関と船積手続き
 - (1) 輸出通関 (2) 保税地域 (3) 船積手続きの流れ (4) コンテナ船積み
 12. 輸入貨物の荷揚げと輸入通関
 - (1) コンテナ貨物の輸入港への荷揚げ (2) 輸入通関
 13. 貿易金融

準備学習 本講義を受講する前および授業と平行して国際ビジネスに関する一連の出版物をよく読んでおくことによって効果的に知識を吸収することができる。こうした点を各自が自覚することによって授業内容を正確に把握することができるようになる。

履修上の留意点 学生は日常より日本・米国・EU・アジア諸国の貿易の動向について、インターネットや新聞その他のメディアから調べることが重要である

成績評価の方法 授業への参加度およびその内容に関する質問等を勘案し、期末試験(80%)により決定する。

教科書／テキスト 荒畑 治雄『現代国際商取引論』慶應義塾大学出版会 2009年4月 3,000円

参考書 授業時に指示する。

履修コード	097601
科目名	貿易論
担当者名	吉田 真広

講義の到達目標(ねらい) 一国の経済は外国貿易なしには成立しません。今日、先進国において国際取引全体に占める貿易の割合は縮小していますが、依然として対外関係を様々な面において方向付けています。たとえば、貿易を中心とした経常取引は、一国の対外債権債務動向を左右します。また貿易動向は国内産業構造の変化や景気動向の反映でもあり、逆に貿易動向が国内経済に大きな影響を及ぼすことも少なくありません。講義では、貿易の基本原則や取引方法を学び、さらに日本の経済と貿易がどのように関連しているのかを考えていきます。

- 講義の内容／授業スケジュール**
- 前期
- 1 国際取引と貿易
 - ・国際収支 ・記載原理 ・国際収支統計と国民所得統計
 - 2 貿易原理
 - ・比較生産費説 ・特化と独占 ・交易条件
 - 3 国際競争力
 - ・価格転嫁率 ・為替相場と商品価格
 - 4 為替取引原理
 - ・約束手形と為替手形 ・銀行と為替取引
 - 5 貿易実務
 - ・船積み書類と信用状 ・ユーザンス ・貿易金融
- 後期
- 6 貿易の制度と体制
 - ・保護貿易と自由貿易 ・産業革命と貿易 ・帝国主義と貿易 ・戦後の貿易体制 ・GATTとWTO
 - 7 WTOにおける農産物と知的所有権
 - 8 貿易と生活、豊かさ

*なお、トピックスを取り上げることがあり得る。

履修上の留意点 出席を取ることもあり得ます。

成績評価の方法 年二回の試験

教科書／テキスト 特に指定しない。

参考書 授業中、必要に応じて適宜示します。

履修コード	098181
科目名	法と経済学
担当者名	村松 幹二

講義の到達目標(ねらい) 法制度は日常生活や企業活動などの様々な側面で経済に大きな影響を与える。講義では「法と経済学」の基礎的な考え方を、犯罪、損害賠償、所有権、契約など日常的に接する可能性のある法制度に即して解説する。「法と経済学」では法制度についてミクロ経済学的手法などを用いて分析を行うため、法制度と経済学の知識が必要であるが、法制度については、講義において必要な知識を解説する。ただし経済学については基礎的知識を前提として講義を進める。受講生には、授業を通じて経済における法制度の役割、それに関する政策の意義を考え、経済社会に対する視点を身につけてもらいたい。

講義の内容／授業スケジュール

第1回：イントロダクションー「法と経済学とは」
 第2回：法の意義と役割
 第3回：犯罪と刑罰の経済分析(1)基本モデル
 第4回：犯罪と刑罰の経済分析(2)犯罪抑止の費用と効果
 第5回：事故と損害賠償(1)基本モデル
 第6回：事故と損害賠償(2)過失責任と厳格責任
 第7回：事故と損害賠償(3)自動車事故と保険の役割
 第8回：事故と損害賠償(4)製造物責任と消費者保護
 第9回：所有権・財産権の経済分析
 第10回：法制度設計の経済分析(1)コースの定理と取引費用
 第11回：法制度設計の経済分析(2)権原の保護と譲渡
 第12回：法制度設計の経済分析(3)取引法
 第13回：法制度設計の経済分析(4)公害と環境問題
 第14回：契約の経済分析
 第15回：まとめー法の意義と役割
 定期試験

履修上の留意点 講義ではミクロ経済学、ゲーム理論の知識を前提とするため、「ミクロ経済学」、「企業経済学」、「ゲーム理論」、「情報の経済学」のいずれかに関連した授業を履修した学生を対象とする。

成績評価の方法 成績評価は、定期試験による。ただし必要に応じてレポート課題を出し、成績評価に加算することがある。

教科書／テキスト テーマが多岐にわたるため特定のテキストは指定せず、配布するレジュメをもとに講義を行う。

参考書 テーマに応じて講義内で参考文献を示す。

履修コード	092301
科目名	簿記論
担当者名	石川 純治

講義の到達目標(ねらい) 現代の企業会計における「情報」開示志向のもと、とかく軽視されがちな「記録」の面、とりわけその基礎にある複式簿記という記録計算システムを様々な視点から議論します。特に強調したいのは、常識や通念にとらわれないという点です。そのことは、別の言い方をすれば「相対化」の重要性です。この相対化の力でもって簿記システムの本質面を浮き彫りにします。

講義の内容／授業スケジュール

教科書と放送大学「現代の会計」(DVD)の講義とをあわせて、以下の内容を講義する。
 第1回：講義の全体紹介、第2回～第3回：単式簿記と複式簿記、第4回～第5回：複式簿記の内容と形式、第6回～第7回：3式簿記への招待、第8回～第9回：キャッシュフローの記録計算、第10回～第11回：基本財務表としてのキャッシュフロー計算書、第12回～第13回：財産法と損益法・間接法と直接法、第14回～第15回：2つの複式簿記、第16回～第17回：「振替」とは何か・なぜ必要か、第18回～第19回：3つの基本財務諸表の記録計算、第19回～第20回：複式簿記の構造、第21回～第22回：複式簿記の携帯、第23回～第24回：複式簿記の技術性と歴史性、第25回～第26回：歴史のなかの複式簿記、第27回～第28回：現代会計と複式簿記(1)、第29回～第30回：現代会計と複式簿記(2)

準備学習 テキストはQ & A方式でわかりやすく書かれています。予習・復習に心がけるようにしてください。

履修上の留意点 簿記の基礎知識があればよい。

成績評価の方法 2回の小テストと定期試験の総合。

教科書／テキスト 石川純治『複式簿記のサイエンス』税務経理協会、2010年4月

参考書 その都度指示する。

その他 YeStudyをご覧ください。

履修コード	092201
科目名	簿記論
担当者名	渡邊 智

講義の到達目標(ねらい) 企業は貸借対照表・損益計算書をはじめとする財務諸表を社会に向けて開示しているが、これらを作成あるいは解釈するためには、簿記に関する知識が必要となる。この講義は、基本的な複式簿記原理の理解、さらには初歩的な記帳技術の習得を目標とするものである。

講義の内容／授業スケジュール (1) ガイダンス (2) 簿記の基礎概念 (3) 簿記の取引 (4) 勘定記入 (5) 仕訳 (6) 仕訳帳への記入 (7) 総勘定元帳への転記 (8) 試算表 (9) 6桁精算表 (10~13) 決算 (14~15) 前期のまとめ (16) 現金・小口現金 (17) 当座預金 (18) 商品 (19) 仕入帳・売上帳・商品有高帳 (20) 売掛金・買掛金 (21) 手形 (22) その他の債権債務 (23) 貸倒れと貸倒引当金 (24) 有価証券 (25) 固定資産 (26) 資本金・引出金、税金 (27) 決算整理 (28) 8桁精算表・10桁精算表と決算 (29) 伝票 (30) 後期のまとめ

準備学習 予習・復習は毎回必ず行なうこと。
欠席、遅刻、早退および途中退出は厳禁とする。
簿記の学習は積み重ねが大切であるため、講義には毎回必ず出席すること。
万一欠席した場合には、欠席した回の学習事項を十分に理解しておくこと。
仕訳や勘定記入の方法などの基本的事項については常に練習を重ね学力の維持を図ること。
理解が不十分な点は、そのまま放置せず、質問などにより必ず各自で解決しておくこと。

履修上の留意点 私語など講義中の迷惑行為は厳禁とする。
与えられた課題には真剣且つ積極的な姿勢で取り組むこと。
電卓(できれば12桁)、赤ペンおよび定規を用意すること。

成績評価の方法 前期末試験の結果、後期末試験の結果および平常点(小テストの結果)によって総合的に成績評価を行なう。

教科書／テキスト 渡部裕巨・片山賞・北村敬子編著『新検定 簿記ワークブック 3級 商業簿記』中央経済社 定価700円+税 ISBN978-4-502-03590-6
伊藤秀俊編著『入門 商業簿記テキスト』中央経済社 定価2,400円+税 ISBN978-4-502-03430-5

参考書 『日商簿記検定テキスト商業簿記3級』実教出版
『日商簿記検定テキスト問題集 商業簿記3級』実教出版
その他必要に応じて講義中に紹介する。
資料を配布する場合もある。

履修コード	326501
科目名	保険・海商法
担当者名	井上 健一

講義の到達目標(ねらい) 商法のうち、保険取引および海商を含めた国際取引に関する法規整を概観する。この分野は、商法典の条文、もしくは判例の理解のみならず、約款や条約、あるいは商慣習なども含めた実務慣行に注意を払う必要がある。いわば実務との関係で「生きている法」を扱うという意味で、意欲を持って取り組めば非常に面白い内容である。前期および後期の半分は保険法を、特に保険契約法を中心に扱い、後期の後半(11月~)は海商法およびそれに関連した国際取引に関する契約に対する法規整を扱う。保険会社や商社などの実務に興味がある者は是非参加してほしい。

講義の内容／授業スケジュール I 保険法
1. 保険法総論・保険契約法総論 2. 損害保険契約 3. 生命保険契約 4. 傷害保険
II 海商法・国際取引法
1. 海商法・国際取引法総論 2. 海上企業者 3. 海上運送契約・国際取引契約
4. 海上危険・海上保険 5. 国際取引における紛争解決

履修上の留意点 民法(総則・債権各論)および商法総則・商行為法を履修済か、履修中であることが望ましい。

成績評価の方法 原則として期末試験によるが、履修人数によっては授業内で対話式のケースメソッドを実施し、その評価と合算して全体を評価する可能性もある。

教科書／テキスト 山下・竹濱・洲崎・山本「保険法」(第3版)(有斐閣)

参考書 レジュメで随時紹介する

関連リンク <http://homepage3.nifty.com/inoue-k/>

履修コード	097011
科目名	ボランティア経済 a
担当者名	鈴木 岳

講義の到達目標(ねらい) ボランティアという表現は善意に満ち溢れています。しかしながら、世の中の活動はすべからず冷徹な論理で動く経済と切り離されることは決してありません。日本を中心に、経済社会のボランティアについて、その成り立ちと近況、さらに多様性と有用性、問題点と限界について冷静に考えてみましょう。

講義の内容／授業スケジュール (1~2) はじめに、日本における経済社会、くらしの基礎素養をチェックする
(3~7) 経済システムから見る。
ボランティアの定義、その歴史的経緯、近年のボランティア活動、その形態と経済活動における領域、新自由主義とボランティアリズム、慈善、パターナリズム、現実における意義と意味、批判と限界について
(8~13) 組織からみる。社会福祉協議会、協同組合、NPO、地域通貨、国家・自治体との関係、企業との関係
(最終) 今後の展望

準備学習 特に要求はありません。復習型の講義とするので、むしろ講義後の各自見聞の努力が重要となります。

履修上の留意点 ボランティアに関わろうと考える人は、人間愛・博愛精神に裏打ちされた善意を有す愛すべき人間が多いのです。一方、ともすれば観念的で、現実の経済システムとその基本的問題を見落としがち、あふれる情報を整理して自分の頭で考え自分の見解を持つこと、このことを常日頃から意識して下さい。

成績評価の方法 定期試験を中心とします。ただ、講義終了後にほぼ毎回提出を求めるコメント票及びその内容は、積極性として評価します。

教科書／テキスト 特に使いません。

参考書 参考文献や資料については毎回の講義はじめに配布するほか、質問に応じて適当なものを紹介します。

履修コード	097021
科目名	ボランティア経済 b
担当者名	鈴木 岳

講義の到達目標(ねらい)	広く世界に目を向け、ボランティアをめぐる経済活動についていくつかの諸国を抽出して簡潔に紹介します。その前提として、それぞれの国家民族の基礎知識について共有することから始めます。ボランティア(活動)の概念は、諸国の政治経済社会や国家の仕組みに応じて、さまざまに変化することを理解するでしょう。
講義の内容/ 授業スケジュール	(1~2) はじめに、世界経済をめぐる基礎事項をチェックする (3~13) 諸国の政治経済事情を踏まえた各国ボランティア事情について イギリス、スウェーデンなど北欧、スイス、フランス、イタリア、スペイン、北米、南米ほか(キーワードとして、ノーブレス・オブリージュ、良心的兵役拒否、民主主義、国家・自治体との関係、企業との関係、税制・社会保障、民族性、地域通貨、フェアトレード、社会的排除と包摂など) (最終) まとめ
準備学習	自分の関心のある国や民族について、旅でも趣味でもスポーツでもなんでもよいので、そのような本やブログなどを読んでおいてください。
履修上の留意点	なるべくボランティア経済論aを予め履修して下さい。あとはaと同じです。
成績評価の方法	定期試験を中心とします。講義後にほぼ毎回提出を求めるコメント票は、積極性として考慮します。
教科書/テキスト	特に使いません。
参考書	資料については、毎回の講義はじめに配布します。また参考文献については、個別の照会に応じて紹介します。

履修コード	091801
科目名	マーケティング
担当者名	曾我 信孝

講義の到達目標(ねらい)	マーケティング技術の基本的な方法を理解し、マーケティングが抱える倫理の問題も理解してもらうことにねらいを置く。
講義の内容/ 授業スケジュール	1~2回 マーケティングの概要と問題点を指摘する。 3~9回 製品政策について学習させる。 その内容は、製品の差別化、細分化等の政策やライフサイクルとその短縮に関する政策の問題点など。なお、この間に2度ほどの小テストをする。 10~15回 価格政策について学習させる。 その内容は、差別価格や価格維持の問題などとりあげる。この間に小テストをする。 16~22回 チャネル政策について学習させる。 流通機構とメーカーの販売チャネルとの関係、大規模メーカーによる流通支配などを取り上げる。この間に小テストをする。 23~28回 促進政策について学習させる。 広告、販売員管理、サービスなどを批判検討する。この間に小テストをする。 29~30回 マーケティング・ミックスについて学習する。
準備学習	ケーススタディを豊富に取り入れて講義をしていく計画です。企業の製品開発や広告などマーケティングに関するニュースは把握しておいてください。 なお、日本経済新聞のニュースのデータベースが図書館から見るができます。
履修上の留意点	マーケティングを学ぼうとする知識欲旺盛な方の受講を期待しています。他人に迷惑をかけるなど、著しく受講態度の悪い方は学期途中でも受講を断ることがあります。
成績評価の方法	夏休みの課題レポート(20%) 年度末の課題レポート(20%)と平常点(講義中の小テスト評価:60%)によって評価する。
教科書/テキスト	基本的に教科書は使用しない。
参考書	参考書は適宜紹介する。
その他	授業方法-講義形式

履修コード	311101
科目名	マーケティング
担当者名	曾我 信孝

講義の到達目標(ねらい)	マーケティング技術の基本的な方法を理解し、マーケティングが抱える倫理の問題も理解してもらうことにねらいを置く。
講義の内容/ 授業スケジュール	1~2回 マーケティングの概要と問題点を指摘する。 3~9回 製品政策について学習させる。 その内容は、製品の差別化、細分化等の政策やライフサイクルとその短縮に関する政策の問題点など。なお、この間に2度ほどの小テストをする。 10~15回 価格政策について学習させる。 その内容は、差別価格や価格維持の問題などとりあげる。この間に小テストをする。 16~22回 チャネル政策について学習させる。 流通機構とメーカーの販売チャネルとの関係、大規模メーカーによる流通支配などを取り上げる。この間に小テストをする。 23~28回 促進政策について学習させる。 広告、販売員管理、サービスなどを批判検討する。この間に小テストをする。 29~30回 マーケティング・ミックスについて学習する。
準備学習	ケーススタディを取り入れて講義を進めていきます。企業の製品開発や広告など、マーケティングに関係する新聞や雑誌のニュースを把握しておきますと、よりいっそう理解しやすいと思います。
履修上の留意点	マーケティングを学ぼうとする知識欲旺盛な方の受講を期待しています。他人に迷惑をかけるなど、著しく受講態度の悪い方は学期途中でも受講を断ることがあります。
成績評価の方法	夏休みの課題レポート(20%) 年度末の課題レポート(20%)と平常点(講義中の小テスト評価:60%)によって評価する。
教科書/テキスト	基本的に教科書は使用しない。
参考書	参考書は適宜紹介する。
その他	授業方法-講義形式

履修コード	090401 090402 090403
科目名	マクロ経済学 経済理論II・マクロ経済学 経済原論
担当者名	浅野 克巳

講義の到達目標(ねらい) 現代経済学は「マクロ理論」と「ミクロ理論」からなる。「マクロ」とは大きいという意味を持ち、「ミクロ」は小さいという意味を持つ。このコースでは経済全体の動きを分析する「マクロ理論」の基礎を勉強する。具体的に言うと、景気の良し悪しは何によって決まるか？物価の変動はどのような要因によるものか。デフレ経済の要因は何か？さらに政府の経済活動についてどのように考えるべきか。また輸出・輸入、経常収支といった外国との経済関係をどのように捉えたらよいか。マクロ理論はこれらの疑問に答えるきわめて日常的で身近な分野であるといえる。

新聞その他のメディアで日常的に使われる経済用語や基本的な考え方をしっかりマスターすることがこの授業の第1の目標だ。さらに、公務員試験その他の国家試験で必須の経済学の受験対策としても通用するようなレベルを目指したい。

講義の内容／授業スケジュール 年間のスケジュールは以下のとおりであるが、理解しにくいトピックスには十分時間をかけ説明するが、テキストなどで「読めばわかる」箇所は簡単に済ませ時間の節約を心がけたい。

1. マクロ経済活動とマクロ経済学の考え方
- 2~3. 国民経済計算と国民所得の考え方
- 4~5. GDPとは何か、それはどのようにして決まるのか
- 6~7. 独立支出の変化とGDPの関係
- 8~9. 消費と投資
- 10~11. IS-LMモデルと財政金融政策
- 12~13. インフレとデフレについて
- 14~16. グローバル経済と国際貿易
- 17~18. 政府の経済的役割
- 19~20. 総需要と総供給
21. 労働市場の働き
- 22~23. 資産市場
24. 貨幣とマクロ経済
- 25~26. 金融政策と金融システム
27. 為替市場と金融政策
- 28~30. 経済成長と景気循環

履修上の留意点 現代経済学を勉強する上で不可欠なことは、実際の経済問題に強い関心を持つことだ。これらはさまざまなメディアをとおしてあふれるほど提供されている。とくに『日本経済新聞』やその他の新聞には毎日必ず目をとおすこと。授業でも関連する記事やデータは参考にするので、できるだけスクラップブック等に整理しておくこと。これは授業だけでなく、将来の就職活動に際しても役立ちおすすすめ。

また、経済学を理解するために数学の知識が必要だといわれるが、入門的コースで使う数学は高校の基礎解析あるいは代数程度で十分。必要に応じて授業の中でも説明するが、要は「習うより慣れる！」のつもりで反復練習に限る。

ついでに、初心者でも使いやすいコンピュータのソフトが「駒澤大学情報センター」に常備されている。それらを使ってシミュレーションしてみることも、面白く経済学を学ぶ方法だろう。ともあれ、授業には必ず出席し、予習復習を実行すれば100点取るのも夢じゃない。

成績評価の方法 定期試験（年度末）と授業内試験（5~7回実施予定）、およびレポート（1~2回）の成績を総合評価する。

教科書／テキスト テキストおよび参考書については最初の授業で詳しく説明します。

参考書 公務員試験の過去問などの国家試験の受験対策にも十分通用するようできる限り問題練習をすることも理解を確実にする近道だ。自分で復習をかねて解いてみることをとくにお勧めする。

その他 授業中の問題点などあったら、オフィスアワーを設けていますので利用してください。

履修コード	090301 090302 090303
科目名	マクロ経済学 経済理論II・マクロ経済学 経済原論
担当者名	荒木 勝啓

講義の到達目標(ねらい) 現代の経済活動は、ミクロ的に見ると財やサービスを作って売る、買うという活動すなわち市場経済活動の集まりであるが、一国全体としてマクロ的に見ると、家計、企業、政府という経済活動の集計的主体が、相互依存しつつ連携し、それらがあたかも人体の血液循環の如くのダイナミックな所得の循環を引き起こすような、「国民経済」としてとらえることができる。国家が人体だとすると、流れる血液が所得であり、その所得循環の働きまたは総体がすなわち国民経済であると言える。その仕組みと、定常的な所得の流れである均衡国民所得の決定の様子を理解することが、講義の第一の目標であり、下記の第一部、講義1から10までがこれに相当する。

国民経済は人類の歴史とともにあったわけではなく、国内の自律的な所得循環を生み出す原動力としての大量生産をもたらした産業革命以降に登場した。国家も経済も昔からあったが、国民経済は産業革命によって近代以降に新たに生み出されたのである。ちなみに国民経済の図式に相当する簡単な循環図式を、フランスの産業革命以前に、「経済表」として定式化したのは、当時ようやく認知され始めた血液循環説の信奉者であった、18世紀フランスの医師フランソワ・ケネーである。またそうした循環がうまく機能しない(有効需要不足)場合に、不足を補う役割として政府が必要とされる、と説いたのが20世紀のJ.M.ケインズである。ケネーは、農民が生み出した所得が、貴族や僧侶による現代的に言うところの漏出のために、農民のもとに還流せず、国内にあたかも貧血のような所得循環の障害が生じ、そのためにフランス絶対王政国家の衰退と疲弊がもたらされた、と主張したが、ケインズは、高度に発達した資本主義社会の下でも、というよりむしろ経済が高度化するほど、所得増加とともに貴族ならぬ家計の貯蓄増加という形で漏出が増えていくために、所得の還流不足すなわち有効需要不足が生まれると考えた。現代日本において「貯蓄のパラドックス」とも呼ばれるケインズのこの懸念は現実化し、「豊かさの中の貧困」あるいは金余りの中の失業、そして有効需要不足を埋めるべく膨らむ一方の財政赤字といった問題が、話題とならない日々はないほどである。本講義も折に触れこれらの問題に言及する。

下記第一部の7からは所得循環に介入し流れを変えようとする要因を導入する。その1は政府で、流れの一部を税金などで吸収し、政府支出によって注入する。政府は主として民間の営利活動や市場活動によっては満たされない公共的な経済活動の主体であるが、公共投資や社会福祉支出などの形で追加の有効需要の供給源となる。すなわち政府は公共経済活動を行う過程で漏出と注入の両方の役割を果たす。その2が輸出入の導入である。輸入は国民所得の漏出(Leakage)の一部を成し、輸出は注入(Injection)の一部を成す。これら2つの要因を組み込むことにより、均衡国民所得成立のための貯蓄・投資均等式が、漏出=注入という形に一般化され、拡大された形式で完成する。

第二部11から15は乗数理論とその応用としてのビルト・イン・スタビライザーおよび成長理論、景気循環論の計算と図式である。乗数理論は、経済が、もととなるシード(種)からいかに拡大波及していくかを解く鍵であり、その理解が本講義の第二の目標である。

第三の目標は、貨幣と実物の相互作用により経済がどのように変化するか、あるいは貨幣が実物経済にどのように影響するかを古典派経済学とケインズ経済学との対比において検討することである。またIS-LM分析の手法により財政政策と金融政策の動きが図式的に理解される。そしてなぜ有効需要不足により失業が生まれるのか、といったマクロ経済の重要テーマの解答がこの目標のもとに達成されるであろう。第三部16から26までが講義の細目である。

第四の目標は、さらに進んで、期待理論、物価、国際経済との関連といった応用的かつ現実的な経済現象と経済理論を学習することである。下記講義27から30までがそれにあたる。

**講義の内容／
授業スケジュール**

第一部：国民所得の理解

1. 国民経済の成立
産業革命によりいかに国民経済が成立したかを理解する。
2. 所得の循環図式
生産活動によって生まれた所得がどのように経済主体に分配され処分され、そして再び総需要として戻ってくるかという所得循環図式を理解する。
3. 国民所得の概念
GNP、GDPなどの国民所得(National Income)をめぐる概念的・定義的な理解を進める。特に付加価値合計としての国民所得という概念を徹底する。
4. 貯蓄・投資の均衡および注入・漏出均等条件と金融組織
所得循環からの漏出が「消費されざる所得」としての貯蓄であり、その漏出を循環体系に引き戻し、企業の投資という形で注入させる組織が金融機関である。その役割を解説する。
5. 消費関数とその役割
ケインズにより導入された消費関数を定義し、家計の消費が国民所得の循環の中でどのような役割を果たすかを理解する。また後に提唱された、ケインズタイプ以外の様々な消費関数を紹介する。
6. 国民所得の決定その1
所得循環の定常的な流れとしての所得すなわち均衡国民所得の決定を簡単な計算式により行う。
7. 政府の導入
所得循環の流れの中の公共的な経済活動の主体としての政府の役割を理解する。
8. 輸出入の導入と拡大された貯蓄・投資の均等図式
漏出としての輸入と注入としての輸出を導入し、政府と輸出入が組み込まれた、拡大された貯蓄・投資均等図式を完成する。そして図式の変形からなぜ貯蓄過剰と経常収支の赤字が関係するのかなどを理解する。
9. 国民所得の決定その2—定額税の場合—
政府と輸出入が導入された場合の国民所得を計算する。ただし税金は定額税を仮定する。
10. 国民所得の決定その3—累進課税の場合—
税金は、制度的に所得が高くなると税金も増えていくような累進課税が現実的である。累進課税をモデルとする税金関数(Tax Function)を導入しそのもとでの国民所得を計算する。

第二部：乗数効果とその応用

1. 1. 乗数理論その1—波及過程としての乗数過程—
「太平記」にある有名な青砥藤綱銭拾いの一節。藤綱がある夜、滑川に10文の銭を落とした。藤綱は50文の銭で松明を買い、その明かりで家来に川底を探させ、ようやく10文の銭を拾った。人がそれは損失ではないかと問うと、藤綱曰く、「10文の銭をなくすことは自分にとっては小損だが天下にとっては貨幣の損失であり、使われた50文は人のためになるではないか」と。乗数理論とはこの説話の現代版であり、所得循環の流れに需要(貨幣)が投げられると、巡り巡ってその何倍の所得を生み出す、という理論である。なぜ何倍にも拡大するのかの理由はまさしく所得が「循環するから」である。所得は所得を呼ぶのである。あるいは需要は需要を呼ぶともいう。漏出し減衰しつつもその効果は波及していき、全体として何倍にも膨れ上がる。この理解こそがマクロ経済理解の核心であるといってもよい。
2. 乗数理論その2—一般化—
政府と輸出入が存在する場合に乗数理論を拡大する。
3. ビルト・イン・スタビライザー
累進課税が存在する場合乗数効果が弱められるが、反面そのことにより景気変動の波が安定化する。この効果を財政のビルト・イン・スタビライザー(自動安定化装置)機能という。
4. 経済成長理論の基礎—ハロッド=ドーマー・モデル
のちにノーベル経済学賞を受賞したロイ・ハロッドは短期的なケインズの貯蓄・投資均等式から長期的な経済成長の基本公式が導かれることを示した。この回では、その公式の導出と意味を考える。
5. 景気循環理論の基礎—乗数・加速度モデルを中心に—
景気は4年、10年といった周期で循環することが知られているが、その理論的説明として最も基礎となる乗数・加速度モデルを解説する。

第三部：貨幣と実物の相互作用

16. 貨幣とは何か

日銀の貨幣博物館では、貨幣として使われた、あるいは今でも使われているものが展示されている。例えば貝、石、木、骨、茶などなど。骨などはそれ自体無価値であるにもかかわらず、貨幣となる。また身近なものでは印刷された紙(原価50円ほど)が一万円もの額面の紙幣として使われている。それはなぜか。この回では貨幣の本質に迫る。

17. 信用通貨の成立

金匠手形から現代の電子マネーに至る信用通貨の歴史をたどり、通貨の裏打ちは結局信用にあるということを理解する。

18. 信用創造理論その1

現金から銀行組織全体に最大どのくらい信用創造がなされるかの公式(フィリップス公式)を、漏出がない場合について導出する。

19. 信用創造理論その2

漏出がある場合の信用創造公式を導く。

20. 貨幣数量説と古典派学説

貨幣数量説、セー法則、完全雇用の三位一体からなる古典派学説を理解する。

21. 流動性選好説とLM曲線

ケインズは古典派の貨幣数量説では把握できない「貨幣の投機的動機にもとづく需要」を導入することにより、現代金融理論の源流となる流動性選好説を唱えた。その理論をそもそも債券とは何かということから解説する。流動性選好説を図式化したものがLM曲線である

22. IS曲線の導出

ケインズの有効需要理論はIS曲線により図式化される。

23. IS-LM曲線による均衡実質国民所得の決定

両曲線の交点において均衡実質国民所得と均衡利率が決定されるが、その点が労働市場の需給均衡点すなわち完全雇用から生み出される完全雇用実質国民所得に達しているかどうかは保証されない。もし達していなければ非自発的失業が生まれるであろう。

24. 財政政策

非自発的失業を解消するひとつの方法は政府支出の増加によりIS曲線をシフトさせ、IS-LM曲線の交点で決まる均衡国民所得を完全雇用国民所得へと近づけることである。しかし、その財源が税収で得られない場合は財政赤字が生じ、禁断の赤字国債の発行を余儀なくされる。日本を始め先進国が目下直面している問題は、その累積問題である。解決策は果たしてあるのか、これが本講義で学生が様々な解を求めて主体的に考えるべき点であり、この回は解説というよりも問題提起の回となろう。または、その関連で少子高齢化、年金、温暖化対策、高度福祉または医療なども考えるべき現代的問題として取り上げる予定である。

25. クラウディング・アウト

政府活動水準の増大は財政赤字化の他に、政府活動が結果的に民間経済活動を阻害して、本来の効果を削いでしまうというマイナス効果も引き起こす可能性がある。これをクラウディング・アウトという。

26. 金融政策

3大金融政策を具体的に解説し、LM曲線のシフトで表される金融緩和と金融引き締めの効果を図式的に理解する。またゼロ金利に代表されるリキディティ・トラップ(流動性の罠)の問題を扱う。

第四部：応用編

27. 期待理論

もし人々が政府や日銀の政策について合理的な期待をすでに有しているならば、期待通りの政策が行動に織り込まれており、政策の効果が十分に発揮されないであろう。政策は人々の予想外の、意外な(Surprising)政策でなければ、通用しないかもしれない。そうした効果をもたらすと考えられる期待理論を解説する。

28. 物価と総供給・総需要理論

物価は総供給曲線と総需要曲線の交点で決定され、もし完全雇用が達成されていれば、総需要曲線の右方シフトはダイヤモンド・フルインフレーションをもたらすであろう。またデフレーションはその左方シフトということでも理解される。

29. BP曲線の導出

国際経済が導入された「開放体系」の下では、IS曲線、LM曲線のほかにBP曲線を重ね合わせることにより、国内経済と国際経済の関係が図式的に理解可能となる。

30. 国内の政策が国際収支と為替相場に及ぼす影響あるいはその反作用

IS-LM-BP曲線のシフトを用いることにより、財政政策、金融政策が国際経済(あるいは国際収支)や為替相場への作用の反作用としての国内経済へのより複雑な影響を調べることが可能となる。この回の講義まで理解できれば、マクロ経済学の基本はほぼ網羅されたといえる。新古典派的成長理論、より多様な景気循環理論、よりテクニカルな期待理論、投資関数の導出といった高度なテーマについては是非他の授業や専門書で学んでいただきたい。

準備学習

特に前提となる学習は必要ないが、産業革命前後と大恐慌前後の世界史の知識を踏まえていれば、講義内容の背景の理解がより容易になると思われる。

履修上の留意点

ノートを取ることが肝要。授業中に頻出する例題を自分で計算してみることで、マクロ経済学の基礎を体得できるはずである。例題は多くの場合1種国家公務員試験程度の難易度に相当するが、解き方は詳しく解説するので、自分で解けるように練習すること。

成績評価の方法

主として授業中の例題から数値を変えて作られた計算問題から成る定期試験100点満点により評価する。テストをすすと当然のことであるが、100点の答案と0点に近い答案が両方とも多い。言うまでもないが、授業にきちんと出た学生は100点を取って当然と言い、出ていなかった学生は全く解くことができなかったと言う。例えば、「銀行組織全体からの資金流出が存在せず、各銀行の準備率が5%のとき、1億円の本源的預金から最大いくらの貸出総額が可能か」という問題は、例題を練習した学生なら、おそらく10秒もかけずに19億円と答えるであろうが、信用創造の仕組みを学ばなかった学生にとっては永遠に解けないままである。要するに本講義の成績評価は誰が評価しても同じになるような客観評価で行う。計算ミスによる誤答を避けるために試験に電卓を持ち込んではいけない。

教科書／テキスト

特に指示しない。

参考書

適宜紹介する。敢えて1冊というならば雑誌の「エコノミスト」が推奨される。定期的を読むことで、最新の経済情報が得られる。

履修コード	090101 090102 090103
科目名	ミクロ経済学 経済理論II・ミクロ経済学 経済原論
担当者名	畠中 貴

講義の到達目標(ねらい) ミクロ経済学は様々な経済分析の基礎となる理論の一つである。この講義では、ミクロ経済学の基礎的な内容を一通り説明する。数学は議論を単純化し論理の厳密性を実現する上でとても有益な道具であり、ミクロ経済学の醍醐味を味わうためには、ぜひとも初歩的な数学をマスターする必要がある。したがって、初歩的な数学(関数、微分)の説明も併せて行う。

この講義の目標とするところは、次の二点である。

(i) 経済のありさまを自分なりに把握するための技術を身につける。

(ii) 筋道立ててものを考える力をつける。

講義の内容／授業スケジュール

第1回：ガイダンス、市場と3種類の主体(家計、企業、政府) 第2回：消費計画とベクトル 第3回：市場と一物一価の法則 第4回：市場における需要量と供給量 第5回：完全競争市場とプライス・テイカー 第6回：完全競争市場を成り立たせるための条件 第7回：完全競争市場以外の市場とプライス・メイカー、数と集合 第8回：消費計画に対する選好と効用、実数全体の集合とその部分集合 第9回：選好に関する仮定と無差別曲線の形状、2次元ベクトル全体の集合とその部分集合 第10回：無差別曲線上の点の移動、1変数関数 第11回：需要量の増減と需要量に影響を及ぼす要因 第12回：経済学における関数の使われ方、関数のグラフ 第13回：需要の価格弾力性 第14回：直線と予算制約線 第15回：予算制約線の傾きと相対価格、関数の値と極限

第16回：前期のまとめと前期末試験 第17回：ある条件を満たす数の集合、2次元ベクトルの集合 第18回：相対価格または予算の変化と予算制約線の変化、集合の表し方 第19回：予算の範囲内で実行可能な消費計画の集合 第20回：曲線上の2点を結ぶ直線の傾き、曲線の傾き 第21回：投入物(生産要素)、生産関数 第22回：固定費用と可変費用、費用関数 第23回：微分係数と導関数 第24回：平均費用と限界費用、微分の公式 第25回：利潤の最大化と限界費用、限界収入 第26回：プライス・テイカーの行動と供給関数 第27回：家計の行動と需要関数 第28回：所得効果と代替効果 第29回：厚生経済学の基本定理、市場メカニズム

履修上の留意点 経済学の説明も数学の説明もすべて一から行うので、この講義を受講するにあたって前提とする知識は何もない。高校時代にあまり数学の勉強をしてこなかった人も積極的に受講して欲しい。ただし、講義の内容は抽象的で頭に入りにくい上、一旦理解できたと思った内容も日が経つと忘れてしまうのが通常であるから、一年を通して根気よく予習・復習を継続する必要がある。テキストは熟読しなくてはならない。前に説明したことの上に新しい内容を組み立てていくから、前にやったことがよく理解できていないと今やっていることが分からないということが起こるので、注意して欲しい。分からない部分があったら、分かるようになるまで説明するので、どんどん質問にすること。

成績評価の方法 基本的に二度の期末試験の総合評価。前期末試験、後期末試験のうちどちらか一方でも受けていない人には単位を与えないので注意すること。追試験は実施する。

教科書／テキスト 授業時に配布するプリントをテキストとする。

履修コード	090201 090202 090203
科目名	ミクロ経済学 経済理論II・ミクロ経済学 経済原論
担当者名	松井 柳平

講義の到達目標(ねらい) 理論的な経済分析の基礎となるミクロ経済学の理論を、ゲーム理論をベースとして講義する。消費者や企業などの個別経済主体が自発的かつ合理的に行動しているとき、どのような社会・経済状態が実現するか理論的に考察する。その際、その帰結の理解よりもむしろ、その帰結に至る論理展開、つまり分析方法の理解に重点を置く。ミクロ経済学の理論を基に、具体的な経済事象について経済理論と関連付けて主体的に考察する能力と習慣を養う。

講義の内容／授業スケジュール

第1回：ガイダンス
 第2回：あるパン屋の話（固定費用と可変費用）
 第3回：あるパン屋の話（需要と供給）
 第4回：あるパン屋の話（価格の決定）
 第5回：戦略形表現
 第6回：ナッシュ均衡
 第7回：ナッシュ均衡の練習問題
 第8回：展開形表現とサブゲーム
 第9回：バックワード・インダクション
 第10回：展開形表現と戦略形表現
 第11回：市場における交換と経済学的余剰
 第12回：最後通牒ゲーム
 第13回：2段階交渉ゲーム
 第14回：最後通牒ゲームの練習問題
 第15回：前期のおさらいとまとめ
 第16回：2段階交渉ゲームの練習問題
 第17回：さまざまな取引における価格の決定
 第18回：競売とセカンドプライス・オークション
 第19回：競争入札
 第20回：消費者余剰の比較
 第21回：機会費用、サンクコスト
 第22回：予算制約線と効用関数
 第23回：最適消費点と無差別曲線
 第24回：限界効用と需要曲線
 第25回：寡占とクールノー競争
 第26回：クールノー均衡
 第27回：銀行借り入れ
 第28回：株式の新規発行
 第29回：モディリアーニ=ミラーの定理
 第30回：おさらいとまとめ

定期試験

準備学習 事前に、中学時代の数学の計算問題等について、理解と計算能力を完全にしておくこと。講義プリントを、YeStudyから事前にプリントアウトして必ず予習してきた上で、講義に臨むこと。

履修上の留意点 この講義の履修においては、小学校・中学校・高校での算数・数学について、その基本的な部分の理解がきちんとできていることが前提となる。こうした算数、初等的な数学について自信のない受講生は、算数や中学時代の数学の教科書・参考書を事前によく自学自習し復習した上で授業に臨んでもらう必要がある。

具体的には、
 ◎小学校の算数における「数と計算」（個数を数える・比べる、加法・減法・乗法・除法、小数・分数の計算、約数・倍数、約分・通分、）、「数量関係」（表やグラフ、交換法則、結合法則や分配法則、比、比例）
 ◎中学校の数学における「数と式」（正の数と負の数・その四則計算、一元一次方程式、文字を用いた式の四則計算、連立二元一次方程式、式の展開や因数分解、等）、「数量関係」（比例・反比例の関係、変数・変域、一次関数、等）
 ◎高校の「数学I」における「方程式と不等式」、「二次関数」

また、受講生の予習と復習を前提とし、授業中に学生に答えを尋ねる場合が多々ある。したがって、受講生はYeStudyに登録し、講義プリントを、YeStudyから事前にプリントアウトして必ず予習してきた上で、講義に臨むこと。

公務員試験、経済学検定試験、その他各種資格試験を将来、受験しようという学生は、この科目やマクロ経済学を履修した後、さらに、応用ミクロ経済学、応用マクロ経済学、公共経済学、経済政策などの科目を履修することが望まれる。

成績評価の方法 成績評価は基本的に、定期試験（年度末）に基づく。なお、授業中に自ら手を上げて練習問題を自発的に発表し、その発表内容がよかった場合には成績評価に加味する。また、夏期休暇中に小レポート課題を課す場合がある（レポート課題の有無は7月の授業中にアナウンスする）。

教科書／テキスト 梶井・松井『ミクロ経済学-戦略的アプローチ』（日本評論社）ISBN4-535-55202-9

参考書 岩田 規久男『経済学を学ぶ』（筑摩書房）（ちくま新書）ISBN4-480-05602-5
 武藤 滋夫『ゲーム理論入門（日経文庫：経済学入門シリーズ）』（日本経済新聞社）ISBN：4532108292
 渡辺 隆裕『図解雑学 ゲーム理論』（ナツメ社）ISBN：4816337458
 渡辺 隆裕『ゼミナール ゲーム理論入門』（日本経済新聞出版社）ISBN：4532133467

その他 受講生の予習と復習を前提として講義を進める。授業を欠席しても困らないように、授業で友人をつくっておくこと。そして友人同士で教え合いながら理解を深めること。

履修コード	307801 307802
科目名	民法一部 民法
担当者名	織田 晃子

講義の到達目標(ねらい) 民法総則、物権が講義の対象です。具体的な事件、従って判例をなるべく使って基礎的な力をつける。

講義の内容／授業スケジュール (1～4) 権利の主体、特に自然人について権利能力、意思能力、行為能力、不在者、失踪宣告 (5) 権利の客体 (6～9) 権利の変動として法律行為、意思表示、代理、無効及び取消、時効等 (10～12) 物権変動 (13～15) 抵当権 (16～20) 譲渡担保 (21～22) 仮登記担保 (23～25) 所有権留保 (26～30) 買戻し・再売買の予約

履修上の留意点 六法は必ず持参すること

成績評価の方法 期末試験の成績による

教科書／テキスト 『民法第三版①総則・物権法』（勁草書房）、ポケット六法（有斐閣）

その他 プリント配布

履修コード	098301 098302
科目名	民法一部 民法I
担当者名	竹中 智香

講義の到達目標(ねらい) 民法典のうち、民法典全体に適用される一般規定である第1編「総則」と、特定の物を直接支配する権利に関する第2編「物権」を取り上げます。とくに民法典の導入部である「総則」は、民法の勉強を放棄したくなるほど抽象性が高い規定が多いことから、具体的な事案を提示しながら説明をし、学生諸君の理解を図ります。指定した教科書に沿って、前期では、第1編「総則」のうち「物権」の理解に必要な事項を概説した後、「物権の変動」について解説します。後期では、「総則」の残りの部分と、「物権」の一種である「担保物権」について説明します。

**講義の内容／
授業スケジュール**

- [前期]
(1) ガイダンス
(2) 民法における個人
(3) 権利能力
(4) 意思能力と行為能力 ～成年後見制度～
(5) 所有権の概念 [1] 所有権とは何か
(6) 所有権の概念 [2] 所有権取得の方法
(7) 所有権の効力 [1] 所有権にもとづく請求権
(8) 所有権の効力 [2] 占有訴権
(9) 契約とその効力 [1] 意思の欠缺
(10) 契約とその効力 [2] 瑕疵ある意思表示
(11) 契約にもとづく不動産の物権変動 [1] 総説
(12) 契約にもとづく不動産の物権変動 [2] 民法177条の第三者
(13) 契約にもとづく不動産の物権変動 [3] 契約の取消・解除と民法177条
(14) 契約にもとづく動産の物権変動 [1] 動産をめぐる対抗問題
(15) 契約にもとづく動産の物権変動 [2] 即時取得
- [後期]
(1) 法人 [1] 法人という考え方
(2) 法人 [2] 法人の形態・機関・活動
(3) 代理制度 [1] 総説
(4) 代理制度 [2] 代理の基本的法律関係
(5) 無権代理
(6) 表見代理
(7) 法律行為
(8) 消滅時効
(9) 取得時効
(10) 抵当権
(11) 先取特権
(12) 留置権
(13) 質権
(14) 譲渡担保
(15) 予備日
- 以上は、講義が30回行われた場合の予定である。

履修上の留意点 第1編の「総則」は民法典の中でも非常に抽象度が高い分野ですから、必ず教科書を購入して、講義の前に教科書を読むように心がけてください。また、講義後に復習することで、理解の定着を図ってください。

成績評価の方法 学年末の定期試験の他、出席状況などの平常点も加味します。

教科書／テキスト 山野目章夫『民法 総則・物権 [第4版]』(有斐閣)

参考書 六法(コンパクトタイプのもの)
『法律学小辞典 [第4版]』(有斐閣)

履修コード	098401
科目名	民法二部 ◎
担当者名	織田 晃子

講義の到達目標(ねらい) 民法二部の講義は債権総論と債権各論を対象とする。契約を中心にその交渉、成立そして履行にいたるまでの財産法上の問題をとりあげる。

**講義の内容／
授業スケジュール**

- (1) 契約の成立 (2～8) 契約不履行の法的処理として債務不履行、危険負担、瑕疵担保責任、契約解除等
(9～11) 債権者代位権、詐害行為取消権 (12～13) 債権譲渡 (14～15) 第三者による債権侵害、多数当事者の債権関係等 (16～20) 保証契約 (21～22) 相殺、同時履行 (23～30) 典型契約(消費貸借契約、質貸借契約、請負契約等)

履修上の留意点 六法は必ず持参すること

成績評価の方法 期末試験の成績による

教科書／テキスト 『民法第三版②債権法』(勁草書房)
ポケット六法(有斐閣)

その他 プリント配布

履修コード	325001 325002
科目名	債権総論 民法二部
担当者名	中田 英幸

講義の到達目標(ねらい) 本講義は、債権法の共通規則である債権総論を学習することを目的とする。債権総論とは、具体的には民法第3編債権第1章総則(およびその特別法)を指し、債権に関して共通して妥当する規則をまとめたものである。それゆえ、債権総論は債権法の根幹を成すが、難解な領域でもある。講義は、抽象的な規定の有する実際的な意味を明らかにして、わかり易くする。

講義の内容／授業スケジュール

(1) 序論(1)
 (1) 債権総論とは何か(2) 債権とは何か
 (2) 債権の「目的」(2-3)
 (1) 債権の「目的」の意味(2) 債権の種類
 (3) 債権の効力(4-13)
 (1) 履行の強制(2) 債務不履行(3) 責任財産の保全(4) 第三者による債権侵害(5) 債権者遅滞
 (4) 債権債務の移転(14-18)
 (1) 債権譲渡(2) 債務引受
 (5) 債権の消滅(19-24)
 (1) 弁済(2) 供託(3) 代物弁済(4) 相殺(5) 更改・免除・混同
 (6) 多数当事者の債権関係(25-30)
 (1) 債権者が多数である関係(2) 分割債務(3) 不可分債務(4) 連帯債務(5) 保証債務

準備学習 指定された教科書を事前に読んでおくこと。

履修上の留意点 債権総論と債権各論が合わさって債権法を構成するので、債権各論も同時に履修することが望ましい。最新の六法は必ず持参すること。講義の内容などについて良く分からない点や疑問に思うことがあれば、いつでも質問してほしい。

成績評価の方法 期末試験により評価する。

教科書／テキスト 野村豊弘ほか著『民法III-債権総論(第3版)』(有斐閣、2005年)

参考書 中田裕康・潮見佳男・道垣内弘人編『民法判例百選II債権(第6版)』(有斐閣、2009年)
 他の文献は講義中に指示する。

履修コード	099211
科目名	流通経済論
担当者名	大吹 勝男

講義の到達目標(ねらい) 大学で学ぶことは、将来君たちが人間らしく生きるための助けになるものでなければなりません。本学もまた大学である限り、学問の場でなければなりません。いいかえれば、大学においてしか学ぶことのできない、物事の見方、考え方を身につけることです。さらにいうならば、実用的でないもの、すぐには役に立たないもの、これらを学ぶのが大学です。諸君が悩みに悩み、迷いに迷って、大人になっていくところが、大学という場です。キャリアを積んだビジネスマンから多く聞くことは、学生時代に「学問」をしておくべきであったということです。諸君も、過労死や過労自殺をすることなく、使い捨てのサラリーマンになることのないように、体系的に物事を考える能力を身につけてください。そして、社会人として現実には困難な問題に直面しても、学問をした人間として、大学の卒業生として、きちっと解決のできる人間になってください。本講義では、現代における流通および商業に関する諸現象を科学的に認識するために必要な流通理論および商業資本の理論を講義しますが、それらの知識を習得するとともに、それらを学ぶ過程において体系的な思考方法を習得し、思考能力を高めてください。

講義の内容／授業スケジュール

(1~3) 商品、貨幣および資本 (4~7) 商品の生産過程と価値増殖の仕組み (8~16) 資本の流過程、流通時間、販売および購買費用、商品在庫と保管費用、市場と商品の輸送、倉庫業および輸送業 (17~20) 商業資本の本質と機能、商業資本自立化の利益と根拠 (21~28) 商品買取資本と商業利潤、純粋流通費用および商業的可変資本と商業利潤、純粋流通費用および商業的可変資本の回収・補填 (29~30) 商業的賃労働者・ホワイトカラー労働者と商業利潤

成績評価の方法 成績は期末試験により評価します。

教科書／テキスト 大吹勝男著『流通諸費用の理論的研究』梓出版社 2100円
 大吹勝男著『商業資本の基礎理論』梓出版社 1500円

履修コード	091311 091312
科目名	流通論基礎 商学総論
担当者名	大吹 勝男

講義の到達目標(ねらい) この授業では、「流通論基礎」を講義するのですが、どのような内容の講義であるのか。まず、「流通論」の「基礎」を講義することは解るでしょう。それでは、「流通論」とは何を論じるものなのか。すくなくとも、「流通」について論じるものであることも解るでしょう。しかし、問題はここからです。以上ではまだ何も解っていないということは解っていますね。あるいは、これから論じる「流通」とは何か、ということは知っていますか。諸君は、この授業で、「流通」に関する理論、のさらにその「基礎」を学習することになるのですが、私達の毎日の生活と流通とがどのように関係しているのかを働く人の立場から、そして消費者の立場から考えていくうえで、その基礎となる理論について講義する予定です。

講義の内容／授業スケジュール

授業の内容は下記の通りです。
 (1) 私達が毎日の生活のために購入する商品について。
 (2) 商品の生産について・商品がなければ流通はありません。
 (3) 商品の流通について。
 (4) 現代社会では私達消費者は商品を買わなければ生活できません。
 (5) 企業は商品を生産し販売するためには、商品を保管しなければなりません。
 (6) 商品を販売するためには、市場まで輸送しなければなりません。

成績評価の方法 評価は期末試験による。各授業項目が終わる毎に、小テストを実施し、諸君の理解度を確かめ、一層の理解を深めるようにする。

教科書／テキスト 大吹 勝男 「流通諸費用の経済学的研究」梓出版社・2010年

その他

履修コード	098801
科目名	労働法
担当者名	藤本 茂

講義の到達目標(ねらい) 今日、雇用社会は、能力主義人事管理の導入に見られるように大きく変貌しています。労働法は、労働問題を平和的に解決する方法を検討する法領域です。この変動に無関係ではられません。労働者に降りかかるさまざまな事象は、最近雇用関係法領域において顕著です。たとえば、労働基準法改正(近くでは労働時間や年次有給休暇など)、男女雇用平等、労働契約法などです。本講義では雇用関係法領域を中心に、基礎的知識を身につけることを到達目標にしています。

講義の内容／授業スケジュール 下記事項について、基礎的知識を学びつつ、現代的課題に言及します。
 1 回目の授業のときにプリントを配布してガイダンスをします。
 以下に、年間スケジュールを掲げます。ただし、重要な裁判などホット・イシューが出されればそれを中心にしたテーマに急きょ変更することもあります。また、授業中の理解の様子から変わることもあります。また、調整の回数も設けました。したがって、以下のスケジュールは目安です。
 第1回 ガイダンスー労働法分野と授業で扱う分野
 第2回 労働法の基礎的考え方
 第3回 日本型雇用システムの変化と労働法
 第4回 労働関係の主人公ー労働者、使用者、労働組合
 第5回 労働契約と労働契約法
 第6回 労働条件の最低基準の法定① 労働の自主性の確保
 第7回 労働条件の最低基準の法定② 最低基準の定立の意味
 第8回 調整
 第9回 雇用における平等① 労基法3条
 第10回 雇用における平等② 男女賃金差別の禁止
 第11回 雇用における平等③ 男女雇用機会均等法
 第12回 労働条件の集团的決定① 労働契約と就業規則
 第13回 労働条件の集团的決定② 就業規則の法的性質
 第14回 労働条件の集团的決定③ 就業規則による労働条件変更
 第15回 調整
 第16回 雇用の入口① 採用
 第17回 雇用の入口② 内定制度・試用制度
 第18回 人事異動 配転
 第19回 雇用の終了① 個別労働関係の終了
 第20回 雇用の終了② 法による解雇規制
 第21回 雇用の終了③ 解雇権濫用
 第22回 調整
 第23回 賃金・賞与・退職金① 賃金支払いの原則など
 第24回 賃金・賞与・退職金② 賞与・退職金
 第25回 労働時間① 労働時間に対する規制
 第26回 労働時間② 変形制度など
 第27回 労働時間③ 労働時間の例外
 第28回 年次有給休暇① 年休権の法的性質
 第29回 年次有給休暇② 時季指定・時季変更、計画年休
 第30回 調整

準備学習 テキストを読むこと(少なくとも該当単元のところは読んで授業に臨んでください)。新聞を読むことなどで。現代雇用問題に関する新書なども読んでください。

履修上の留意点 出席は義務。欠席はマイナス。私語はNo、携帯電話はOff、内職はNo。そして無断で席を立つこともNo。いわゆる授業のマナーは守ってください。配布プリントは取り上げる項目を列挙したレジюмеや資料です。教科書は予習や復習をする上で欠かせないアイテムでしょう。憲法、民法、社会保障法、社会政策は履修してほしい科目です。

成績評価の方法 成績は、学年末試験がメインで、受験しなければ評価が付きません。レポートや中間試験そして出欠も考慮して評価します。追試験は実施します。

教科書／テキスト 教科書は、学修する上での必要アイテムです。学修に臨む自己の熱意によって各自で決めてください。よくわからないという方には、金子征史・藤本茂・高野敏春・大場敏彦共著『基礎から学ぶ労働法 I [第2版]』(エイデル研究所 2010)を掲げます。もとより、これ以外でもかまいませんが、相談して下さい。

参考書 概説書・参考書をいくつか、第1回目の授業において紹介します。六法は最新のもの(法律改正や制定があるので特に注意)。そして、労基法施行規則の載っているものを用意してください。詳しくは、第1回授業で配布するプリントで。

その他 各々の事項について法的にはどのように考えていくのか、イメージを描きやすいように、裁判例など具体的な例を掲げながら授業を進めます。

履修コード	325101
科目名	労働法
担当者名	藤本 茂

講義の到達目標(ねらい) 今日、わが国の労働関係(雇用社会)は、少子高齢社会・人口減社会やグローバル化にともない、リストラ、成果主義人事管理の導入・見直しが見られるなど大きく変貌しています。労働法は、労働問題を平和的に(つまりは法的に)解決する妥当な考え方を学ぶ法領域です。雇用社会の変動に無関係ではられません。この時期、労働者に降りかかるさまざまな事象は、労働基準法改正、労働契約法や男女雇用平等などの雇用関係法領域において、顕著です。本講義ではこの雇用関係法領域を中心に授業を進め、その基礎的知識を身につけることを目標とします。到達目標は、基礎的知識の習得とリーガルマインドを身につけることです。

講義の内容／授業スケジュール 下記事項について、基礎的知識を学びつつ、現代的課題に言及します。
 1回目の授業のときにプリントを配布してガイダンスをします。
 以下に、年間スケジュールを掲げます。ただし、重要な裁判などホット・イシューが出されればそれを中心にしたテーマに急きょ変更することもあります。また、授業中の理解の様子によって変わることもあります。また、調整の回も設けました。したがって、以下のスケジュールは目安です。
 第1回 ガイダンスー労働法分野と授業で扱う分野
 第2回 労働法の基礎的考え方
 第3回 日本型雇用システムの変化と労働法
 第4回 労働関係の主人公ー労働者、使用者、労働組合
 第5回 労働契約と労働契約法
 第6回 労働条件の最低基準の法定① 労働の自主性の確保
 第7回 労働条件の最低基準の法定② 最低基準の定立の意味
 第8回 調整
 第9回 雇用における平等① 労基法3条
 第10回 雇用における平等② 男女賃金差別の禁止
 第11回 雇用における平等③ 男女雇用機会均等法
 第12回 労働条件の集団的決定① 労働契約と就業規則
 第13回 労働条件の集団的決定② 就業規則の法的性質
 第14回 労働条件の集団的決定③ 就業規則による労働条件変更
 第15回 調整
 第16回 雇用の入口① 採用
 第17回 雇用の入口② 内定制度・試用制度
 第18回 人事異動・配転
 第19回 雇用の終了① 個別労働関係の終了
 第20回 雇用の終了② 法による解雇規制
 第21回 雇用の終了③ 解雇権濫用
 第22回 調整
 第23回 賃金・賞与・退職金① 賃金支払いの原則など
 第24回 賃金・賞与・退職金② 賞与・退職金
 第25回 労働時間① 労働時間に対する規制
 第26回 労働時間② 変形制度など
 第27回 労働時間③ 労働時間の例外
 第28回 年次有給休暇① 年休権の法的性質
 第29回 年次有給休暇② 時季指定・時季変更、計画年休
 第30回 調整

準備学習 準備学習といえば、以下のことをお願いするだけです。教科書を読んで授業に臨むということです。

履修上の留意点 出席を心がけてください。私語はNo、携帯電話はOff、内職はNo、そして無断で席を立つことはNo。いわゆる授業のマナーは守ってください。
 適宜、項目を列挙したレジュメや資料を配りますが、それでは十分ではありません。教科書を使って有意義な勉強を心がけてください。
 憲法、民法、社会保障法、社会政策は、近接科目であるので、ぜひ履修してください。

成績評価の方法 成績は、学年末試験がメインで、受験しなければ評価はつきません。前期試験、レポートや出席を含めて、総合的に評価します。
 追試験は実施します。

教科書／テキスト 金子征史・藤本茂・高野敏春・大場敏彦共著『基礎から学ぶ労働法【第2版】』(エイデル研究所 2010)。これ以外でもかまいませんが、相談して下さい。

参考書 第1回目の授業で、プリントで紹介します。
 六法は、最新のもの(法律改正や制定があるので特に)。そして労基法施行規則の載っているものを用意してください。詳しくは、これも1回目の授業で話します。

その他 皆さんが各々の事項について法的にはどのように考えていくのか、イメージを描きやすいように、裁判例など具体的な例を掲げながら、授業を進めます。

履修コード	092001
科目名	労務管理論
担当者名	堀 龍二

講義の到達目標(ねらい) 最近急激な変化をみせているわが国の労務管理(＝人的資源管理)の基本的動向と特徴を把握することをねらいとしている。高度経済成長期に形成されたいわゆる「日本的経営」ないし「日本的労務管理」は年功賃金、終身雇用、企業別組合を柱としていた。ところが、近年における日本経済の低迷のなかで、中高年層を中心に正規従業員の大量リストラが断行されるとともに、雇用形態の多様化、年俸制の導入などにみられる賃金・処遇の成果主義化、職能資格制度の再編、採用方法の柔軟化、退職金・年金制度の改編等々、雇用と賃金・処遇に関する基本的な制度・慣行にかつてない変化が進行してきている。これらの変化は従来の「日本的労務管理」からの脱却であり、そこにみえるのは人事労務への市場原理の導入、内容的にはその流動化、個別化、成果主義化という傾向である。こうした傾向・特徴の内実と経済的・経営的背景を把握することを到達目標としている。

講義の内容／授業スケジュール 教科書に沿って以下のスケジュールで進める予定ですが、変更することもあります。
 <前期の講義概要>
 (1) 講義概要の紹介とガイダンス、(2) 人事労務管理論から人的資源管理論へ、(3～5) 多様な働き方と求められる人材像の変化、(6～8) モチベーション論の検討、(9～10) 多様性の重視と働き方の変化、(11～12) 自立性・社会性の重視と人的資源管理の変化、(13～15) 経済グローバル化に対応する人的資源管理の動向
 <後期の講義概要>
 (1) 後期ガイダンス、(2～4) 現代のリーダーシップ論の検討(5～7) 能力開発プログラムの変化とキャリア開発支援、(8～9) 従来の人事評価の背景・傾向・特徴、(10～11) 成果主義と目標管理制度の利用、(12～13) 年功主義と能力主義における賃金制度、(14) 成果主義における賃金制度、(15) 人的資源管理と労働組合との関係

準備学習 講義では最近の動向や傾向を取り扱うので、その具体的イメージをつかむために、新聞や雑誌等で人事労務管理関連の記事を点検しておくことが有益であろう。また、インターネットや統計資料でわが国の雇用や賃金の趨勢にも目配りしておくことが望ましい。

履修上の留意点 平成15年度以前入学の商学科学学生を対象とする科目です。受講者は、通年4単位科目として登録履修します。そのため、定期試験は年度末(後期)の1回のみとなります。前期の定期試験はありません。年度末定期試験に対応する追試験は実施します。

成績評価の方法 教科書各章ごとの課題レポート(40%)、前期と後期のレポート(各10%)、年度末定期試験(40%)の比重で総合評価します。追試験を実施します。

教科書／テキスト 伊藤健市・齊藤毅憲・渡辺 峻著『はじめて学ぶ人のための人材マネジメント論入門』文真堂、2010年、1800円(＋税)、ISBN 978-4-8309-4688-2 C3034。なお、教科書に載っていない資料などは、プリントして配布します。

参考書 前期と後期レポートの課題図書は、伊藤・中川・堀編著『アメリカの経営・日本の経営』ミネルヴァ書房、2010年、2800円(＋税)、ISBN 978-4-623-05758-0です。他の参考書は、適宜紹介します。

履修コード	095201
科目名	ロシア・東欧経済論
担当者名	山縣 弘志

講義の到達目標(ねらい) 外国経済研究の課題は、その経済事情に通じることだけではない。むしろ、我々にとっては、日本経済の進路を考える上でのヒントをそこから引き出すことである。ロシア・東欧経済を研究する場合、異文化に基づく人々の行動様式の違い、経済体制の違いの基礎となる思想、体制転換によって表面化した経済と暮らしとのかかわり、これらのことが特に関心を呼ぶテーマになるだろう。ロシアとソ連の歴史は常に価値判断を伴って語られてきた。我々に知らず知らずのうちに植えつけられた「好き嫌い」が評価の根拠にあるのである。そのため、多くの場合、証明されるべき結論が前提とされて議論されてきた。こうして、議論はすれ違わざるを得なかった。このような不毛を終わらせるためには、事実を前提として考えなければならない。事実はいよいよ諸君の常識を覆すはずである。

講義の内容／授業スケジュール 講義では主としてロシアを取り上げる。
 前期
 1 ペレストロイカと体制転換
 *経済改革と停滞の時代―第1―3回
 *ペレストロイカとその挫折―第4―5回
 *体制転換―第6回
 2 ロシア・東欧経済の現状
 *市場経済化のショック療法―第7―8回
 *金融危機―第9回
 *プーチンの時代以降―第10―12回
 3 BRICsの発展と世界―第13―15回
 後期
 4 社会主義とロシア革命
 *マルクスの社会主義論―第16―18回
 *ロシア革命とレーニン時代―第19―20回
 5 ソ連型社会主義の確立と行き詰まり
 *1930年代とスターリン―第21―22回
 *ソ連型社会主義の特質―第23―25回
 *計画経済のフィクション―第26―27回
 6 ロシア経済の独自性
 *帝政ロシアの資本主義発展―第28―29回
 *ロシアと日本―第30回

履修上の留意点 常に現状に留意し、そこから問題意識を喚起していきたいので、必ずしも計画通りに進まない可能性がある。配布資料は最小限にとどめ、授業中にノートをとることを推奨する。ウェブ時代にはそれが学習能力を高めるために必要と考えるためである。耳で聞き、目で見て考えながらノートを取ってほしい。

成績評価の方法 成績評価は、レポート<9月提出、40点配点>と定期試験<自筆ノート持ち込み可、60点配点>によって行う。ダウンロードしただけのレポートは認めない。模範答案のまる写しは認めない。学習の成果を表現することを期待する。

教科書／テキスト 教科書は存在しない。

参考書 参考書は適宜指示する。

その他 板書には注意を払うが、時間の関係で読みづらくなることもありうるので、許していただきたい。聞きながら書く習慣を身につけることで対応できるものと期待する。

履修コード	310301
科目名	ロシア・東欧経済論
担当者名	山縣 弘志

講義の到達目標(ねらい) 外国経済研究の課題は、その経済事情に通じることだけではない。むしろ、我々にとっては、日本経済の進路を考える上でのヒントをそこから引き出すことである。ロシア・東欧経済を研究する場合、異文化に基づく人々の行動様式の違い、経済体制の違いの基礎となる思想、体制転換によって表面化した経済と人々の生活とのかかわり、これらのことが特に関心と呼ぶテーマになるだろう。ロシアとソ連の歴史は常に価値判断を伴って語られてきた。我々に知らず知らずのうちに植え付けられた「好き嫌い」が評価の根底にあるのである。そのため、多くの場合、証明されるべき結論が前提とされて議論されてきた。こうして、議論はすれ違わざるを得なかった。このような不毛を終わらせるためには、事実を前提として考えなければならない。事実とはしばしば諸君の常識を覆すはずである。

講義の内容／授業スケジュール 講義では主としてロシアを取り上げる。

前期

- 1 ベレストロイカと体制転換
 - * 経済改革と停滞の時代—第1—3回
 - * ベレストロイカとその挫折—第4—5回
 - * 体制転換—第6回
- 2 ロシア・東欧経済の現状
 - * 市場経済化のショック療法—第7—8回
 - * 金融危機—第9回
 - * ブーチンの時代以降—第10—12回
- 3 BRICsの発展と世界—第13—15回

後期

- 4 社会主義論とロシア革命
 - * マルクスの社会主義論—第16—18回
 - * ロシア革命とレーニン時代—第19—20回
- 5 ソ連型社会主義の確立と行き詰まり
 - * 1930年代とスターリン—第21—22回
 - * ソ連型社会主義の特質—第23—25回
 - * 計画経済のフィクション—第26—27回
- 6 ロシア経済の独自性
 - * 帝政ロシアの資本主義発展—第28—29回
 - * ロシアと日本—第30回

履修上の留意点 常に現状に留意しそこから問題意識を喚起していきたいので、必ずしも授業計画通りに進まない可能性がある。配布資料は必要最小限にとどめ、授業中にノートをとることを推奨する。ウェブ時代にはそれが学習能力を高めるために必要と考えるためである。耳で聞き、目で見て考えながら、ノートを取ってほしい。

成績評価の方法 成績評価はレポート<9月提出、40点配点>と定期試験<自筆ノート持込み可、60点配点>によって行う。ダウンロードしただけのレポートは認めない。模範答案の丸写しは認めない。オリジナリティを評価する。

教科書／テキスト 教科書は存在しない。

参考書 参考書は適宜指示する。

その他 板書には注意を払うが、時間の関係で読みづらくなることもありうるので、許していただきたい。聞きながら書く習慣を身につけることで対応できるものと期待する。

履修コード	099241
科目名	ロジスティクス
担当者名	石原 伸志

講義の到達目標(ねらい) 物流は空気みたいな存在で、我々が生きていく上でなくてはならない絶対に必要な要因である。時代が進歩して、ネットショッピングで発注はできてモノは届かない。手元にモノが届くのは物流があるからである。モノの保管や流れが、物流からロジスティクス、さらにサプライチェーンへと進化する中で、全体最適なロジスティクスの構築は今や企業経営の優劣を決める重要な要因の一つであるといっても過言ではない。そこで、本授業の前期では国内を中心とした物流の基礎を、後期ではアジアを中心とした国際物流について、実務経験やビデオを使いながら分かりやすく説明する。本授業の到達目標は、物流とロジスティクスの違い及び経営戦略の一環であるロジスティクスの重要性と面白さが理解できればと思う。

講義の内容／授業スケジュール 第1回イントロダクション(物流とは何か) 第2~6回物流の構成要素(保管・輸送・荷役・流通加工・梱包・情報管理) 第7~8回物流とロジスティクスの違い 第9~11回ロジスティクスマネジメント 第12回物流と環境問題 第13~14回物流コスト削減 第15回小テスト 第16~17回JITとは何か 第18~19回国際物流の現状 第20回荷主を取り巻く現状 第21回物流業者を取り巻く現状 第22~25回アジア域内の国際物流(韓国・中国・アセアン・中越物流) 第26回バイヤーズコンソリデーション 第27~29回フレイト・フォワーダーと3PL 第30回まとめ
* 授業内容は変更される場合があります。予めご了承ください。

準備学習 日頃から新聞やニュースをよく読み聞きして、物流に関する情報収集をしておくこと。

履修上の留意点 ビデオを使うので授業に遅刻しないようにすること。授業中は私語を慎むこと。

成績評価の方法 出席と定期試験と中間のレポートによる総合評価。評価に占める試験の成績の割合は80%、レポートと出席で20%。

教科書／テキスト ハンドメイド

参考書 必要に応じて都度指示する。